

# 上泉唐ノ堀遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査（その2）報告書

2010年12月

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

## 上泉唐ノ堀遺跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査（その2）報告書

二〇一〇

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 上 泉 唐 ノ 堀 遺 跡

一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査（その2）報告書

2010年12月

国 土 交 通 省  
財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団



赤城山南麓の地形（南方から）



遺跡全景（北方から）



縄文時代前期の諸磯b式土器群



縄文時代前期の石製装身具・獣面把手

## 序

上泉唐ノ堀遺跡は、群馬県前橋市上泉町に所在し、国土交通省による一般国道17号（上武道路）改築工事に伴って、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって発掘調査が行われました。その結果、旧石器時代から縄文時代、奈良時代、中近世に至る遺跡が発見されました。

本報告書は、上泉唐ノ堀遺跡の調査成果のうち、工事工程に沿って設けられた7－2工区と呼ぶ調査範囲から発見された縄文時代以降の調査成果をまとめたものです。

縄文時代の遺跡からは、前期に営まれた約6千年前の集落跡が発見され、竪穴住居や土坑などの遺構が多数検出されました。特に、諸磯(もろいそ)Ⅱ式と型式区分される土器群が良好な保存状態で大量に出土し、石鎌や打製石斧、磨石、石皿などの石器群、球状耳飾りや垂飾などの石製装身具も多数出土しました。発見された遺構・遺物はとても充実した内容があり、縄文人の暮らしぶりや、赤城山麓地域における縄文集落の変遷過程を解明していくうえでとても貴重な資料となりました。

また、奈良時代以降の遺跡からは、奈良時代から平安時代前期の集落跡が発見され、8世紀から9世紀前半の竪穴住居が15軒検出されました。

今後、本報告書が失われた埋蔵文化財の貴重な記録ならびに地域史の解明に寄与する学術資料として、専門の研究者から一般市民まで幅広い分野で活用されることを願っております。

最後に、発掘調査から整理作業並びに報告書刊行に至るまで、国土交通省、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、並びに地元関係者の皆様には多大な御指導、御協力を賜りました。本報告書の上梓に際し、関係者の皆様から感謝を申し上げます。

平成22年12月

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団  
理事長 須田 栄 一

# 例 言

1. 本書は、一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その2）による、上泉唐ノ堀遺跡の発掘調査報告書であり、上泉唐ノ堀遺跡7-2工区における縄文時代以降の調査成果をまとめたものである。  
なお、旧石器時代の調査成果は『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第478集 上武道路・旧石器時代遺跡群（2）』（2010年3月刊行）に報告してある。
2. 上泉唐ノ堀遺跡は、群馬県前橋市上泉町2470番地ほかに所在する。
3. 事業主体 国土交通省関東地方整備局高崎河川国道事務所（旧建設省関東地方建設局高崎工事事務所）
4. 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
5. 調査期間 平成14年度：平成14年10月1日～平成15年3月31日  
平成15年度：平成15年4月1日～平成15年11月30日  
平成16年度：平成16年4月1日～平成17年3月31日
6. 調査体制は次のとおりである。

平成14年度	調査担当：女屋和志雄（主幹兼専門員）、青木さおり（調査研究員） 遺跡掘削請負工事：技研測量設計株式会社
平成15年度	調査担当：女屋和志雄（専門員）、青木さおり（主任調査研究員） 遺跡掘削請負工事：須賀工業株式会社
平成16年度	調査担当：女屋和志雄（専門員）、新井英樹（主任調査研究員） 遺跡掘削請負工事：須賀工業株式会社
7. 整理事業の体制・期間は次のとおりである。

平成18年度	上泉唐ノ堀遺跡（1）：整理期間 平成18年10月1日～平成18年12月31日 整理担当：新井 仁（主任調査研究員） 委託業務：遺構図編集・遺物デジタルトレース：株式会社シン技術コンサル
	上泉唐ノ堀遺跡（2）：整理期間 平成18年11月1日～平成19年3月31日 整理担当：友廣哲也（主任専門員（総括）） 委託業務：土器実測・デジタルトレース：株式会社シン技術コンサル
	上泉唐ノ堀遺跡（3）：整理期間 平成18年12月1日～平成19年3月31日 整理担当：大木紳一郎（主任専門員（総括）） 委託業務：石器実測・トレース：株式会社測研
平成21年度	上泉唐ノ堀遺跡：整理期間 平成22年1月1日～平成22年3月31日 履行期間 平成21年4月1日～平成22年3月31日 整理担当：桜岡正信（上席専門員）
平成22年度	上泉唐ノ堀遺跡：整理期間 平成22年4月1日～平成22年9月30日 履行期間 平成22年4月1日～平成22年12月31日 整理担当：関口博幸（主任調査研究員）
8. 報告書作成関係者

編 集	関口博幸
本文執筆	関口博幸（第1章～第4章、第6章～第8章） 新井 仁（第5章）

縄文時代土器観察・実測：山口逸弘（上席専門員）・橋本 淳（主任調査研究員）

縄文時代石器観察・実測：岩崎泰一（主席専門員）

奈良時代以降遺物観察・実測：新井 仁（主任調査研究員）

遺物写真撮影：佐藤元彦（補佐）

- 出土石器の石器石材鑑定は、飯島静雄氏（群馬地質研究会会員）にお願いした。
- 自然科学分析は、株式会社パレオ・ラボに委託して実施した。
- 出土遺物及び発掘調査に関わるすべての資料は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。
- 発掘作業ならびに整理作業にあたり、下記の諸機関、諸氏に御教示、御協力をいただいた。記して謝意を表する次第である。（敬称略）

群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、津島秀章（群馬県教育委員会）、小川卓也（前橋市役所）、鈴木徳雄（本庄市教育委員会）、細田 勝（財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団）

## 凡 例

- グリッドの設定・座標値の表記は、国家座標第IX系（日本測地系）を用いた。
- また、図中のグリッド番号はXグリッド・Yグリッドの交点を示したもので、グリッド番号は南東交点を基準とする。
- 遺構平面図の縮尺は、1/30、1/60を基本とした。
- 遺物実測図ならびに遺物写真図版の縮尺は、1/1、1/2、1/3、1/4、1/5、1/6である。縮尺は、図中のスケールを基本とし、スケールに対応しないものには遺物Noの横に縮尺記号を付した。
- 遺物Noの横に記号が付されている場合、記号は出土遺構名、縮尺を示す。
- 組成表は、上段が点数、下段が重量（g）である。
- 第5章及び第74～78表で使用した [ ]・( ) は、[ ] が現存の長さ、( ) が推定の長さを示す。
- 本書内で使用したテフラの名称及び略称記号は次の通りである。

テフラ	略称記号	テフラ	略称記号
浅間A軽石	As-A	浅間B軽石	As-B
浅間C軽石	As-C	浅間坂鼻黄色軽石	As-YP
浅間船川軽石	As-Kk	浅間大窪沢第1軽石	As-Ok1
浅間大窪沢第2軽石	As-Ok2	浅間白糸軽石	As-Sr
浅間坂鼻褐色軽石群	As-BPGroup	浅間坂鼻褐色軽石群中・上部	As-BPGroup中・上部
浅間坂鼻褐色軽石群・室田軽石	As-BPGroup (As-MP)	給食Tn火山灰	AT
榛名二ツ岳軽石	Hr-FP	榛名二ツ岳火山灰	Hr-FA
榛名八崎火山灰	Hr-HA	榛名八崎軽石	Hr-HP
赤城小沼ラビリ	Ag-KLP	赤城鹿沼軽石	Ag-KP

- 本書内で使用した色調は、『新版標準土色帖1999年版』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修）に準拠した。
- 本書内で作成した地図は、国土地理院発行の20万分の1地勢図「長野」・「宇都宮」、5万分の1地形図「前橋」、2万5千分の1地形図（数値地図）「前橋」・「大胡」、前橋市役所発行の2500分の1前橋市現形図「43-4」・「44-3」・「53-2」・「54-1」をもとにした。また、国土地理院発行の数値地図をもとに『カシミール3D』を利用して作成した。
- 上泉唐ノ瀬遺跡7-2工区の発掘調査面積は次のとおりである。

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	合計
調査面積（㎡）	5,280.30	180	10,695.50	16,155.50

# 目 次

口絵	
序	
例言	
凡例	
目次	
挿図目次	
表目次	
写真目次	

第1章 発掘調査に至る経緯	1
第2章 発掘調査の方法と経過、調査成果	4
第1節 上泉唐ノ堀遺跡の発掘作業	4
第2節 グリッド・調査区の設定	4
第3節 発掘調査の経過	5
第4節 整理作業の方法と報告書刊行	9
第5節 調査成果	9
第3章 周辺地形・周辺遺跡・標準土層	10
第1節 周辺地形	10
第2節 周辺遺跡	13
第3節 標準土層	16
第4章 縄文時代の遺構と遺物	18
第1節 調査の概要	18
第2節 竪穴住居	20
第3節 土坑	115
第4節 配石	120
第5節 掘立柱建物・柵列	120
第6節 遺物集中部	122
第7節 縄文包含層	123
第5章 奈良時代以降の遺構と遺物	185
第1節 調査の概要	185
第2節 遺構	185
第3節 遺物	197

第6章 時代不明の遺構	238
第7章 自然科学分析	241
第1節 上泉唐ノ堀遺跡の縄文時代土坑 から出土した炭化種実	241
第2節 上泉唐ノ堀遺跡から出土した 炭化材の樹種同定	242
第3節 分析結果について	244
第8章 総括	245
第1節 上泉唐ノ堀遺跡出土の縄文時代 前期の石器群	245
第2節 上泉唐ノ堀遺跡における縄文時代 前期の集落	253
遺物観察表	255
1. 縄文時代土器観察表	257
2. 縄文時代石器観察表	275
3. 奈良時代以降土器観察表	284
4. 奈良時代以降鉄製品観察表	286
5. 奈良時代以降石製品観察表	286

写真図版	
報告書抄録	



# 挿 図 目 次

第 1 図	上武道路と遺跡位置図	1	第 64 図	18号住居出土遺物 (2)	86
第 2 図	上武道路の俯瞰写真 (南方から)	2	第 65 図	19号住居 (1)	87
第 3 図	遺跡位置図	3	第 66 図	19号住居 (2)	88
第 4 図	事業区分図・調査区設定図	4	第 67 図	19号住居出土遺物 (1)	89
第 5 図	上武道路と遺跡位置図大グリッド・中グリッド設定図	6	第 68 図	19号住居出土遺物 (2)	90
第 6 図	上泉市ノ厩遺跡全体図・グリッド設定図	7	第 69 図	19号住居出土遺物 (3)	91
第 7 図	遺跡位置図	10	第 70 図	20号住居 (1)	92
第 8 図	遺跡周辺地形図	11	第 71 図	20号住居 (2)	93
第 9 図	遺跡周辺の俯瞰写真 (南方から)	12	第 72 図	20号住居出土遺物	94
第 10 図	周辺道路分布図	15	第 73 図	23号住居 (1)	95
第 11 図	土層セクション図	17	第 74 図	23号住居 (2)	96
第 12 図	縄文時代全体図 (住居)	19	第 75 図	23号住居 (3)	97
第 13 図	3号住居 (1)	35	第 76 図	23号住居出土遺物 (1)	98
第 14 図	3号住居 (2)	36	第 77 図	23号住居出土遺物 (2)	99
第 15 図	3号住居 (3)	37	第 78 図	23号住居出土遺物 (3)	100
第 16 図	3号住居出土遺物 (1)	38	第 79 図	23号住居出土遺物 (4)	101
第 17 図	3号住居出土遺物 (2)	39	第 80 図	23号住居出土遺物 (5)	102
第 18 図	7号・8号・14号・15号住居 (1)	40	第 81 図	23号住居出土遺物 (6)	103
第 19 図	7号・8号・14号・15号住居 (2)	41	第 82 図	25号住居 (1)	104
第 20 図	7号・8号・14号・15号住居 (3)	42	第 83 図	25号住居 (2)	105
第 21 図	7号住居 (1)	43	第 84 図	25号住居 (3)	106
第 22 図	7号住居 (2)	44	第 85 図	25号住居出土遺物 (1)	107
第 23 図	7号住居 (3)	45	第 86 図	25号住居出土遺物 (2)	108
第 24 図	7号住居出土遺物 (1)	46	第 87 図	25号住居出土遺物 (3)	109
第 25 図	7号住居出土遺物 (2)	47	第 88 図	25号住居出土遺物 (4)	110
第 26 図	7号住居出土遺物 (3)	48	第 89 図	25号住居出土遺物 (5)	111
第 27 図	7号住居出土遺物 (4)	49	第 90 図	31号住 (1)	112
第 28 図	8号住居 (1)	50	第 91 図	31号住 (2)	113
第 29 図	8号住居 (2)	51	第 92 図	31号住居出土遺物	114
第 30 図	8号住居出土遺物	52	第 93 図	土坑の平面形状	115
第 31 図	8号・9号住居出土遺物	53	第 94 図	土坑の断面形状	116
第 32 図	9号住居	54	第 95 図	縄文時代全体図 (土坑・配石・孤立柱建物・欄列)	117
第 33 図	10号住居 (1)	55	第 96 図	土坑の規模・掘削深度	118
第 34 図	10号住居 (2)	56	第 97 図	縄文時代土坑 (1)	131
第 35 図	10号住居出土遺物 (1)	57	第 98 図	縄文時代土坑 (2)	132
第 36 図	10号住居出土遺物 (2)	58	第 99 図	縄文時代土坑 (3)	133
第 37 図	10号住居出土遺物 (3)	59	第 100 図	縄文時代土坑 (4)	134
第 38 図	10号住居出土遺物 (4)	60	第 101 図	縄文時代土坑 (5)	135
第 39 図	10号住居出土遺物 (5)	61	第 102 図	縄文時代土坑 (6)	136
第 40 図	10号住居出土遺物 (6)	62	第 103 図	縄文時代土坑 (7)	137
第 41 図	10号住居出土遺物 (7)	63	第 104 図	縄文時代土坑 (8)	138
第 42 図	10号住居出土遺物 (8)	64	第 105 図	縄文時代土坑 (9)	139
第 43 図	11号住居	65	第 106 図	縄文時代土坑 (10)	140
第 44 図	13号住居 (1)	66	第 107 図	縄文時代土坑 (11)	141
第 45 図	13号住居 (2)	67	第 108 図	縄文時代土坑 (12)	142
第 46 図	13号住居 (3)	68	第 109 図	縄文時代土坑 (13)	143
第 47 図	13号住居出土遺物 (1)	69	第 110 図	縄文時代土坑 (14)	144
第 48 図	13号住居出土遺物 (2)	70	第 111 図	縄文時代土坑 (15)	145
第 49 図	14号住居 (1)	71	第 112 図	縄文時代土坑 (16)	146
第 50 図	14号住居 (2)	72	第 113 図	縄文時代土坑 (17)	147
第 51 図	14号住居 (3)	73	第 114 図	縄文時代土坑 (18)	148
第 52 図	14号住居出土遺物 (1)	74	第 115 図	縄文時代土坑出土遺物 (1)	149
第 53 図	14号住居出土遺物 (2)	75	第 116 図	縄文時代土坑出土遺物 (2)	150
第 54 図	14号住居出土遺物 (3)	76	第 117 図	縄文時代土坑出土遺物 (3)	151
第 55 図	15号住居 (1)	77	第 118 図	縄文時代土坑出土遺物 (4)	152
第 56 図	15号住居 (2)	78	第 119 図	縄文時代土坑出土遺物 (5)	153
第 57 図	15号住居出土遺物 (1)	79	第 120 図	縄文時代土坑出土遺物 (6)	154
第 58 図	15号住居出土遺物 (2)	80	第 121 図	縄文時代土坑出土遺物 (7)	155
第 59 図	16号住居	81	第 122 図	縄文時代土坑出土遺物 (8)	156
第 60 図	18号住居 (1)	82	第 123 図	縄文時代土坑出土遺物 (9)	157
第 61 図	18号住居 (2)	83	第 124 図	縄文時代土坑出土遺物 (10)	158
第 62 図	18号住居 (3)	84	第 125 図	縄文時代土坑出土遺物 (11)	159
第 63 図	18号住居出土遺物 (1)	85	第 126 図	縄文時代土坑出土遺物 (12)	160

第127回	縄文時代土坑出土遺物 (13)	161
第128回	縄文時代土坑出土遺物 (14)	162
第129回	1号配石	163
第130回	6号・10号竪立柱建物	164
第131回	13号・16号竪立柱建物	165
第132回	17号・18号竪立柱建物	166
第133回	19号竪立柱建物・4号櫛列	167
第134回	遺物集中部	168
第135回	遺物集中部出土石器	169
第136回	縄文時代包含層出土遺物 (1)	170
第137回	縄文時代包含層出土遺物 (2)	171
第138回	縄文時代包含層出土遺物 (3)	172
第139回	縄文時代包含層出土遺物 (4)	173
第140回	縄文時代包含層出土遺物 (5)	174
第141回	縄文時代包含層出土遺物 (6)	175
第142回	縄文時代包含層出土遺物 (7)	176
第143回	縄文時代包含層出土遺物 (8)	177
第144回	縄文時代包含層出土遺物 (9)	178
第145回	縄文時代包含層出土遺物 (10)	179
第146回	縄文時代包含層出土遺物 (11)	180
第147回	縄文時代包含層出土遺物 (12)	181
第148回	縄文時代包含層出土遺物 (13)	182
第149回	縄文時代包含層出土遺物 (14)	183
第150回	縄文時代包含層出土遺物 (15)	184
第151回	竪穴住居の規模・軸線	185
第152回	奈良時代以降遺構全体図	186
第153回	1号住居	200
第154回	2号住居 (1)	201
第155回	2号住居 (2)	202
第156回	4号・5号・6号住居 (1)	203
第157回	4号・5号・6号住居 (2)	204
第158回	4号・5号住居出土遺物	205
第159回	12号住居 (1)	206
第160回	12号住居 (2)	207
第161回	12号住居出土遺物	208
第162回	17号住居	209
第163回	17号住居出土遺物	210
第164回	21号住居 (1)	211

第165回	21号住居 (2)	212
第166回	22号住居	213
第167回	24号住居	214
第168回	26号住居	215
第169回	27号住居 (1)	216
第170回	27号住居 (2)	217
第171回	27号住居出土遺物	218
第172回	28号住居	219
第173回	28号住居出土遺物	220
第174回	29号住居 (1)	221
第175回	29号住居 (2)	222
第176回	30号住居	223
第177回	1号竪立柱建物	224
第178回	2号・4号・7号竪立柱建物	225
第179回	3号竪立柱建物	226
第180回	8号竪立柱建物	227
第181回	9号竪立柱建物	228
第182回	12号・14号竪立柱建物	229
第183回	15号竪立柱建物	230
第184回	1号・2号・3号櫛列	231
第185回	1号・2号溝	232
第186回	3号・4号・5号・6号・7号溝	233
第187回	8号・9号・10号溝	234
第188回	10号・40号・68号・172号土坑・遺構外出土遺物	235
第189回	ビット (1)	236
第190回	ビット (2)	237
第191回	時代不明の遺構 (1)	239
第192回	時代不明の遺構 (2)	240
第193回	出土した炭化榾柮	242
第194回	炭化材組織の走査顕微鏡写真	243
第195回	石器石材別数値 (割片系石器)	246
第196回	石器石材別重量 (割片系石器)	246
第197回	石礫長幅別散布図	248
第198回	打製石斧・磨製石斧長幅別散布図	249
第199回	石核の重量別数値図 (石器石材別)	250
第200回	礫石器長さ重量別散布図	252
第201回	主な出土石器	253

## 表 目 次

第1表	周辺遺跡	14
第2表	住居内出土器の型式別点数	20
第3表	7号・8号・14号・15号住居の推定時期と出土土器	21
第4表	住居別石器組成 (割片系石器)	33
第5表	住居別石器組成 (礫石器)	34
第6表	土坑の平面形状別・断面形状別数値	115
第7表	土坑出土土器の型式別点数	119
第8表	遺物集中部出土遺物	122
第9表	遺物集中部出土土器	122
第10表	遺物集中部出土石器	122
第11表	遺物集中部出土割片系石器	122
第12表	縄文包含層出土の石器類	123
第13表	縄文包含層出土の割片系石器	123
第14表	縄文時代土坑一覧 (1)	124
第15表	縄文時代土坑一覧 (2)	125
第16表	縄文時代土坑一覧 (3)	126
第17表	縄文時代土坑一覧 (4)	127
第18表	縄文時代土坑一覧 (5)	128
第19表	土坑別石器一覧 (1)	129
第20表	土坑別石器一覧 (2)	130
第21表	竪穴住居一覧	187
第22表	竪穴住居出土遺物一覧	188
第23表	竪立柱建物一覧	195

第24表	竪立柱建物出土遺物一覧	195
第25表	櫛列一覧	196
第26表	櫛列出土遺物一覧	196
第27表	溝一覧	197
第28表	溝出土遺物一覧	197
第29表	土坑一覧	198
第30表	土坑出土遺物一覧	198
第31表	ビット一覧	199
第32表	ビット出土遺物一覧	199
第33表	奈良時代以降出土遺物一覧	200
第34表	時代不明遺構一覧	238
第35表	炭化榾柮分析一覧	242
第36表	炭化材の樹種同定結果一覧	243
第37表	石器類の出土量	245
第38表	石器石材別組成 (割片系石器)	246
第39表	石器組成 (割片系石器)	247
第40表	石礫石器石材別組成	248
第41表	打製石斧石器石材別組成	248
第42表	磨製石斧石器石材別組成	249
第43表	石器石材別組成 (石核)	250
第44表	石器組成 (礫石器)	251
第45表	石器石材組成 (礫石器)	252
第46表	縄文時代住居の時期	254

第 47 表	縄文時代土器観察表 (1)	257
第 48 表	縄文時代土器観察表 (2)	258
第 49 表	縄文時代土器観察表 (3)	259
第 50 表	縄文時代土器観察表 (4)	260
第 51 表	縄文時代土器観察表 (5)	261
第 52 表	縄文時代土器観察表 (6)	262
第 53 表	縄文時代土器観察表 (7)	263
第 54 表	縄文時代土器観察表 (8)	264
第 55 表	縄文時代土器観察表 (9)	265
第 56 表	縄文時代土器観察表 (10)	266
第 57 表	縄文時代土器観察表 (11)	267
第 58 表	縄文時代土器観察表 (12)	268
第 59 表	縄文時代土器観察表 (13)	269
第 60 表	縄文時代土器観察表 (14)	270
第 61 表	縄文時代土器観察表 (15)	271
第 62 表	縄文時代土器観察表 (16)	272

第 63 表	縄文時代土器観察表 (17)	273
第 64 表	縄文時代土器観察表 (18)	274
第 65 表	縄文時代土器観察表 (1)	275
第 66 表	縄文時代土器観察表 (2)	276
第 67 表	縄文時代土器観察表 (3)	277
第 68 表	縄文時代土器観察表 (4)	278
第 69 表	縄文時代土器観察表 (5)	279
第 70 表	縄文時代土器観察表 (6)	280
第 71 表	縄文時代土器観察表 (7)	281
第 72 表	縄文時代土器観察表 (8)	282
第 73 表	縄文時代土器観察表 (9)	283
第 74 表	奈良時代以降土器観察表 (1)	284
第 75 表	奈良時代以降土器観察表 (2)	285
第 76 表	奈良時代以降土器観察表 (3)	286
第 77 表	奈良時代以降鉄製品観察表	286
第 78 表	奈良時代以降石製品観察表	286

## 写真目次

P.L. 1	1 道跡遠景 (○印：上泉唐ノ廻道跡、南方から)	4
	2 道跡遠景 (○印：上泉唐ノ廻道跡、東方から)	5
P.L. 2	1 道跡遠景 (南方から)	P.L. 12
	2 道跡遠景 (○印：上泉唐ノ廻道跡、南方から)	1 14号住居全景 (南から)
P.L. 3	1 道跡全景 (北西から)	2 14号住居B断面 (西から)
	2 道跡全景 (南東から)	3 14号住居遺物出土状況 (北から)
P.L. 4	1 道跡全景 (西から)	4 14号住居床状土器出土状況
	2 道跡全景 (東から)	5 14号住居作業風景 (北西から)
P.L. 5	1 道跡全景 (真上から、上が北東)	P.L. 13
	2 7号・8号・14号・15号住居 (真上から、上が北)	1 15号住居全景 (南から)
P.L. 6	1 3号住居全景 (北から)	2 15号住居全景 (東から)
	2 3号住居遺物出土状況 (北から)	3 15号住居遺物出土状況 (南から)
	3 3号住居埋蔵物全景 (南から)	4 15号住居床状土器出土状況
	4 3号住居A断面 (南西から)	5 14号・15号住居作業風景 (西から)
	5 3号住居作業風景 (北から)	P.L. 14
P.L. 7	1 7号・8号住居全景 (南から)	1 16号住居全景 (西から)
	2 7号・8号住居遺物出土状況 (南から)	2 16号住居A断面 (南から)
	3 7号・8号住居B断面 (西から)	3 16号住居遺物出土状況 (西から)
	4 7号・8号住居遺物出土状況 (南から)	4 16号住居全景 (西から)
	5 7号・8号住居作業風景 (南から)	5 16号住居作業風景 (西から)
P.L. 8	1 9号住居全景 (西から)	P.L. 15
	2 9号住居A断面 (南から)	1 18号住居全景 (南西から)
	3 9号住居埋蔵物全景 (南から)	2 18号住居A断面 (南から)
	4 9号住居掘り方 (南から)	3 18号住居B断面 (東から)
	5 10号住居全景 (西から)	4 18号住居遺物出土状況 (南から)
P.L. 9	1 10号住居B断面 (南から)	5 18号住居作業風景 (東から)
	2 10号住居遺物出土状況 (西から)	P.L. 16
	3 10号住居遺物出土状況 (西から)	1 19号住居全景 (東から)
	4 10号住居検出状況 (東から)	2 19号住居全景 (東から)
	5 10号住居埋蔵物出土状況 (西から)	P.L. 17
	6 10号住居埋蔵物出土状況 (西から)	1 19号住居A断面 (東から)
	7 10号住居作業風景 (東から)	2 19号住居遺物出土状況 (東から)
	8 10号住居作業風景 (東から)	3 19号住居遺物出土状況 (東から)
P.L. 10	1 11号住居全景 (西から)	4 19号住居埋蔵物 (南から)
	2 11号住居A断面 (南から)	5 19号住居埋蔵物 (南東から)
	3 11号住居B断面 (東から)	6 19号住居作業風景 (北から)
	4 11号住居埋蔵物全景 (西から)	7 19号住居作業風景 (東から)
	5 11号住居埋蔵物断面 (南から)	8 19号住居作業風景 (東から)
P.L. 11	1 13号住居全景 (西から)	P.L. 18
	2 13号住居B断面 (西から)	1 20号住居全景 (東から)
	3 13号住居遺物出土状況 (西から)	2 20号住居A断面 (南から)
		3 20号住居遺物出土状況 (東から)
		4 20号住居埋蔵物 (東から)
		5 20号住居埋蔵物 (東から)
		P.L. 19
		1 23号住居全景 (北から)
		2 23号住居遺物出土状況 (東から)
		P.L. 20
		1 23号住居B断面 (南から)
		2 23号住居A断面 (東から)

	3	23号住居遺物出土状況(北から)		4	36号土坑全景(西から)
	4	23号住居遺物出土状況(南から)		5	37号土坑全景(南西から)
	5	23号住居断面(南から)		6	38号土坑全景(東から)
	6	23号住居全景(南から)		7	39号土坑全景(南西から)
	7	23号住居作業風景(南から)		8	41号土坑全景(南から)
	8	23号住居作業風景(東から)		9	42号土坑全景(南から)
P.L. 21	1	25号住居全景(東から)		10	43号土坑全景(北から)
	2	25号住居A断面(南東から)		11	44号土坑全景(北から)
	3	25号住居A断面(南から)		12	45号土坑全景(東から)
	4	25号住居遺物出土状況(南から)		13	46号・200号土坑全景(北から)
	5	25号住居遺物出土状況(南から)		14	47号土坑全景(北から)
P.L. 22	1	25号住居埋藏炉(炉2)断面(南から)		15	48号土坑全景(西から)
	2	25号住居埋藏炉(炉2)断面(南から)	P.L. 28	1	49号土坑全景(西から)
	3	25号住居埋藏炉(炉3)全景(南から)		2	50号土坑全景(南から)
	4	25号住居埋藏炉(炉3)断面(南から)		3	51号土坑全景(南から)
	5	25号住居球状耳飾り出土状況(南西から)		4	52号土坑全景(南から)
	6	25号住居作業風景(北から)		5	53号土坑全景(南から)
	7	25号住居作業風景(東から)		6	54号土坑全景(南から)
	8	25号住居作業風景(北から)		7	55号土坑全景(東から)
P.L. 23	1	31号住居全景(東から)		8	56号土坑断面(南から)
	2	31号住居B断面(東から)		9	57号土坑全景(西から)
	3	31号住居遺物出土状況(東から)		10	57号土坑遺物出土状況(西から)
	4	31号住居埋藏炉全景(南から)		11	58号・59号土坑全景(南から)
	5	31号住居埋藏炉断面(東から)		12	60号土坑全景(東から)
P.L. 24	1	1号配石全景(北から)		13	61号土坑全景(東から)
	2	1号配石A断面(南から)		14	62号土坑全景(東から)
	3	1号配石遺物出土状況(北から)		15	63号土坑全景(東から)
	4	1号配石遺物出土状況(北から)	P.L. 29	1	64号土坑断面(西から)
P.L. 25	1	1号土坑全景(西から)		2	65号土坑全景(東から)
	2	2号土坑全景(西から)		3	66号土坑全景(南から)
	3	3号土坑全景(南から)		4	67号土坑全景(南から)
	4	4号土坑全景(東から)		5	68号土坑全景(東から)
	5	5号土坑全景(東から)		6	70号土坑断面(北から)
	6	6号土坑全景(南から)		7	71号土坑全景(北から)
	7	7号土坑全景(南から)		8	72号土坑全景(東から)
	8	8号土坑全景(東から)		9	73号土坑全景(東から)
	9	9号土坑全景(南から)		10	74号土坑全景(南から)
	10	11号土坑全景(南から)		11	75号土坑全景(東から)
	11	12号土坑全景(東から)		12	76号土坑全景(東から)
	12	13号土坑全景(南から)		13	77号土坑全景(北から)
	13	14号土坑全景(南から)		14	78号土坑全景(東から)
	14	15号土坑全景(南から)		15	79号土坑全景(東から)
	15	16号土坑全景(北から)	P.L. 30	1	80号土坑全景(東から)
P.L. 26	1	17号土坑全景(南から)		2	81号土坑全景(東から)
	2	18号土坑全景(南から)		3	82号土坑全景(南から)
	3	19号土坑全景(東から)		4	83号土坑全景(南東から)
	4	20号土坑全景(北から)		5	84号土坑全景(東から)
	5	21号土坑全景(東から)		6	85号土坑全景(南から)
	6	22号土坑全景(北から)		7	86号土坑断面(南から)
	7	23号土坑全景(北西から)		8	87号土坑全景(東から)
	8	24号土坑全景(南から)		9	88号土坑全景(北西から)
	9	25号土坑全景(北から)		10	89号土坑全景(南から)
	10	26号土坑全景(北から)		11	90号土坑全景(南から)
	11	27号土坑全景(北東から)		12	91号土坑全景(東から)
	12	28号土坑全景(東から)		13	92号土坑全景(北から)
	13	29号土坑全景(南から)		14	93号土坑断面(南から)
	14	31号土坑全景(東から)		15	94号土坑全景(北から)
	15	32号土坑全景(西から)	P.L. 31	1	95号土坑全景(北から)
P.L. 27	1	33号土坑全景(南から)		2	96号土坑全景(北から)
	2	34号土坑全景(南から)		3	97号土坑全景(南から)
	3	35号土坑全景(南から)		4	98号土坑全景(南から)

	5	99号土坑全景 (南から)		6	162号土坑全景 (東から)
	6	100号土坑全景 (南から)		7	163号土坑断面 (東から)
	7	101号土坑全景 (南から)		8	164号土坑全景 (東から)
	8	102号土坑全景 (南から)		9	165号土坑全景 (南から)
	9	103号土坑全景 (南から)		10	166号土坑全景 (南から)
	10	104号土坑全景 (南から)		11	168号土坑全景 (西から)
	11	105号土坑全景 (南から)		12	169号土坑全景 (南東から)
	12	106号土坑全景 (北から)		13	170号土坑全景 (西から)
	13	107号土坑全景 (北から)		14	171号土坑断面 (南から)
	14	108号土坑全景 (北から)		15	173号土坑全景 (北から)
	15	109号土坑全景 (北から)	P L . 36	1	174号土坑全景 (東から)
P L . 32	1	110号土坑全景 (北から)		2	175号土坑断面 (南から)
	2	111号土坑全景 (東から)		3	179号土坑全景 (南から)
	3	112号土坑全景 (西から)		4	180号土坑全景 (東から)
	4	113号土坑全景 (南から)		5	181号土坑全景 (南から)
	5	114号土坑全景 (南から)		6	182号土坑全景 (北から)
	6	115号土坑全景 (南から)		7	183号土坑全景 (南から)
	7	116号土坑断面 (南から)		8	184号土坑全景 (南西から)
	8	117号土坑断面 (東から)		9	185号土坑全景 (西から)
	9	118号土坑全景 (西から)		10	186号土坑全景 (南から)
	10	119号土坑断面 (東から)		11	187号土坑全景 (南西から)
	11	120号土坑全景 (南から)		12	188号土坑全景 (南から)
	12	121号土坑断面 (南から)		13	189号土坑全景 (南から)
	13	122号土坑全景 (南から)		14	190号土坑全景 (南から)
	14	123号土坑全景 (南から)		15	191号土坑全景 (南から)
	15	124号土坑断面 (南から)	P L . 37	1	192号土坑全景 (南から)
P L . 33	1	125号土坑全景 (南から)		2	193号土坑全景 (南から)
	2	126号土坑全景 (南から)		3	194号土坑全景 (南から)
	3	127号土坑全景 (南から)		4	195号土坑全景 (西から)
	4	128号土坑全景 (南から)		5	196号土坑全景 (南から)
	5	129号土坑全景 (南から)		6	197号土坑全景 (南から)
	6	130号土坑全景 (南から)		7	198号土坑全景 (南から)
	7	131号・132号土坑全景 (南から)		8	199号土坑全景 (東から)
	8	133号土坑全景 (南から)		9	201号土坑全景 (南から)
	9	134号土坑断面 (南から)		10	202号土坑断面 (南から)
	10	135号土坑断面 (南から)		11	203号土坑遺物出土状況 (南東から)
	11	136号土坑全景 (東から)		12	204号土坑断面 (南から)
	12	137号土坑断面 (南から)		13	205号土坑全景 (南から)
	13	138号土坑全景 (東から)		14	206号土坑全景 (南から)
	14	139号土坑全景 (南東から)		15	207号土坑断面 (南から)
	15	140号土坑全景 (西から)	P L . 38	1	6号獨立柱建物全景 (東から)
P L . 34	1	141号土坑全景 (南東から)		2	10号獨立柱建物全景 (北から)
	2	142号土坑全景 (南から)		3	13号獨立柱建物全景 (西から)
	3	143号土坑全景 (東から)		4	16号獨立柱建物全景 (西から)
	4	144号土坑全景 (東から)		5	17号獨立柱建物全景 (南から)
	5	145号土坑全景 (南東から)		6	18号獨立柱建物全景 (西から)
	6	146号土坑全景 (北東から)		7	19号獨立柱建物全景 (南東から)
	7	147号土坑全景 (南西から)		8	4号櫛列全景 (西から)
	8	148号土坑断面 (南から)	P L . 39	3	号住居出土遺物
	9	149号土坑全景 (南東から)	P L . 40	7	号住居出土遺物 (1)
	10	150号土坑断面 (南から)	P L . 41	7	号住居出土遺物 (2)
	11	151号土坑全景 (南から)	P L . 42	8号・9号・10号住居出土遺物	
	12	152号土坑全景 (南から)	P L . 43	10号住居出土遺物 (1)	
	13	153号土坑全景 (東から)	P L . 44	10号住居出土遺物 (2)	
	14	154号土坑全景 (南から)	P L . 45	10号住居出土遺物 (3)	
	15	155号土坑断面 (南西から)	P L . 46	10号・11号・13号住居出土遺物	
P L . 35	1	156号土坑全景 (東から)	P L . 47	14号住居出土遺物	
	2	157号土坑全景 (北西から)	P L . 48	14号・15号住居出土遺物	
	3	158号土坑全景 (東から)	P L . 49	15号・16号・18号住居出土遺物	
	4	159号土坑全景 (南東から)	P L . 50	18号・19号住居出土遺物	
	5	160号・161号土坑全景 (北西から)	P L . 51	19号・20号住居出土遺物	

P L. 52	20号・23号住居出土遺物		3	27号住居掘り方(西から)
P L. 53	23号住居出土遺物(1)		4	27号住居カマド全景(西から)
P L. 54	23号住居出土遺物(2)		5	27号住居カマド掘り方(西から)
P L. 55	23号・25号住居出土遺物	P L. 82	1	28号住居全景(南から)
P L. 56	25号住居出土遺物		2	28号住居A断面(東から)
P L. 57	25号・31号住居出土遺物		3	28号住居カマド遺物出土状況(西から)
P L. 58	31号住居、土坑出土遺物		4	28号住居カマド遺物出土状況(南から)
P L. 59	土坑出土遺物(1)		5	28号住居カマド全景(西から)
P L. 60	土坑出土遺物(2)		6	28号住居カマド断面(南から)
P L. 61	土坑出土遺物(3)		7	28号住居カマド掘り方(西から)
P L. 62	土坑出土遺物(4)		8	28号住居貯蔵穴全景(南から)
P L. 63	土坑出土遺物(5)	P L. 83	1	29号住居全景(西から)
P L. 64	土坑出土遺物(6)		2	29号住居遺物出土状況(西から)
P L. 65	土坑出土遺物(7)		3	29号住居B断面(南から)
P L. 66	土坑、1号配石、遺物集中部出土遺物		4	29号住居掘り方(西から)
P L. 67	遺物集中部、縄文包含層出土遺物		5	29号住居作業風景(東から)
P L. 68	縄文包含層出土遺物(1)	P L. 84	1	30号住居全景(西から)
P L. 69	縄文包含層出土遺物(2)		2	30号住居A断面(東から)
P L. 70	縄文包含層出土遺物(3)		3	30号住居カマド全景(西から)
P L. 71	縄文包含層出土遺物(4)		4	30号住居カマド断面(南から)
P L. 72	縄文包含層出土遺物(5)		5	30号住居掘り方(西から)
P L. 73	縄文包含層出土遺物(6)	P L. 85	1	1号掘立柱建物全景(南から)
P L. 74	縄文包含層出土遺物(7)		2	1号掘立柱建物全景(東から)
P L. 75	1 1号住居全景(西から)		3	2号掘立柱建物全景(南から)
	2 1号住居A断面(南から)		4	3号掘立柱建物全景(北から)
	3 1号住居A断面(南から)		5	3号掘立柱建物全景(西から)
	4 1号住居B断面(東から)		6	3号掘立柱建物ビット1底面の柱礎(西から)
	5 1号住居B断面(東から)		7	7号掘立柱建物全景(北から)
P L. 76	1 2号住居全景(東から)		8	8号・9号掘立柱建物全景(西から)
	2 2号住居カマド遺物出土状況(西から)	P L. 86	1	8号掘立柱建物全景(南から)
	3 2号住居カマド掘り方(西から)		2	8号掘立柱建物ビット1遺物出土状況(南から)
	4 2号住居掘り方(東から)		3	8号掘立柱建物ビット4遺物出土状況(南から)
	5 2号住居貯蔵穴断面(北から)		4	9号掘立柱建物全景(南から)
P L. 77	1 4号・5号・6号住居全景(東から)		5	12号掘立柱建物全景(南から)
	2 4号・5号・6号住居A断面(西から)		6	14号掘立柱建物全景(南から)
	3 4号住居掘り方(北から)		7	15号掘立柱建物全景(西から)
	4 5号・6号住居掘り方(西から)		8	1号・2号・3号縄埋全景(北から)
	5 4号住居カマド全景(西から)	P L. 87	1	1号・2号溝全景(南から)
P L. 78	1 12号住居全景(西から)		2	1号溝全景(南から)
	2 12号住居遺物出土状況(西から)		3	1号溝北側(南から)
	3 12号住居掘り方(西から)		4	2号溝断面(南から)
	4 12号住居カマド全景(西から)		5	3号溝全景(東から)
	5 12号住居カマド掘り方(西から)		6	3号溝断面(西から)
P L. 79	1 17号住居全景(東から)		7	4号溝全景(東から)
	2 17号住居掘り方(西から)		8	5号溝断面(東から)
	3 17号住居カマド遺物出土状況(西から)	P L. 88	1	6号溝全景(東から)
	4 17号住居カマド掘り方(西から)		2	8号溝全景(北から)
	5 21号住居全景(北から)		3	7号溝全景(南から)
	6 21号住居A断面(東から)		4	9号溝全景(南から)
	7 21号住居カマド全景(西から)		5	9号溝北部(西から)
	8 21号住居作業風景(南から)		6	10号溝全景(東から)
P L. 80	1 22号住居全景(東から)	P L. 89	1	10号土坑断面(南から)
	2 24号住居全景(北から)		2	40号土坑全景(南東から)
	3 24号住居掘り方(北から)		3	40号土坑断面(東から)
	4 24号住居カマド掘り方(東から)		4	68号土坑断面(南から)
	5 26号住居全景(西から)		5	172号土坑全景(南から)
	6 26号住居掘り方(南から)		6	172号土坑断面(南から)
	7 26号住居カマド全景(西から)		7	200号ビット全景(南から)
	8 26号住居カマド掘り方(西から)		8	201号ビット全景(南から)
P L. 81	1 27号住居全景(西から)		9	202号ビット全景(南から)
	2 27号住居遺物出土状況(西から)		10	203号ビット全景(南から)

	11	204号ビッド全景 (南から)		5	11号ビッド全景 (南から)
	12	205号ビッド全景 (南から)		6	12号ビッド全景 (南から)
	13	205号ビッド断面 (南から)		7	13号ビッド全景 (南から)
	14	206号ビッド全景 (南から)		8	102号ビッド断面 (南から)
	15	206号ビッド断面 (南から)		9	105号ビッド断面 (南から)
P L. 90	1	207号ビッド全景 (南東から)		10	108号ビッド断面 (南から)
	2	207号ビッド断面 (南東から)		11	114号ビッド断面 (南から)
	3	209号ビッド全景 (南から)		12	116号ビッド断面 (南から)
	4	210号ビッド全景 (南から)		13	117号ビッド断面 (南から)
	5	212号・213号ビッド全景 (南東から)		14	119号ビッド断面 (南から)
	6	212号・213号ビッド断面 (南東から)		15	121号ビッド断面 (南から)
	7	214号ビッド全景 (南から)	P L. 97	1	124号ビッド全景 (南から)
	8	215号ビッド全景 (南から)		2	129号ビッド断面 (南から)
	9	217号ビッド全景 (南から)		3	130号ビッド断面 (南から)
	10	218号・219号ビッド全景 (南西から)		4	135号ビッド断面 (南から)
	11	218号・219号ビッド断面 (南西から)		5	242号ビッド全景 (南から)
	12	220号ビッド全景 (南から)		6	243号ビッド全景 (南から)
	13	220号ビッド断面 (南西から)		7	244号ビッド全景 (南から)
	14	221号ビッド全景 (南から)		8	245号ビッド全景 (南から)
	15	221号ビッド断面 (南西から)		9	247号ビッド全景 (南から)
P L. 91	1	223号ビッド全景 (南から)		10	248号ビッド全景 (南から)
	2	225号ビッド全景 (南から)		11	250号ビッド全景 (南から)
	3	227号ビッド全景 (南から)		12	251号ビッド全景 (南から)
	4	228号ビッド全景 (南から)		13	253号ビッド全景 (南から)
	5	229号ビッド全景 (南から)		14	254号ビッド全景 (南から)
	6	229号ビッド断面 (南東から)		15	257号ビッド全景 (南から)
	7	230号ビッド全景 (南から)	P L. 98	1	259号ビッド全景 (南から)
	8	234号ビッド全景 (南から)		2	260号ビッド断面 (南から)
	9	235号ビッド全景 (南から)		3	261号ビッド全景 (南から)
	10	236号ビッド全景 (南から)		4	262号ビッド全景 (南から)
	11	236号ビッド断面 (南東から)		5	266号ビッド全景 (南から)
	12	240号ビッド全景 (南から)		6	267号ビッド全景 (南から)
	13	240号ビッド断面 (南から)		7	268号ビッド全景 (南から)
	14	241号ビッド全景 (南から)		8	271号ビッド全景 (南から)
	15	241号ビッド断面 (南から)		9	272号ビッド全景 (南から)
P L. 92		2号・4号・5号・12号住居出土遺物		10	273号ビッド全景 (南から)
P L. 93		12号・17号住居出土遺物		11	274号ビッド全景 (南から)
P L. 94		21号・24号・26号・27号住居出土遺物		12	277号ビッド全景 (南から)
P L. 95		28号・29号・30号住居、8号擬立柱建物、2号・4号・8号溝、土坑、遺構外、ビッド出土遺物		13	278号ビッド全景 (南から)
P L. 96	1	1号ビッド断面 (南から)		14	283号ビッド全景 (南から)
	2	6号ビッド断面 (南から)		15	284号ビッド全景 (南から)
	3	9号ビッド断面 (南から)	P L. 99	1	道跡現況 (東方から、平成22年9月撮影)
	4	10号ビッド全景 (南から)		2	上武道路7工区現況 (上武亀泉交差点から上泉唐ノ堀道跡方面を望む。南方から、平成22年9月撮影)

# 第1章 発掘調査に至る経緯

## 1. 概要

上泉唐ノ堀遺跡の発掘調査は、国土交通省による一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その2）として、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって行われた。

発掘調査に関わる事業は、国土交通省、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者によって締結された、①：平成14年4月1日付け「一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その2）の実施に関する協定書」（平成16年11月10日付け第1回変更契約、平成21年2月10日付け第2回変更契約）、②：平成18年2月16日付け「一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その3）の実施に関する協定書」（平成18年6月20日付け第1回変更契約）に基づいた。①が上泉唐ノ堀遺跡7-2工区に関する協定書、②が上泉唐ノ堀遺跡8工区に関する協定書である。

本報告書に関わるすべての発掘調査（発掘作業、整理作業、報告書刊行）は①に基づいて行われた。

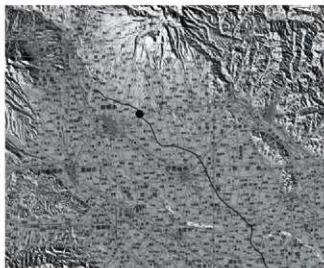
上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の発掘調査は、平成14年10月から平成17年3月まで行われた。また、7-2工区の整理作業は、平成18年10月から平成22年9月まで行われ、平成22年12月に本報告書を刊行してすべて終了した。

なお、本報告書は、上泉唐ノ堀遺跡7-2工区における縄文時代以降の調査成果をまとめたものである。上泉唐ノ堀遺跡8工区における調査成果は含まれていない。

## 2. 上武道路

上武道路は、現国道17号の渋滞解消と地域活性化を図るために計画された地域高規格道路である。埼玉県深谷市の深谷バイパス上武インターチェンジを起点とし、群馬県前橋市田口町の現国道17号に至る総延長40.5kmに及ぶ大規模バイパスである。

群馬県内では、群馬・埼玉県境で利根川を渡橋した後、太田市・伊勢崎市・前橋市を通過し、やがて前橋市今井町で国道50号と立体交差する。国道50号通過後は赤城山



第1図 上武道路と遺跡位置図（●）

南麓地域を北西方向に北上し、やがて前橋市亀京町・萩窪町で上毛電鉄、（主）前橋大間々桐生線と交差し、その後赤城山南西麓を西へ進み、そして前橋市田口町で終点となり現国道17号に立体交差する。現国道17号交差後は、新たに建設された一般国道17号前橋渋川バイパスに接続し、利根川を渡橋した後には北上して渋川市半田町で再び現国道17号に合流する。

## 3. 上武道路Ⅰ期工事に伴う発掘調査

国道50号以南の上武道路については、昭和45年度にⅠ期工事として事業化された。平成4年2月に群馬・埼玉県境の新上武大橋が供用されたことにより、深谷バイパスから国道50号まで結ばれた。

Ⅰ期工事に伴って、群馬県教育委員会並びに財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって、昭和48年から昭和63年にかけて大規模な発掘調査が行われ、多数の遺跡が発見された。調査遺跡数は35遺跡、延べ調査面積は53万4,000㎡に及んだ。

## 4. 上武道路Ⅱ期工事に伴う発掘調査

### (1) 7工区の事業

国道50号以北の上武道路については、平成元年度にⅡ期工事として事業化された。平成22年9月現在、(主)



## 第1章 発掘調査に至る経過

前橋大間々桐生線までの区間が供用されている。

Ⅱ期工事は、7工区として国道50号（前橋市今井町）から（主）前橋大間々桐生線（前橋市上泉町）までの4.9km区間がまず事業化された。

国土交通省、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者は、平成11年4月1日付けで「一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その1）の実施に関する協定書」（以下、「その1協定書」と呼ぶ）を締結して、国道50号から前橋市堤町区間における発掘調査は、整理作業を含めて平成18年3月31日までに完了させるという基本事項を確認した。そして、平成11年度から財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって発掘調査が開始された。

### （2）7-2工区の事業

平成14年度には、国土交通省、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者は、平成14年4月1日付けで「一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その2）の実施に関する協定書」（以下、「その2協定書」と呼ぶ）を締結して菅野Ⅱ遺跡以北の調査が開始された。

7工区の発掘調査が順調に進捗する一方、国土交通省により平成17年度には（主）前橋西久保線までの区間の暫定供用を開始する旨の提示がなされた。これに伴い7工区全区間のうち、残る菅野Ⅱ遺跡から7工区終点の上泉唐ノ堀遺跡までの発掘調査が懸案事項として急浮上した。しかし、当該区間に関しては「その2協定書」の対象外であり、協定書の変更が必要となった。そこで、国土交通省、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者は、平成16年11月10日付けで「その2協定書」の変更契約（第1回）を締結した。

「その2協定書」の変更契約（第1回）によって、7工区の事業は、国道50号から江木下大日遺跡までの区間を7-1工区、菅野Ⅱ遺跡から7工区終点の上泉唐ノ堀遺跡までの区間を7-2工区に分けて実施することになった。7-2工区の事業は、整理作業を含めて平成22年3月31日までに完了させることになった。なお、菅野



第2図 上武道路の俯瞰写真（南方から）

Ⅱ遺跡に関しては、調査対象地の東半分が7-1工区、西半分が7-2工区として遺跡内で分断されることになったものの、同一遺跡であることから菅野Ⅱ遺跡に関する事業をすべて「その2協定書」に基づいて7-2工区に統合した。7-2工区で調査された遺跡は、南から北へ順に菅野Ⅱ遺跡、堤沼上遺跡、亀泉坂上遺跡、亀泉西久保Ⅱ遺跡、荻窪南田遺跡、上泉唐ノ堀遺跡の計6遺跡、調査面積は計7万8,404.9㎡となった。

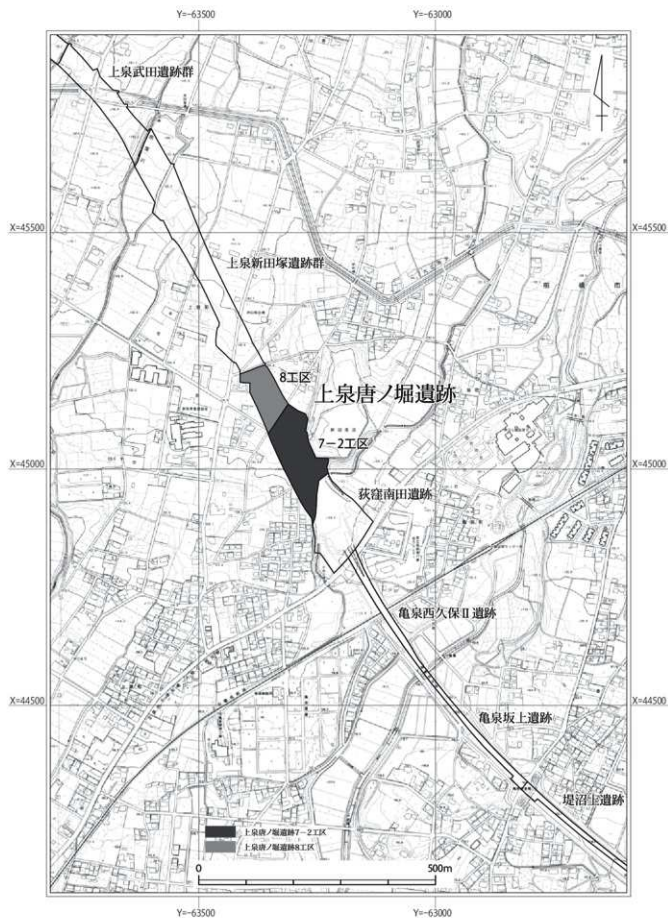
その後、平成21年2月10日付けで「その2協定書」の変更契約（第2回）が締結され現在に至っている。

### （3）8工区の事業

平成18年に7-2工区終点の前橋市上泉町から現国道17号（前橋市田口町）までの区間が、8工区として事業化された。この区間の総延長は約8km、調査対象遺跡は31遺跡、調査対象面積は約40万㎡となった。

8工区の発掘調査に関して、国土交通省、群馬県教育委員会、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の三者は、平成18年2月16日付けで「一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（その3）の実施に関する協定書」（以下、「その3協定書」と呼ぶ）を締結し、基本事項を確認した（「その3協定書」は平成18年6月20日付けで変更契約）。

そして、8工区の発掘調査は平成18年7月より財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団によって、上泉唐ノ堀遺跡（8工区）、上泉新田塚遺跡群から順次開始された。



第3図 遺跡位置図

## 第2章 発掘調査の方法と経過、調査成果

### 第1節 上泉唐ノ堀遺跡の発掘作業

#### 1. 上泉唐ノ堀遺跡7-2工区と8工区（第4図）

上泉唐ノ堀遺跡7-2工区と8工区を含む上泉唐ノ堀遺跡に関する発掘調査は、一般国道17号（上武道路）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として、「その2協定書」、「その3協定書」に基づいて行われた。

「その2協定書」に基づいた調査範囲が7-2工区、「その3協定書」に基づいた調査範囲が8工区である。2つの事業に分離された発掘調査となったため、その後の整理作業や報告書刊行も2つの事業に分離して実施されることとなった。

上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の発掘調査は、平成14年10月から平成17年3月にかけて行った。上泉唐ノ堀遺跡8工区の発掘調査は、平成18年7月から開始された。

7-2工区の整理作業は、平成18年から開始し平成22年9月まで行った。平成22年12月に本報告書を刊行して

すべて終了した。そして、本報告書は上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の調査成果をまとめたものである。

#### 2. 上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の調査範囲（第4図）

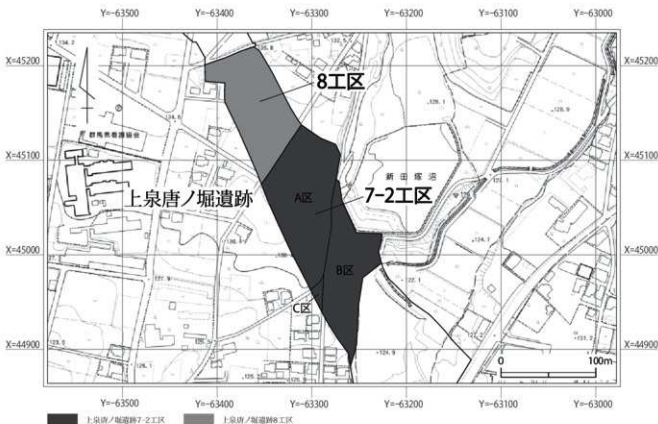
上泉唐ノ堀遺跡7-2工区は、南側の荻窪南田遺跡との境界からA区北西端部に走る道路までである。この道路を挟んで北西側が上泉唐ノ堀遺跡8工区である。

上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の調査対象範囲は、X = 44900 ~ 45140、Y = -63230 ~ -63360までの、南北240m、東西130mの範囲で、地形的には新田塚沼西側の台地上が相当する。大グリッドはNo 8・No 9になる。

### 第2節 グリッド・調査区の設定

#### 1. 概要

グリッドの設定は、国家座標第IX系（日本測地系）を利用した。大グリッド→中グリッド→小グリッドという



第4図 事業区分図・調査区設定図

方式で設定した。この方式は上武道路調査遺跡の統一仕様であり、上泉唐ノ堀遺跡でもこれに従った。

## 2. 大グリッドの設定 (第5図)

まず、南北4.9kmに及ぶ国道50号以北の上武道路調査遺跡をすべて網羅する大グリッドを設定した。大グリッドは、1区画が東西1,000m×南北1,000mの大きさとした。大グリッドには、南から北へ順次No 1・2・3というかたちで番号を付けた。上泉唐ノ堀遺跡を包括する大グリッドはNo 8・No 9となった。

## 3. 中グリッドの設定 (第5図)

次に、大グリッドの中に1区画100m×100mの大きさとなる中グリッドを設定した。大グリッドの中は計100個の中グリッドに分割した。また、中グリッドには南東隅の中グリッドを基点 (No 1) として、東側から西側へ番号を付けた。南側の最下段がNo 1～10、次に北側に移りNo11～20、そして北側の最上段がNo91～100というかたちで、合計100個の番号を付けた。また、各大グリッドの中には同じ番号の中グリッドが繰り返して存在するため、中グリッドの表記は大グリッド・中グリッドの組み合わせとした (例：8-93、8-4)。

## 4. グリッドの設定 (第6図)

そして、100m四方の中グリッドの中に、1区画5m×5mの大きさとなる小グリッドを設定した。一つの中グリッドは計400個の小グリッドに分割された。この小グリッドが、実際の発掘調査において最小の基本単位となるグリッドである。以下、本報告書で「グリッド」とある場合、この5m×5mの小グリッドのことをいう。

グリッドは、中グリッドの南東隅のX Y座標交点を基点とし、X座標をYグリッド軸、Y座標をXグリッド軸とした。

X座標 (Yグリッド軸) には、5m間隔で南側から北側へ1・2・3というかたちで20までの計20個の算用数字を付けた (例：X=44900には1、X=44905には2、X=44910には3)。

Y座標 (Xグリッド軸) には、5m間隔で東側から西側へA・B・CというかたちでTまでの計20個のアルファベットを付けた (例：Y=-63300にはA、Y=-63305

にはB、Y=-63310にはC)。

## 5. グリッド番号の表記 (第6図)

グリッド番号は、Xグリッド軸とYグリッド軸の南東交点を基準にして (Xグリッド-Yグリッド) とし、アルファベットと算用数字を組み合わせて表記した (例：A-1、B-2、C-3)。

グリッド番号の表記方式は、中グリッド番号-グリッド番号の組み合わせとした (例：4-A-1、14-A-1)。各中グリッドには同じグリッド番号が存在し、グリッド番号だけの表記方式では図面や遺物取り上げに混乱が発生するため、グリッド番号の前に必ず中グリッド番号を付けて表記し混乱防止を図った。なお、大グリッド番号の表記は、影響が小さいことから省略した。

## 6. 調査区の設定 (第6図)

上泉唐ノ堀遺跡の調査対象地は南北240m、東西100mの南北に細長いかたちとなった。効率的に調査を進めるために、現道を境界として三カ所の調査区に区分した。調査区名は北からA区、B区、C区とした。このうちA区が大部分の面積を占める。A区は88区番、B・C区が87区番に対応する。また、大グリッド・中グリッドはA区が8-93、8-94、9-3・9-4・9-13・9-14、B区が8-93、C区が8-93・8-94にそれぞれ対応する。

## 7. 遺跡番号

上武道路調査遺跡では、遺跡毎に上武道路の略称記号「J K」を付けた遺跡番号で管理した。上泉唐ノ堀遺跡は「J K52」である。遺物注記の表記や図面・写真管理等でこの遺跡番号を採用した。

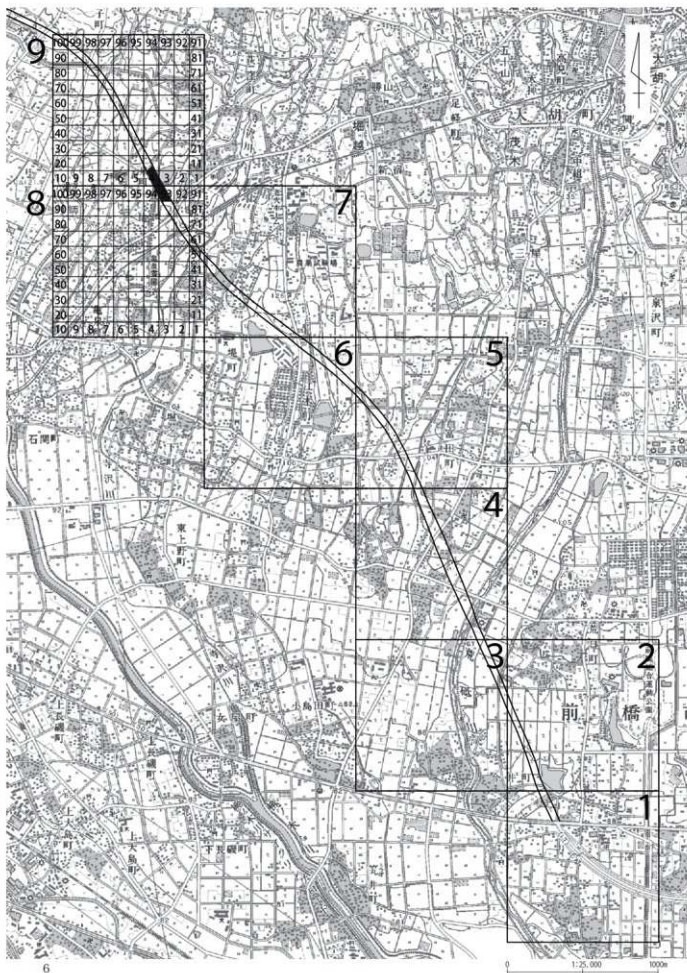
## 第3節 発掘作業の経過

### 1. 上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の調査

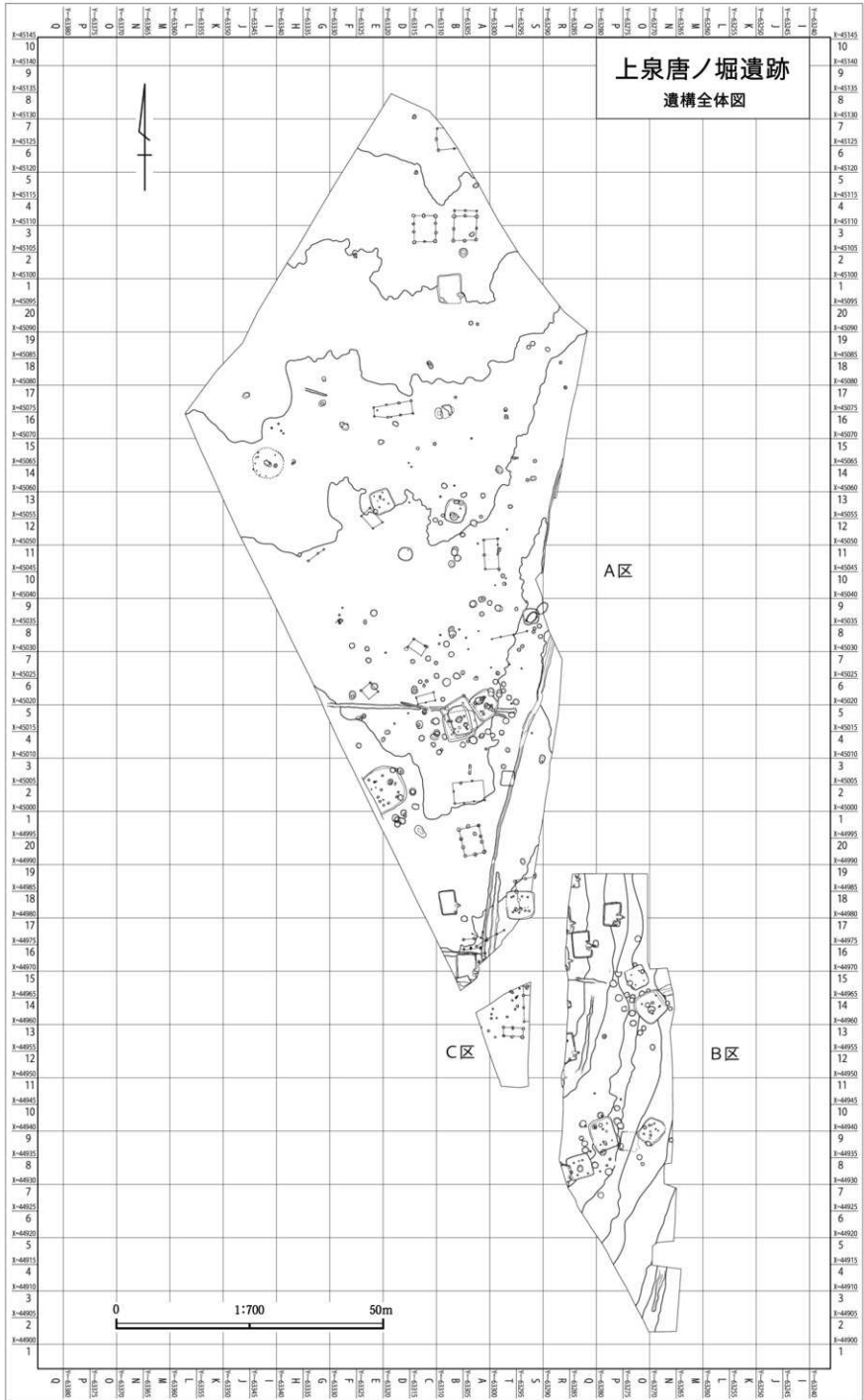
#### (1) 概要

本報告書は上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の調査成果をまとめたものである。

上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の発掘調査は、平成14年10月から平成17年3月まで行った。調査面積は合計、16,155.5㎡である。



第5図 上武道路と遺跡位置図大グリッド・中グリッド設定図 (■は上泉唐ノ堀遺跡7-2工区)



第6図 上泉唐ノ堀遺跡全体図・グリッド設定図

## (2) 上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の調査経過

平成14年度は、平成14年10月から平成15年3月まで調査した。調査面積は、5,280.3㎡である。調査の結果、奈良時代以降の竪穴住居、掘立柱建物、縄文時代の竪穴住居、掘立柱建物、土坑等が多数検出された。さらに、旧石器時代の遺跡も検出された。

平成15年度は、平成15年4月から平成15年11月まで行った。調査面積は、180㎡である。主に旧石器調査を行った。その結果、約3万年前～1万6千年前のローム層のなかに複数の旧石器時代の遺跡が確認された。しかし、他遺跡の調査に急速対応しなくてはならなかったため、本格的な旧石器調査は次年度に行うこととなった。

平成16年度は、平成16年4月から平成17年3月まで調査した。調査面積は10,695.5㎡である。調査の結果、前年度から継続した旧石器調査で、新たに多数の石器が検出された。また、縄文時代の竪穴住居や土坑、奈良時代以降の竪穴住居や掘立柱建物も多数検出された。

## 2. 上泉唐ノ堀遺跡8工区の調査

上泉唐ノ堀遺跡8工区の発掘作業は、「その3協定書」に基づき、平成18年7月～平成20年6月まで行われた。また、上泉唐ノ堀遺跡8工区の調査成果に関する整理作業は平成22年9月現在継続中である。

## 第4節 整理作業の方法と報告書刊行

### 1. 上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の整理作業対象

本報告書に関する整理作業は「その2協定書」に基づいて行った。整理作業対象は、上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の縄文時代以降の調査成果である。上泉唐ノ堀遺跡8工区の調査成果は含んでいない。

### 2. 整理作業の経過

整理作業は、縄文時代以降の調査成果と旧石器時代の調査成果の2つの事業に分離して行った。本報告書は、縄文時代以降の調査成果をまとめたものである。

整理作業は、平成18年度、平成21年度、平成22年度の三ヶ年度にわたって行った。

平成18年度は、平成18年10月から平成19年3月まで、次の①～③の計3班体制で同時並行して行った。①上泉

唐ノ堀遺跡(1)・平成18年10月から12月まで。②上泉唐ノ堀遺跡(2)・平成18年11月から平成19年3月まで。③上泉唐ノ堀遺跡(3)・平成18年12月から平成19年3月まで。

平成21年度は、平成22年1月から平成22年3月まで行った。

平成22年度は、整理作業の最終年度で、平成22年4月から平成22年9月まで行った。

平成22年12月に報告書を刊行した。これによって、上泉唐ノ堀遺跡7-2工区ならびに「その2協定書」に関する発掘調査事業はすべて終了した。

## 第5節 調査成果

上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の調査では、旧石器時代、縄文時代、奈良時代以降にわたる遺跡が発見された。

旧石器時代では、第1文化層・第2文化層・第3文化層の3時期の旧石器遺跡が発見された。旧石器時代に関する調査成果については、『財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第478集 上武道路・旧石器時代遺跡群(2)』(2010)に報告した。

縄文時代では、前期の黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期、諸磯c式期の遺物が多数出土し、またこの時期に相当する竪穴住居や土坑などの遺構も多数検出された。整理作業の結果、諸磯b式期に最盛期を迎えた縄文時代前期の集落跡であることが判明した。

奈良時代以降では、奈良時代の竪穴住居が多数検出され、遺物も多数出土した。また、中近世と考えられる溝跡等が複数検出された。

これらの調査成果の詳細に関しては、第4章～第8章に報告した。

なお、本報告書は上泉唐ノ堀遺跡7-2工区の発掘調査によって得られた縄文時代以降の調査成果をまとめたものである。8工区の調査成果は扱っていない。

上泉唐ノ堀遺跡の調査成果を総合的に扱うために、本報告書とともに上泉唐ノ堀遺跡8工区の報告書(平成23年度以降刊行予定)、ならびに上記の旧石器調査の報告書も併せて活用していただきたい。

## 第3章 周辺地形・周辺遺跡・標準土層

### 第1節 周辺地形

#### 1. 遺跡の位置

上泉唐ノ堀遺跡は、群馬県前橋市上泉町に所在する。調査区全体の中心部で、北緯36° 24' 25"、東経139° 07' 27"（世界測地系）である。

標高は、台地部のA区北端部で最も高く約133m、低地部際部のB区南端部で最も低く約125m、台地部のA区中心部で約130mである。調査区の南北の長さ240mに対する標高差は約8mで、北側から南側に向かって緩やかに傾斜する台地に立地する。

北緯（世界測地系）	36° 24' 25"（7-2工区中心部）
東経（世界測地系）	139° 07' 27"（7-2工区中心部）
標高（現地表面）	最高部：約133m、最低部：約125m、 A区中心部：約130m

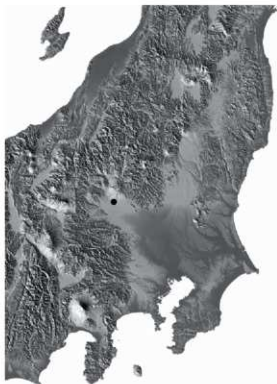
#### 2. 遺跡の立地地形

##### (1) 概要（第8・9図）

上泉唐ノ堀遺跡は、関東平野北西端部の赤城山南麓の丘陵地形に立地する。

赤城山は、群馬県のほぼ中央部に聳える成層火山で、黒檜山を最高峰（1,828m）とし、駒ヶ岳、地蔵岳、長七郎山、鍋割山などのいくつもの峰々から構成される円錐火山である。黒檜山は遺跡から見て、北北東方向に約18kmの位置にある。赤城山は関東平野の北西外縁部に聳えているため、日本最大の広大な関東平野を一望できる。赤城山は、雄大な山並みから榛名山、妙義山とともに上毛三山と並び称されている。とりわけ、赤城山の西麓から南麓にかけての地域には緩やかに広大な裾野が広がるのが大きな特徴で、その内容が「裾野は長し赤城山」と上毛かるたに詠まれているように、群馬県民ならば誰もがはじめに思い描く赤城山の姿といえよう。

また、赤城山は群馬県民からは「あかぎやま」と呼ばれ、古くから信仰を集め慣れ親しまれている風光明媚な山である。雄大な山並みは見上げる地域によって様々な変化を見せるが、とりわけ南方からの眺望は県都前橋市

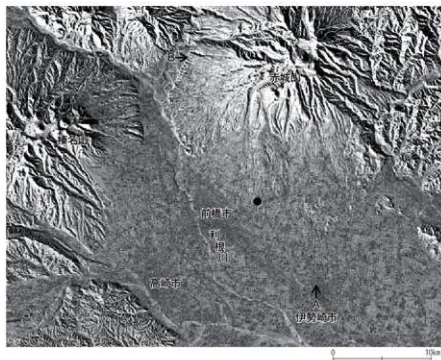
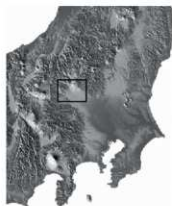










第7図 遺跡位置図（●）

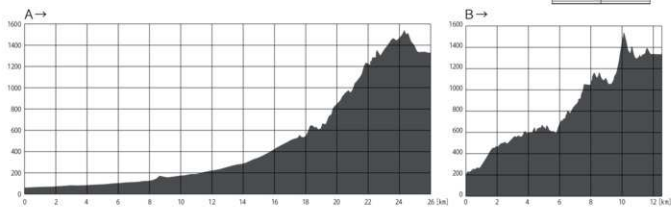
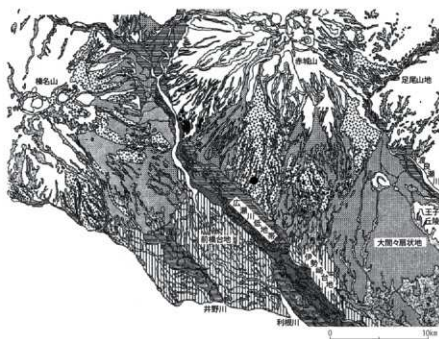
や伊勢崎市を庇護するように雄大な姿といえる。群馬県の気候風土を象徴する冬の風物詩「からっかぜ」は赤城山方面から吹き降ろすことから、「赤城おろし」と呼ばれている。

赤城山麓地域には、約3万年前の旧石器時代以降、各時代にわたって多数の遺跡が残された。とりわけ、旧石器時代と縄文時代の遺跡が多い点が特徴的で、群馬県を代表する遺跡密集地帯となっている。旧石器時代の遊動生活から縄文時代の定住生活へと居住様式は変化するが、両時代とも狩猟採集生活をベースとしている。したがって、旧石器時代から縄文時代の遺跡が多数残された背景に、赤城山麓地形が狩猟採集生活に適した生態を育てていたことを理解しておくことが大切である。山麓から湧き出る豊富な水、標高差に応じた多様な生態系を育む広大な山麓、赤城山と関東平野、そして赤城山の脇から関東平野を貫く利根川が存在など、様々な特徴が複合しているがゆえに、旧石器時代から縄文時代の人々は赤城山麓地域を生活適地とし、その結果多数の遺跡が残されてきたといえる。





-  前橋-伊勢崎台地
-  河成段丘
-  火砕流・泥流
-  扇状地
-  広瀬川低地帯・旧河道
-  谷低平野
-  流れ山
-  上泉唐／逕遺跡



第8図 遺跡周辺地形図



第9図 道跡周辺の俯瞰写真（南方から）

※赤城山南麓の地形。南流する幾筋もの小河川が丘陵地形を刻む。

## (2) 周辺地形（第8・9図）

赤城山の範囲を概観すると、北側は片品川、東側は渡良瀬川及び足尾山地、南側は南東部の大間々扇状地と南西部の広瀬川低地帯、西側は利根川にそれぞれ画された範囲に相当する。

南北方向については、伊勢崎市街地—波志江沼—大沼を結ぶライン（第8図Aライン・東経139°10′33″付近）で直線距離は約25km、標高は伊勢崎市街地で概ね60m、波志江沼：約90m、大沼：約1,345m、標高差は約1,285mである。このラインでは、標高200m以下の範囲は概ね伊勢崎市街地から上毛電鉄北側までの約11kmの範囲が相当する。直線距離約25kmに対して約半分の約11km間が標高200m以下の平坦地形であり、緩やかで広大な裾野が広がっていることがわかる。

東西方向については、利根川—大沼を結ぶライン（第8図Bライン・北緯36°33′17″付近）で直線距離約12km、標高は西端部で約260m、大沼1,345mで、標高差は約1,085mである。

赤城山南麓地域の地形を見ると、山頂部より山岳地形、

丘陵地形、裾野末端部の平坦地形まで標高の違いに応じて変化に富んだ地形が広がっている。特に、南東部の大間々扇状地と南西部の広瀬川低地帯に画された範囲には、V字状に張り出した緩やかな裾野末端部の平坦地形が広がっている。赤城山南麓の概ね北緯36°28′以北から山頂部にかけては傾斜の険しい山岳地形になるが、北緯36°24′以南は裾野端部の緩やかな丘陵地形や平坦地形になる。広瀬川低地帯を挟んで南西部は前橋台地で、ここでも平坦な地形が広がっている。

また、利根川は、現在では前橋台地を東西に分断するように南東方向へ流下しているが、かつては広瀬川低地帯を南東方向へ流下していた。

赤城山南麓地域には、赤城白川、藤沢川、寺沢川、荒砥川、神沢川、粕川などの河川が放射状に流下している。標高400m以下の地域では、これらの河川が丘陵地形を侵食して南北方向に細長い起伏の変化に富んだ丘陵性台地を形成している。また、赤城白川や荒砥川の下流域で扇状地を形成している。さらに、丘陵地形にはこれらの河川に注ぐいくつもの小支谷が樹枝状に伸び、台地と低

地が複雑に入り組む起伏の変化に富んだ地形を形成している。

さらに、南麓地域には赤城山の噴火活動に伴う岩屑なだれが堆積した、流れ山と呼ばれる独立丘陵が点在しており、いっそう起伏の変化に富んだ地形を形成している。流れ山には、前橋市から伊勢崎市にかけて広がる多田山、伊勢崎市の峯岸山、石山、権現山などが知られている。多田山は、最近の開発工事に伴い流れ山としての独立丘陵地形の大半は失われ、地形は一変してしまった。

上泉唐ノ堀遺跡が立地する地形は、東側を寺沢川に注ぐ小支谷、西側を荻窪川（薬師川）に挟まれ北から南へ向かって緩やかに傾斜する丘陵性台地である。東側には新田塚沼がある。上泉唐ノ堀遺跡はこの丘陵性台地の東端部に立地している。崖線を挟んで南東側には低地部に形成された荻窪南田遺跡、西側には同一台地上に上泉新田塚遺跡群がそれぞれ隣接する。

このように赤城山南麓地域には、丘陵と河川が複雑に入り組んだ地形が広がり、このような地形の中に上泉唐ノ堀遺跡をはじめとする多数の遺跡が残されている。

## 第2節 周辺遺跡

上泉唐ノ堀遺跡が立地する赤城山南麓地域にはおよそ3万年前の旧石器時代以降から、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中近世にわたって多数の遺跡が残されている。上武道路建設に伴う発掘調査でも多数の遺跡が発見された。

ここでは、赤城山南麓地域における各時代の遺跡の様相のうち、縄文時代・弥生時代・古墳時代・奈良時代以降に関して概要をまとめて報告する。

### 1. 縄文時代の遺跡

赤城山南麓では、縄文時代の遺跡が多数発見されている。特に前期の遺跡が多く、本遺跡をはじめ上武道路調査遺跡でも多数の遺跡が発見された。本遺跡でも前期の諸磯b式期の竪穴住居や土坑が多数調査され、土器や石器も多数出土し、赤城山南麓地域に前期の遺跡が多いことが改めて確認された。

江木下大日遺跡では、前期の花積下層式期、黒浜式期、諸磯b式期の竪穴住居が発見されている。菅野Ⅱ遺跡で



遺跡周辺の俯瞰写真（東方から）  
※中央は上武道路予定地

も、前期の花積下層式期、黒浜式期、諸磯b式期のほか中期の加曾利E式期の竪穴住居が発見されている。亀泉坂上遺跡では、前期の黒浜式期、諸磯b式期、諸磯c式期の竪穴住居が調査されている。

### 2. 弥生時代の遺跡

赤城山南麓地域では、弥生時代になると遺跡は減少する。時期も中期後半以降から後期の遺跡である。また、大規模な集落を形成した遺跡はこれまで発見されておらず、少数の竪穴住居で構成される小規模な集落跡が発見されている程度である。遺跡数が少なく、しかも小規模な遺跡を形成している点が赤城山南麓地域における弥生時代の特徴ともいえる。

### 3. 古墳時代の遺跡

赤城山南麓では、古墳時代になると遺跡数は増加する。前期・中期・後期の各時期の遺跡が各地で調査され、多数の竪穴住居から構成される集落跡だけでなく、周溝墓群や古墳群などの墓域、水田・畠の生産跡も発見されている。

まず、前期の集落跡には荒砥北原遺跡、荒砥諏訪西遺跡などがある。上武道路調査遺跡でも富田宮下遺跡、富田西原遺跡、富田高石遺跡で集落跡が調査されている。

中期の集落跡には前期から引き続き集落が営まれる遺跡と新たに集落が形成されはじめる遺跡がある。前者の遺跡には、荒砥宮田遺跡、北原遺跡、柳久保遺跡などがあり、上武道路調査遺跡でも荒砥前田Ⅱ遺跡が調査され

### 第3章 周辺地形・周辺遺跡・標準土層

ている。後者の遺跡には、荒砥北三木堂遺跡や荒砥天之宮遺跡などがある。

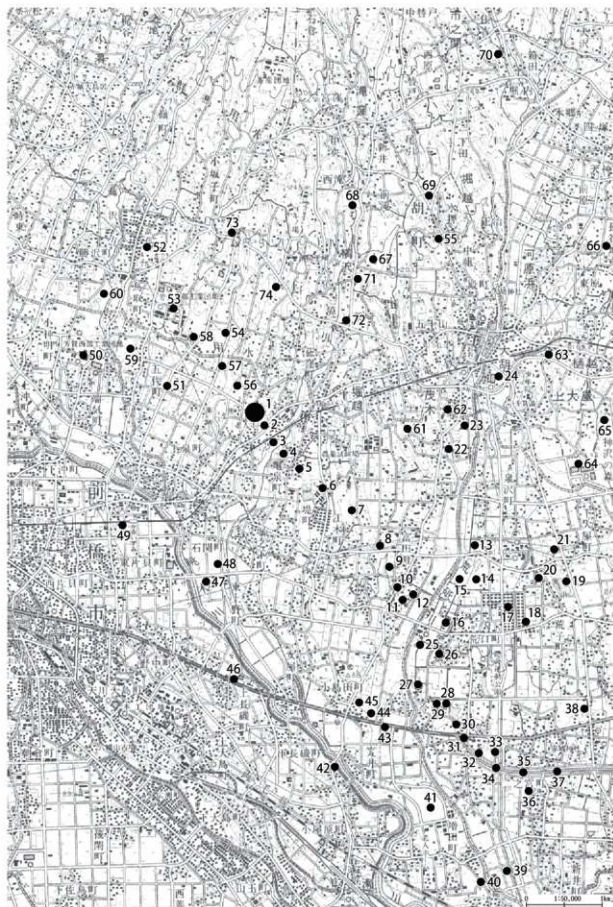
後期の集落跡には、前期・中期から引き続いて集落が営まれる遺跡が多く、荒砥諏訪西遺跡、荒砥北原遺跡、柳久保遺跡をはじめとする多数の遺跡がこれまで調査されている。

赤城山南麓地域では、前期の集落跡と同時に周溝墓群も多数発見されている。荒砥諏訪遺跡、荒砥諏訪西遺跡では周溝墓が調査され、堤東遺跡、東原B遺跡、富田高石遺跡では前方後方形周溝墓が調査されている。さらに、中期以降になると群集墳が各地で形成され、そして、大室古墳群には前二子古墳、中二子古墳、後二子古墳の大

第1表 主な周辺遺跡

No	遺跡名	年代	種別
1	上泉唐ノ塚	縄文、奈良、平安、中世、近世	集落
2	高井原田	縄文、奈良、平安、中世、近世	集落、その他
3	荒砥西久保Ⅱ	縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世	集落、その他
4	亀原坂上	縄文、古墳、平安、近世	集落、墓、その他
5	塚田上	古墳、奈良、平安	集落、その他
6	笹野Ⅱ	縄文、古墳、奈良、平安	集落、墓
7	日本下人目	縄文、古墳、奈良、平安	集落、生産
8	荒田跡田	縄文、古墳、平安、中世	集落、生産
9	高田高石	縄文、弥生、古墳、平安、中世、近世	集落、生産、その他
10	荒田西原	縄文、弥生、古墳、平安、中世、近世	集落、生産、その他
11	荒田宮下	縄文、弥生、古墳、奈良、平安、近世	集落、その他
12	東原	縄文	集落
13	北原	古墳	集落、墓、その他
14	荒砥諏訪	古墳、奈良、平安	集落、墓、その他
15	荒砥諏訪西	古墳、奈良、平安	集落、古墳、墓、その他
16	荒砥宮田	縄文、古墳、奈良、平安	集落、墓、その他
17	柳久保	古墳、平安	集落、その他
18	堀畑	弥生、古墳、平安	集落
19	堤東	古墳、平安	集落、墓、その他
20	川端袴戸	奈良、平安	集落
21	荒砥西原	奈良、平安	集落、百歩
22	茂木山神	縄文、古墳、奈良、平安	集落
23	上ノ山	縄文、古墳、中世、近世	集落、古墳、墓、その他
24	中宮開	墳、平安	集落、その他
25	荒砥前田	古墳	集落、その他
26	塚田前原	縄文、弥生、古墳	集落
27	荒砥北原	縄文、古墳、奈良、平安	集落、古墳、墓、その他
28	荒砥北三木堂	縄文、古墳、奈良、平安	集落、古墳
29	荒砥北三木堂Ⅱ	縄文、古墳、奈良、平安	集落、古墳
30	今井遺上Ⅱ	古墳、奈良、平安	集落、その他
31	今井遺上遺下	縄文、奈良、平安	集落、その他
32	二之宮石地	古墳、奈良、平安	集落、その他
33	荒砥洗橋	古墳、奈良、平安	集落、その他
34	二之宮洗橋	平安	その他
35	二之宮千足	縄文、奈良、平安	集落、その他
36	荒砥天之宮	古墳、奈良、平安	集落、その他
37	二之宮宮下東	古墳、奈良、平安	集落、その他

No	遺跡名	年代	種別
38	荒砥上ノ坊	縄文、弥生、古墳、奈良、平安	集落、その他
39	下湖田遺跡	奈良、平安	集落、その他
40	下湖田原木	平安	墓、その他
41	中塚	古墳、奈良、平安	集落
42	茨井中塚敷	奈良、平安、中世	集落、その他
43	今井白山	古墳、奈良、平安	集落
44	茨井八日市	縄文	集落、その他
45	小島山八日市	縄文、中世、近世	散布地、城跡
46	野中天神	平安、中世	集落、城跡、その他
47	石淵西原遺	古墳、奈良、平安	集落
48	石淵西田Ⅱ	奈良、平安	その他
49	基本田	奈良、平安	集落
50	芳賀西部工場地	縄文、古墳	集落
51	五代伊勢宮	縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世	集落、墓、その他
52	芳賀北部工場地	古墳、奈良、平安	集落
53	芳賀東部工場地	縄文、奈良、平安	集落
54	柳家	古墳	古墳
55	堀跡中道	縄文、古墳、奈良、その他	散布地、集落
56	上泉新田塚	縄文、平安	集落、その他
57	上泉武田	縄文、古墳、奈良、平安	集落、その他
58	五代伊勢	縄文、平安、近世	集落、その他
59	鳥取福祿寺	縄文、奈良、平安	集落
60	柳家	古墳	集落
61	稲荷宮	縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世	散布地、集落、古墳
62	西小橋	縄文、古墳、近世	集落、古墳、墓、その他
63	上ノ原岡越地区	縄文、古墳、奈良、平安、中世、近世	散布地、集落、生産
64	大造	縄文、古墳、平安	集落
65	上原積古墳群	古墳	古墳
66	藤毛石中山	縄文	集落
67	堀跡丁二木松	縄文、平安、不明	集落、生産
68	堀跡新原敷	縄文、古墳、平安、中世、近世	集落、古墳、墓、その他
69	堀跡基本	縄文	集落
70	一之関前田	縄文、平安、中世、近世	集落、城跡、その他
71	堀跡向山	縄文、古墳、平安	集落、古墳
72	堀跡	縄文、近世	散布地
73	川白田	縄文	集落
74	庚申塚	縄文、古墳	集落



第10図 周辺遺跡分布図

型前方後円墳がつくられる。水田も二之宮宮下東遺跡、二之宮千足遺跡、荒砥北三木堂遺跡で発見されている。

このように、赤城山南麓地域では古墳時代前期以降の集落、古墳群、水田などの各種の遺跡が一体となって発見されている点が特徴的である。

また、広瀬川低地帯を挟んで赤城山南麓地域の南側に広がる前橋台地では、古墳時代前期において水田開発が開始されるとともに、前橋市八幡山古墳や天神山古墳などの大規模な古墳が出現する。赤城山南麓地域から前橋台地にかけての地域は、古墳時代の地域社会の出現及び変遷過程の追究には欠かせない重要な地域である。

#### 4. 奈良時代以降

赤城山南麓地域では、古墳時代後期に引き続く奈良時代以降の集落や水田が多く残されている。

この地域の低地部では、1108年(天仁元年)に降下した浅間B軽石(As-B)が良好に堆積している場所が多く、各地でAs-Bによって埋没したいわゆるAs-B下水田が発見されている。上泉唐ノ堀遺跡の南東側に隣接する伏産南田遺跡でも、As-B下水田と水田耕作に関連した施設の痕跡と考えられる溝状遺構が検出されている。

また、赤城山南麓地域を東西に横断するように、長大な灌漑施設の痕跡と考えられる女堀が残されている。上武道路調査遺跡では、荒砥前田Ⅱ遺跡で女堀の痕跡が検出されている。

## 第3節 標準土層

### 1. 概要

上泉唐ノ堀遺跡は、赤城山南麓の丘陵性台地に立地している。堆積土層は台地全体で共通していた。地表下には、上層より黒色土(表土)、漸移層、ローム層が堆積していた。

### 2. 遺構確認面の設定

漸移層は縄文時代の遺物包含層で、検出された縄文時代前期の竪穴住居や土坑などの遺構掘り込み面(当時の生活面)は本来この漸移層内に存在していたものと考えられる。しかし、実際の発掘調査において漸移層土層と当該期の遺構覆土との違いを目視によって識別し、遺構



遺跡周辺の俯瞰写真(南方から)

※丘陵地形を刻む小河川

の有無を確認することはきわめて困難であった。このため、漸移層は遺物回収を主目的として調査して除去し、その後Ⅲ層の黄褐色ローム上面を縄文時代の遺構確認面にして調査した。

### 3. 標準土層(第11図)

上泉唐ノ堀遺跡では、先述したように台地上における土層の堆積状態は共通しており、遺跡全体で同じ堆積土層が確認された。これを標準土層とした。

標準土層は、上層より黒褐色土層(表土)、漸移層、ローム層(Ⅲ層以下)である。ローム層は風成堆積ロームで、ローム層内には浅間山噴出のAs-BPGROUPや榛名山噴出のHr-HPなどのテフラが確認された。ATは、肉眼での識別は困難であるが、Ⅵ層下部からⅦ層上部にかけての範囲に含有されているものと考えられる。

#### I層 黒褐色土層(10YR2/2)

表土層である。層厚は概ね80cm。粒径1mm程度のAs-Cを混入する。As-Cの混入の有無や混入量の違いに基づいて分層可能な場所も一部に認められたが、標準土層では、一括してI層とした。

#### II層 暗褐色土層(10YR3/4)

漸移層である。層厚は概ね30cm。縄文時代の遺物包含層である。縄文時代前期の生活面は本層内に存在し、竪穴住居や土坑は本層から掘削されたものと考えられる。奈良時代以降の遺構確認面は本層上面とした。

**III層 黄褐色ローム層 (10YR5/6)**

ハードローム層である。層厚は概ね20cm。二次堆積のAs-YPに由来するテフラ粒子を少量含む。本層上面を縄文時代の遺構確認面とした。

**IV層 黄褐色ローム層 (10YR5/6)**

ハードローム層である。層厚は概ね40cm。二次堆積のAs-Ok1に由来するテフラ粒子を少量含む。

**V層 黄褐色ローム層 (10YR5/8)**

ハードローム層である。層厚は概ね30cm。一次堆積のAs-BPGGroup中・上部をブロック状に含む。ブロックの高さは最大で約20cm、最小で約10cm程度である。

**VI層 褐色ローム層 (10YR4/6)**

ハードローム層である。層厚は15cm～20cm。二次堆積したAs-BPGGroup (As-MP) に由来するテフラ粒子をわずかに含む。ATはVI層下部からVII層上部に含有されているものと考えられる。

**VII層 暗褐色ローム層 (10YR3/4)**

やや軟質のハードローム層である。暗色帯の上半部に相当する。Ag-KLPに由来する灰色の岩砕を少量含む。

**VIII層 暗褐色ローム層 (10YR3/4)**

やや軟質のハードローム層である。暗色帯の下半部に相当する。肉眼での識別は困難であるが、VIII層下部にHr-HAを含有しているものと考えられる。

**IX層 黄褐色ローム層**

ハードローム層。北橋スコリアを含む。

**X層 黄褐色ローム層**

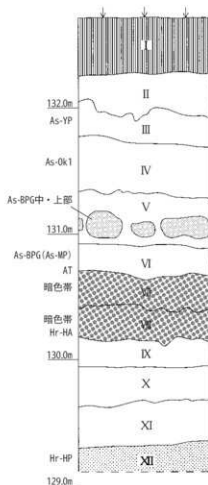
ハードローム層。

**XI層 黄褐色ローム層**

XII層より遊離したHr-HPを少量含む。

**XII層 黄褐色軽石層**

Hr-HPの一次堆積層。



第11図 土層セクション図



土層セクション写真

## 第4章 縄文時代の遺構と遺物

### 第1節 調査の概要

#### 1. 調査成果の概要

上京唐ノ堀遺跡における縄文時代の調査では、前期の集落跡を調査した。しかし、その範囲は南側に傾斜する丘陵性台地の東側部分を南北に貫くように調査した範囲に限定されている。このため、当時の集落跡全部を完掘調査できたわけではなく集落跡の一部分を調査できただけである。地形や竪穴住居の分布状況から見て、集落跡全体の東半部を調査したものと推測され、調査区外となる西側にも遺構が展開する可能性は高い。

出土土器は前期の黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、諸磯c式を主体とし、このうち諸磯b式が最も多かった。また、竪穴住居・土坑も諸磯b式期が最も多かった。今回の調査範囲では諸磯b式期の遺構量及び遺物量が多かったことから、諸磯b式期の集落跡の中心部を調査できたものと考えられる。一方、諸磯c式期の竪穴住居は確認できなかった。諸磯c式土器は出土しているが、諸磯c式期の集落は周辺部に形成された可能性がある。

上京唐ノ堀遺跡7-2工区の調査範囲から検出された縄文時代前期の集落跡は、黒浜式期から諸磯a式期、諸磯b式期へと連続して営まれ、そして諸磯b式期に最盛期を迎えた集落跡と考えられる。

#### 2. 検出された遺構の概要

縄文時代の調査を行った結果、竪穴住居、土坑、配石、掘立柱建物・柵列、遺物集中部が検出された。遺構は縄文時代前期のものが主体で、ほかに中期がわずかに認められた。早期と後期の遺構は確認できなかった。

A区・B区・C区の間には現道による未調査部分があったため、遺構の分布が断続的になった。

竪穴住居については、計16軒を検出した。竪穴住居はすべてX=45070以南に分布していた。A区では、X=45010～45025、Y=-63295～-63310の範囲で重複した4軒の竪穴住居群を調査した。B区では、Y=-63285以東で東側に向かって傾斜する台地斜面部に分布していた。C区では、調査区面積が狭小であるため竪穴

住居は検出されなかった。

竪穴住居の時期は、出土した土器から縄文時代前期の黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期、縄文時代中期の加曾利E式期であることが判明した。内訳は、黒浜式期1軒、黒浜式期もしくは諸磯a式期1軒、諸磯a式期1軒、諸磯b式期12軒、加曾利E式期1軒であった。

土坑は、計208基検出された。すべてX=45110以南に分布していた。また、土坑は竪穴住居の周辺部に集中的に分布している傾向があり、竪穴住居がない場所では土坑の分布はとて希薄であった。

配石は、4-F-8グリッドで1基検出したのみであった。

掘立柱建物・柵列については、掘立柱建物7棟、柵列1基を検出した。

遺物集中部については、4-A～F-6～9グリッドで1ヶ所検出した。分布範囲は東西約25m、南北約20mであった。土器については、縄文時代早期、中期、後期のものが出土したが、このうち前期の諸磯b式が最も多かった。石器は、石鎌や石匙、打製石斧、磨製石斧、磨石、敲石、凹石などが多量に出土した。また、塊状耳飾りや重飾などの石製品も出土した。

#### 3. 出土遺物の概要

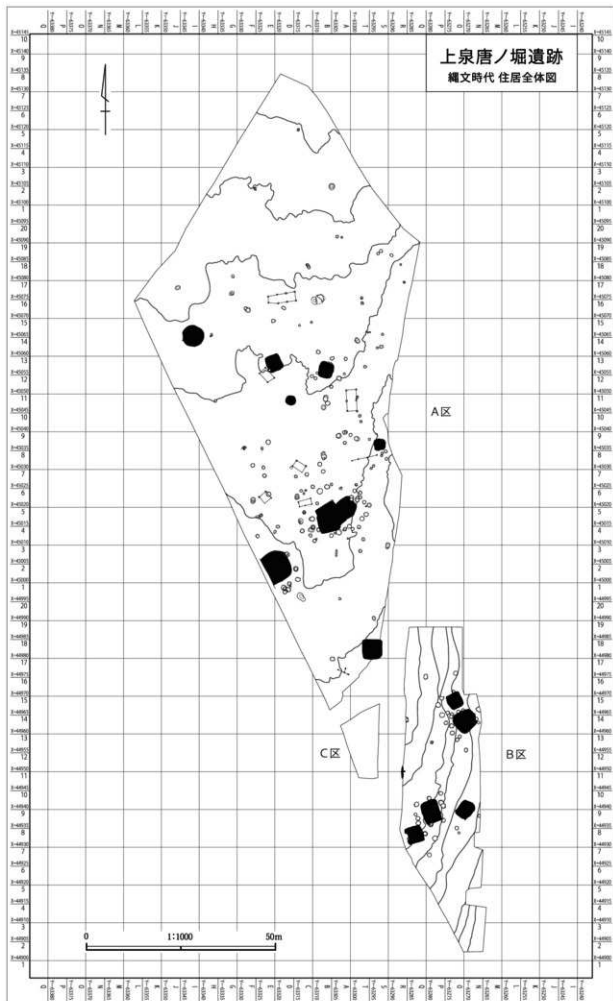
縄文時代の遺構覆土及び縄文包含層、表土、他の時代の遺構覆土などから多数の遺物が出土した。縄文時代の遺物は土器、石器類（剥片系石器、礫石器、石製品）、礫、炭化物である。

土器については、縄文時代早期（条痕文系、茅山式）、前期、中期（加曾利E式）、後期（称名寺式、加曾利B式）のものであった。このうち前期が圧倒的に多く、他の時期はとて少なかった。前期の土器は型式別に黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、諸磯c式、浮島式、興津式に分類された。このうち諸磯b式が最も多かった。

石器類（剥片系石器、礫石器、石製品）と礫については、総計約8,700点あまり、総重量約820kgにも達する膨大な量が出土した（第8章参照）。

剥片系石器は石鎌や石匙、石鎌、打製石斧、磨製石斧、





第12図 縄文時代全体図(住居)

剥片など計7,000点あまりが出土し、礫石器は磨石や凹石、多孔石、敲石、石皿など計240点あまりが出土した。石製品は球状耳飾りや垂飾など10点が出土した。

炭化物については、竪穴住居や土坑の覆土から微細な炭化材や炭化種実が出土したものの、まとまった出土は確認できなかった。また、出土した炭化物の一部について分析を行った。分析の結果、炭化材についてはクリに同定され、他にヤマグワの可能性が指摘された。炭化種実については、オニグルミ、クリ、トチノキに同定された(第7章参照)。

## 第2節 竪穴住居

### 1. 概要

竪穴住居は計16軒を検出した。内訳は、黒浜式期1軒、黒浜式期もしくは諸磯a式期1軒、諸磯a式期1軒、諸磯b式期12軒、加曾利E式期1軒であった。

竪穴住居からは総計5,864点あまりの土器が出土した(第2表)。型式別に点数を見ると、諸磯b式が3,965点で最も多く、次いで黒浜式が941点、諸磯a式が216点、浮島・興津式が60点、諸磯c式が30点であった。これ以

外については不明が642点、その他が2点であった。なお、ここで示した型式別の点数は、発掘調査で遺構別に回収された破損状態の土器片を型式別に分類して計数したものである。接合復元作業前の破損状態の点数であるため、本来一個であった完形土器に対し破損が著しいほど点数は多くなり、反対に破損が少なく完形に近いものほど点数は少なくなる。したがって、型式別点数の多寡が実際の型式別の土器の点数を直接示した訳ではない。しかしながら、遺構からどの型式の土器がどの程度出土しているのかを把握し、検出された遺構の時期を概観するには有効といえる。そこで、出土した土器片を型式別に分類して計数しその点数を示した。

### 2. 7号住居・8号住居・14号住居・15号住居の重複関係について(第18～20図、Pl. 5)

7号住居・8号住居・14号住居・15号住居の4軒の竪穴住居は重複住居群である。この重複住居群を理解するために以下の点をあらかじめ補足して説明する。

#### (1) 新旧関係

調査所見によれば、各住居の新旧関係は次のように把握して調査されている。7号→8号→15号→14号。

第2表 住居内出土土器の型式別点数

	黒浜	諸磯 a	諸磯 b	諸磯 c	鯉ヶ森	浮島 興津	加曾利 E	その他	不明	合計
3号住居	5		132						11	148
7号住居	386	49	777			5			35	1,252
8号住居	103	2	89						15	209
9号住居			5							5
10号住居	18	20	808		4	20			41	911
11号住居			27							27
13号住居	69	2	45		1	2	1			120
14号住居	121	6	392			9				528
15号住居	82		32							114
16号住居			3			1	2			6
18号住居	11	14	214			2			70	311
19号住居	5	3	321	16		5			39	386
20号住居	6		40							46
23号住居	115	26	676	14		5		2	341	1,179
25号住居	17	3	393			11			90	514
31号住居	3	94	9							106
合計	941	216	3,965	30	5	60	3	2	642	5,864

## (2) 位置

A区3・4-T~B-3~5。このうちの東西11m、南北10mの範囲内に重複。

## (3) 重複の状態

7号住居・8号住居・15号住居は上下に重複している。平面的には15号住居が8号住居を完全に覆って重複する。7号住居は西側と南壁の一部が残存するのみである。一方、14号住居は東辺の一部が15号住居と重複しているだけである。重複住居群は計4軒の重複ではあるが、このうち7号・8号・15号住居の3軒の重複が著しい。

## (4) 住居床面の位置

最も深い（標高の低い）位置に床面を構築しているのは、8号住居で標高約129.7mである。次に7号住居で約129.8mである。そして、最も高い位置に床面を構築しているのは15号住居で約130.0mである。14号住居床面は約130.0mで15号住居床面とはほぼ同じ高さである。なお、床面の標高値は各住居の土層セクション図（1/20）を基に計測した平均値であり、各住居の床面全体がこの標高で一律に平坦とは限らないし、7号住居と15号住居の床面の大部分は残存部から推定復元したものである。

このことから、①：最も新しい15号住居床面は7号住居・8号住居の覆土中に構築されている。②：8号住居の覆土は15号住居床面下に一部残存している。③：7号住居の床面は8号住居の重複範囲には残存しない、ということができる。

## (5) 時期

7号住居・8号住居・15号住居の時期に関しては、次のように推定した。

7号住居：黒浜式期もしくは諸磯a式期、8号住居：黒浜式期、14号住居：諸磯b式期、15号住居：諸磯b式期。



7号・8号・14号・15号住居の完掘状況

## (6) 重複関係の注意点

最初に注意しなければならない点は、7号住居出土として取り上げられた遺物のなかに、本来は15号住居出土と考えられる遺物が多数含まれている点である。特に、7号住居出土とされる諸磯b式は、切り合い関係から判断して本来は15号住居に帰属するもので、なおかつ15号住居床面直上の可能性が高い。

15号住居床面は7号住居・8号住居の覆土中（黒色土中）に構築されていたため、地山の黄褐色ロームを床面とする一般的な竪穴住居とは違い床面の識別は困難だったようである。このため、15号住居床面はセクション図では存在するものの、発掘調査では15号住居床面を掘り抜いて7号住居及び8号住居床面まで到達してしまっている。その結果、7号・8号・15号住居3軒の重複範囲から出土した遺物の取り上げは住居別分離が上手くできなかった可能性が高い。

実際、発掘調査時点での土器の出土点数を見ると、7号住居が1,252点、8号住居が209点、15号住居が114点である。7号住居と8号住居を切る15号住居からの出土土器がとてまもなく、反対に最も古い7号住居出土の土

第3表 7号・8号・14号・15号住居の推定時期と出土土器

	推定時期	埋蔵が主体土器	黒浜	諸磯 a	諸磯 b	諸磯 c	浮島・興津	不明	合計
7号住居	黒浜式・諸磯 a 式	検出できなかった	386	49	777		5	35	1,252
8号住居	黒浜式	検出できなかった	103	2	89			15	209
14号住居	諸磯 b 式	検出できなかった	121	6	392		9		528
15号住居	諸磯 b 式	検出できなかった	82		32				114

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

器が多いという状態になっている。本来であれば、最も新しく構築され最も床面積の広い15号住居出土土器が最も多くなるはずである。

この3軒の重複住居群は、調査当初7号住居1軒として住居番号が付与されて掘られた。途中、重複が認識されて新たに8号住居が付与され、最後に15号住居の重複が認識された。そして、調査段階で重複住居群の新旧関係は、7号住居→8号住居→15号住居という切り合い関係が認識された。この段階で、7号住居出土とされた遺物は15号住居出土と変更されるべきであったが、7号住居出土に登録されたままとなった。したがって、第2・3表の7号住居出土点数には、本来は15号住居出土のものが含まれていることは確実である。

こうした混乱を解消するために、整理段階で遺物を精査して可能な限り本来の所属住居への復元を試みた。しかし、すべての遺物を所属住居に修正し復元することは不可能であった。このため、7号住居・8号住居・15号住居の遺物出土状況図には一部に矛盾点もあるものの、調査時点での記録図面及び調査所見をもとに図化することとした。

#### 3. 竪穴住居の観察所見

##### 3号住居 (第13～17図、PL. 6・39)

位置 A区93-S・T-17

形状 隅丸方形

規模 長軸5.2m、短軸5.2m

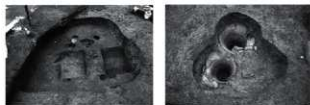
床面 ほぼ平坦。確認面からの深さは約70cm。掘乱により一部破壊される。

周溝 検出されなかった。

炉 床面南西寄りで、南北に連結して埋裏炉が2基検出された。北側を1号埋裏炉、南側を2号埋裏炉とした。1号・2号埋裏炉が土器の上端部はいずれも床面から約15cmの深さに埋没していた。

1号埋裏炉は東西径40cm、深さ40cmほどの掘り込みの規模を持ち、中央部にが体土器(第16図3:1号埋裏炉が体土器・諸磯b式)を埋設していた。1号埋裏炉が体土器の上端部は床面から約15cmの深さで検出した。

2号埋裏炉は東西径75cm、深さ35cmほどの掘り込みの規模を持ち、掘り込みの西側にが体土器(第16図1:2号埋裏炉が体土器・諸磯b式)を埋設していた。2号埋



3号住居(左)と3号住居埋裏炉の検出状況(右)

裏炉がが体土器の上端部は床面下約15cmで検出した。

埋裏炉2基の覆土を見ると、1号埋裏炉では南半部の覆土最上層(1層)が硬質であった。硬質部はが体土器の南半部の一部にも及んでいた。一方、2号埋裏炉では全体にわたって覆土最上層(1層)が硬質であった。この硬質部は埋裏炉が埋没後にその覆土上面が住居床面になった結果生じたものと考えられる。このことから、廃絶の新旧関係は2号埋裏炉→1号埋裏炉と判断され、2号埋裏炉は廃絶後に埋没して上部が住居床面となり、その一方で1号埋裏炉は依然として機能していた可能性が推測される。なお、廃絶に新旧が想定できても、1号埋裏炉と2号埋裏炉が同時並行で機能していた時間が存在したのかまでは判断できない。

また、1号埋裏炉・2号埋裏炉のが体土器はともに上端部が床面から約15cmの深さに埋没していた。この痕跡は住居機能時にすでに1号・2号埋裏炉は両方とも廃絶され埋没していたことを示す可能性がある。また、1号・2号埋裏炉が体土器の硬質部下層に焼土を多く含む土層(覆土2層)が堆積していた。この焼土の堆積はが体土器の廃絶・埋没後にが体土器の上部が地床や火床面として機能した痕跡を示す可能性もある。

柱穴 調査時点ではビット1～ビット8までの8基を認定した。ただし、ビット6・7・8の3基は床面から浅い掘り込みであり、人為的な柱穴の可能性は低いと考えられる。

遺物 土器については、計148点が出土した。型式別に見ると、黒浜式5点、諸磯b式132点、不明11点であり、出土した土器は諸磯b式を主体としている。

第16図1は2号埋裏炉が体土器で、諸磯b式の深鉢である。第16図2は諸磯b式の深鉢で、15点が接合した。床面直上から床上42cmの範囲の覆土中から出土した。8点が床上10cm以下で、このうちの4点が床面直上(床上5cm以下)であった。第16図3は1号埋裏炉が体土器で、

諸磯b式の深鉢である。

石器については、剥片系石器75点、礫石器7点が出土した。剥片系石器は剥片を主体として、他に石鏃、石鏃、削器、打製石斧、磨製石斧などが出土した。礫石器は磨石、凹石、石皿、砥石が出土した。その他、滑石製の丸玉が1点出土している。

**時期** 1号埋裏炉が土器は諸磯b式、2号埋裏炉が土器も諸磯b式であった。また、床面直上や覆土中からも諸磯b式が多数出土している。

このことから、3号住居の時期は諸磯b式期と考えられる。

**重複** なし。

### 7号住居 (第18～27図、PL. 7・41)

**位置** A区4-A・B-3・4

**形状** 隅丸長方形

**規模** 長軸6.1m、短軸5.4m

**床面** 7号住居床面は8号住居により大部分が切られている。床面標高は概ね129.8mである。7号住居は8号住居と15号住居に切られるため、床面は南側から西側にかけてのわずかな範囲が残存するのみであった。なお、8号住居の床面標高は129.7mで、7号住居の床面標高よりも約10cm低い位置に構築されている。また、15号住居床面は概ね130.0mで、7号住居の床面より20cm高い位置に構築されている。

**周溝** 残存する床面の範囲内からは検出されなかった。

**炉** 残存する床面の範囲内からは検出されなかった。

**柱穴** 7号住居・15号住居と重複する範囲内から検出されたピットについては、各住居への帰属が判別できない。

**遺物** 調査時点で7号住居出土として回収された土器は計1,252点である。型式別では黒浜式386点、諸磯a式49点、諸磯b式が777点、浮島式5点、不明35点である。諸磯b式を主体としているものの、黒浜式も多い。また、諸磯a式も31号住居に次いで多い点も注意される。土器を含め、7号住居の出土遺物については、先述したように本来は15号住居に帰属するものが多数含まれている可能性がある。

第24図1は諸磯b式の波状口縁を持つキャリパー状の深鉢で、床面から5～40cmの覆土中から出土した。第24図2は諸磯b式の縄文施文した深鉢で覆土中から出土した。

第24図3は諸磯b式の円孔を施した浅鉢で、床面から約4～8cmの覆土中から出土した。第24図13は諸磯b式の波状口縁の深鉢で床面直上から出土した。第25図23・24は諸磯b式の茶屋類型に細分される深鉢で、覆土中から出土した。第26図36は諸磯a式の附加条縄文を施文した深鉢で、床面から12～17cmの覆土中から出土した。第26図34は浮島式の深鉢で、床面直上から出土した。第26図37は蜷ヶ森式で床面直上から出土した。第26図38～44は黒浜式で覆土中から出土した。

石器については、剥片系石器399点、礫石器4点が出土した。剥片系石器では剥片を主体に、石鏃、石匙、石鏃、石核、打製石斧、磨製石斧などが出土した。礫石器では磨石、凹石が出土した。

7号住居出土遺物については、8号住居と15号住居の重複が著しかったため、本来は8号住居・15号住居に帰属するはずの土器が7号住居として取り上げられている可能性が高い。反対に、本来は7号住居に帰属するはずの土器が8号住居・15号住居として取り上げられている可能性もある。

**時期** 7号住居出土土器は、諸磯b式を主体としていたものの黒浜式も多かった。また、各型式土器の出土状態を見ると、床面直上では諸磯b式、浮島式、蜷ヶ森式が出土し、このうち諸磯b式が最も多い。また、覆土中ではこの他に黒浜式、諸磯a式も出土していた。

この出土状態だけを見れば、7号住居の時期は諸磯b式期の可能性があると判断できる。しかしながら、7号住居・8号住居・15号住居の重複範囲については、遺物が混在しているため判断は容易ではない。しかし、次の点を根拠として、黒浜式期あるいは諸磯a式期の可能性が高いと判断した。

①：7号住居出土とされた諸磯b式は、15号住居との切り合い関係や15号住居床面の位置から考えて、本来は15号住居に帰属する可能性が高い。とりわけ、第24図1・2・3をはじめとする諸磯b式は7号住居覆土中出土として取り上げられたが、本来は15号住居床面直上の可能性が高いこと。

②：新旧関係は8号住居・15号住居よりも古いと認識されて調査されたこと。

③：住居平面形状は隅丸長方形を呈している可能性が高いこと。

④：出土土器には諸磯a式も比較的多いため、諸磯a式の可能性もあること。

以上の①～④の点を考慮して、7号住居の時期は黒浜式期もしくは諸磯a式期と判断した。

**重複** 8号住居、15号住居と重複。新旧関係は7号住居→8号住居→15号住居として調査された。7号住居の時期を諸磯a式とした場合、調査時点で認識された8号住居（黒浜式と判断）との新旧関係は逆転することになるため、調査時の切り合い関係は誤認の可能性もある。

#### 8号住居（第18～20・28～31図、PL.7・42）

**位置** A区4-A・B-3・4

**形状** 隅丸長方形

**規模** 長軸5.5m、短軸3.7m

**床面** 8号住居は住居全体が7号住居、15号住居と重複。新旧関係は7号住居→8号住居→15号住居である。

8号住居床面の標高は概ね129.7mで、7号住居床面（標高129.8m）を切って構築されている。なお、15号住居床面は8号住居を切って8号住居覆土内の標高130.0mの位置に構築されている。

重複する8号住居、7号住居、15号住居の床面標高を比較すると、8号住居床面が最も低い位置に構築されており、15号住居の床面の下から検出されている。

**周溝** 検出されなかった。

**炉** 検出されなかった。

**柱穴** 調査時点ではビット1からビット5までの5基を8号住に伴うものとした。ビットは南半部に偏っており、ビットをすべて調査しきれしていない可能性もある。また、7号住と重複しているため、7号住居帰属のビットとの区別ができない。

**遺物** 8号住居出土として回収された土器は計209点である。型式別では、黒浜式103点、諸磯a式2点、諸磯b式89点、不明及びその他15点である。黒浜式が最も多い。図化資料は破片が主で、器形全体が復元できるような接合も確認できなかった。

第30図1～8は諸磯b式である。7は諸磯b式の茶屋類型に細分可能な土器で、床面直上から出土した。第30図9・10は諸磯a式である。第30図11～18は黒浜式である。

石器については、剥片系石器80点、礫石器9点が8号

住居出土として回収された。剥片系石器は剥片を主体とし、他に石鏃、加工痕ある剥片、石核、打製石斧などが出土した。礫石器は磨石、敲石、凹石、多孔石が出土した。

8号住居出土遺物については、7号住居や15号住居との重複が著しかったため、7号住居で説明したように各住居への帰属が混乱している。本来は7号住居・15号住居に帰属するはずの土器が8号住居出土の中に混在し、反対に本来は8号住居に帰属するはずの土器が7号住居や15号住居出土の中に混在している可能性がある。特に、8号住居出土とされた諸磯b式は15号住居との切り合い関係や15号住居床面の位置から考えて、15号住居に帰属する可能性が高い。

**時期** 出土土器は黒浜式、諸磯a式、諸磯b式である。いずれの型式の土器もほとんどが床面から浮いた覆土中からの出土で、床面直上と判断した土器は第30図7（諸磯b式茶屋類型）のみであった。また、時期決定の有効な要素となる埋裏炉や体土器も検出されなかった。このため、8号住居では時期決定が可能な土器はとも少ない。

出土土器を見れば、黒浜式期・諸磯a式期・諸磯b式期のいずれかの時期になることは確定であるが、次の点を根拠にして8号住居の時期は黒浜式期と判断した。

①：8号住居出土土器は、黒浜式、諸磯a式、諸磯b式で、このうち黒浜式が最も多いこと。諸磯b式も多いが、8号住居出土の諸磯b式は、本来は15号住居に帰属する可能性が高いこと。

②：調査所見によれば、8号住居は15号住居よりも古いと認識され調査されたこと。

③：住居平面形状は隅丸長方形を呈していること。

以上の①～③を考慮して、8号住居の時期は黒浜式期と判断した。

**重複** 7号住居、15号住居と重複。新旧は7号住居→8号住居→15号住居。

#### 9号住居（第31・32図、PL.8・42）

**位置** A区4-H・I-13・14

**形状** 形状については、全体的に検出状態が悪いため不明な点が多い。検出できたビットの配置から円形と推定。

**規模** 長径5.7m（推定）

**床面** 平坦な床面。確認面からの深さは最大で30cm、西半部では10cm以下。

**周溝** 検出できなかった。

**炉** 床面中央部の北寄りで焼土が分布し、硬化面が残存する浅い掘り込み（深さ10cm程度）を検出した。地床炉と考えられる。灰石や灰体土器は伴わない。北側と北西側に灰が分布する範囲を2基検出した。

**柱穴** ビット1～ビット9までの9基を検出した。ビットは床面西半部で検出され、東半部では検出できなかった。また、ビット2・4・6・9は掘り込みが浅く断面形も不定形であり、人為的なビットとして扱うには注意を要する。

**遺物** 土器については、計5点を出土したのみである。すべて諸磯b式である。いずれも小破片のため未図化。石器については、打製石斧1点、石核2点が出土した。礫石器は確認できなかった。

**時期** 出土土器が計5点でとても少なくとも小破片のため、明確な時期決定は困難である。しかし、出土土器がすべて諸磯b式であったことから、9号住居の時期は諸磯b式期の可能性があると判断した。

**重複** 41号土坑、36号土坑。36号土坑よりも古いと判断して調査された。

#### 10号住居（第33～42図、PL. 9・42～46）

**位置** A区4-A・B-11・12

**形状** 隅丸長方形

**規模** 長軸4.3m、短軸3.7m

**床面** 覆土6層上面を床面とした。確認面から床面までの深さは約50cmである。なお、6層は硬質で掘り方覆土（黒褐色土）として調査されたが、10号住居以外に掘り方を持つ縄文時代住居はなく、覆土の誤認であろう。

**周溝** 検出されなかった。

**炉** 床面南半部、ビット2とビット3の中間部で地床炉を1基検出。棒状の灰石を1点伴う。上面には土器片が多数分布していた。

**柱穴** ビット1～ビット4までの4基を検出。

**遺物** 小型の住居であったが、覆土中から大量の土器・石器が出土した。

土器については、計911点が出土した。型式別に見ると、黒浜式18点、諸磯a式20点、諸磯b式808点、浮島式20点、蛭ヶ森式4点、不明41点である。諸磯b式を主体としている。

第35図1～5のように良好な状態に復元された深鉢が大量に出土した。第35図1は諸磯b式の深鉢で、床面直上と床面上11cmから出土した。第35図2は諸磯b式の深鉢で、多数の破片が接合した。これらは床面上6cm～39cmの範囲の覆土中から出土した。第35図3は諸磯b式の深鉢で、多数の破片が接合した。これらは床面上18cm～30cmの範囲の覆土中から出土した。

第36図9は波状口縁を持つ深鉢の波頂部破片で、イノシシを模した獣面把手である。床面上7cm～20cmの範囲の覆土中から出土した。

第39図47～49は諸磯b式の深鉢口縁部破片及び胴部破片で、茶屋類型に細分される。47は床面上10cmの覆土中から出土した。48と49は床面上13cm～29cmの範囲の覆土中から出土した。

第40図60～第41図72は浮島式の深鉢の破片である。66は床面直上の出土、68～72は床面上9cm～23cmの範囲の覆土中からの出土である。この他は覆土中の出土である。第41図74～76は蛭ヶ森式の深鉢の口縁部破片及び胴部破片で、床面上17cm～25cmの範囲の覆土中から出土した。

第41図77は黒浜式の深鉢の胴部破片で、覆土中から出土した。第41図78は前期後葉に属する鉢の口縁部破片で、床面上6cmの覆土中から出土した。

石器については、剥片系石器304点、礫石器5点が出土した。剥片系石器では剥片を主体とし、他に石鏃、石錐、打製石斧、削器、石核などが出土した。礫石器では磨石、凹石、敲石、多孔石が出土した。

**時期** 出土土器の大部分は諸磯b式である。床面直上ならびに地床が直上からは諸磯b式が出土している。

このことから、10号住居の時期は諸磯b式期と考えられる。

**重複** 90号土坑、113号土坑と重複。新旧関係は不明。

#### 11号住居（第43図、PL.10・46）

**位置** A区3-S-8

**形状** 不整形円形。

**規模** 長軸3.1m、短軸3.0m

**床面** 床面の大部分が40号土坑に切られるため判然としないが、残存部から復元するとほぼ平坦と推測される。確認面から床面までの深さは約30cm。



11号住居埋喪炉の検出状況



13号住居炉1（左）・埋喪炉（右）の検出状況

**周溝** 検出できなかった

**炉** 埋喪炉を1基検出。位置は床面北半部中央。長軸25cm、深さ25cm程度の掘り込みに炉体土器（第43図1：諸磯b式）を埋設。埋喪炉の上部に40号土坑が重複していたが、炉体土器はかろうじて破壊を免れていた。

**柱穴** ビットを2基検出できたにとどまった。

**遺物** 土器については27点が出土した。すべて諸磯b式であった。埋喪炉が炉体土器（第43図1）は諸磯b式で、縄文施文の深鉢である。口縁部から底部まで良好な状態で残存していた。

石器については、割片系石器が計8点（石匙、加工痕ある割片、割片）出土したのみで出土量はとてま少なかつた。礫石器の出土は確認できなかった。

**時期** 炉体土器は諸磯b式であった。また、出土土器もすべて諸磯b式であった。このことから、11号住居の時期は諸磯b式期と考えられる。

**重複** 床面中央部に40号土坑が重複。

**13号住居**（第44～48図、PL.11・46）

**位置** A区4-D・E-12・13

**形状** 隅丸方形

**規模** 長軸4.4m、短軸4.0m

**床面** 平坦。確認面からの深さ約60cm。

**周溝** 検出できなかった。

**炉** 床面北半部で、埋喪炉1基、地床炉2基（炉1・炉2）を検出した。

埋喪炉は床面北寄りの中央部で検出され、炉1の南側に隣接。長軸約30cm、深さ30cmの掘り込みを持ち、その中央部に炉体土器（第47図1：諸磯b式）を埋設。炉体土器の上端部は床面と同一レベルで検出された。

炉1は、板状の炉石と扁平な炉石の2点が1対になって検出された。板状の炉石は垂直状態で西側の炉壁に立てられ、扁平な炉石は板状の炉石に対向した東側に据え

付けられていた。

炉2は、埋喪炉の南西約40cmの位置で検出された。焼土が約30cmの範囲に分布していた。

**柱穴** ビット1～ビット13までの計13基を検出した。このうち、ビット4・9・13のように掘り込みの浅いものは、人為的に掘削されたビットかどうか注意を要する。

**遺物** 土器については、計120点が出土した。型式別では、黒浜式69点、諸磯a式2点、諸磯b式45点、浮島・興津式2点、蛭ヶ森式1点、加曾利E式1点であった。出土土器は黒浜式が諸磯b式よりも多かった。

第47図1は、埋喪炉が炉体土器で、諸磯b式の縄文施文した深鉢である。第47図2は、黒浜式の深鉢で、複数の胴部破片が接合したが、そのうち3点は床面直上から出土し、1点は床面上17cmから出土した。第47図3は、幾何学モチーフ・円孔を施した諸磯b式の浅鉢で、床面上40cmの覆土中から出土した。第47図4～6は、諸磯b式の深鉢口縁部破片で、覆土中から出土した。第47図7・8は、諸磯b式の深鉢胴部破片で、覆土中から出土した。第47図9は、蛭ヶ森式の深鉢口縁部破片で、覆土中から出土した。第47図10は、諸磯b式の深鉢胴部破片で、床面上45cmの覆土中から出土した。第47図11～13は黒浜式の深鉢胴部破片で、11は床面上17cm、12は床面上52cmの覆土中から出土した。また、13は覆土中から出土した。

石器については、割片系石器68点、礫石器5点が出土した。割片系石器では割片を主体とし、他に石鎌、打製石斧、削器、加工痕ある割片が出土した。礫石器では凹石、磨石が出土した。

**時期** 出土土器は諸磯b式よりも黒浜式が多く、床面直上からも黒浜式（第47図2）が出土。しかし、埋喪炉が炉体土器は諸磯b式（第47図1）であった。

埋喪炉が炉体土器が諸磯b式であることから、13号住居の時期は、諸磯b式期と判断した。

**重複** 65号土坑。新旧関係は不明。



**14号住居** (第18～20・49～54図、PL.12・47・48)

**位置** A区3・4-T・A-4・5

**形状** 不整五角形と推定される。住居西壁が15号住居と重複しているため、正確な住居の平面形状は不明。

**規模** 長軸5.3m、短軸4.7m (推定)

**床面** 平坦。確認面からの深さ約50cm。

**周溝** 検出できなかった。

**炉** 床面中央部で炉石を伴う地床炉を1基検出。規模は長径60cm、短径50cm。

**柱穴** ビット1～ビット6の6基を検出。

**遺物** 土器については計528点が出土した。型式別に見ると、黒浜式121点、諸磯a式6点、諸磯b式392点、浮島・興津式9点で、諸磯b式が最も多かった。

第52図1は波状口縁を持つ諸磯b式の深鉢で、2点は床面から7cm～14cmの覆土中から出土した。第52図2は縄文施文した波状口縁を持つ諸磯b式の深鉢で、1点は床面直上から出土し、他は床面から18cm～47cmの覆土中から出土した。第52図3はキャリバー状の器形を呈する諸磯b式の深鉢で、床面上6cm～30cmの覆土中から出土した。第52図8は諸磯b式の深鉢胴部破片で、1点は床面直上から、他は床面上6cm～44cmの覆土中から出土した。第53図19は諸磯b式の深鉢底部破片で、床面直上から出土した。第53図22は諸磯b式の浅鉢胴部破片で、覆土中から出土した。第53図23は諸磯a式の深鉢胴部破片で、床面上12cmの覆土中から出土した。第53図24は黒浜式の深鉢胴部破片で、床面上5cmの覆土中から出土した。

石器については、剥片系石器215点、礫石器11点が出土した。剥片系石器は剥片を主体に、他に石鏃、石錐、削器、加工痕ある剥片、石核、打製石斧などが出土した。礫石器は磨石、敲石、凹石、多孔石、砥石が出土した。

球状耳飾りが1点出土した(第53図26)。石材は緑泥石質滑石である。球状耳飾りは15号住居からも1点(滑石製)出土しており、14号住居との関連が注意される。

**時期** 14号住居では床面直上から諸磯b式が出土した。調査で14号住居は15号住居と重複し15号住居よりも新しいと判断された。15号住居は諸磯b式の可能性が高いと判断した。

このことから、14号住居の時期は諸磯b式期と考えられる。

**重複** 西側に15号住居、北側に82A号土坑・82B号土坑が重複。新旧関係は15号住居→14号住居→82B号土坑→82A号土坑として調査された。

**15号住居** (第18～20・55～58図、PL.13・48・49)

**位置** A区4-A・B-4・5

**形状** 隅丸長方形(推定)

**規模** 長軸6.8m、短軸5.6m

**床面** 7号住居・8号住居の覆土中に構築される。調査では15号住居床面を掘り抜いて8号住居床面まで到達してしまっている。床面の位置はセクション図から復元した。床面全体はおそらく平坦であったものと推測される。確認面からの深さ約60cm。

**周溝** 住居北辺部で1条、住居東辺部から南辺部で2条構築されている。7号住居及び8号住居との重複部分では、床面の識別が難しかったため周溝を検出できなかったが、住居壁際に全周していた可能性が推測される。

**炉** 検出できなかった。

**柱穴** ビット1～ビット4の4基が15号住居に伴うものとして検出された。ただし、7号住居・8号住居と重複するため、厳密にこれらの住居帰属のビットとは区別できない。

**遺物** 調査時点で15号住居出土土器として回収されたのは計114点である。型式別では黒浜式82点、諸磯b式32点で、黒浜式を主体としている。

第57図1～5は諸磯b式の深鉢破片である。第57図6～12は黒浜式の深鉢破片である。

7号住居と8号住居の重複範囲を除き、15号住居の床面直上から出土した土器は、第57図1の諸磯b式の深鉢小破片だけである。ただし、これについても14号住居との重複部分から出土しているため、14号住居に帰属する可能性も捨てきれない。また、床面北西コーナー部分の覆土中からは第57図4(諸磯b式)、第57図6・8・9・10(いずれも黒浜式)が出土している。これらの出土範囲は7号住居・8号住居との平面的な重複がない。

石器については、剥片系石器90点、礫石器17点が15号住居出土として回収された。剥片系石器は剥片を主体とし、他に石鏃、石匙、石錐、石槍、削器、加工痕ある剥片、石核、打製石斧などが出土した。礫石器は磨石、敲石、凹石、多孔石が出土した。

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

15号住居出土遺物については、7号住居と8号住居で記載したように、本来15号住居に帰属するはずの土器が7号住居や8号住居出土遺物の中に混在している可能性もある。反対に、本来は7号住居・8号住居に帰属するはずの土器が15号住居出土遺物の中に混在している可能性もある。

15号住居は、切り合い関係が7号住居・8号住居よりも新しいと認識されて調査されているから、本来であれば15号住居との平面重複範囲内で15号住居床面よりも上層からの出土遺物は、15号住居出土遺物として回収されなければならない。しかし、先述したように15号住居は当初7号住居として調査され、また15号住居床面の大部分は調査では検出されていないため、本来は15号住居出土遺物が7号住居出土遺物のなかに多数混在している可能性が高い。

該当する遺物を精査して本来の帰属住居へと修正すべきであるが、とりわけ覆土一括で取り上げられた遺物については本来の帰属住居に戻していくことは不可能である。このため、7号住居・8号住居・15号住居の遺物出土状況図には一部に矛盾点もあるものの、調査時点での記録図面及び調査所見をもとに図化した。

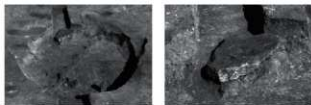
**時期** 調査時点で15号住居出土として取り上げられた土器は計114点のみである。しかし、これは本来15号住居帰属遺物が7号住居として取り上げられてしまったためである。

114点を型式別に見ると、黒浜式82点、諸磯b式32点である。諸磯b式よりも黒浜式が多いが、いずれの型式の土器もほとんどが覆土出土とされたものである。床面北西部コーナー出土の黒浜式も覆土中からの出土である。したがって、15号住居帰属が判明している土器の中には、時期決定ができる土器はとて少ない。

7号住居において記載したが、7号住居出土とされた諸磯b式の土器群については、本来は15号住居床面直上のものの可能性がある。また、調査所見では15号住居は7号住居・8号住居よりも新しく14号住居よりも古いと判断されて調査されている。

以上のことから、15号住居の時期は諸磯b式期の可能性が高いといえる。

**重複** 西辺部に7号住居、床面中央部に8号住居が重複。東側に14号住居が重複。北側に174号土坑が重複。新旧



16号住居と大型鉢の検出状況

関係は7号住→8号住居→15号住居→14号住居→174号土坑として調査された。

#### 16号住居 (第59図、PL.14・49)

**位置** A区4-C・D-10

**形状** 不整形円形

**規模** 長径2.7m

**床面** 平坦。確認面からの深さ約30cm。

**周溝** 検出できなかった。

**炉** 床面中央部で地床炉を1基検出。

**柱穴** ビットを1基検出したのみである。

**遺物** 16号住居の出土遺物はとて少なかった。土器については、わずか6点が出土したのみであった。型式別に見ると、諸磯b式3点、浮島式1点、加曾利E3式2点であった。

第59図1は加曾利E3式の深鉢口縁部から胴部破片で床面直上から出土した。第59図2は浮島式の深鉢胴部破片で床面上25cmの覆土中から出土した。

石器については、割片系石器(加工痕ある割片)が1点出土したのみであった。他に礫が4点出土した。また、住居東壁際で大型の板状礫が検出された。

**時期** 床面付近から加曾利E3式土器が出土した。また、調査所見によれば、縄文時代前期の遺構覆土との違いから前期ではないと判断され調査された。

このことから、16号住居の時期は加曾利E3式期と考えられる。今回の調査範囲から検出された唯一の縄文時代中期の竪穴住居である。

**重複** なし。

#### 18号住居 (第60～64図、PL.15・49・50)

**位置** B区93-N・O-8・9。台地南東端部の傾斜地に位置する。

**形状** 隅丸長方形

**規模** 長軸4.9m、4.0m

**床面** 平坦。確認面からの深さ約50cm。

**周溝** 検出されなかった。

**炉** 床面中央部で地床炉を1基検出。形状は円形で、長径は約30cm、深さは10cm程度と浅い。

**柱穴** ビット1～ビット8までの8基を検出。

**遺物** 土器については計311点を出土した。型式別に見ると、黒浜式11点、諸磯a式14点、諸磯b式214点、興津式2点、不明70点で、諸磯b式が最も多かった。

第63図1は、諸磯b式の深鉢胴部破片で、床面上34cmの覆土中から出土した。第63図4は、諸磯b式の深鉢胴部破片で、覆土中から出土した。この土器は18号住居、25号住居、197号土坑、207号土坑からの出土土器と接合した。第63図7は諸磯b式の深鉢口縁部破片で、床面上10cmの覆土中から出土した。

第63図8・9・10は、諸磯b式の深鉢口縁部及び胴部破片で、茶屋類型に分類される。すべて覆土中から出土した。第64図11は、諸磯b式の深鉢胴部破片で床面直上から出土した。第64図16は、諸磯b式の鉢で床面上17cm～24cmの覆土中から出土した。第64図17は、諸磯c式の深鉢の底部で、床面上28cm～31cmの覆土中から出土した。第64図19は、興津式の深鉢胴部破片で、床面上27cm～33cmの覆土中から出土した。

石器については、銅片系石器124点、礫石器2点が出土した。銅片系石器は銅片を主体とし、他に石鏃、楔形石器、削器、加工痕ある銅片、磨製石斧が出土した。礫石器は敲石と凹石が各1点のみであった。

**時期** 18号住居出土土器は諸磯b式を主体とし、諸磯b式は床面直上及び覆土中から出土した。諸磯c式と興津式は覆土中から出土した。

このことから、18号住居の時期は諸磯b式期と考えられる。

**重複** 34号土坑、143号土坑。新旧関係は143号土坑→18号住居。34号土坑との関係は不明。

**19号住居** (第65～69図、PL.16・17・50・51)

**位置** B区93-N・O-13・14。台地南東端部の傾斜地に位置する。

**形状** 隅丸不整四角形。東辺の長さが他よりも短いため、不整四角形を呈する。

**規模** 長軸5.8m、短軸4.0m

**床面** 平坦。確認面からの深さは、西側では深く約80cm、東側では浅く約20cm。

**周溝** 検出されなかった。

**炉** 床面中央部で地床炉を1基検出。規模は長軸60cm、短軸50cm程度、深さは10cm程度と浅い。東側に大型の板状礫を炉石に据え付けていた。

**柱穴** ビット1～ビット4の4基を検出。ビット1は2基連結するが、南側のビットは浅い。

**遺物** 土器については計386点が出土した。型式別に見ると、黒浜式5点、諸磯b式321点、諸磯c式16点、浮島式5点、不明39点で、諸磯b式が最も多かった。

19号住居では、第68図23・24のように良好な状態に復元された諸磯c式の深鉢が出土している。

第67図1は、内折口縁を持つ諸磯b式の深鉢口縁部破片で、床面直上から出土した。第67図2は、口縁部に環状突起を持つ諸磯b式の深鉢口縁部破片で、床面直上から出土した。第67図4は、諸磯b式の深鉢胴部破片で、床面上5cm～25cmの覆土中から出土した。第67図6は、波状口縁を持つ諸磯b式の深鉢口縁部破片で、床面直上から出土した。第67図12は、諸磯b式の茶屋類型に分類される深鉢口縁部破片で、床面直上0cm～7cmの範囲から出土した。

第68図23は、集合沈線を施した諸磯c式の深鉢口縁部から胴部破片で、床面上4cm～25cmの覆土中から出土した。第68図24は、口縁部及び胴部に貼付文を施した諸磯c式の深鉢口縁部から胴部破片で、床面上7cm～68cmの覆土中から出土した。

石器については、銅片系石器196点、礫石器6点が出土した。銅片系石器は銅片を主体とし、他に石鏃、石匙、打製石斧、磨製石斧、削器、使用痕ある銅片、加工痕ある銅片、石核などが出土した。石核には、縁辺部に敲打痕を持ち敲石に転用したものが2点確認された。2点とも黒色安山岩製である。礫石器は敲石、磨石、台石が出土した。

**時期** 19号住居出土土器は、諸磯b式については床面直上と覆土中から出土した。諸磯c式(第68図23・24)については床面直上から出土した破片が1点あるが、ほかには床面上7cm～68cmの覆土中からの出土である。

このような出土状態から、19号住居の時期は諸磯b式

期と判断した。

**重複** 住居内に158号土坑、159号土坑、185号土坑の3基が重複。住居壁際に152号土坑、153号土坑、156号土坑の3基が重複。住居内の3基は床面下から検出されたもので、19号住居よりも古いと判断して調査された。住居壁際の3基との新旧関係は不明。

**20号住居** (第71・72図、PL18・51・52)

**位置** B区93-O-14・15。台地南東端部の傾斜地に位置する。

**形状** 隅丸方形

**規模** 長軸4.0m、短軸3.9m

**床面** 平坦。確認面からの深さ、西側で約40cm、東側は傾斜地のため約10cmと浅い。

**周溝** 検出されなかった。

**炉** 床面中央部で地床がを1基検出。形状は楕円形で、規模は長軸90cm・短軸60cm、深さは最大で5cm程度。炉石を2点据え付け、中央部には焼土が分布していた。またピット2の北側に焼土分布(長径約35cm)を1基検出した。

**柱穴** ピット1～ピット4までの4基を検出。

**遺物** 土器については46点が出土した。型式別に見ると、黒浜式6点、諸磯b式40点で、諸磯b式を主体とする。

第71図1は、諸磯b式の深鉢底部破片で、床面上17cmの覆土中から出土した。第71図2は、諸磯b式の深鉢胴部破片で、床面上19cm～25cmの覆土中から出土した。第71図3は、諸磯b式の深鉢胴部破片で、床面上21cmの覆土中から出土した。

石器については、剥片系石器92点、礫石器9点が出土した。剥片系石器は剥片を主体とし、他に石鏃、石錐、打製石斧、加工痕ある剥片などが出土した。礫石器は、石皿、凹石、敲石、多孔石、磨石が出土した。

**時期** 床面直上からの出土であることが明確な諸磯b式は確認できなかったものの、出土土器の大部分が諸磯b式であった。

このことから、20号住居の時期は諸磯b式期と考えられる。

**重複** 住居壁際に136号土坑・137号土坑、住居内に138号土坑が重複する。新旧関係については136号土坑→20号住居と判断して調査されたが、137号土坑、138号土と

の新旧関係は不明。

**23号住居** (第73～81図、PL19・20・52～55)

**位置** A区4-D-E-1・2

**形状** 住居の西端部が調査区外のため詳細な形状は不明である。ただし、調査範囲から北辺部が緩やかな弧状曲線となる不整四角形と想定される。

**規模** 南北の長さ8.2m。東西の長さは調査区外のため詳細不明であるが、南北の長さと同程度と推測される。

**床面** ほぼ平坦。確認面からの深さ約110cm、現地表面からの深さ210cm。

**周溝** 検出されなかった。

**炉** 地床がを1基検出した。床面東側に位置し、形状は楕円形、規模は長径120cm・短径95cmである。

**柱穴** ピット1～ピット15までの15基を検出した。ただし、ピット5やピット9、ピット12、ピット14のように掘り込みが浅いものは人為的なピットの可能性は低い。

**遺物** 土器については計1,179点が出土した。型式別では黒浜式115点、諸磯a式26点、諸磯b式676点、諸磯c式14点、浮島式5点、その他2点、不明341点であった。23号住居では諸磯b式を主体としているものの、黒浜式もまとまって出土した。

第76図1は、波状口縁を持つ諸磯b式の深鉢口縁部から胴部破片で、床面上8cm～38cmの覆土中から出土した。第76図2は、緩やかな波状口縁を持つ諸磯b式の深鉢口縁部から胴部破片で、床面直上から床面上17cmの範囲の覆土中から出土した。

第76図3は、口唇部に刻みを持つ浮島式の深鉢口縁部から胴部破片である。14点が接合し、床面直上から床面上26cmの範囲の覆土中から出土した。床面直上は1点のみで他は覆土中からの出土であった。

第76図4は、諸磯b式の深鉢で、床面上27cmから33cmの範囲の覆土中から出土した。

第76図5は、諸磯c式の深鉢で、床面直上と床面上9cm～15cmの覆土中から出土した。

第77図6は、諸磯b式の深鉢口縁部破片で床面上10cm～39cmの覆土中から出土した。第77図7は、諸磯b式の深鉢口縁部破片で床面上46cm～52cmの覆土中から出土した。第78図29は、諸磯b式の深鉢口縁部破片で、床面直上から出土した。第78図30は、諸磯b式の深鉢口縁

部破片で、床面上6cmの覆土中から出土した。第78図31は、諸磯b式の深鉢口縁部破片で、床面直上と床面上7cm～21cmの覆土中から出土した。第78図35は、諸磯b式の深鉢胴部で、床面直上と床面上9cm～11cmの覆土中から出土した。

第79図40は、諸磯b式の深鉢胴部から底部破片で、床面直上から出土した。第79図38は、諸磯b式の深鉢胴部破片で、床面上6cm～38cmの覆土中から出土した。

第80図47～50は黒浜式の深鉢胴部破片で、49は床面上14cmから出土、50は床面直上から出土、ほかは覆土中から出土した。第80図51は、黒浜式の深鉢底部破片で、覆土中から出土した。

土器の出土レベルを床面直上から床面上10cmまでの範囲で設定した場合、計57点が計測して取り上げられ、このうち諸磯b式49点、諸磯c式3点、浮島式5点であった。23号住居では、床面直上ないしその付近から諸磯b式、諸磯c式、浮島式が出土していることになるが、このうち最も出土量が多いのが諸磯b式である。

石器については、割片系石器209点、礫石器11点が出土した。割片系石器は、大部分が割片で182点出土した。他に石鏃、石錐、打製石斧、磨製石斧、削器、加工痕ある割片などが出土した。割片では、チャート製割片が58点出土し、黒色頁岩製(50点)、黒色安山岩製(52点)よりも多かった。

上泉唐ノ堀遺跡では、チャートは主に石鏃の原料に利用されていることが判明した(第8章参照)。このことから、23号住居出土のチャート製割片は、石鏃製作のために準備された素材割片、あるいは石鏃製作時に石屑として生じた調整割片の可能性が高い。23号住居出土の石鏃3点のうち2点はチャート製の石鏃未成品であることから、23号住居ではチャートを利用した石鏃製作が行われたことが推測される。

礫石器については、敲石、石皿、凹石、磨石、多孔石、台石が出土している。

**時期** 床面付近から諸磯b式、諸磯c式、浮島式が出土しているが、このうち諸磯b式が最も多い。

このことから、23号住居の時期は諸磯b式期と考えられる。

**重複** 住居北東コーナーに165号土坑が重複。



25号住居埋裏炉(左:炉2、右:炉3)断面検出状況

## 25号住居(第82～89図、PL21・22・55～57)

**位置** B区93-P・Q-8・9。台地南東端部の傾斜地に位置する。

**形状** 隅丸長方形

**規模** 長軸6.6m、短軸4.5m

**床面** 平坦。確認面からの深さ、西側及び北側で約70cm、東側及び南側は傾斜地のため30cmと浅くなる。

**周溝** 検出されなかった。

**炉** 地床炉1基(炉1)、埋裏炉2基(炉2・炉3)が検出された。

炉1は、地床炉で楕円形を呈し長径約40cm、深さ20cmの規模を持つ。床面中央部のやや北東寄りに位置する。

炉2・炉3は、埋裏炉で床面中央部のやや南寄りに位置し、東西に2基連結した状態で検出された。炉2と炉3の炉体土器の間隔は15cmであった。また、炉2の掘り込みは炉3よりも大きく、また西側に連結していた。

炉2は、径40cm・深さ30cmの掘り込みを持つ埋裏炉で、その中央部に炉体土器(第85図1:諸磯b式深鉢)を埋設していた。炉体土器の上端部は床面よりも約10cm下部で検出された。

炉3は、径25cm・深さ10cmの掘り込みを持つ埋裏炉で、その中央部に炉体土器(第85図2:諸磯b式深鉢)を埋設していた。炉体土器の上端部は床面と同一レベルで検出された。

炉2の炉体土器上端部は床面よりも下部で検出され、炉3の炉体土器上端部は床面同一レベルから検出された。このことから、炉2と炉3の廃絶には時間差(炉2:旧、炉3:新)があり、炉3が機能していた時点ですすでに炉2は廃絶され埋没していた可能性も考えられる。

**柱穴** ビット1からビット4の4基を検出した。

**遺物** 土器については514点が出土した。型式別に見ると、黒浜式17点、諸磯a式3点、諸磯b式393点、浮島式11点、不明90点で、諸磯b式が最も多かった。

第85図1は、炉2の炉体土器で、諸磯b式の深鉢胴部

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

である。第85図2は、炉3の炉体土器で、諸磯b式の深鉢胴部である。第85図3は、縄文施文した諸磯b式の深鉢胴部から底部破片で、床面直上と床面上6cm・14cmの覆土中から出土した。第85図4は諸磯b式の鉢で、算盤状の胴部を持ち口縁部下に円孔を施す。床面上22cmの覆土から出土した。第85図5は、緩やかな波状口縁を持つ深鉢の口縁部破片で覆土中から出土した。第85図6は、波状口縁を持つ諸磯b式の深鉢口縁部破片で、床面上6cmの覆土中から出土した。第85図13は、諸磯b式の深鉢胴部破片で床面直上から出土した。第86図22は、波状口縁を持つ諸磯b式の深鉢口縁部破片で、床面上6cm～8cmの覆土中から出土した。第86図23は、諸磯b式のミニチュア土器で、覆土中から出土した。第87図35は、諸磯b式の浅鉢口縁部破片で、床面上6cm～52cmの覆土中から出土した。

第87図45は、浮島式の深鉢胴部破片で、床面直上と床面上11cm～34cmの覆土中から出土した。第87図46は、浮島式の深鉢胴部破片で、床面上14cm～18cmの覆土中から出土した。

石器については、剥片系石器335点、礫石器12点が出土した。剥片系石器は剥片が296点で、他に石錐、石匙、打製石斧、磨製石斧、削器、石核、加工痕ある剥片などが出土した。剥片は黒色頁岩製143点、黒色安山岩製131点であった。礫石器は磨石、敲石、凹石、多孔石、砥石が出土した。砥石が3点まとまって出土した。

また、珧状耳飾りが1点出土した(第89図19)。右平部欠損。石材は粗粒石質頁岩。

**時期** 炉2・炉3の炉体土器はいずれも諸磯b式である。また、床面直上からも諸磯b式が多数出土している。

このことから、25号住居の時期は諸磯b式期と考えられる。

**重複** 181号土坑、182号土坑、186号土坑と重複。新旧関係は不明。

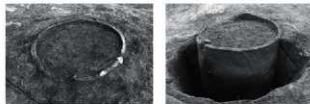
#### 31号住居 (第90～92図、PL.23・57・58)

**位置** B区93-Q・R-7・8。台地南東端部の傾斜地に位置する。

**形状** 隅丸方形

**規模** 南北4.4m、東西4.5m

**床面** ほぼ平坦であるが、中央部に6層が堆積する浅い



31号住居埋喪炉の検出状況

掘り込みが検出された。

**周溝** 検出されなかった。

**炉** 埋喪炉が1基検出された。床面中央部北寄りでピット1とピット2の中間部に位置する。埋喪炉は径30cm、深さ20cmの掘り込みを持ち、その中央部に炉体土器(第92図1:諸磯a式)を埋設していた。炉体土器の上端部は床面からやや突き出した状態で検出された。

**柱穴** ピット1～ピット4の4基を検出した。

**遺物** 土器については計106点が出土した。型式別に見ると黒浜式3点、諸磯a式94点、諸磯b式9点で、諸磯a式が最も多かった。

第92図1は、諸磯a式の深鉢胴部で、埋喪炉炉体土器である。第92図2は、諸磯a式の深鉢胴部から底部で、床面直上から床面上27cmの範囲の覆土中から出土した。第92図3は、前期後葉のミニチュア土器で、覆土中から出土した。第92図4は、諸磯b式の深鉢口縁部破片で、覆土中から出土した。第92図8は、諸磯a式の深鉢底部破片で、床面直上から出土した。第92図9は、諸磯a式の深鉢胴部破片で、床面直上と床面上22cmの覆土中から出土した。

石器については、剥片系石器68点、礫石器2点が出土した。剥片系石器は剥片を主体に、他に石錐、削器、打製石斧、磨製石斧、石核などが出土した。礫石器は凹石と台石が1点ずつ出土した。

**時期** 埋喪炉炉体土器(第92図1)は諸磯a式である。また、床面直上から諸磯a式が出土していた。諸磯b式は覆土中からの出土であった。

このことから、31号住居の時期は諸磯a式期と考えられる。今回の調査範囲から検出された唯一確実な諸磯a式期の竅穴住居である。

**重複** 住居西辺部に17号住居(奈良時代)、住居中央部に168号土坑、住居東辺部に170号土坑が重複。17号住居を除く新旧関係については、31号住居→168号土坑、170号土坑との関係は不明。

第4表 住居別石器組成(剥片系石器)

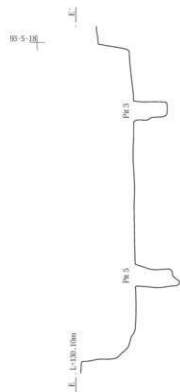
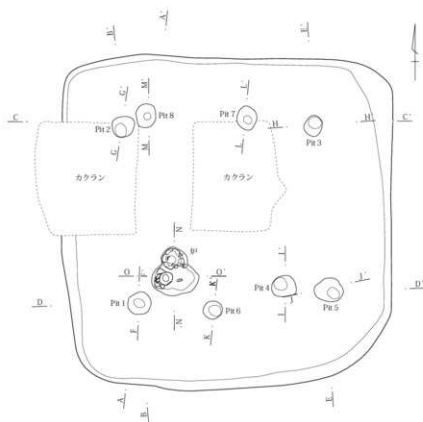
No	住居No	石鏃	石匙	石鏃	石鏃	楔形石鏃	削器	加工痕 ある剥片	使用痕 ある剥片	石核	打製石核	磨製石片	スタンプ 形石器	剥片	合計
1	3号住居	3		1		1		8	7	8	2	4	1	40	75
		1.7		2.0		30.0		306.8	294.4	275.3	138.4	212.9	113.0	711.7	2,086.2
2	7号住居	2	2	1				3	16	9	7	9	1	349	399
		2.5	13.9	0.8				153.1	296.9	254.0	393.7	445.5	6.0	2,657.2	4,223.6
3	8号住居	1						2	6	3	2	3		63	80
		1.9						98.1	286.4	31.9	652.0	109.9		548.3	1,728.5
4	9号住居									2	1				3
										658.0	57.3				715.3
5	10号住居	2		1				5	12	5	6	9		264	304
		1.6		3.7				469.6	675.2	197.2	451.4	405.6		1,811.3	4,015.6
6	11号住居		1						1					6	8
			15.7						46.9					90.5	153.1
7	13号住居	1						5	4	2	1	5		50	68
		3.4						202.4	177.7	270.4	211.4	380.8		923.2	2,169.3
8	14号住居	2		3				8	13	7	8	6		168	215
		7.3		31.1				473.6	733.1	280.0	800.0	332.4		1,891.3	4,548.8
9	15号住居	2	1	1	1			9	13	8	3	5	1	46	90
		1.4	19.6	7.0	4.5			352.3	699.4	265.0	436.7	213.8	28.0	639.6	2,667.3
10	16号住居							1							1
								17.7							17.7
11	18号住居	1				3	4	7	1	1		1		106	124
		2.8				24.5	275.4	222.7	23.7	268.0		125.0		1,047.6	1,989.7
12	19号住居	1	1					6	7	4	3	4	1	169	196
		0.4	24.1					490.5	562.6	143.1	812.1	203.0	10.7	1,175.2	3,421.7
13	20号住居	1		3				4				3		81	92
		1.9		10.9				138.1				250.0		614.2	1,015.1
14	23号住居	3		1				3	11	1	2	4	1	1	182
		4.9		8.4				127.6	266.0	49.0	547.0	282.0	353.0	535.0	1,734.7
15	25号住居		1	1				5	10	9	4	6	3	296	335
			5.8	1.0				272.8	471.3	256.8	822.9	509.7	226.8	1,938.1	4,505.2
16	31号住居	1						2	4	2	2	4	1	52	68
		0.6						106.9	533.6	136.0	193.5	500.9	240.0	227.9	1,939.4
数量合計		20	6	12	2	3	60	116	59	43	63	10	1	1,872	2,267
重量(g)合計		30.4	79.1	64.9	34.5	24.5	3,329.1	5,422.0	2,182.4	6,385.1	3,903.8	1,102.5	535.0	36,010.8	39,104.1

## 第4章 縄文時代の遺構と遺物

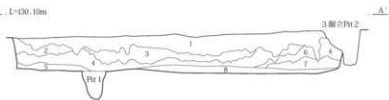
第5表 住居別石器組成（礫石器）

No	住居 No	磨石	敲石	凹石	石皿	多孔石	台石	礫石	合計
1	3号住居	3	1	1	1			1	7
		998.0	853.0	337.0	5,040.0			102.3	7,330.3
2	7号住居	3		1					4
		733.0		282.0					1,015.0
3	8号住居	1	3	2	1	2			9
		717.0	533.3	382.0	1,560.0	10,510.0			13,702.3
4	9号住居								なし
5	10号住居	1	2	1		1			5
		97.0	433.5	350.0		618.0			1,498.5
6	11号住居								なし
7	13号住居	1		3			1		5
		130.7		2,252.0			6,777.0		9,159.7
8	14号住居	2	4	2		1		2	11
		1,477.0	898.7	767.0		2,191.0		123.5	5,457.2
9	15号住居	10	3	3			1		17
		3,082.0	770.4	1,729.0			216.9		5,798.3
10	16号住居								なし
11	18号住居		1	1					2
			226.0	340.0					566.0
12	19号住居	1	4				1		6
		259.0	1,269.5				2,050.0		3,578.5
13	20号住居	2	1	1	4	1			9
		950.2	442.0	294.0	2,385.0	7,776.0			11,847.2
14	23号住居	2	1	3	1	3	1		11
		1,131.0	153.5	2,010.0	3,000.0	22,995.0	3,674.0		32,963.5
15	25号住居	3	2	2	1	1		3	12
		1,534.0	552.0	938.0	1,392.0	2,875.0		5,793.8	13,084.8
16	31号住居			1			1		2
				548.0			3,958.0		4,506.0
数量合計		29	22	21	8	9	5	6	100
重量 (g) 合計		11,108.9	6,131.9	10,229.0	13,377.0	46,965.0	16,675.9	6,019.6	110,507.3

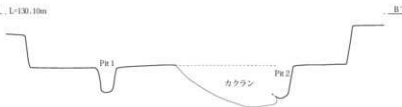




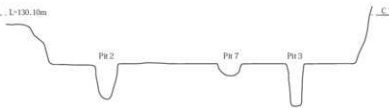
A. L-100.10m



B. L-130.10m



C. L-130.10m



D. L-130.10m



A-A'

- 1 黒褐色土(00R2/0) ローム粒子多く、白色軽石粒を少  
量含む。礫質。
- 2 暗褐色土(00R3/4) やや硬質。ローム粒子多く、硬質  
黒褐色土ブロックをやや多く含む。
- 3 灰褐色土(00R2/1) 硬質。硬質黒褐色土ブロックを多  
く、褐色砂粒をやや多く、白色軽石粒を多く含む。
- 4 暗褐色土(00R3/0) やや硬質。硬質黒褐色土ブロック  
を少量。高～高褐色砂粒、ローム粒子をやや多く含む。
- 5 暗褐色土(00R3/4) やや硬質。硬質黒褐色土ブロック  
を少量。高～高褐色砂粒をやや多く、ローム粒子を多く含  
む。
- 6 暗褐色土(00R4/0) 硬質。硬質ロームを主体とする。  
白色砂粒をやや多く含む。
- 7 暗褐色土(00R4/0) 土質は5層と同様。
- 8 褐色土(00R4/0) しまり有。硬質。ロームを主体とし  
白色軽石粒を多く含む。

0 1:60 2m

第13図 3号住居(1)

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

L-129.40m  
F. Pit 1 F.



L-129.40m  
G. Pit 2 G.



L-129.40m  
H. Pit 3 H.



L-129.40m  
I. Pit 4 I.



L-129.40m  
J. Pit 5 J.



L-129.40m  
K. Pit 6 K.



L-129.40m  
L. Pit 7 L.



L-129.40m  
M. Pit 8 M.



0 1:60 2m

H-K

- 1 黒褐色砂質土と黄褐色砂質土の相層土。
- 2 ぐすんだ黄褐色砂質土 A<sub>6</sub>-群粘入、やや密。

I-J

- 1 黒褐色砂質土に黄褐色砂質土斑点混 密、硬。
- 2 黄褐色砂質土を上に黒褐色砂質土混 密、やや硬。
- 3 黄褐色砂質土 粘性やや強。
- 4 暗褐色砂質土 粘性やや強、密。

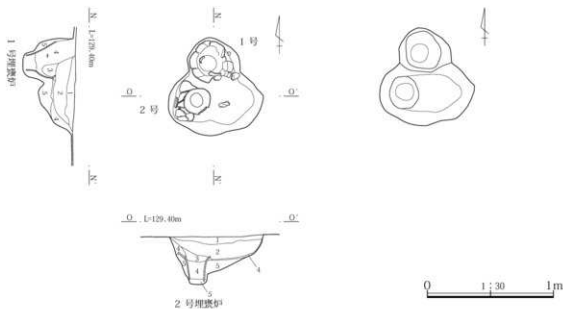
J-J'

- 1 明黄褐色土(10YR6/8)のロームを上に灰黄褐色土(10YR4/7)のしまった土がブロック状に入る。
- 2 層に類似 灰黄褐色土の方が上。
- 3 に近い黄褐色土(10YR5/6)が上にA<sub>6</sub>-群粘が入る やわらかい砂質。
- 4 に近い黄褐色土(10YR5/6)に暗色部が入る。

F-F'・I-I'・L-L'・K-K'

- 1 黒褐色土(10YR3/1) 硬質、灰化物を微量含む。
- 2 に近い黄褐色土(10YR4/7) ローム粒子を少量含む。
- 3 黄褐色土(10YR5/6) 軟質、ローム粒子を主体とする。
- 4 褐色土(10YR4/4) ロームブロックをやや多く、ローム粒子を微量含む。
- 5 褐色土(10YR4/4) やや硬質、硬質ロームを多く含む、住居ブロック層を多く含む。
- 6 褐色土(10YR4/4) やや軟質、ローム粒子をやや多く含む。
- 7 に近い黄褐色土(10YR4/7) 軟質、ロームを主体とする。

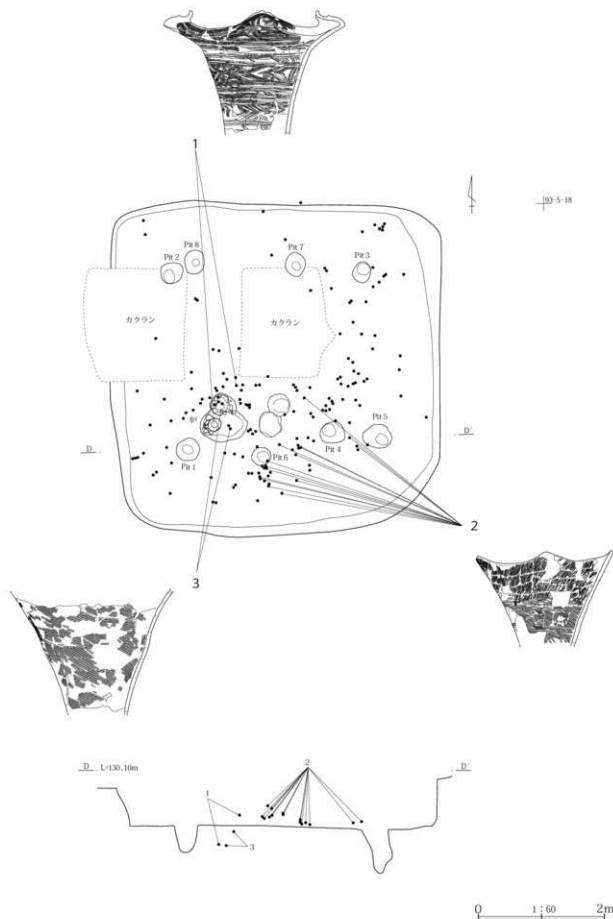
#### 1号・2号埋藏坑



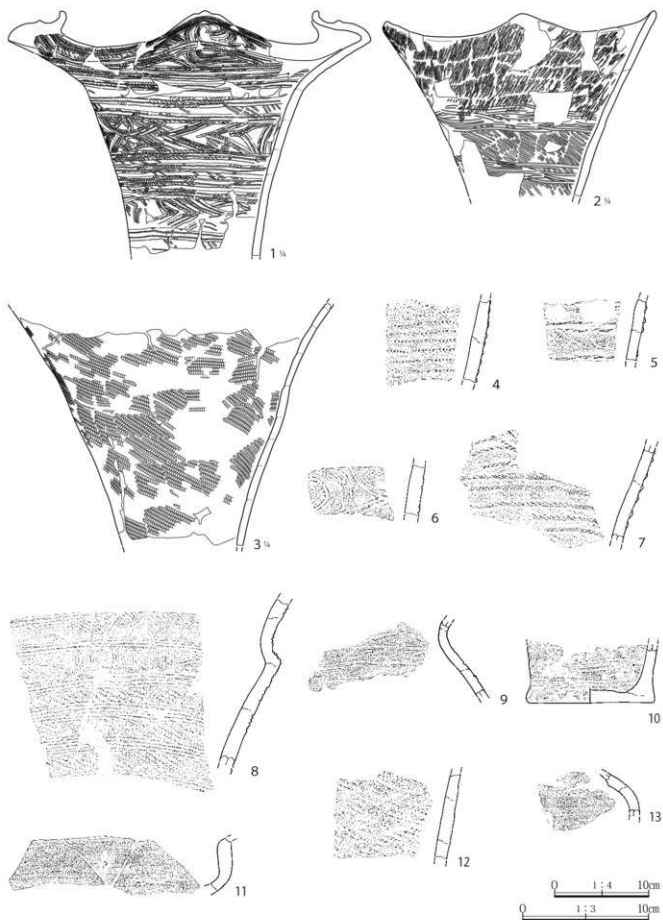
H-K'・O-O'

- 1 暗褐色土(10YR3/3) しまりけ、硬質、灰化物を微量含む。
- 2 に近い黄褐色土(10YR4/7) 粘土多量、ローム粒子を多く含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/1) しまりけ、白色砂粒を微量含む。
- 4 暗褐色土(10YR3/3) 硬質、硬質ロームブロックを多く含む。
- 5 黄褐色土(10YR5/6) やや軟質、ロームを主体とする。

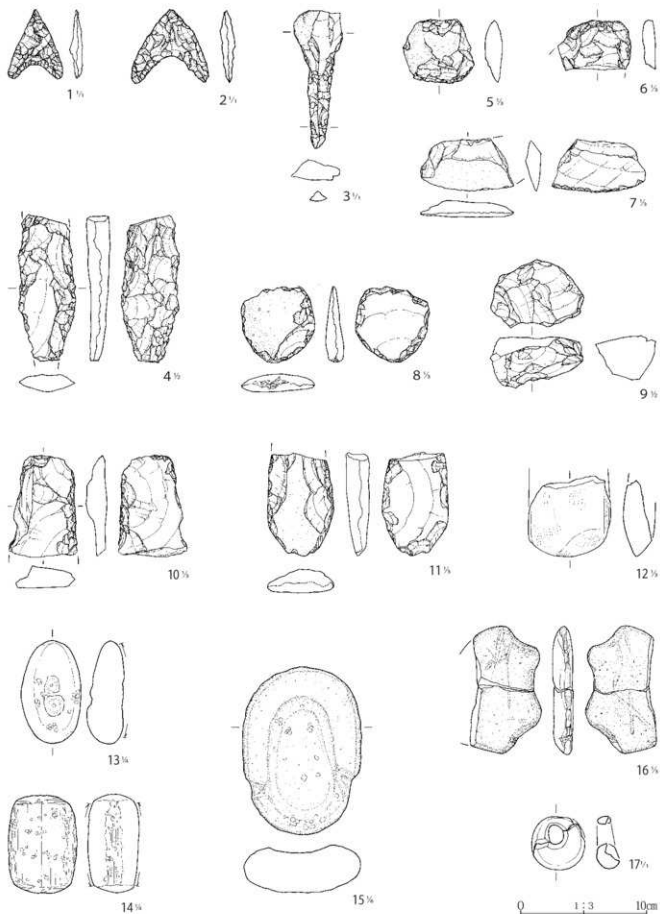
第14図 3号住居(2)



第15図 3号住居(3)

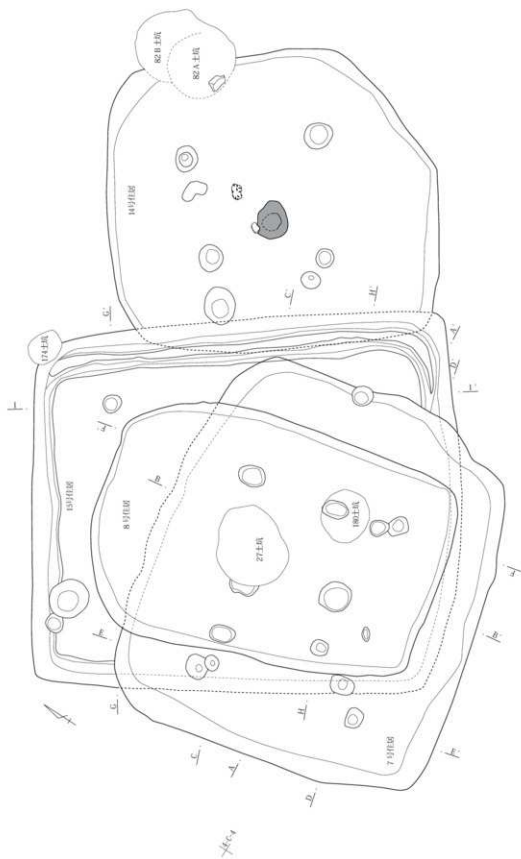


第16図 3号住居出土遺物(1)

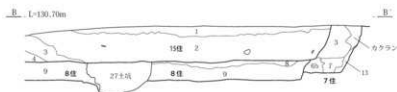
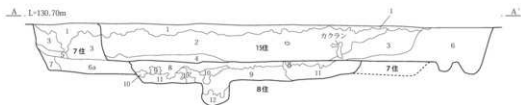


第17図 3号住居出土遺物(2)

0 1:3 10cm



第18図 7号・8号・14号・15号住居(1)



A・B・B'・B'

1 黒褐色砂質土(10YR4/3-3/2) 微砂、密、弾力あり、2層の境界土か。

2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 微砂、密、やや硬、層間に薄い黄褐色砂質土の3~5cm程度の点多、中下部硬点少なく黒褐色、焼土、炭の微粒少量。

3 に薄い黄褐色砂質土(10YR4/3)を主とし黒褐色砂質土(10YR3/0)との黄褐色土、堅固、炭と焼土の微粒少量。

4 3層と同質の黄褐色土 全体に軟弱。

5 黄褐色土 堅固。

6 黄褐色砂質土(10YR5/0) 4s-8p、焼土、炭の各粒子混入、粘性あり、密。

7 黄褐色砂質土(10YR4/0) 4s-8p粒混入、黒褐色砂質土が層間に少量、密。

8 黒褐色砂質土に薄い砂質土の混砂質土の混黄褐色土 密、焼土と炭の粒子をまばらに含む。

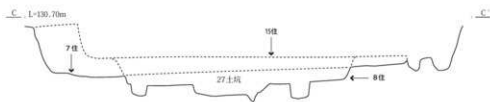
9 に薄い黄褐色砂質土(10YR5/3) 密、やや硬、灰黄褐色砂質土が微量に少量、炭粒少量。

10 層と同質 非常に黄褐色土が主。

11 黄褐色砂質土(10YR4/0)

12 黄褐色砂質土(10YR3/0)

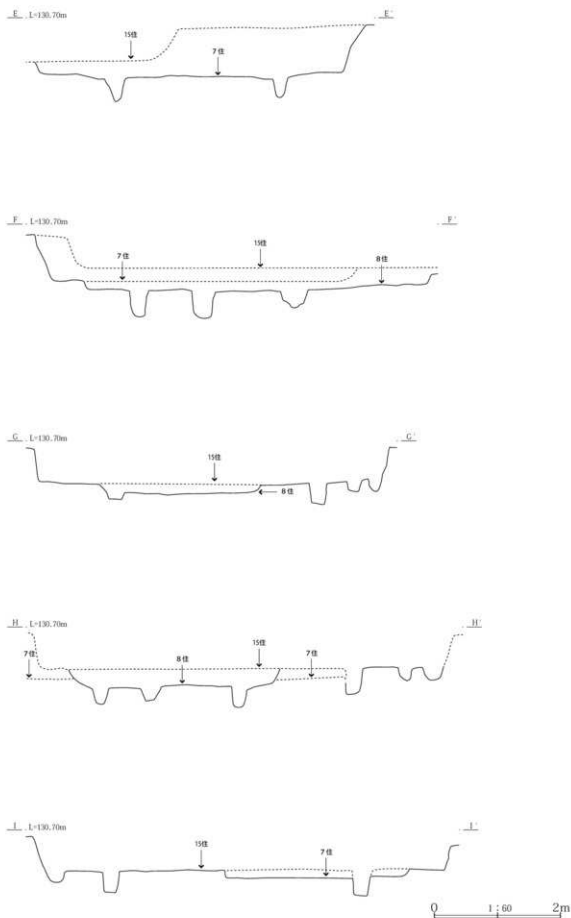
13 6層と7層の混土 密、硬。



0 1:60 2m

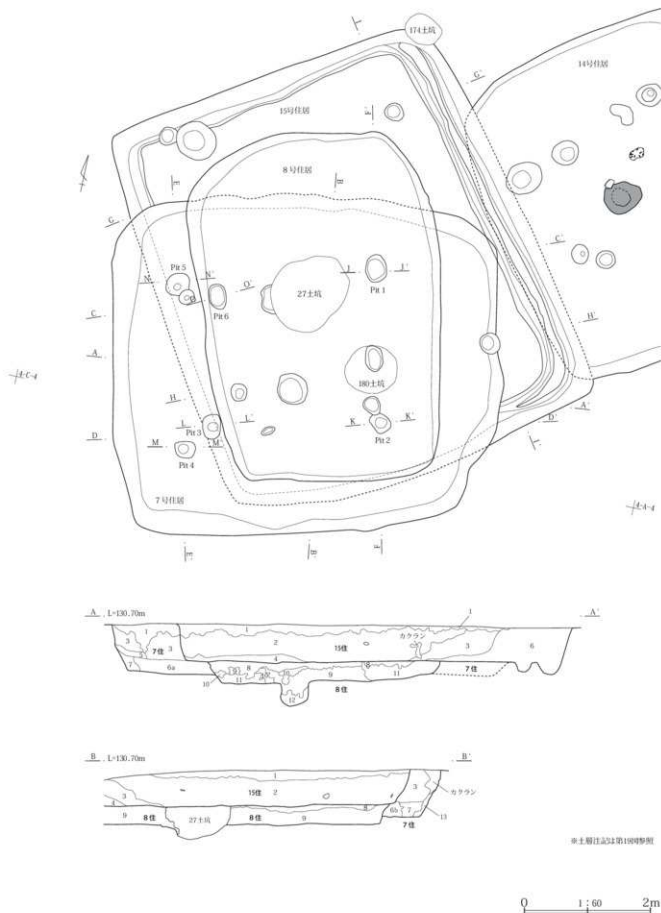
第19図 7号・8号・14号・15号住居(2)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



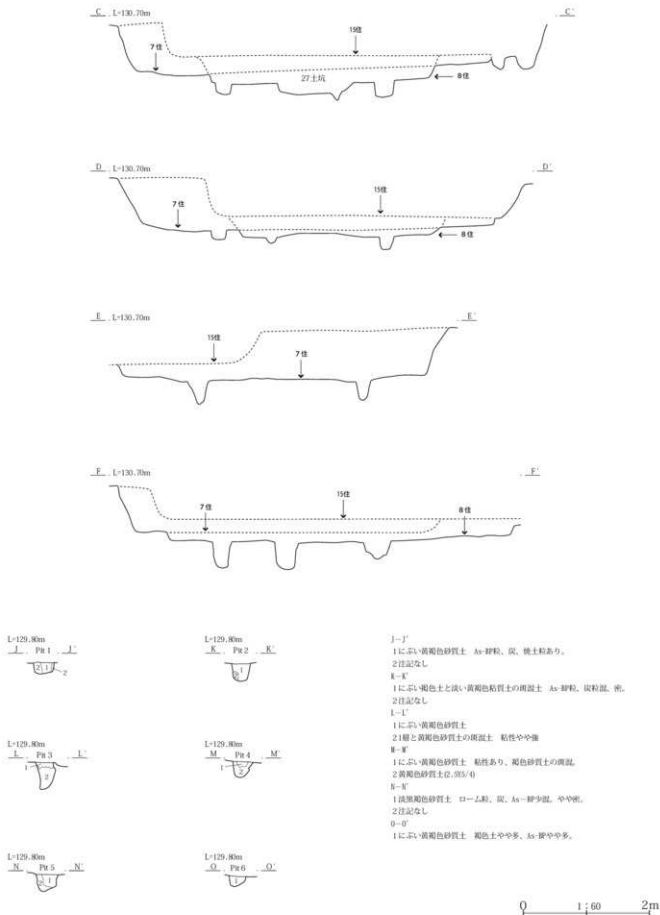
第20図 7号・8号・14号・15号住居(3)



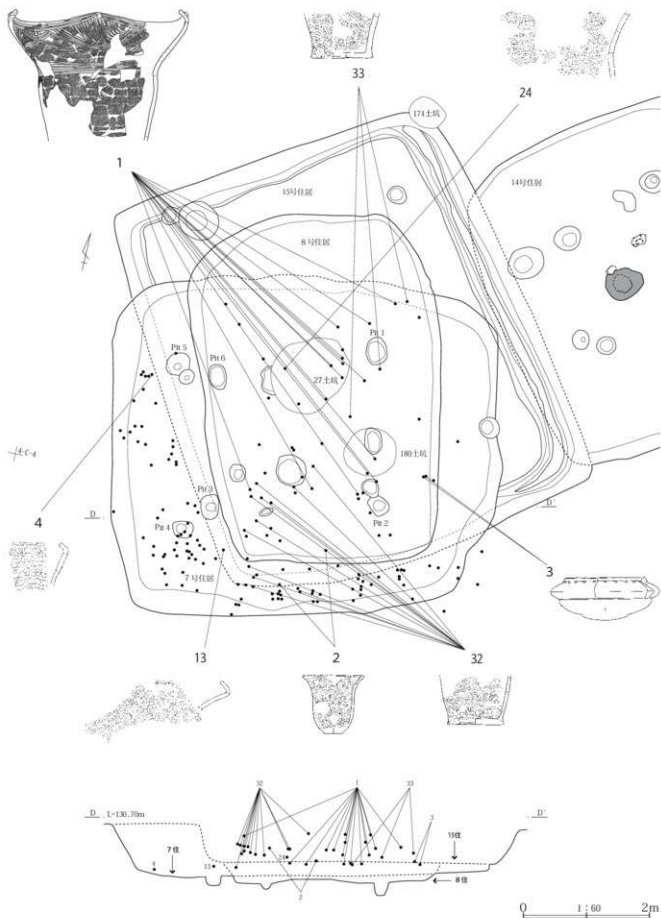


第21図 7号住居(1)

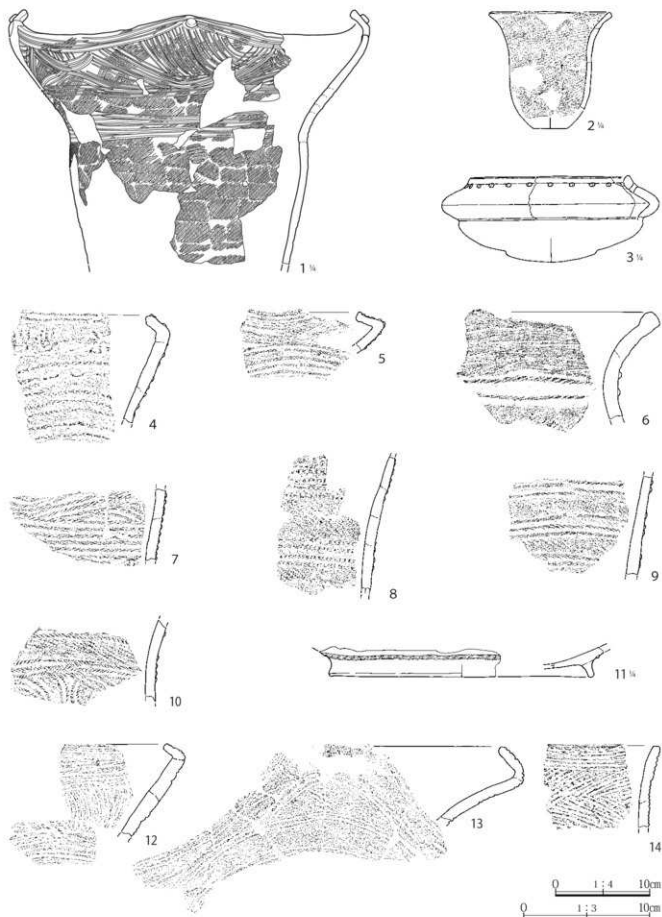
第4章 縄文時代の遺構と遺物



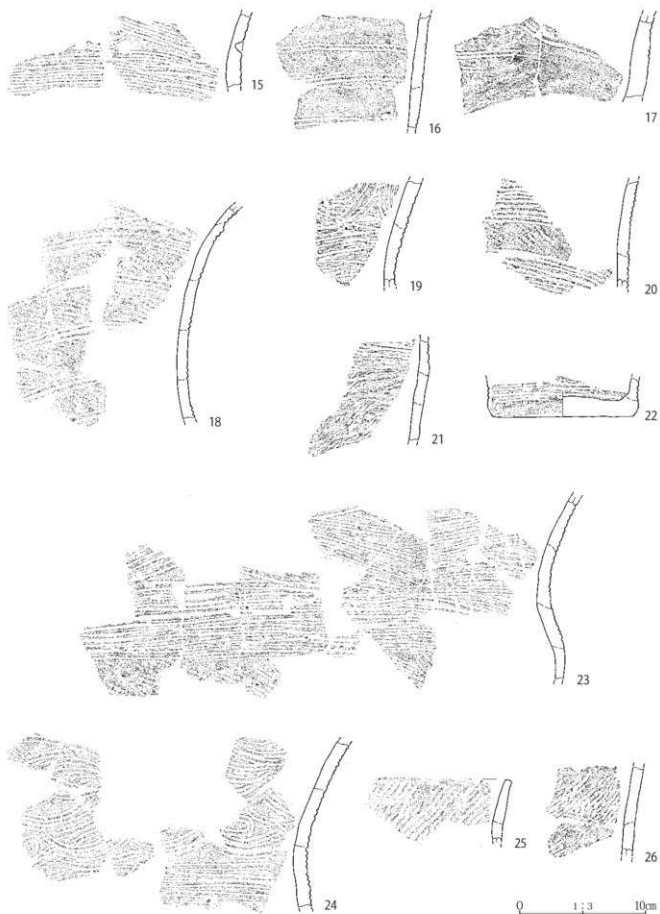
第22図 7号住居(2)



第23图 7号住居 (3)

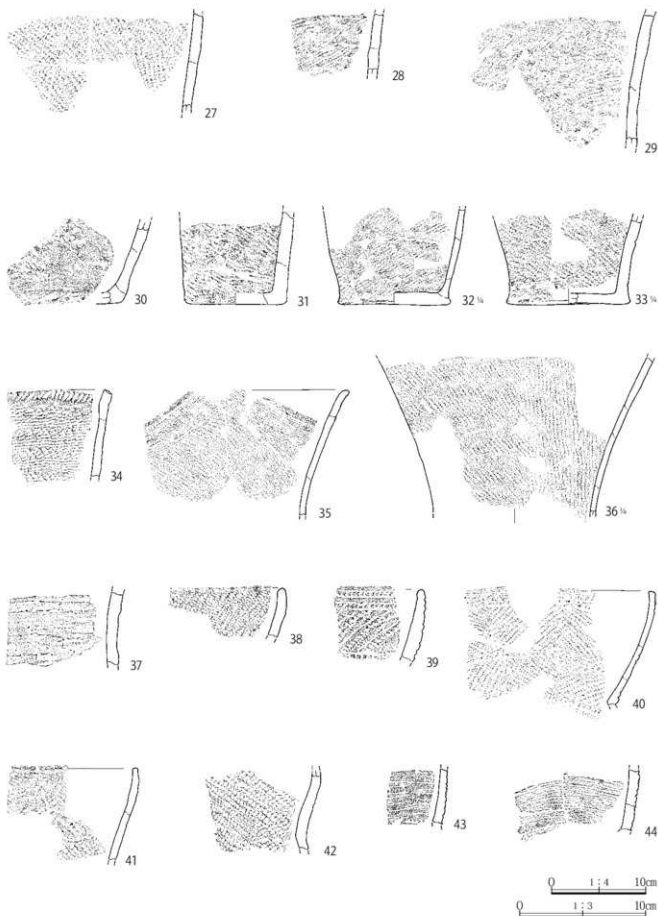


第24図 7号住居出土遺物(1)



第25図 7号住居出土遺物(2)

第4章 縄文時代の遺構と遺物

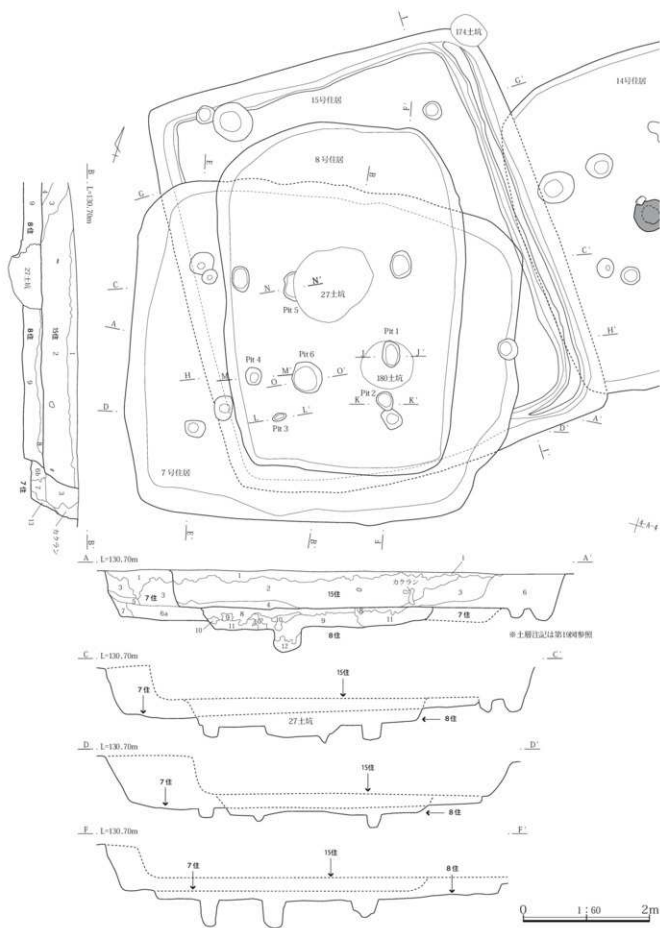


第26図 7号住居出土遺物(3)



第27図 7号住居出土遺物(4)

0 1:3 10cm



第28図 8号住居(1)





J-J'  
土層記なし

K-K'

1 に赤い黄褐色砂質土 泥、やや硬、As-層とAs-層少泥、焼土粒やや多。

L-L'

1 淡黄褐色砂質土 ローム状、硬、As-層少泥、やや硬。

2 1層に同じ ローム、硬さなくやや明るい。

M-M'

1 に赤い黄褐色砂質土 焼土、炭粒少泥。

N-N'

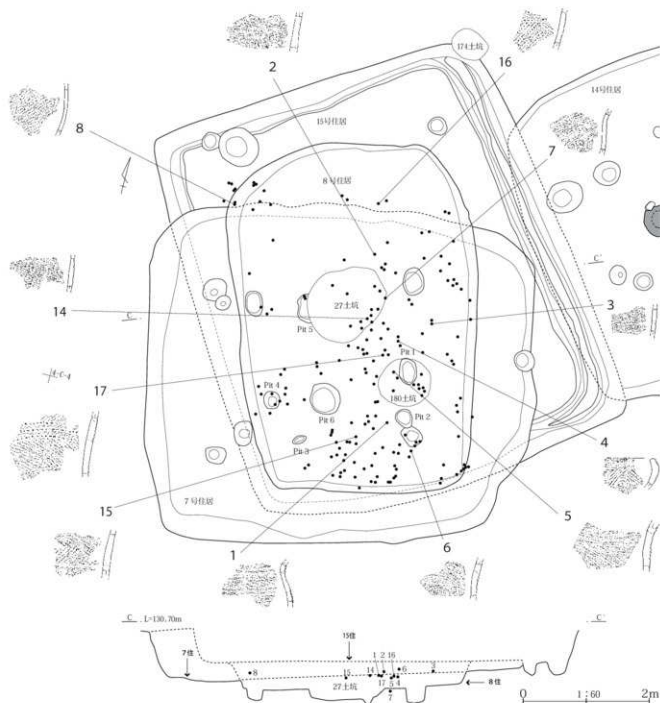
1 黄褐色土(00R3/2)を主に黄褐色土(00R4/0)が混点状に入る As-層少、少し固った土質。

O-O'

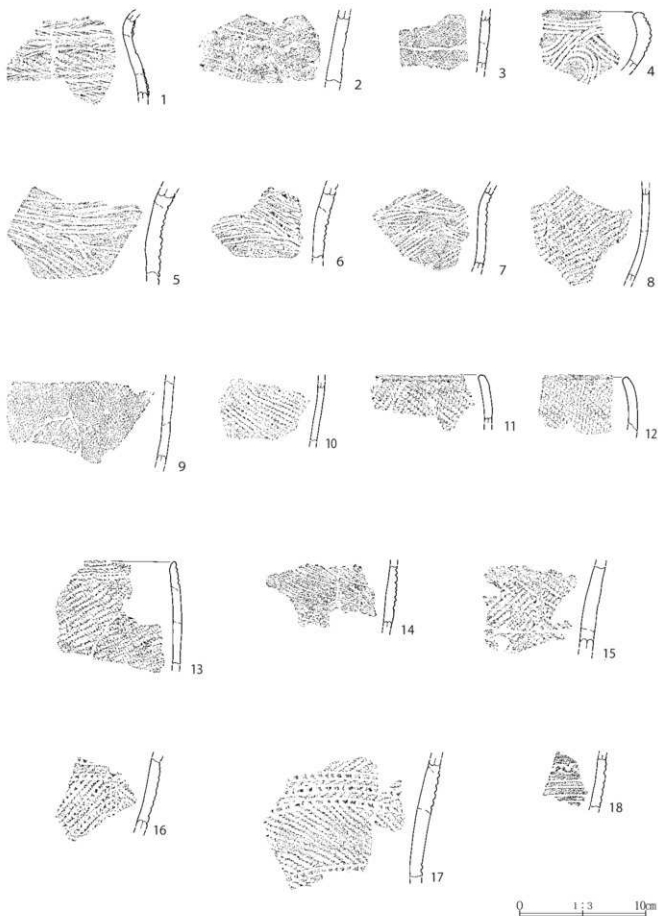
1 黄褐色土(00R4/1)を主に、に赤い黄褐色土(00R5/0)が混点状に入る 少し粘質、炭粒点あり。

2 黄褐色土(00R5/0)を主に黄褐色土(00R4/1)が少量混点状に入る 少し粘質、炭粒少量あり。

3 2記なし

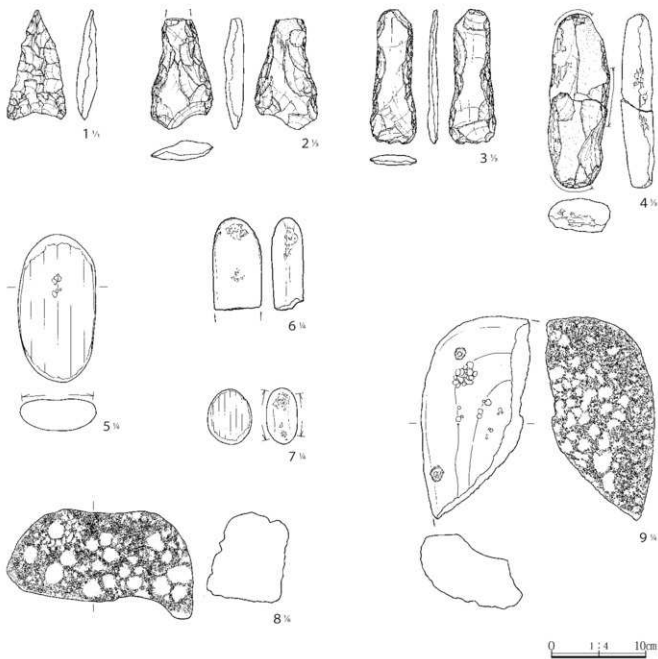


第29図 8号住居(2)

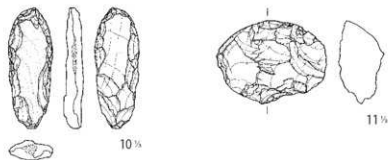


第30図 8号住居出土遺物

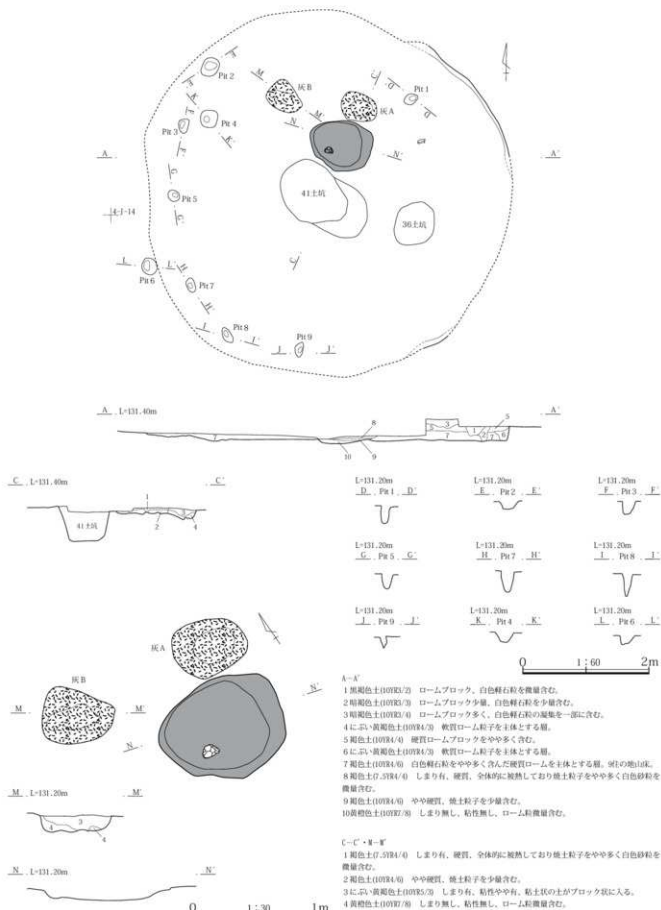
第2節 竪穴住居



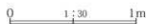
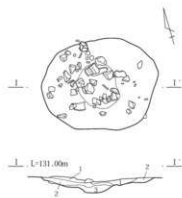
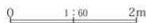
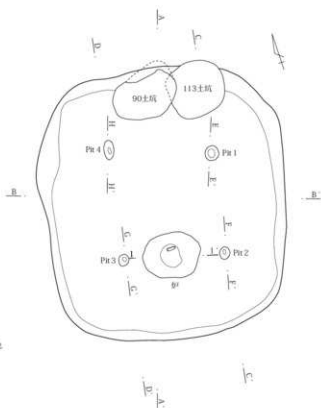
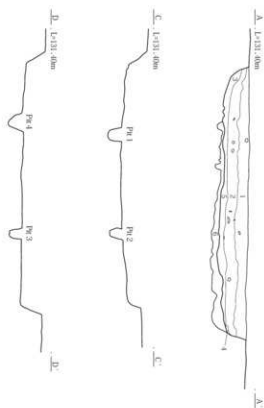
9号住居



第31図 8号・9号住居出土遺物



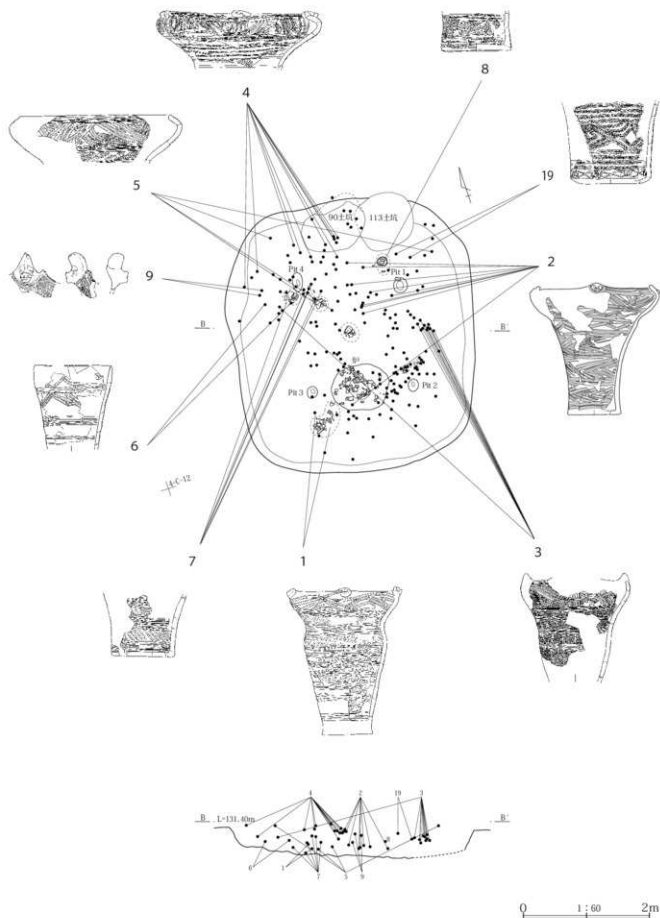
第32図 9号住居



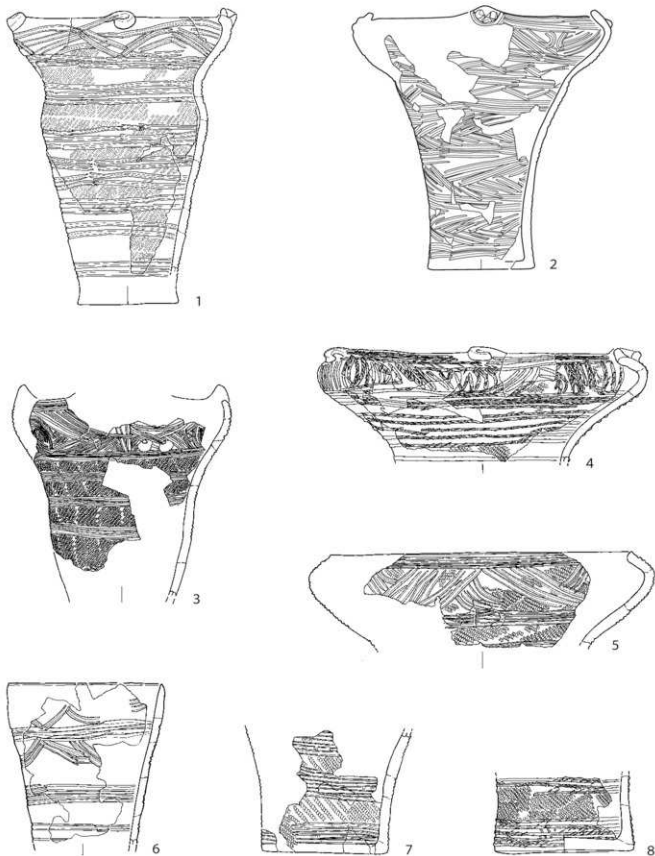
A-E・B-F

- 1 粘褐色土(00R2/3) 中や軟質、ローム粘土を多く含む硬質ロームブロックを少量含む。
  - 2 灰褐色土(00R2/3) しまり有、中や硬質、硬質ロームブロックを主体とする。
  - 3 褐色土(00R4/4) 崩壊したローム粘土を主体とする。
  - 4 赤い灰褐色土(00R4/4) 崩壊したローム粘土を主体とする。
  - 5 褐色土(00R4/4) 中や軟質、ロームを主体としh<sub>1</sub>・h<sub>2</sub>を微量含む。
  - 6 灰褐色土(00R2/2) 硬質、ローム粘土を多くしh<sub>1</sub>・h<sub>2</sub>を微量含む。
- E-F・F-F・G-C・B-B
- 1 粘褐色土(00R2/4) 軟質、ローム粘土を多く含む。
  - 2 灰褐色土(00R2/3) 軟質、ローム粘土を中や多く含む。
- I-I'
- 1 灰褐色土(00R2/3) ローム粘土を中や多く、炭化物、焼土粒子を少量含む。
  - 1 灰褐色土(00R2/3) しまり有、灰色土を主体としローム粘土を微量含む。腐熟しておりやや砂土化している。
  - 3 粘褐色土(00R2/3) 中や軟質、ローム粘土を中や多く含む。

第33図 10号住居(1)

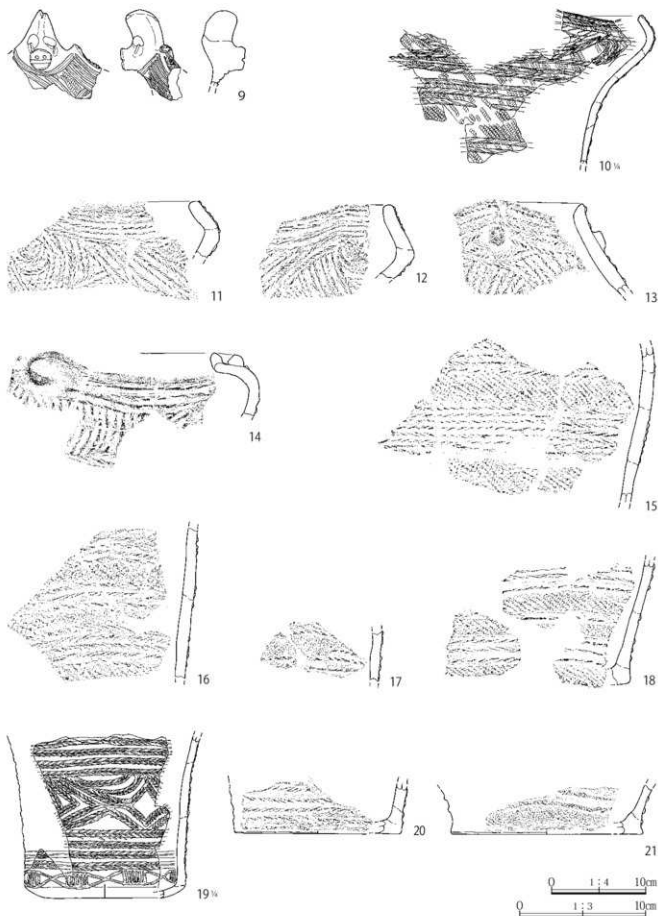


第34図 10号住居(2)



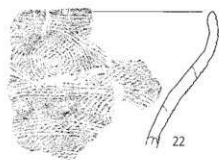
0 1:4 10cm

第35図 10号住居出土遺物(1)



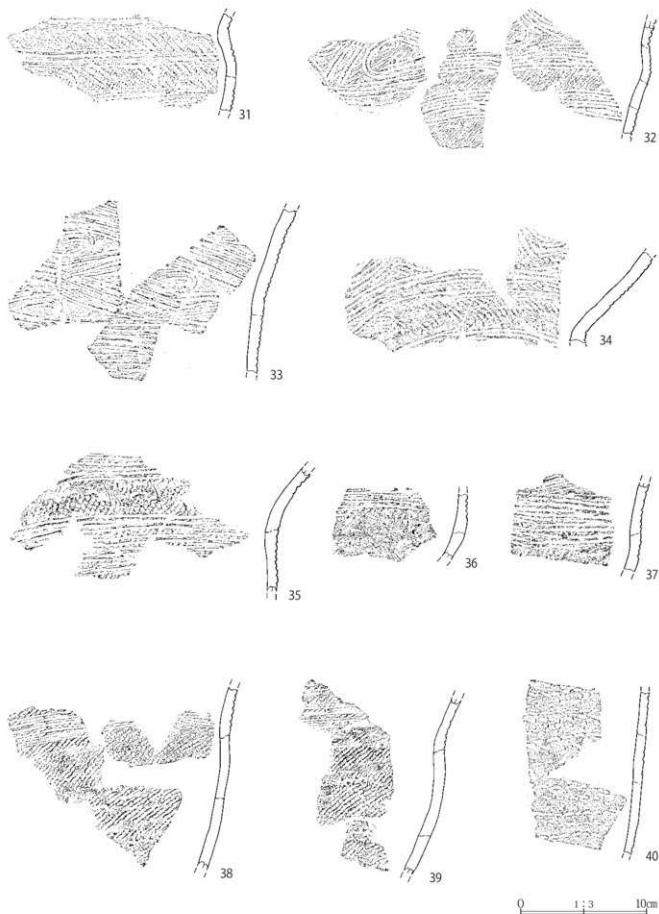
第36図 10号住居出土遺物(2)



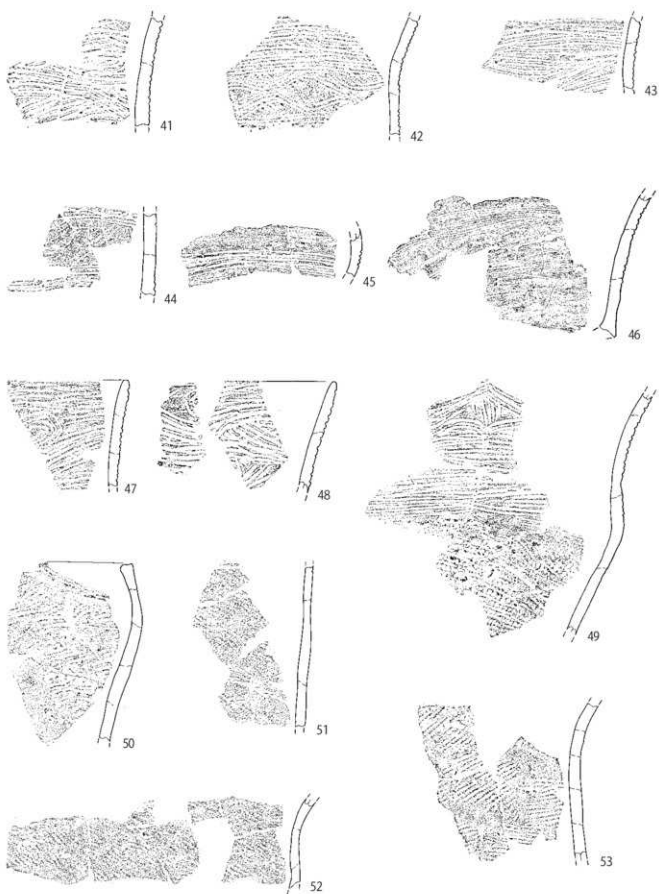


0 1:3 10cm

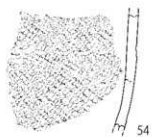
第37図 10号住居出土遺物(3)



第38図 10号住居出土遺物(4)



第39図 10号住居出土遺物(5)



54



55



56



57



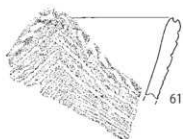
58



59



60



61



62



63



64



65



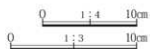
66



67

0 1:3 10cm

第40図 10号住居出土遺物(6)

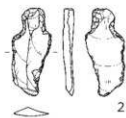
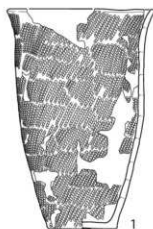
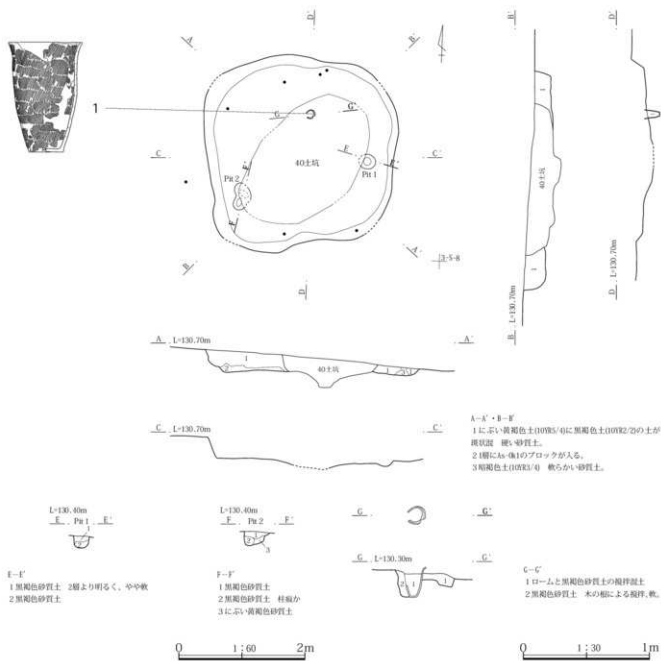


第41圖 10号住居出土遺物(7)

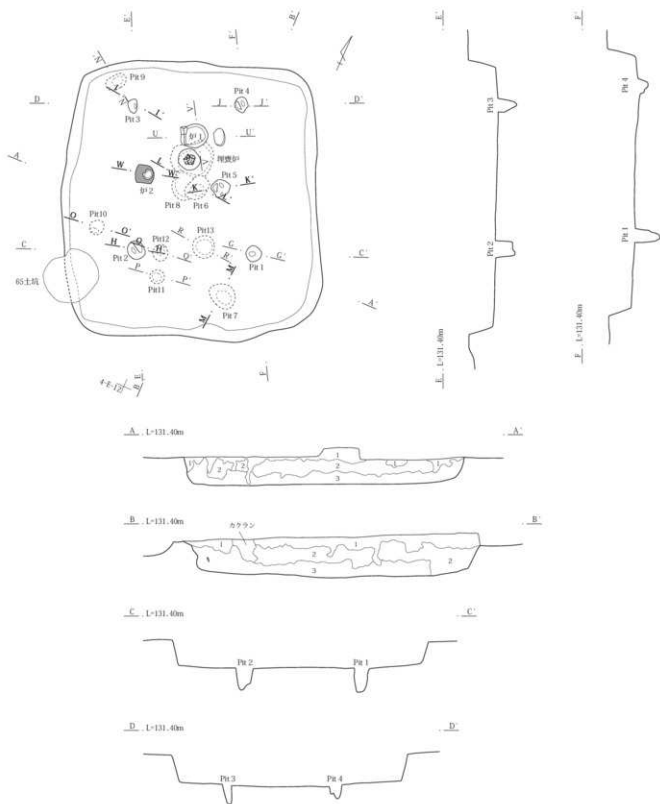
第4章 縄文時代の遺構と遺物



第42図 10号住居出土遺物(8)



第43図 11号住居



4-A・B-E

1 濃い黄褐色砂質土(10YR3/3-4/0) 細粒砂、やや軟、2層の木の間等による腐葉部分が。

2 黒褐色砂質土(10YR3/2-3/1) 細粒砂、やや粘性を帯び全体に厚膜、濃い褐色砂質土の1~3cm間層あり、中央部が最も黒く硬膜明るく黒炭多、炭粒少数。

3 黄褐色粘質土(10YR5/0) 粘性やや強、機土と炭の糞粒を全体に混入、中央部やや暗く硬膜やや明るい。

0 1:60 2m

第44図 13号住居(1)



第2節 竪穴住居

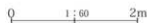
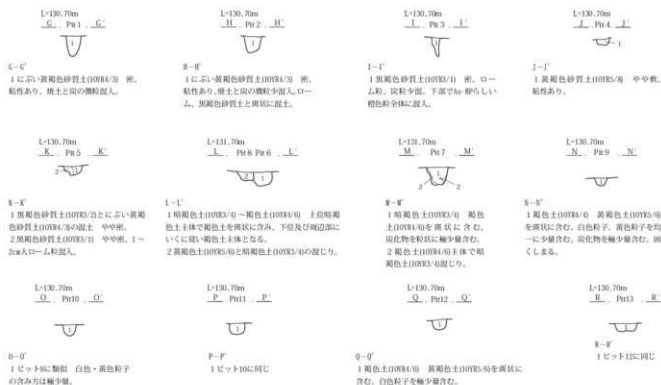


図1

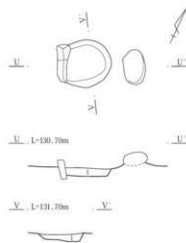
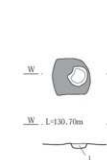
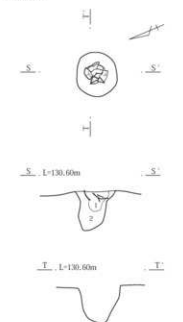


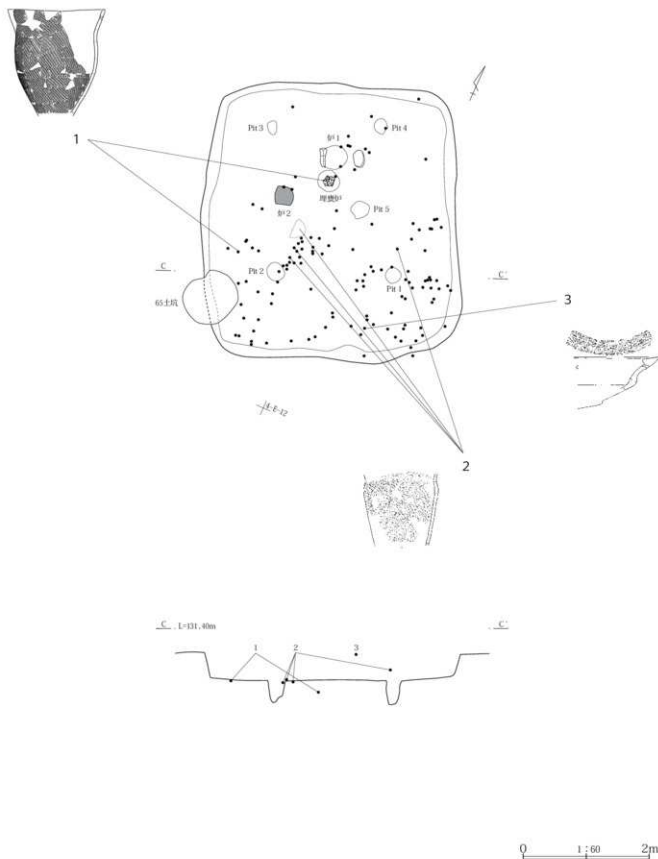
図2



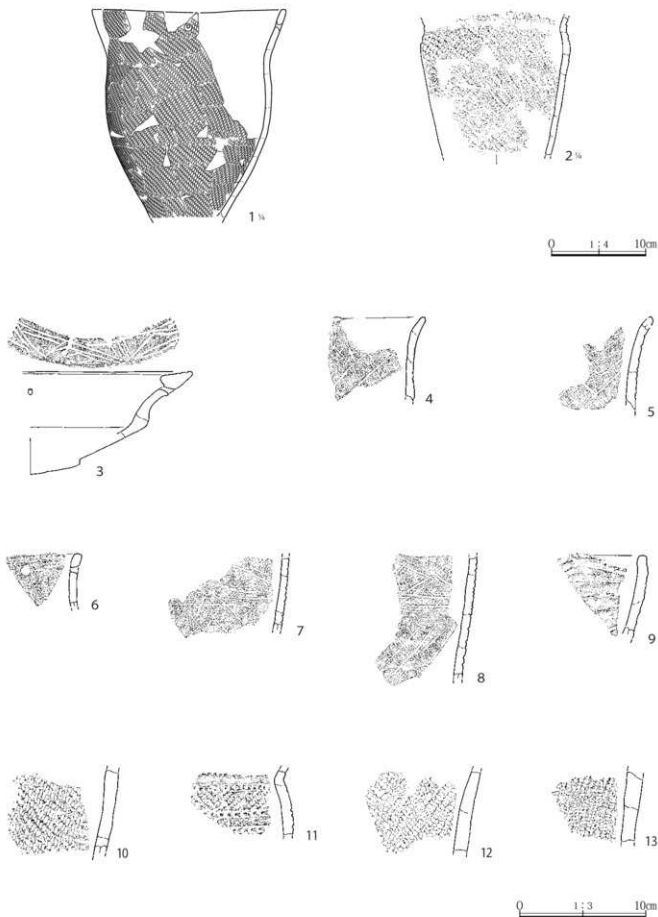
埋藏物



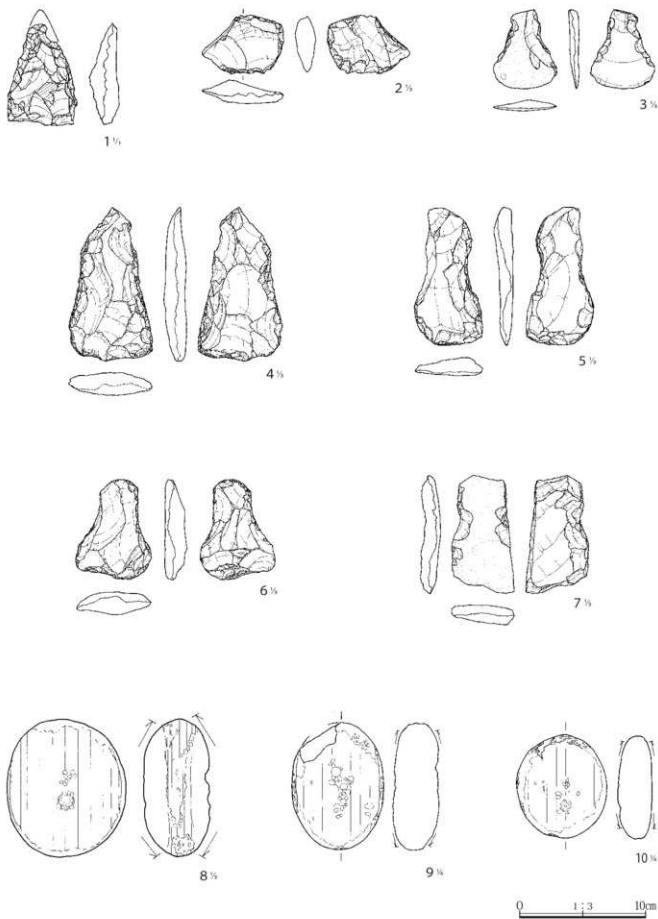
第45図 13号住居(2)



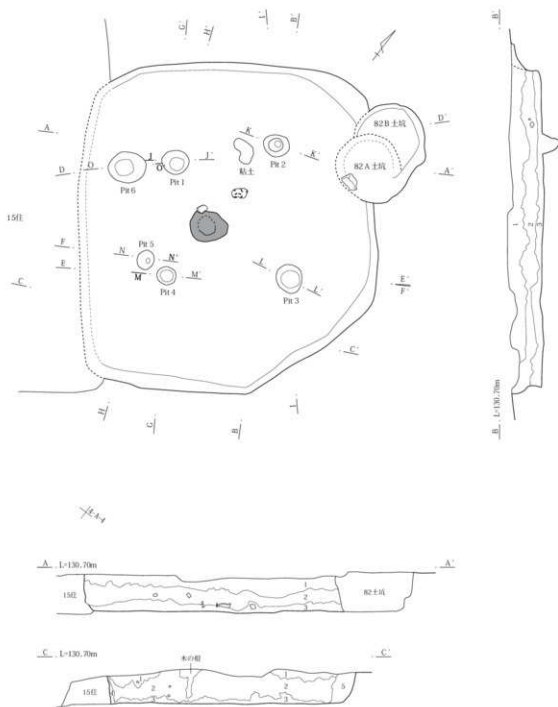
第46図 13号住居(3)



第47图 13号住居出土遺物(1)



第48図 13号住居出土遺物(2)



A-A'・B-B'

1 暗褐色土(10YR3/3) 白色軽石粒をやや多く、ローム粒子を主体とする。硬質。

2 褐色土(10YR4/4) 白色軽石粒を少量、硬質ロームブロックをやや多く含む。

3 褐色土(10YR4/6) やや軟質。黄色ロームを主体とする。

C-C'

1 に薄い黄褐色砂質土(10Y5/7) As-0kに2層の土が少量ブロック状に入る。

2 黒褐色土(10YR3/1)に褐色土(10YR4/4)が混入。しまった砂質土。As-0k1。焼土粒、炭粒あり。

3 黄褐色土(10YR5/8)が暗褐色土(10YR3/3)にブロック状に入る。しまった砂質土。As-0k1。焼土粒、炭粒あり。

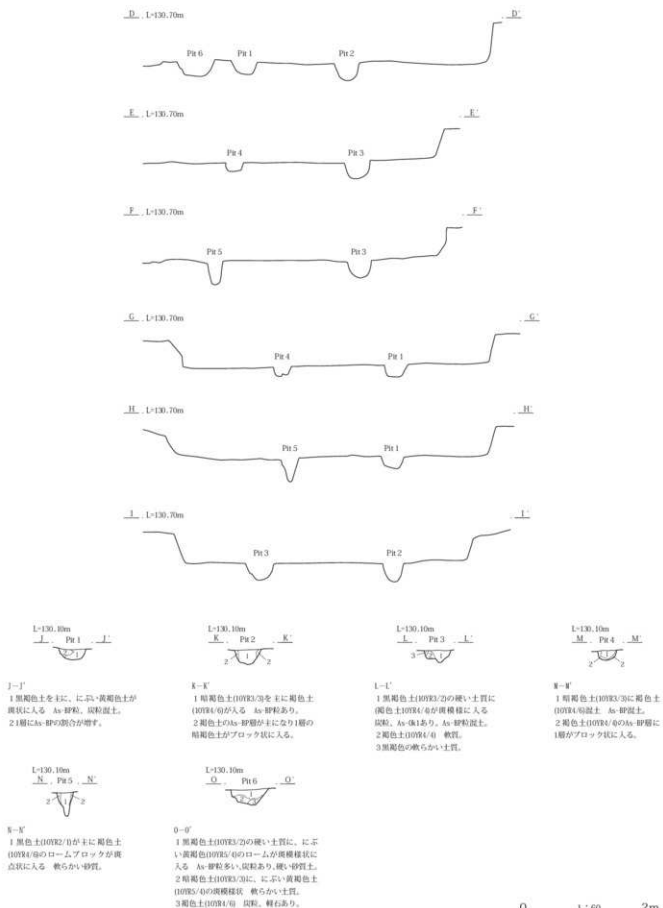
4 褐色土(10YR2/7) As-0k1。焼土粒あり。腐材の跡か。

5 黄褐色砂質土(10YR5/9)が2層にブロック状に入る。

0 1:60 2m

第49図 14号住居(1)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



**J-J'**  
 1 黒褐色土を主に、にぶい黄褐色土が裏状に入る As-砂粒、炭粒散土。  
 2 1層にAs-砂の割合が増す。

**K-K'**  
 1 暗褐色土(10YR3/3)を主に褐色土(10YR4/6)が入る As-砂粒あり。  
 2 褐色土のAs-砂層が土になり1層の暗褐色土がブロック状に入る。

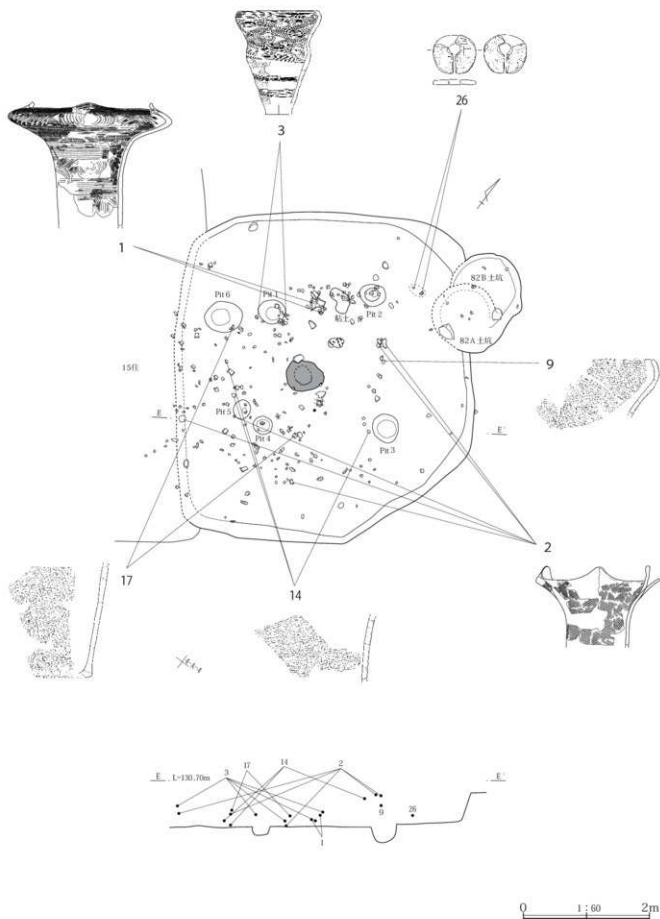
**L-L'**  
 1 黒褐色土(10YR3/2)の硬い土質に(褐色土10YR4/6)が塊層様に入る炭粒、As-塊あり、As-砂粒散土。  
 2 褐色土(10YR4/6) 軟質。  
 3 黒褐色の軟らかい土質。

**M-M'**  
 1 暗褐色土(10YR3/3)に褐色土(10YR4/6)散土 As-砂粒土。  
 2 褐色土(10YR4/6)のAs-砂層に1層がブロック状に入る。

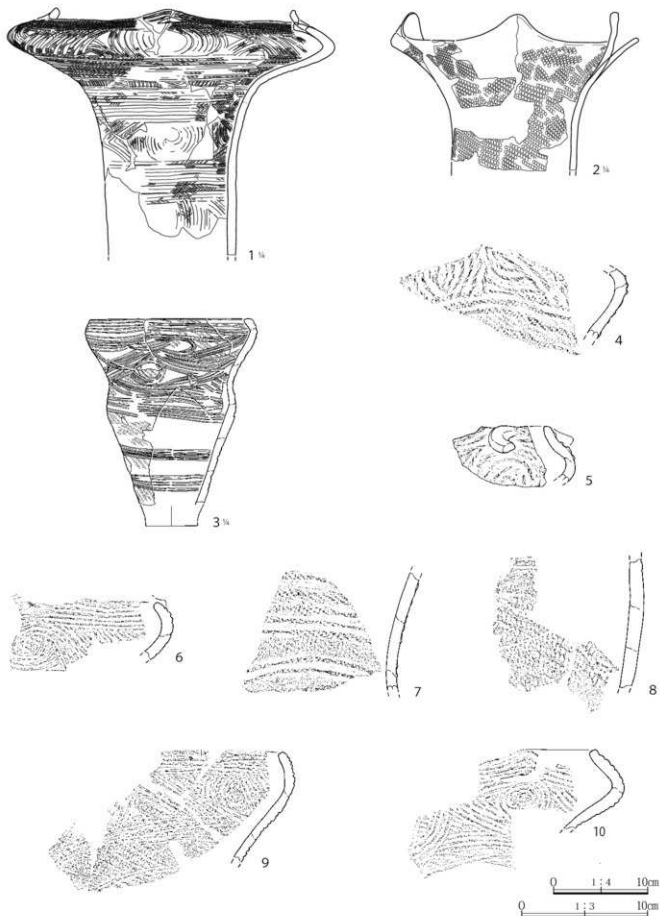
**N-N'**  
 1 黒色土(10YR2/1)が土に褐色土(10YR4/6)のロームブロックが裏点状に入る 軟らかい砂質。

**O-O'**  
 1 黒褐色土(10YR3/2)の硬い土質に、にぶい黄褐色土(10YR5/6)のロームが塊層様状に入る As-砂粒多い、炭粒あり、硬い砂質土。  
 2 暗褐色土(10YR3/2)に、にぶい黄褐色土(10YR5/6)の塊層様状 軟らかい土質。  
 3 褐色土(10YR4/6) 炭粒、粒石あり。

第50図 14号住居(2)

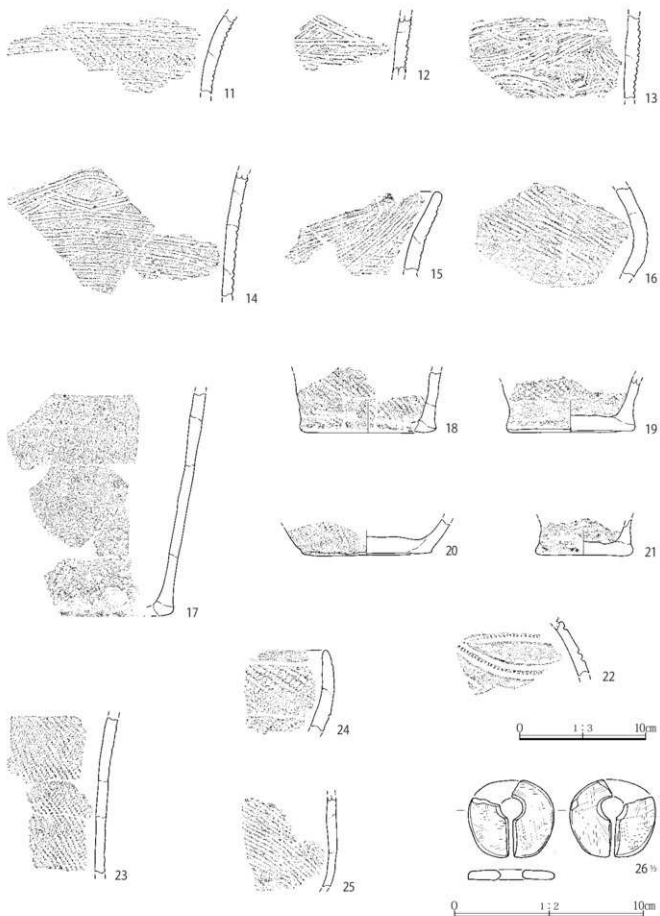


第51图 14号住居(3)



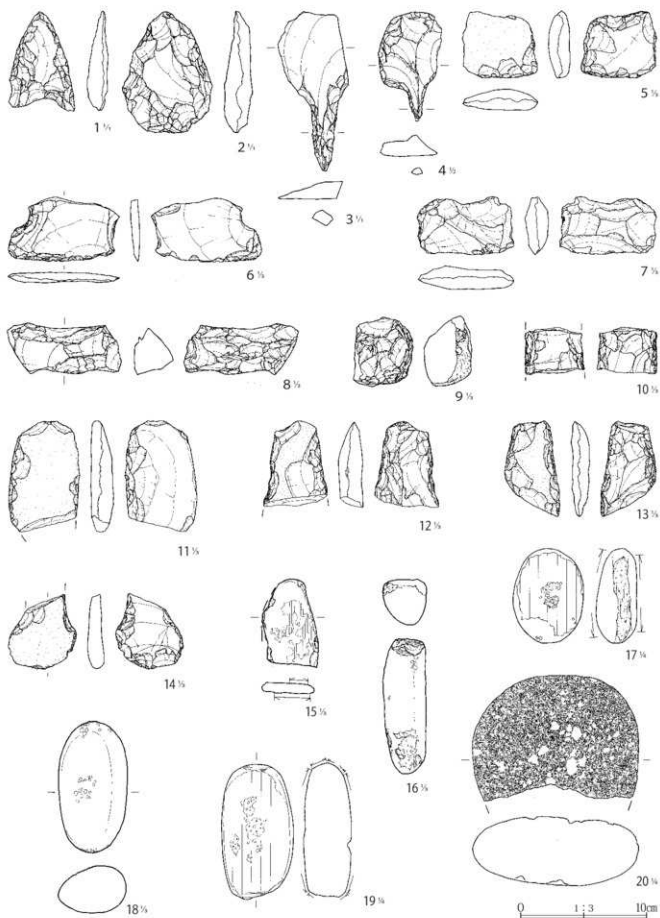
第52図 14号住居出土遺物(1)



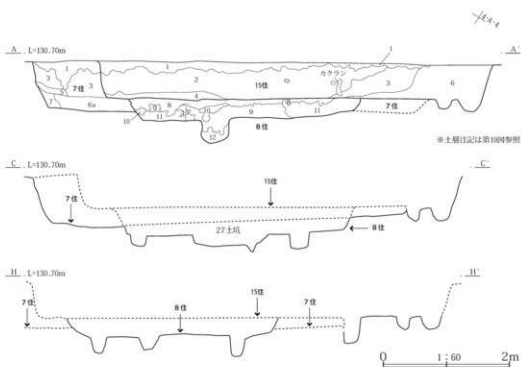
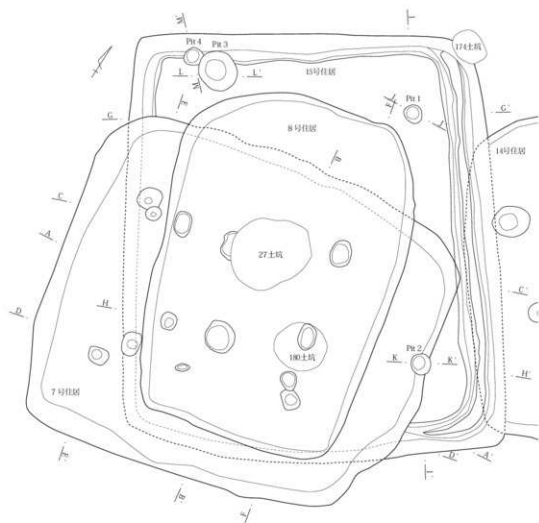
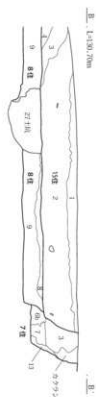


第53图 14号住居出土遺物(2)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



第54図 14号住居出土遺物(3)

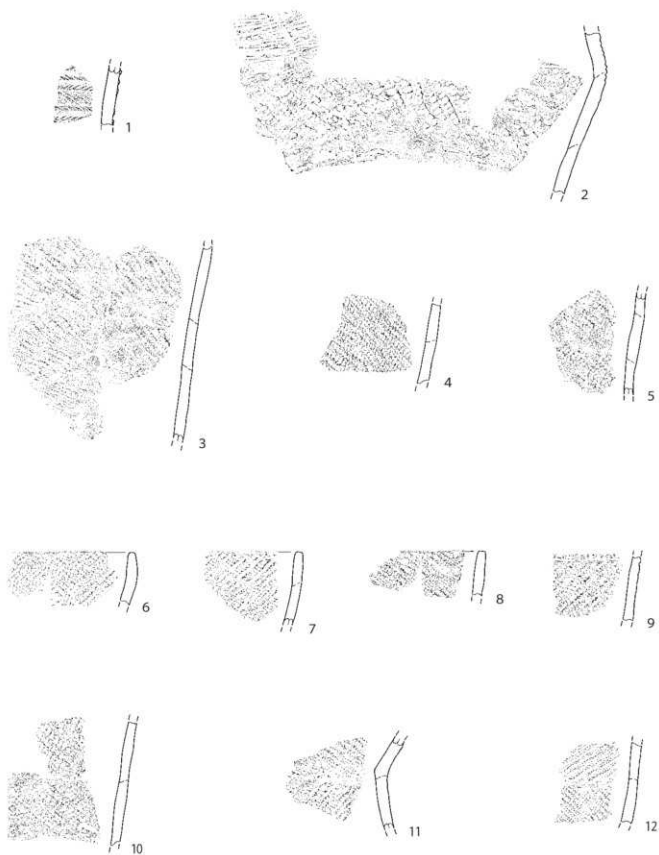


第55図 15号住居(1)

第4章 縄文時代の遺構と遺物

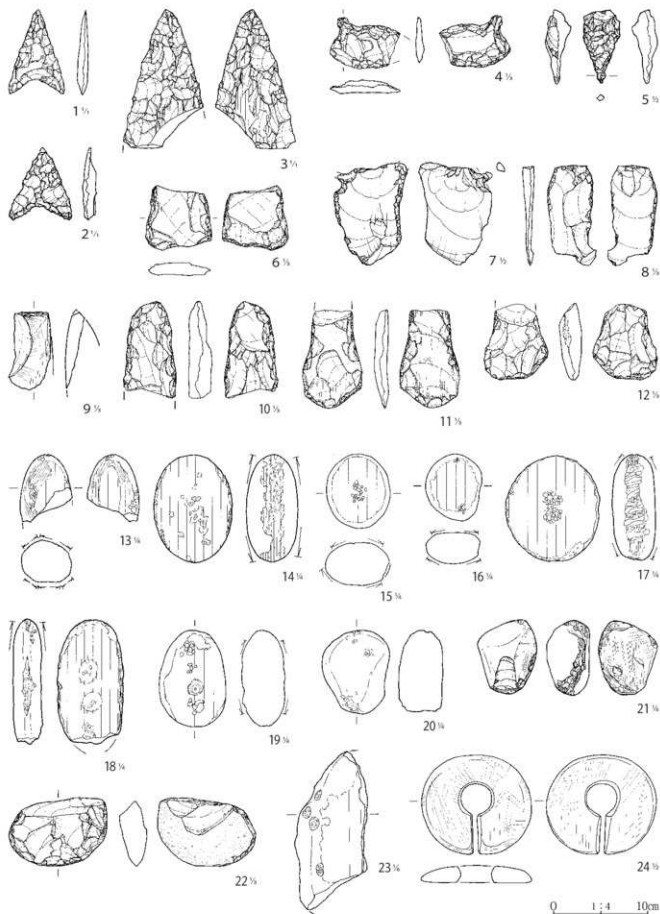


第56図 15号住居(2)

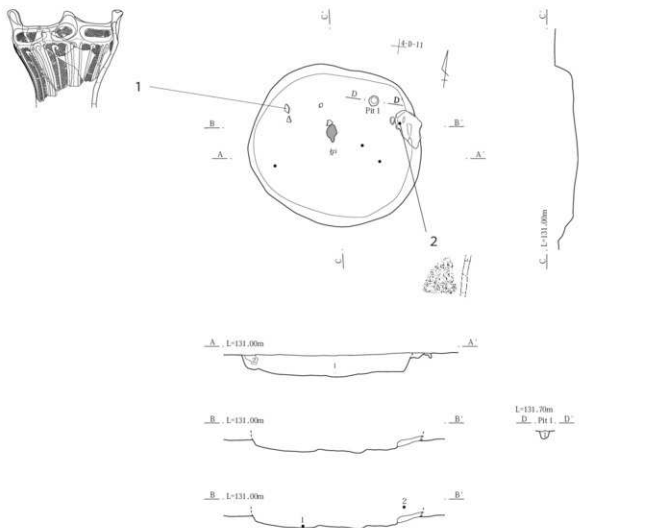


0 1:3 10cm

第57圖 15号住居出土遺物(1)

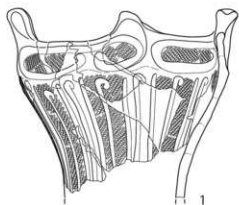


第58図 15号住居出土遺物(2)



- A-A'  
 1 暗褐色砂質土(00YR3/0)と白い黄褐色砂質土(00YR3/3)の混成土 密、やや硬。下位は芝跡く密で硬い。上層は葉林類様のやや軟弱。  
 2 暗褐色砂質土(00YR3/0)のブロック
- B-B'  
 1 暗褐色砂質土(00YR3/0)と黒褐色砂質土(00YR3/2)の混成土 ロー土粒が全体に混入。密、やや硬。

0 1 60 2m

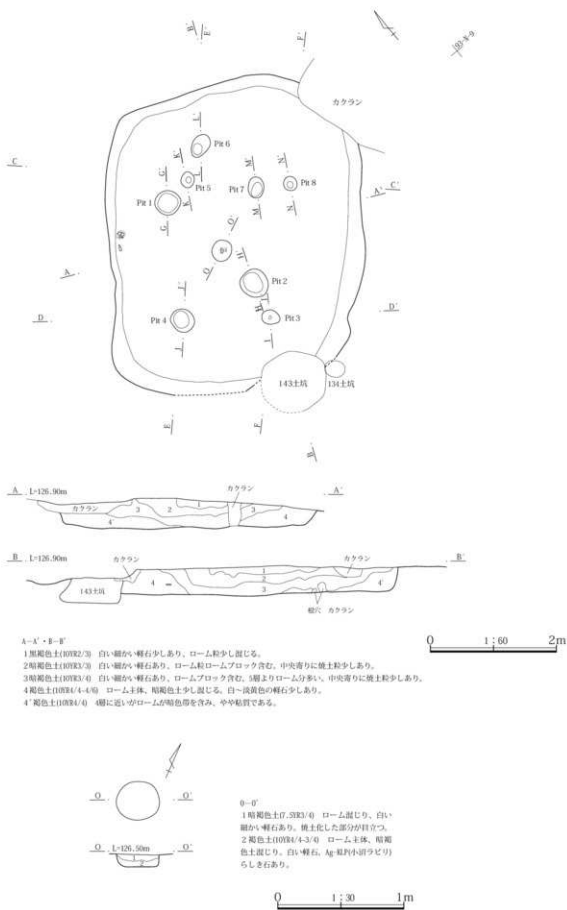


0 1 4 10cm



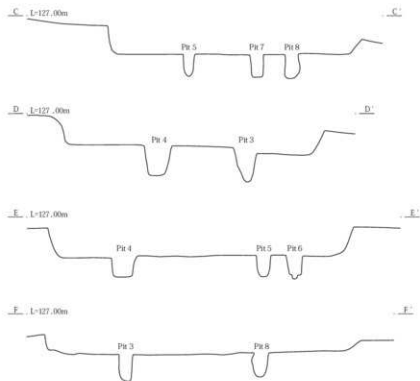
0 1 3 10cm

第59図 16号住居



第60図 18号住居(1)





G-C

1 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、白い細かい軽石あり。Ag-ALP(小沼ラビリ)らしき少しあり。  
2 褐色土(10YR4/4-3/0) ローム主体、粘質。Ag-ALP(小沼ラビリ)、小さな炭片少しあり。



H-H'

1 暗褐色土(10YR3/0) ローム混じり、白い細かい軽石あり、小さな炭片、焼土少しあり。  
2 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、1層よりロームが多い、白い細かい軽石あり、下段はやや粘質。



I-I'

1 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、白い細かい軽石あり。Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。  
2 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、ロームは暗色部も含む。細かい炭片少しあり、白い軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。



J-J'

1 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、ロームブロック含む。白い軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。細かい炭片を含む。  
2 暗褐色土(10YR3/0) ローム混じり、ロームは暗色部も含む。白い軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。



K-K'

1 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、ロームブロックを少し含む。白・黄の軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。焼土粒・炭片を含む。  
2 暗褐色土(10YR3/0) ローム混じり、ロームは暗色部も含む。白い軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)少しあり。



L-L'

1 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、ロームブロックを含む。白・黄の軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。焼土粒、炭片を含む。  
2 暗褐色土(10YR3/0) ローム混じり、ロームは暗色部も含む。白い軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)少しあり。



M-M'

1 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、白い細かい軽石あり。Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。  
2 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、ロームは暗色部も含む。1層よりやや細かい、白い軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)少しあり。

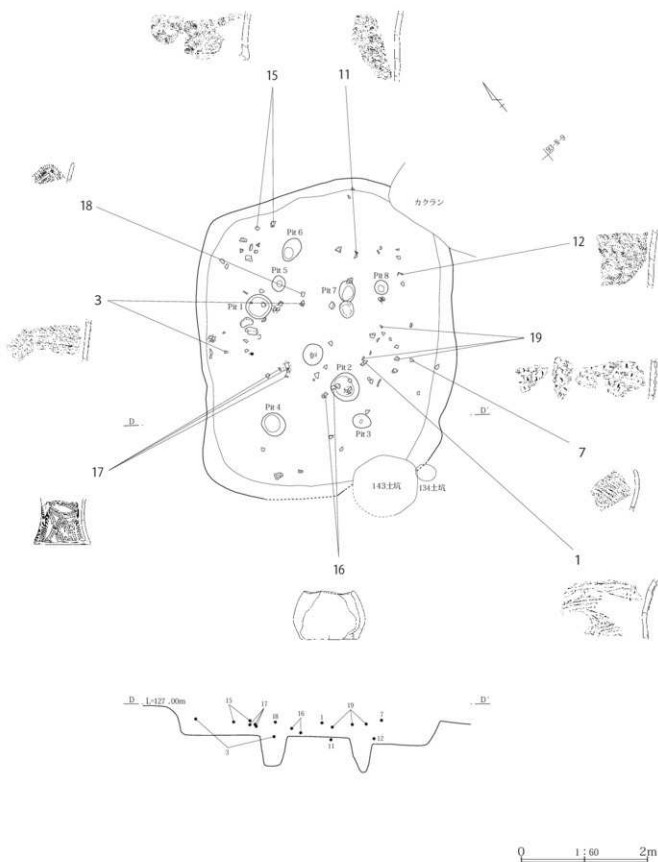


N-N'

1 暗褐色土(10YR3/4-4/0) ローム混じり、白い細かい軽石あり。Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。  
2 暗褐色土(10YR3/0) ローム混じり、ロームは暗色部も含む。白い軽石、Ag-ALP(小沼ラビリ)あり。細かい炭片少しあり。

0 1:60 2m

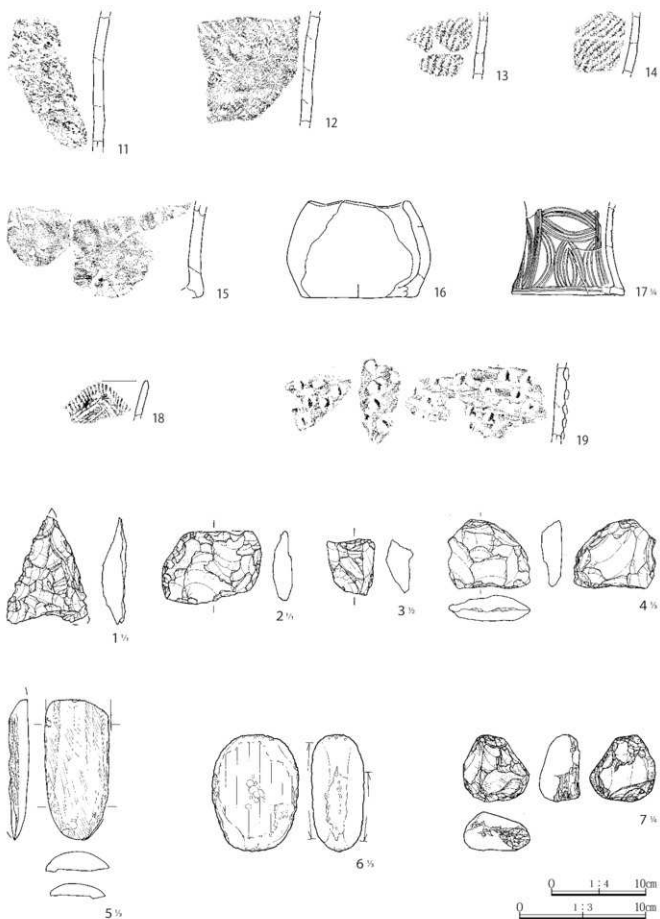
第61図 18号住居(2)



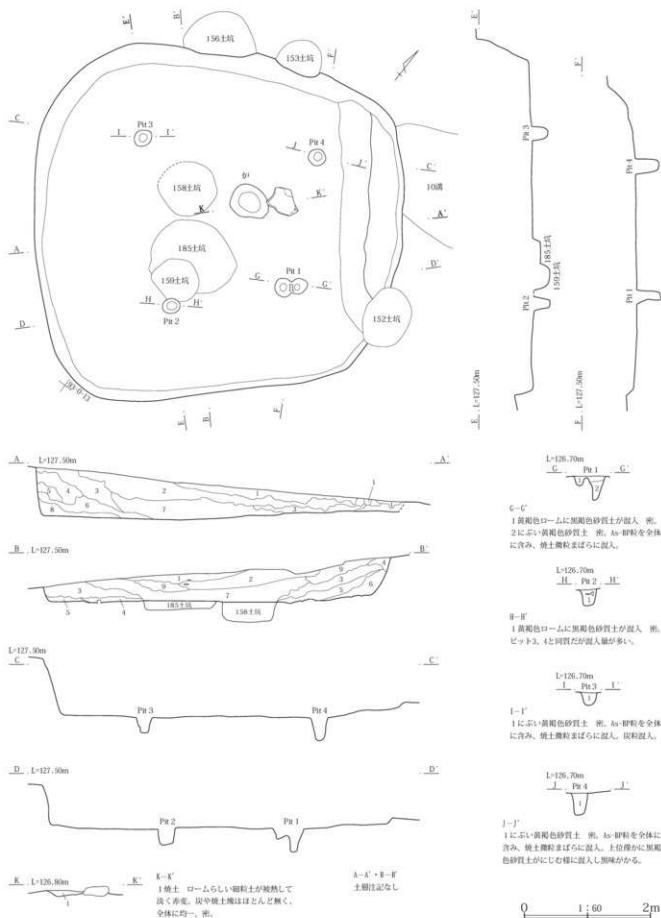
第62図 18号住居(3)



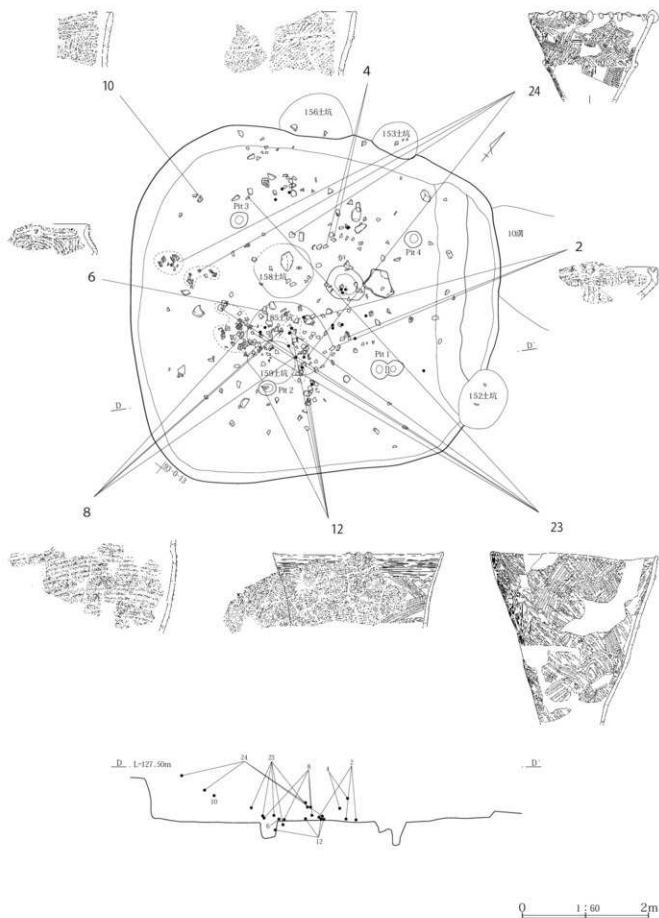
第63図 18号住居出土遺物(1)



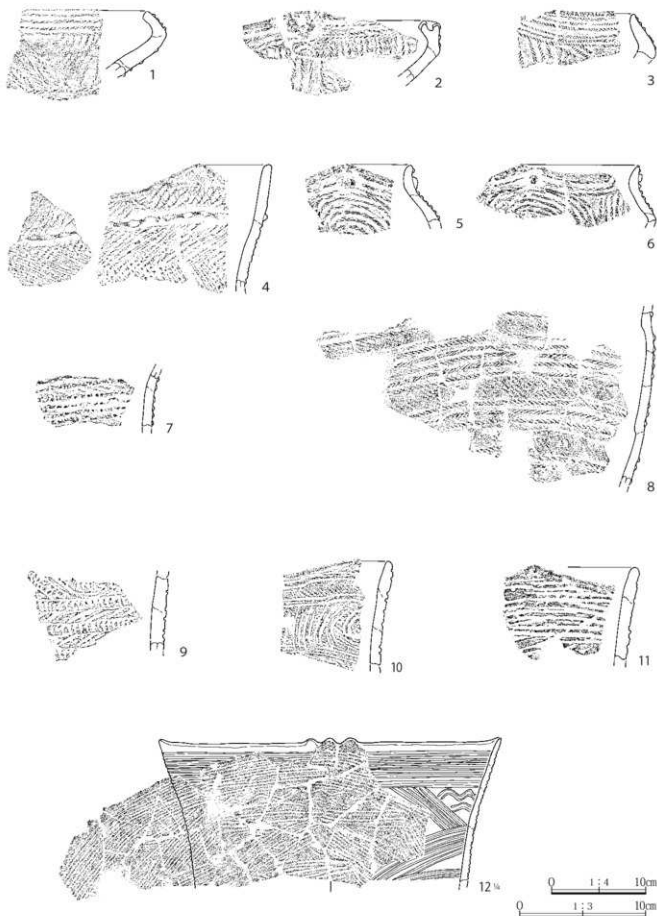
第64図 18号住居出土遺物(2)



第65図 19号住居 (1)

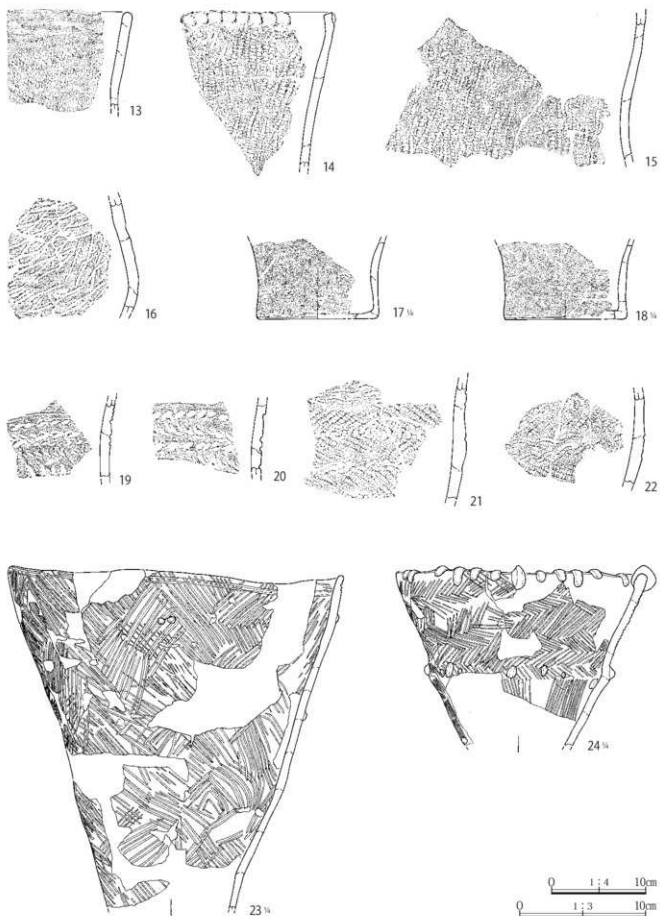


第66図 19号住居(2)



第67圖 19号住居出土遺物(1)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



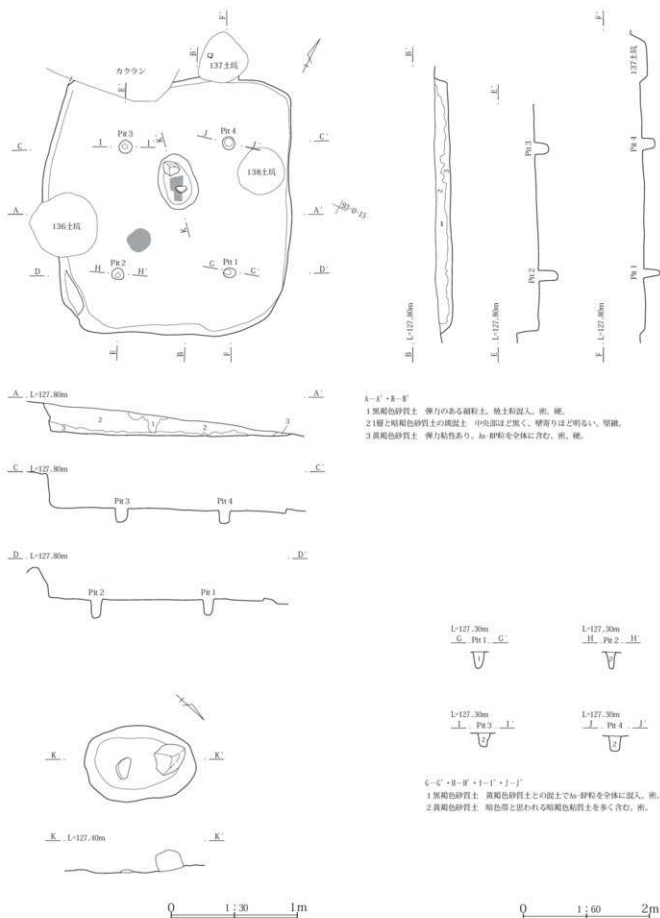
第68図 19号住居出土遺物(2)





第69图 19号住居出土遺物(3)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



A・D・E・F

- 1 黒褐色砂質土 弾力のある細粒土。粘土粘り強。粗。硬。
- 2 1層と暗褐色砂質土の混成土 中央部ほど深く、硬着りほど弱い。堅硬。
- 3 黄褐色砂質土 弾力粘性あり。60-80粒を全体に含む。粗。硬。

L-127.30m  
G, Pr 1, G'



L-127.30m  
H, Pr 2, H'



L-127.30m  
I, Pr 3, I'



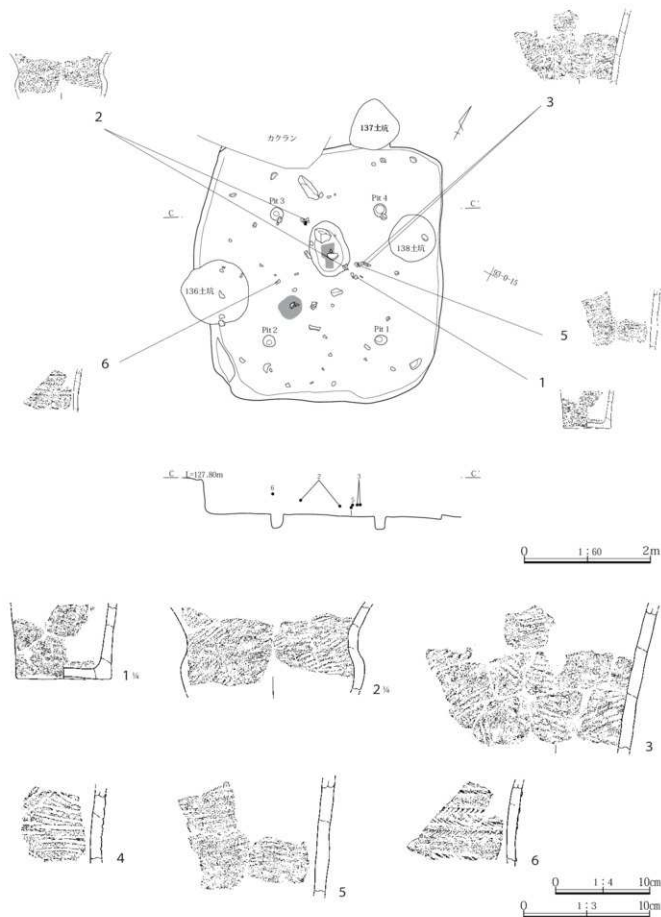
L-127.30m  
J, Pr 4, J'



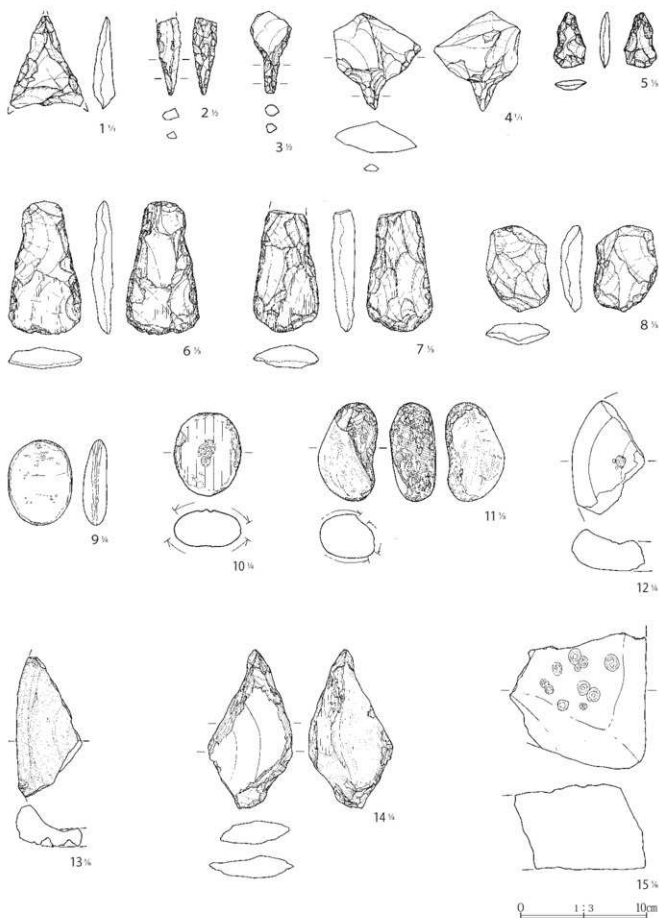
G・G'・H・H'・I・I'・J・J'

- 1 黒褐色砂質土 黄褐色砂質土との混成土で60-80粒を全体に混入。
- 2 黄褐色砂質土 褐色帯と思われる暗褐色粘質土を多く含む。粗。

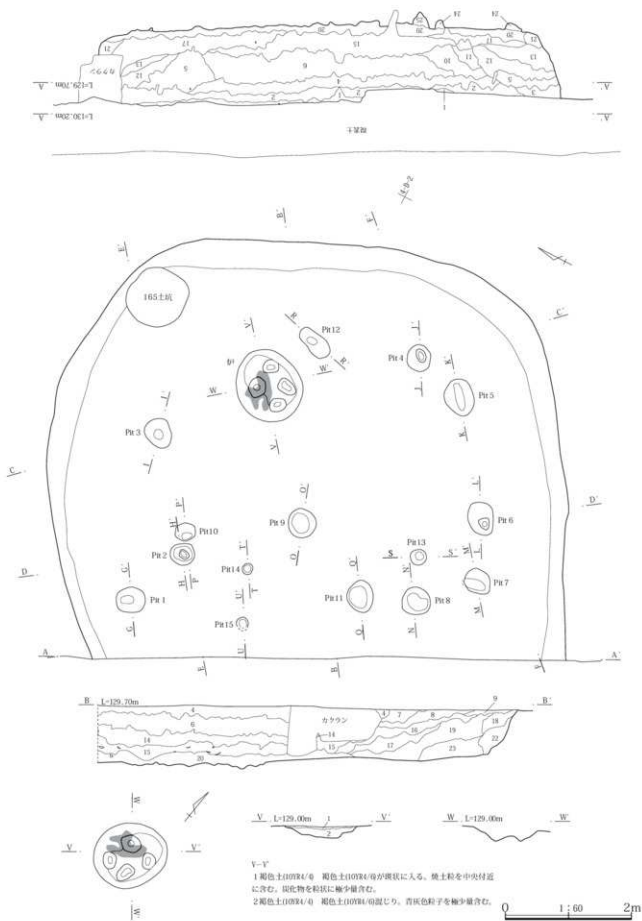
第70図 20号住居(1)



第71図 20号住居(2)

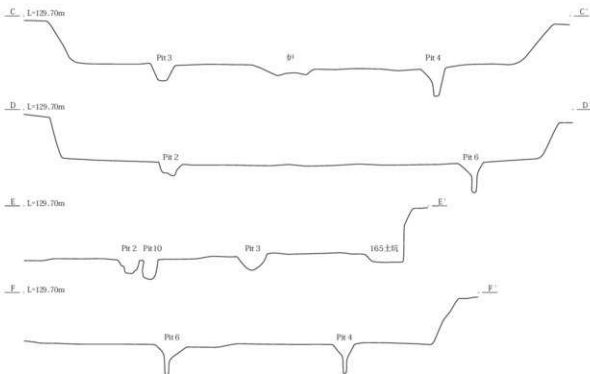


第72図 20号住居出土遺物



第73図 23号住居(1)

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

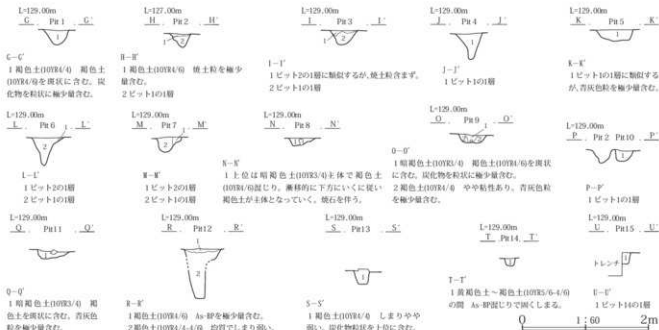


A-A'・B-B'

- 1 黒色土(00YR2/3) 黒褐色土(00YR2/3)が填状に入る。白色粒子を極少量含む。礫混。
- 2 黒色土(00YR2/1) 黒褐色土(00YR2/3-3)が填状に入る。1層に類似するが、より黄色味を帯びた。
- 3 褐色土(00YR4/6)と暗褐色土(00YR3/3)の混土。しまりや中強。
- 4 1層に類似するが、やや黄色味帯びる。灰色味は、6層と層の間に。白色-黄白色軽石粒を均一に少量含む。
- 5 黒褐色土(00YR2/3) 暗褐色土(00YR3/6)が填状に入る。白色-黄白色軽石粒を少量含む。
- 6 黒色土(00YR2/3) 4層より灰色味帯びる。礫混。白色-黄白色軽石粒を均一に少量含む。
- 7 黒褐色土(00YR2/2)と(00YR2/3)の混土 白色-黄白色軽石粒を少量含む。
- 8 黒褐色土(00YR2/2) 褐色土(00YR4/6)が填状に入る。特に周縁部は褐色土が主体となる。
- 9 褐色土(00YR4/6) しまり強。
- 10 層に類似 含有物は層より多く含んでいる。
- 11 暗褐色土(00YR3/3)と黒褐色土(00YR2/2)の混土 白色-黄白色軽石粒を含む。
- 12 層より暗褐色土が多く填状に認められ、黄色味を帯びる。含有物は3層より多い。

13 暗褐色土(00YR4/6)と暗褐色土(00YR3/3)の混土 含有物は3層と同じ。

- 14 黒褐色土(00YR2/2) 黒褐色土(00YR2/3)が填状に入る。
- 15 黒褐色土(00YR2/2)と褐色土(00YR4/4-6)の混土 黄白色軽石粒を極少量含む。やや粘性有。
- 16 褐色土(00YR4/4-6)と暗褐色土(00YR3/6)の混土 白色-黄白色粒子を極少量含む。
- 17 褐色土(00YR4/4)主体 暗褐色土(00YR3/6)混じりだが、16層ではない。18褐色土(00YR4/4-6) 黄褐色土(00YR5/6)が填状に入る。白色-黄白色粒子を均一に少量含む。As-砂を極少量下に含む。
- 19 褐色土(00YR4/4-6) 褐色土(00YR4/6)が填状に全体的に認められる。17、22層より灰色味帯びる。Ag-砂(小)混り有り。
- 20 褐色土(00YR4/4)主体 暗褐色土(00YR3/6)混じり。やや粘性あり。床面はより固く、粘性がある。
- 21 褐色土(00YR4/6) 暗褐色土(00YR3/6)が少量混じる。As-砂混り。固くしまる。
- 22 褐色土(00YR4/6) やや粘性あり。
- 23 暗褐色土(00YR4/6) 黄褐色土(00YR5/6)が填状に全体的に認められる。灰色粒子を極少量含む。
- 24 1層に類似
- 25 ローム層暗褐色土に類似し、やや褐色味あり。



G-C'

- 1 褐色土(00YR4/6) 褐色土(00YR4/6)を填状に含む。炭化物を軽石に極少量含む。

H-B'

- 1 褐色土(00YR4/6) 焼土粒を極少量含む。
- 2 ビット1の1層

I-I'

- 1 ビット2の1層に類似するが、焼土粒含まず。
- 2 ビット1の1層

J-J'

- 1 ビット1の1層

K-K'

- 1 ビット1の1層に類似するが、黄灰色粒を極少量含む。

L-L'

- 1 ビット2の1層
- 2 ビット1の1層

M-M'

- 1 ビット2の1層
- 2 ビット1の1層

N-N'

- 1 上位は暗褐色土(00YR3/4)主体で褐色土(00YR4/6)混じり。礫層的に下方にいくに従い、暗褐色土が主体となっていく。焼石を伴う。

O-O'

- 1 暗褐色土(00YR3/4) 褐色土(00YR4/6)を填状に含む。炭化物を軽石に極少量含む。
- 2 褐色土(00YR4/6) やや粘性あり。黄灰色粒を極少量含む。

P-P'

- 1 ビット1の1層

Q-Q'

- 1 暗褐色土(00YR3/4) 褐色土(00YR4/6)を填状に含む。黄灰色粒を極少量含む。

R-R'

- 1 褐色土(00YR4/6) As-砂を極少量含む。
- 2 褐色土(00YR4/4-6) 均質でしまり強。

S-S'

- 1 褐色土(00YR4/6) しまりや中強。炭化物を軽石に含む。

T-T'

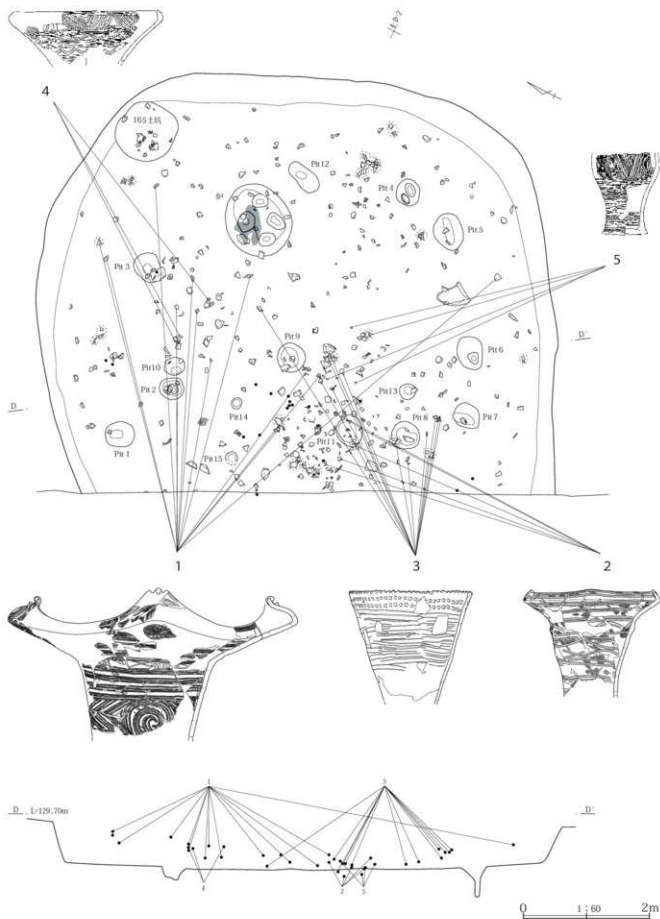
- 1 黄褐色土-褐色土(00YR5/6-4/6)の間 As-砂混りて固くしまる。

U-U'

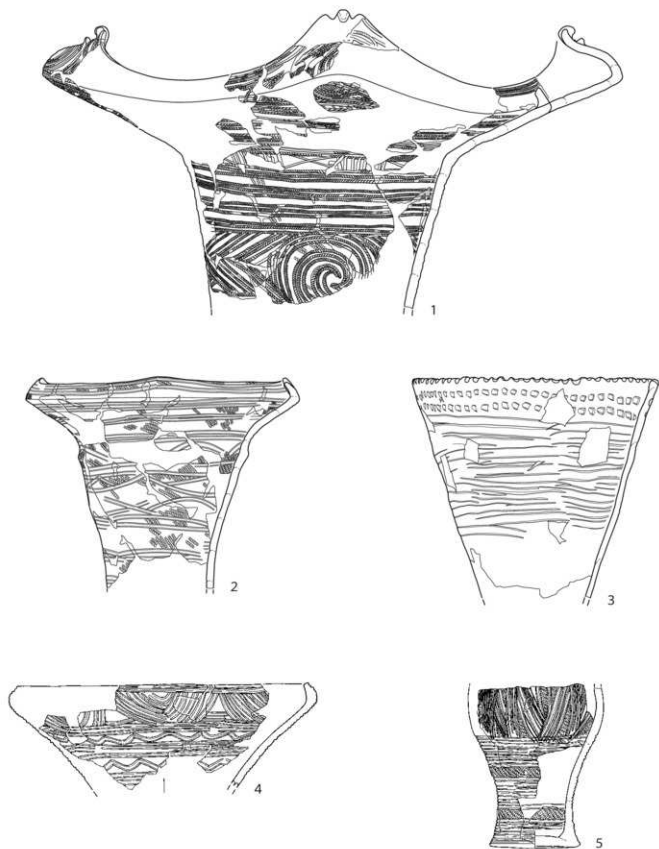
- 1 ビット1の1層

0 1:60 2m

第74図 23号住居(2)



第75図 23号住居 (3)



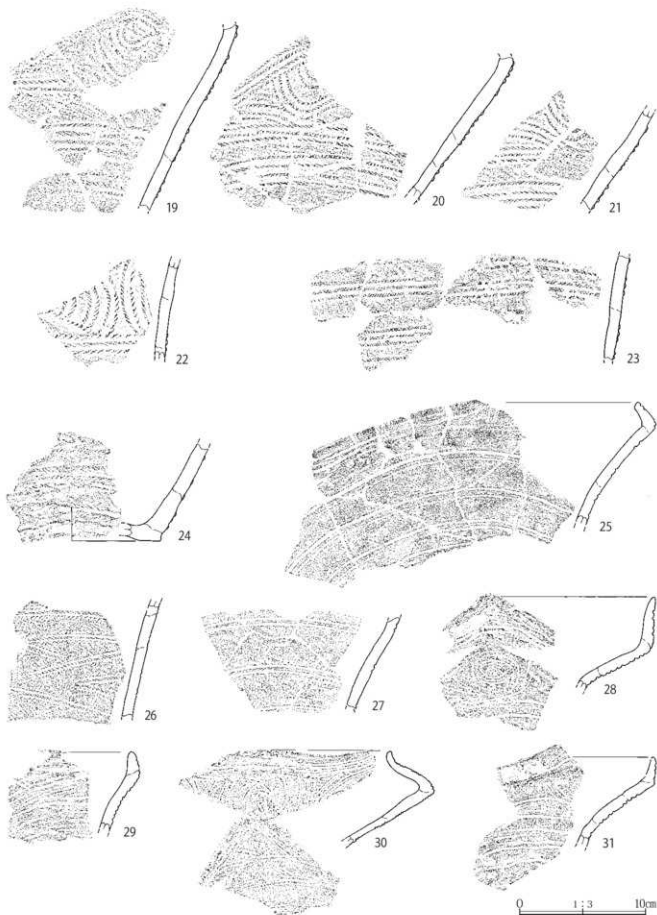
0 1:4 10cm

第76図 23号住居出土遺物(1)

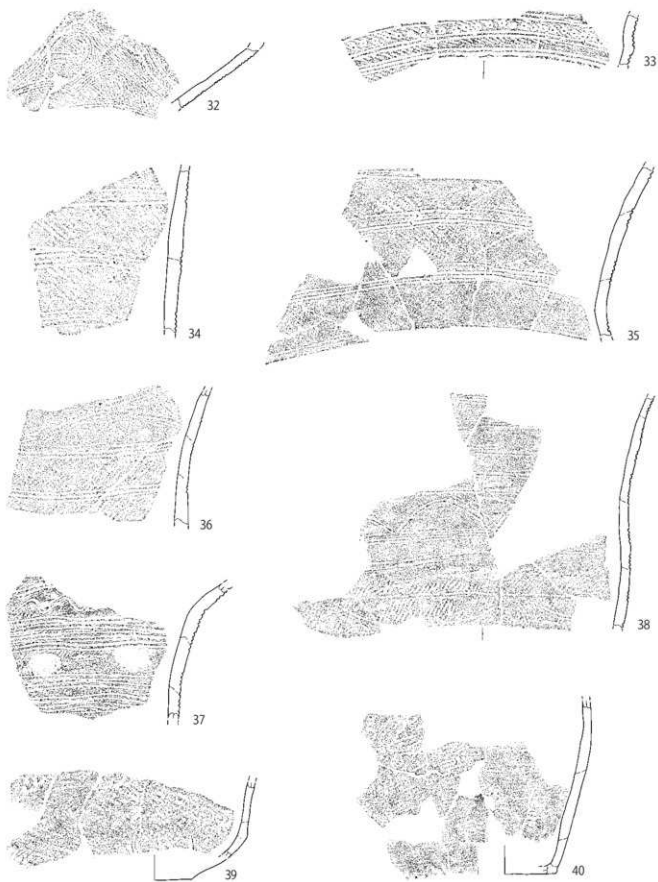




第77圖 23号住居出土遺物(2)



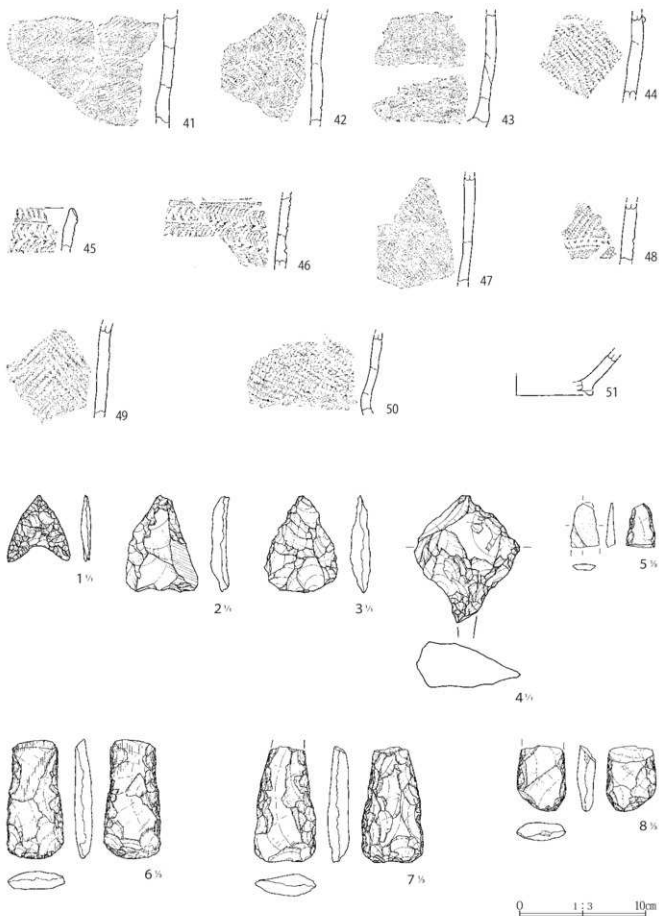
第78図 23号住居出土遺物(3)



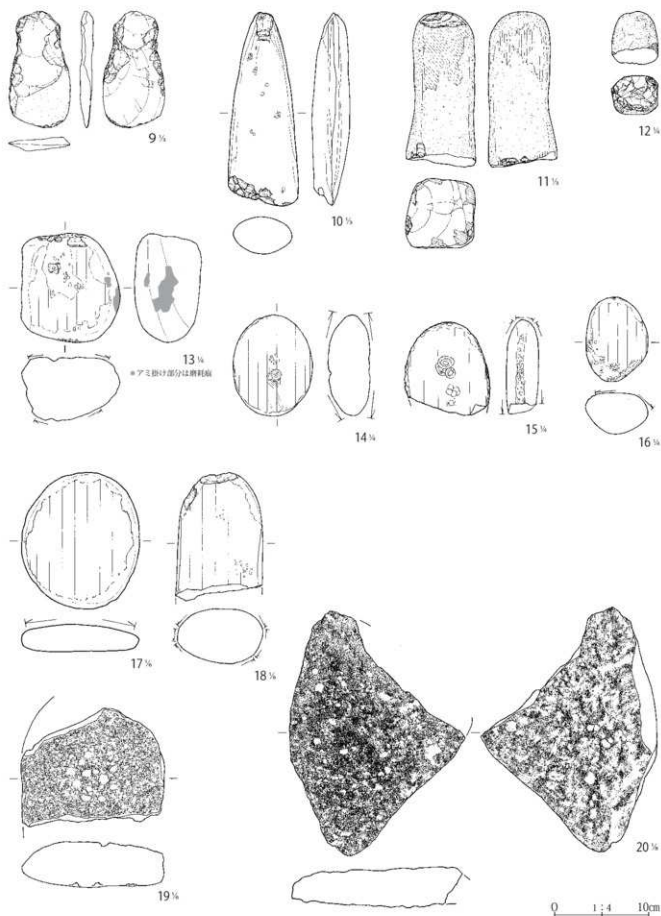
0 1:3 10cm

第79図 23号住居出土遺物(4)

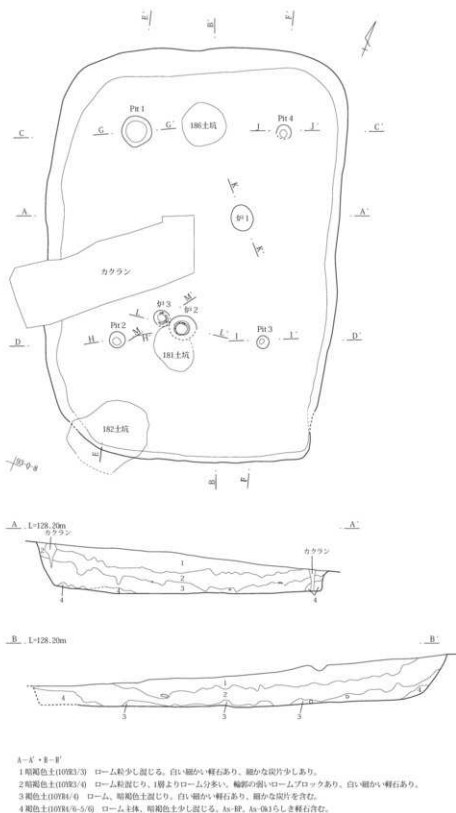
第4章 縄文時代の遺構と遺物



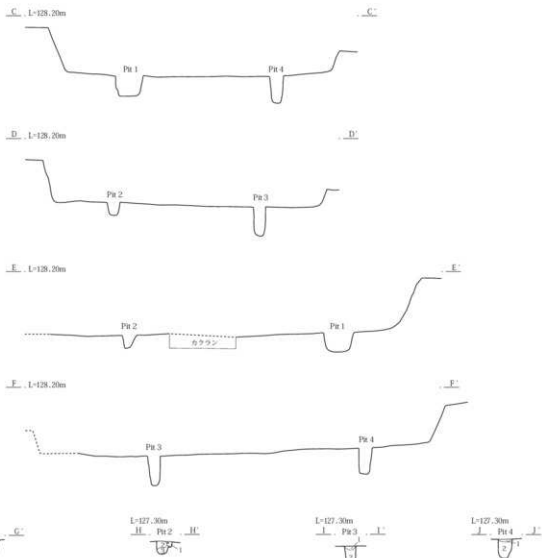
第80図 23号住居出土遺物(5)



第81図 23号住居出土遺物(6)



第82図 25号住居(1)



C-C'

1 褐色土(00R3/4-3/0) 暗褐色土、ローム状じり、細かな炭片あり、白い細かい軽石あり。

2 褐色土(00R3/4-4/0) 暗褐色土、ロームまじり、白い細かい軽石わずかにあり。

H-H'

1 暗褐色土(00R3/4-4/0) ローム状じり、白い細かい軽石あり、細かな炭片あり、焼土粒少しあり。

2 暗褐色土(00R3/4-4/0) ローム粒状じり、1層よりやや明るいローム分多い、白い細かい軽石あり。

3 褐色土(00R4/0) 暗褐色土、ローム粒状じり、2層よりローム分多い、2層のような軽石ほとんど無し。

I-I'

1 暗褐色土(00R3/0) ローム粒状じり、白い細かい軽石あり、細かな炭片少しあり。

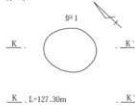
2 暗褐色土(00R3/4-4/0) ローム粒状じり、白い細かい軽石1層より少ない。

J-J'

1 褐色土(00R4/0) 暗褐色土、ローム粒状じり、白い細かい軽石あり、細かな炭片少しあり。

2 褐色土(00R3/4-4/0) 暗褐色土、ローム状じり、1層のような軽石は輪むずかにあり。

図1

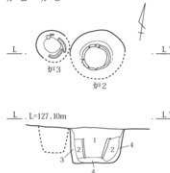


K-K'

1 暗褐色土(00R3/4-4/0) ローム状じり、焼土粒少し混じり赤味あり、小さな炭片少しあり、白い細かい軽石あり。

2 褐色土(00R4/0) 暗褐色土、ロームまじり、白い細かい軽石あり、2層成下の土。

図2・図3



L-L'

1 褐色土(00R4/4-3/0) 暗褐色土、ローム状じり、細かな炭片を多く含む、焼土粒少しあり、白い細かい軽石あり。

2 褐色土(00R4/0) 暗褐色土、ローム状じり、白い細かい軽石層より少ない、炭片少しあり。

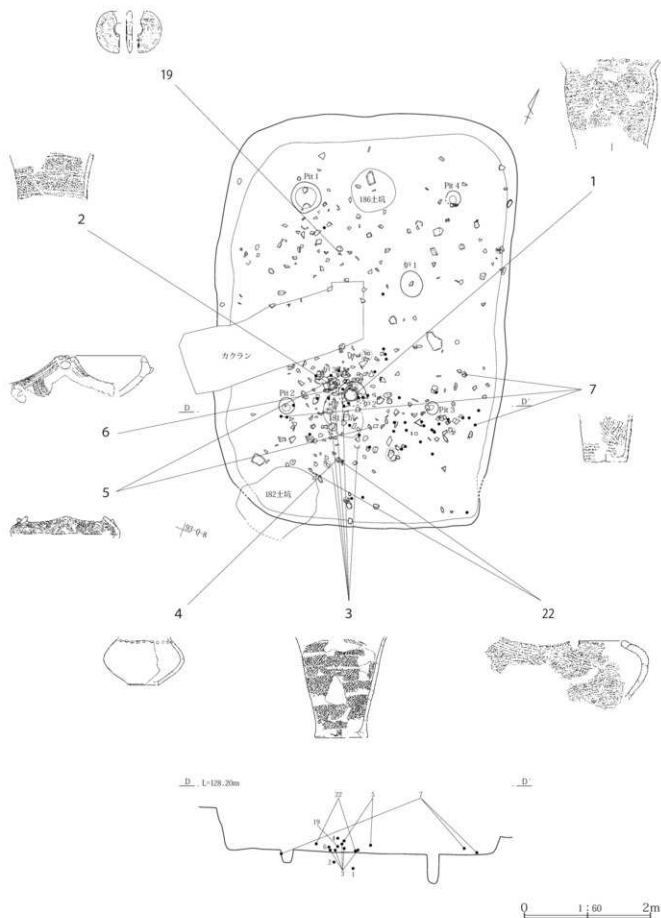
3 褐色土(00R4/4-3/0) 暗褐色土、ローム状じり、白い細かい軽石あり、1層に近い状況、焼土は少ない。

4 暗褐色土(00R3/4-4/0) ローム状じり、白い細かい軽石あり、細かな焼土粒少し含む。

0 1:60 2m

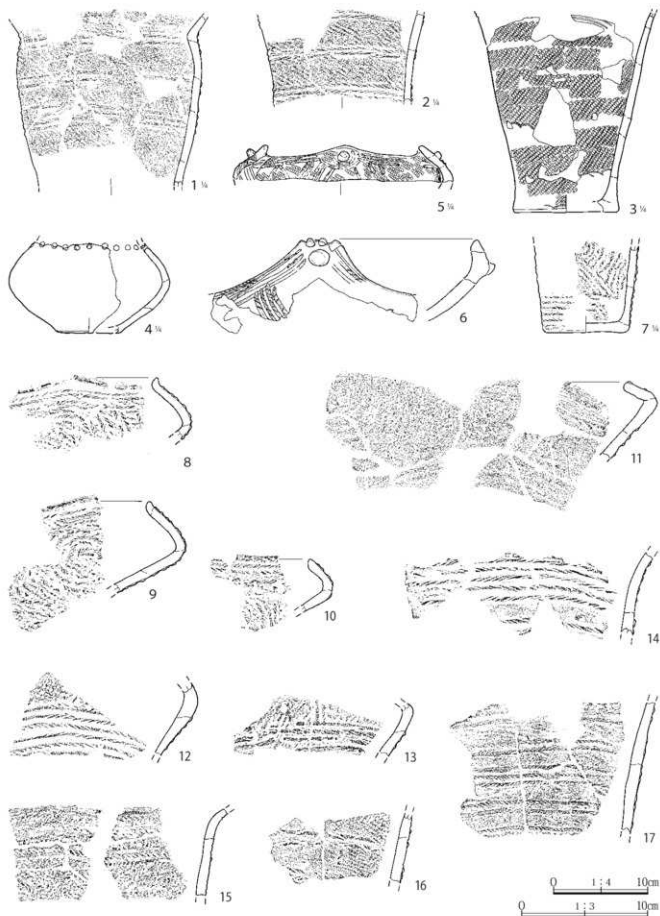
0 1:30 1m

第83図 25号住居(2)



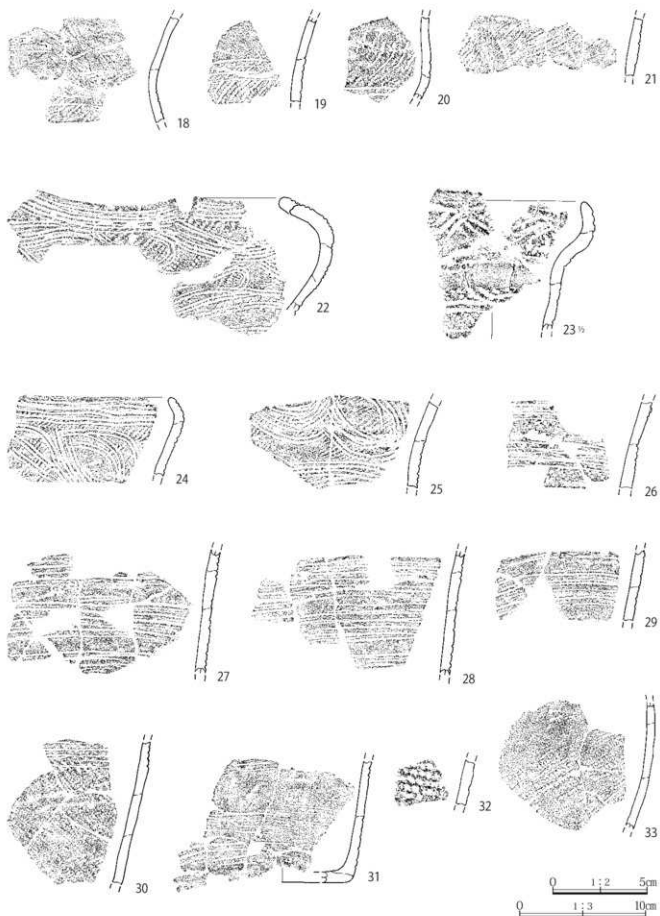
第84図 25号住居(3)



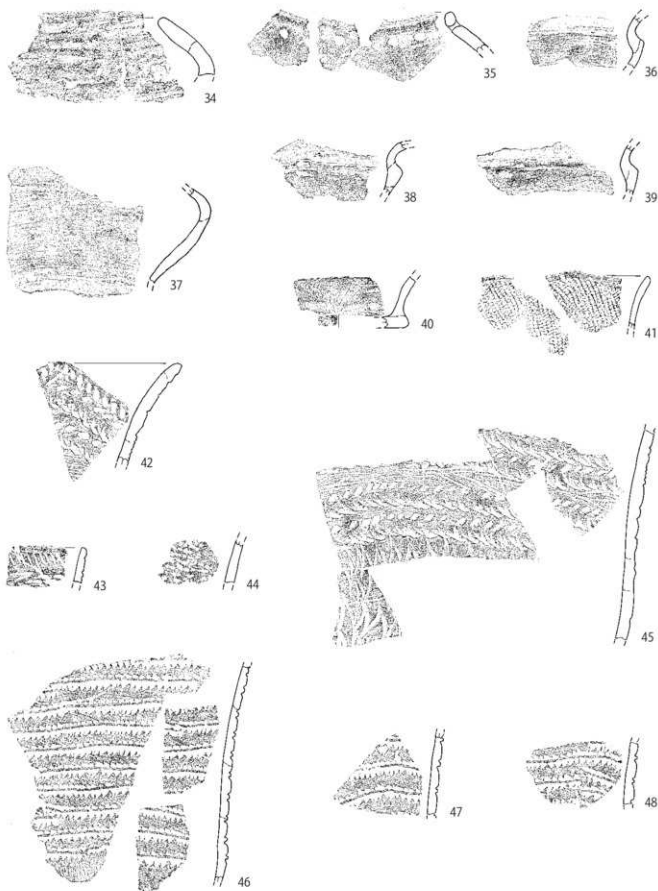


第85图 25号住居出土遺物(1)

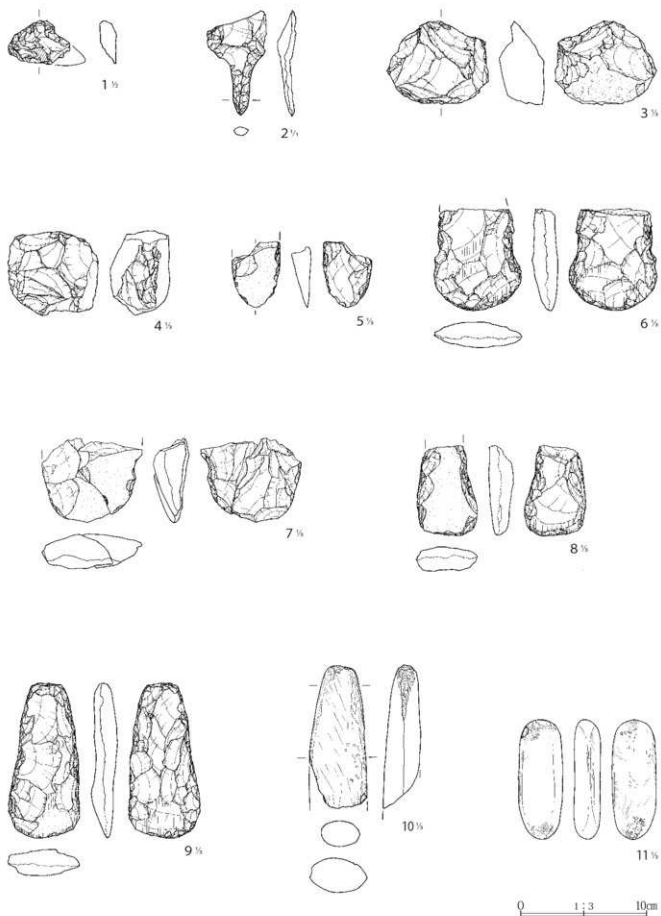
第4章 縄文時代の遺構と遺物



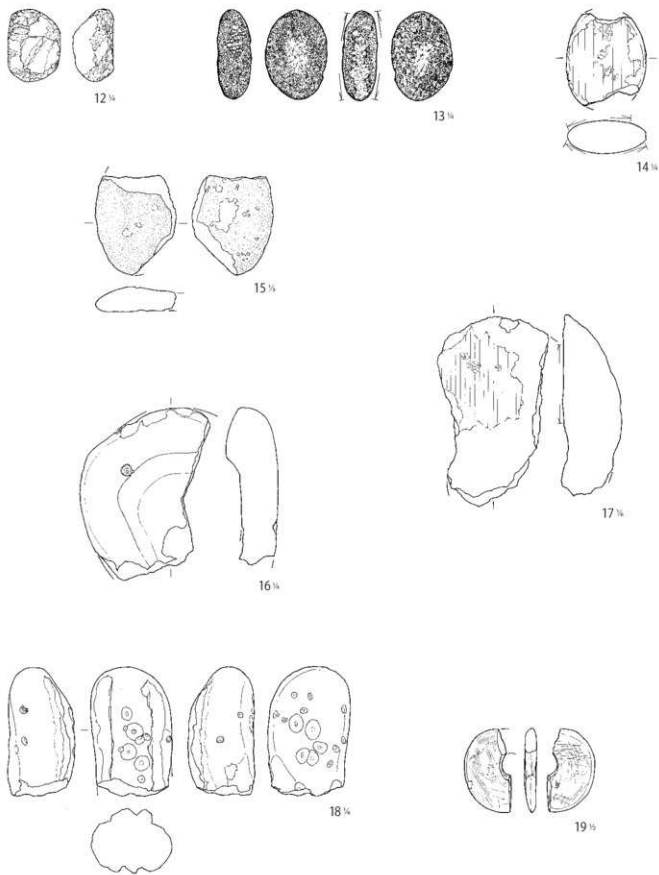
第86図 25号住居出土遺物(2)



第87図 25号住居出土遺物(3)



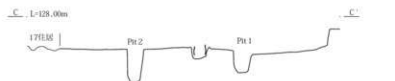
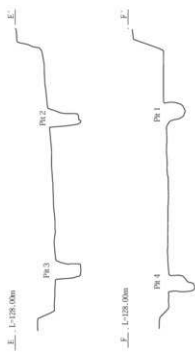
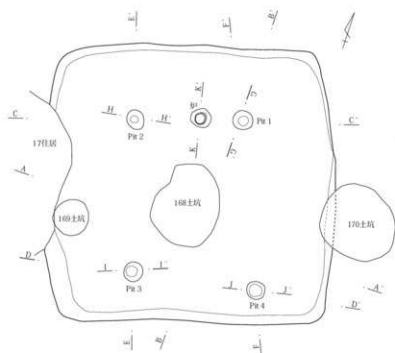
第88図 25号住居出土遺物(4)



0 1:4 10cm

第89图 25号住居出土遺物(5)

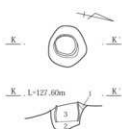
第4章 縄文時代の遺構と遺物



6-C' 1 褐色土(003E/4-3/0) 暗褐色土、ローム混じり。白い細かい軽石少しあり。  
2 褐色土(003E/4-3/0) 暗褐色土、ローム混じり。白い細かい軽石(層)より多い。細かい破片少しあり、やや軟。

8-B'-1'-1'-1'-1' 1 褐色土(003E/4-3/0) 暗褐色土、ローム混じり。白い細かい軽石あり。  
2 褐色土(003E/4/0) 暗褐色土、ローム混じり。1層よりローム分が多い。白い細かい軽石少しあり。

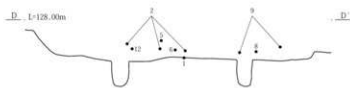
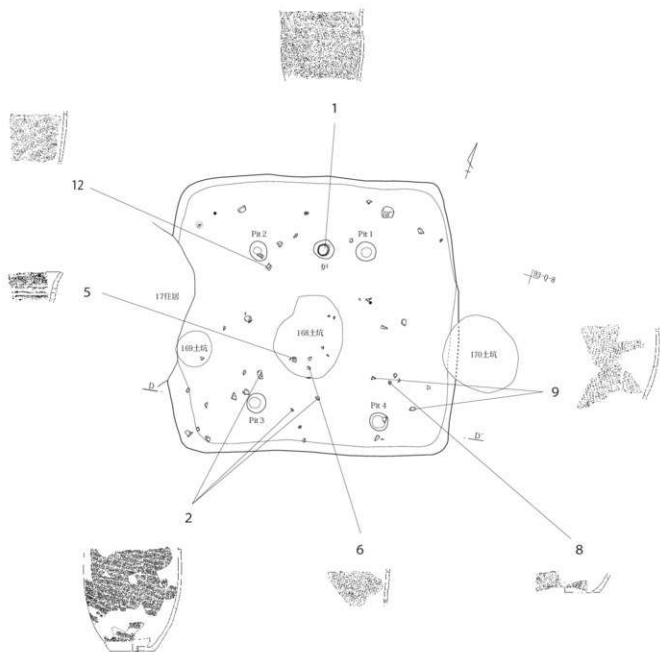
0 1:60 2m



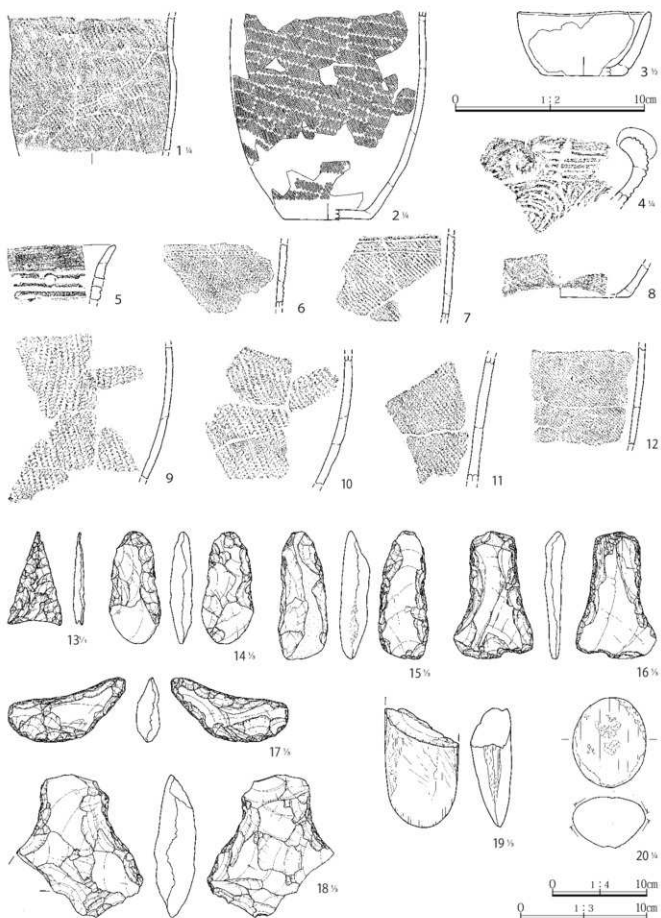
K-K' 1 褐色土(003E/4-4/0) ローム混じり。ロームブロックあり。白い細かい軽石少しあり。細かい破片少しあり。焼土はほとんど見られない。  
2 褐色土(003E/4-3/0) 暗褐色土、ローム混じり。白い細かい軽石はわずか。破片、焼土もほとんど見られない。  
3 暗褐色土(7.5YR/0) ローム混じり。細かな焼土粒を含むように少し赤味のある土。白い細かい軽石あり。細かい破片少しあり。

0 1:30 1m

第90図 31号住居(1)



第91图 31号住居(2)



第92図 31号住居出土遺物



## 第3節 土坑

### 1. 概要

縄文時代の土坑は、計208基を検出した。

土坑の構築時期については、縄文時代前期の黒浜式期、諸磯a式期、諸磯b式期の複数の時期にわたって累積して構築されたもので、このうち諸磯b式期に構築されたものが最も多いと判断した。

検出された土坑は、平面形状が円形で断面形状が円筒形を呈するものが主体であった。礫を伴う集石土坑は検出されなかった。なお、ここで取り上げた土坑は、人為的な遺構と判断して調査されたものである。ただし、平面形状や断面形状が不整形なものに関しては、整理作業段階で図面や写真等を再検討した。この結果、人為的に掘り込まれた土坑ではなく、根痕やシミを誤認した可能性の方が高いと判断した。また、縄文時代の可能性が低いと推定される土坑も存在した。ただし、ここではこれらについても遺構から除外せず、土坑として扱った。

### 2. 土坑の分布 (第95図・付図1)

土坑の分布については、竪穴住居の周辺部に集中し、竪穴住居から離れるにしたがい希薄となる傾向が見られた。全体的にはX=45080以南に多く分布し、これより以北では分布は希薄であった。

特に土坑が多く分布する範囲として、次の①～⑤の5ヶ所が識別できる。

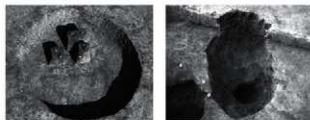
- ①：10号住居周辺部のX=45045～45085、Y=-63300～-63310の範囲。
- ②：7号・8号・14号・15号住居周辺部のX=45010～45030、Y=-63295～-63315の範囲。
- ③：23号住居周辺部のX=44995～45010、Y=-63310～-63320の範囲。
- ④：19号・20号住居周辺部のX=44955～44975、Y=-63265～-63280の範囲。
- ⑤：18号・25号・31号住居周辺部のX=44925～44945、Y=-63265～-63285の範囲。

土坑は、竪穴住居の周辺部に構築されているものや竪穴住居の中、竪穴住居の壁際に構築されているものも見られた。したがって、土坑の構築場所の選定には竪穴住居の位置が関連していることが指摘できる。また、竪穴

第6表 土坑の平面形状別・断面形状別数量

平面形状	計	%
円形	137	65.9%
楕円形	59	28.4%
長楕円形	1	0.5%
不整形	10	4.8%
不明	1	0.5%
総計	208	100%

断面形状	計	%
円筒状	105	50.5%
皿状	57	27.4%
掘鉢状	31	14.9%
袋状	12	5.8%
不整形	3	1.4%
総計	208	100%



円形 (201号土坑)

楕円形 (34号土坑)

第93図 土坑の平面形状

住居の構築時期と土坑の構築時期は相互に近接した時間幅の中にあると考えられる。このことから、土坑は竪穴住居の付随施設として竪穴住居の周辺部に構築され、貯蔵穴やごみ穴として利用された可能性が推測される。

### 3. 土坑の形状 (第6表、第93・94図、PL.25～37)

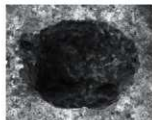
#### (1) 平面形状 (第6表、第93図)

平面形状は、円形、楕円形に分類した。このいずれにも該当しないものを不整形とした。また、他の遺構に切られているため、平面形状が判断できないものは不明とした。分類に際しては平面図(1/20)を利用した。

この結果、円形が137基(65.9%)で最も多く、次に楕円形が59基(28.4%)、長楕円形が1基(0.5%)、不整形で10基(4.8%)、不明が1基(0.5%)であった。円形・楕円形・不整形以外の形状(正方形・長方形、隅丸方形など)の土坑は確認できなかった。



円筒状 (196号土坑)



擂鉢状 (42号土坑)



皿状 (94号土坑)



袋状 (199号土坑)

第94図 土坑の断面形状 (完掘状態)

(2) 断面形状 (第6表・第94図)

断面形状は、円筒状、擂鉢状、皿状、袋状、不整形の5種類に分類した。分類に際しては、土層セクション図(1/20)を利用した。

①円筒状

底面が概ね平坦あるいは丸みを持ち、壁が垂直に立ちあがるもの。

②擂鉢状

底面が平坦で、壁が斜めに立ち上がるもの。底面が平坦ではなく、丸みを持つ椀状のものも擂鉢状に含めた。

③皿状

底面に擂鉢状よりも広い平坦面を持ち、壁が斜めに立ち上がるもの。擂鉢状よりも掘り込みが浅く、壁の立ち上がりの角度が概ね45°以下のものが相当する。

④袋状

底面あるいは壁面が開口部よりもオーバーハングして掘り込まれたもの。フラスコ状も含む。

⑤不整形

底面が平坦ではなく凹凸が見られるもの、壁の立ち上がりが左右対称でないものなど。

このように、断面形状別に分類して観察すると、円筒形が105基(50.5%)で最も多く、次に皿状が57基(27.4%)、擂鉢状が31基(14.9%)、袋状が12基(5.8%)、不整形が3基(1.4%)であった。

(3) 小結

平面形状、断面形状を分類して検討した結果、上泉唐ノ堀遺跡で検出された縄文時代の土坑は、平面形状が円形、断面形状が円筒状を呈する土坑が主体的に構築されていたことがわかった。

4. 土坑の規模・掘削深度 (第96図)

第96図は、土坑の規模を平面形状別にして示した散布図・数量図(上段)と掘削深度を断面形状別にして示した散布図・数量図(下段)で、構築された土坑の大きさ及び深さを概観した図である。

(1) 規模(長軸・短軸)

検出された土坑の平面的な規模を把握するため、長軸と短軸を計測した。平面図(1/20)をもとに計測し、5cm単位で示した。

円形では長軸30cmから200cmで、200cmを超えるものは1基だけであった。楕円形でも円形と同様の大きさで、200cmを超えるものは2基のみであった。土坑の規模と平面形状には明確な違いはなく、円形・楕円形の土坑はともに長軸が60cmから160cm程度の大きさを中心としていることが判明した。

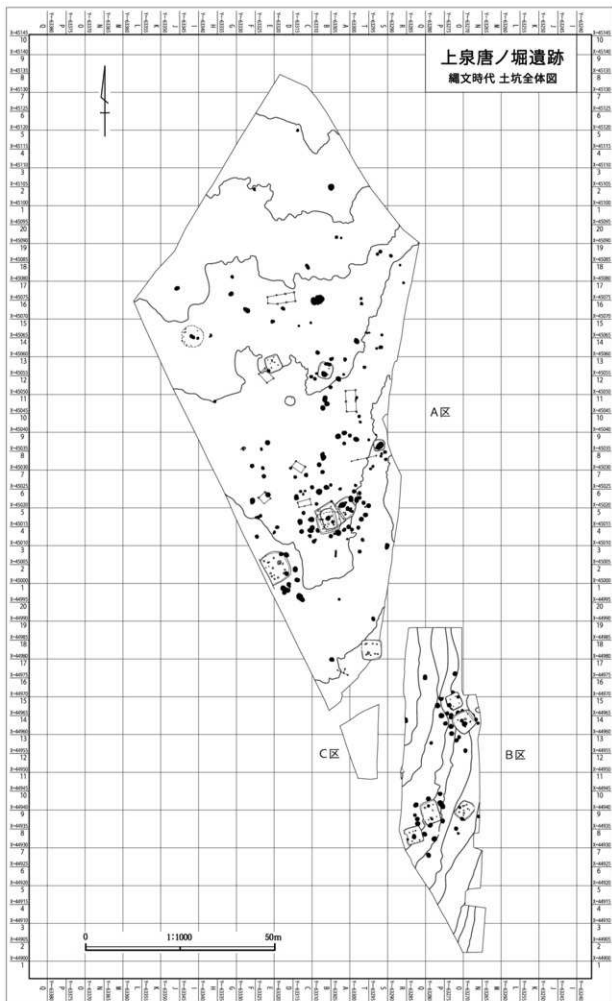
(2) 掘削深度

掘削深度は、遺構確認面からの掘り込みの深さを計測したものである。セクション図(1/20)をもとに最も深い位置を掘削深度として計測し、5cm単位で示した。

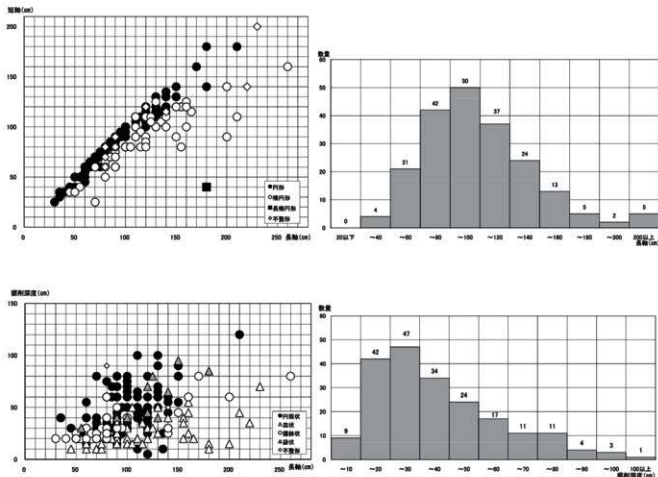
なお、掘削深度は当時の生活面(旧地表面)から掘り込まれた実際の深さを正確に示したのではなく、あくまでも遺構確認面から測定した値である。特に、上部が他の遺構で切られている土坑や遺構確認面が深くなった場所で検出された土坑は、構築後の改変を受けたことにより掘削深度が浅くなったもので、本来の正確な掘削深度を示してはいない。旧地表面(当時の生活面)からの掘削深度は少なくともここに示した計測値よりも深くなることは確実であるので、構築当時の土坑の掘削深度を推定する際にはこの計測値に上乘させた数値を見積もっておくことが必要である。

いずれの断面形状でも掘削深度が100cmを超えるものは少なく、ほとんどが100cm以下であった。

円筒状は他の形状に比べて掘削深度が深くなる傾向があるが、それでも100cm以下のものがほとんどであった。



第95図 縄文時代全体図(土坑・配石・掘立柱建物・欄列)



第96図 土坑の規模・掘削深度

30cm以下の浅いものもあるが、これらの多くは遺構確認面が下がったり、土坑上部が他の遺構で切られたりして浅くなったものである。袋状の掘削深度も円筒状と同じような深さである。一方、皿状は他の形状に比べて掘削深度は浅い。

#### 5. 土坑の出土遺物 (第115～128図、PL.58～66)

土坑からの主な出土遺物は、土器、石器類、石製品、礫である。他に炭化物が検出され、分析を実施したものもある(第7章参照)。

以下、土坑の出土遺物について説明する。

##### (1) 土器 (第7・14～18表)

土坑出土の縄文土器については、第7・14～18表に示した。また、各土坑から出土した土器の属性については、遺物観察表に示した。

計208基の土坑からは、総計971点の縄文土器が出土した。このうち、土器が出土した土坑は計111基、出土し

なかった土坑は計97基であった。検出された土坑全体のうち約半分の土坑は土器の出土が確認できなかった。

土器が出土した計111基の土坑についても、出土数量は1点から10点が81基、11点から20点が19基、21点から30点が5基、31点以上が6基であり、10点以下と少ない出土数量の土坑が大半を占めている。比較的多くの土器が出土した土坑として、21号土坑の76点、44号土坑の47点、57号土坑の36点、197号土坑の46点があげられる。

土坑から出土した土器をすべて一括して、型式別に見ると、黒浜式が230点、諸磯a式が96点、諸磯b式が597点、浮島・興津式が21点、その他が27点であった。その他にはわずかに加曾川E式が確認された。先述したように、土坑出土土器に諸磯c式は確認できなかった。

21号土坑、44号土坑、110号土坑では、黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、浮島・興津式が混在して出土した。各土坑とも諸磯b式が最も多かった。36号土坑、57号土坑、84号土坑、145号土坑では、諸磯b式だけであった。122号土

第7表 土坑出土土器の型式別点数

	黒浜	諸磯 a	諸磯 b	浮島 興津	その他	合計
点数	230	96	597	21	27	971

坑、188号土坑、201号土坑では、黒浜式だけであった。171号土坑では、諸磯 a 式だけであった。13号土坑では、黒浜式、諸磯 a 式、諸磯 b 式に混在して加曾利 E 式が出土していた。

一方、土器の出土しなかった土坑の構築時期については明確な決定が困難であるが、土器が出土した土坑覆土と堆積土層が共通していることや、竪穴住居や土坑との切り合い関係、竪穴住居周辺への分布状況、出土した石器類から見て、構築時期はこの土器型式の範囲に相当する可能性が高いといえる。

土坑出土の土器型式の範囲は、竪穴住居出土の土器型式の範囲とほぼ一致し、また諸磯 b 式を主体としている点も一致している。このことから、土坑と竪穴住居は同一時期に構築された可能性が高いといえる。

## (2) 石器類 (第19・20表)

### ① 剥片系石器

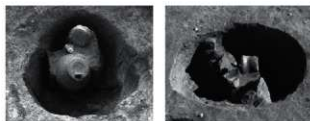
土坑出土の剥片系石器は、総数795点、総重量約11,500gである。石鎌や石匙、打製石斧、磨製石斧の出土が確認されたが、大部分は剥片であった。詳細は第19・20表に示した。

20点以上の石器が出土した土坑として、17号・21号・44号・78AB号・90号・112号・170号・203号土坑がある。

21号土坑では、黒浜式、諸磯 a 式、諸磯 b 式、浮島・興津式の土器 (主体は諸磯 b 式) に併せて計53点の石器 (主体は剥片) が出土した。44号土坑では、総数123点に及ぶ多量の石器が出土した。主体は剥片 (100点) であるが、他に石鎌5点、石匙1点、石鎌1点、打製石斧2点が出土した。剥片系石器以外にも礫石器3点、礫13点が出土した。諸磯 b 式を主体とした土器も出土した。90号土坑では、土器は2点 (諸磯 b 式) だけであったものの、計54点の石器 (主体は剥片) が出土した。112号土坑では、諸磯 b 式に併せて計44点の石器 (主体は剥片) が出土した。

### ② 礫石器

土坑出土の礫石器は、総数33点、総重量は約23,000g



57号土坑 (左)、88号土坑 (右)

である。詳細は第19・20表に示した。

礫石器が出土した土坑は計23基である。各土坑とも出土点数はすべて5点以下と少数であった。6点以上出土した土坑は確認できなかった。

### (3) 石製品

石製品は、16号土坑から1点、22号土坑から1点の計2点が出土した。16号土坑出土の石製品は、破損した滑石製の扶杖飾り、1点のみの出土であった。22号土坑出土の石製品は葉ろう石製であった。

### (4) 礫

土坑出土の礫は、総数144点、総重量は約178kgにも達した。19号土坑では、重量約48kgの大型礫が1点出土した。188号土坑では、計24点、計約7.6kgの礫が出土したが、集石と認定できるほどの密集度ではなかった。

### (5) 炭化物

17号、18号、32号、44号、47号、57号、89号土坑から炭化物が検出された。分析の結果、炭化物は炭化種火及び炭化材であることが判明した (第7章参照)。炭化種火については、オニグルミ、クリ、トチノキと判定された。炭化材については、一つはクリと判定され、もう一つはヤマグワの可能性が指摘された。

## 6. 土坑の用途の推定

土坑の用途に関しては、墓坑や貯蔵穴、陥穴、ごみ穴、さらにはこれらの用途の複合が推測される。土坑について1基ずつすべてに用途を特定していくことは困難であるが、土坑全体については次のようにまとめられる。

墓坑については、確実に墓坑と特定できた土坑はない。しかしながら、石製装身具が出土した土坑 (16号・22号土坑) や大型礫が出土した19号土坑に関しては墓坑の可能性も考慮しておく必要がある。

袋状や円筒形の土坑については、貯蔵穴としての用途が推測される。ただし、種実などその証拠となる遺物が

#### 第4章 縄文時代の遺構と遺物

土坑底面からまとまって出土した土坑は確認できなかった。このため、確実に貯蔵穴と特定できた土坑はないのが現状である。炭化種実が出土した17号・18号・89号土坑は、まとまった出土ではなかったため、分析結果では貯蔵穴ではなくごみ穴として推測された（第7章第1節参照）。18号土坑はまとまった量の炭化物は検出できなかったものの、平面形が円形・断面形が円筒形を呈し、土坑底面近くに炭化物が多かったという調査所見がある。この炭化物は、貯蔵された種実の残留物のわずかな痕跡を示す可能性があるため、18号土坑は貯蔵穴の可能性もあることを指摘しておきたい。

陥穴については、平面形状や底面の状態、掘削深度から判断して、検出された土坑にはないといえる。

また、21号土坑、57号土坑、88号土坑のように多量の土器が出土した土坑については、当初からごみ穴として掘削された土坑か、あるいは貯蔵穴として利用されていた土坑が途中でごみ穴に転用された可能性が推測される。特に、57号土坑のように覆土の中央部から完形状態に近い土器が出土した土坑は、埋没の途中でごみ穴に転用された可能性が考えられる。

#### 7. 土坑の構築時期の推定

土坑からの出土土器を一括した場合、黒浜式230点、諸磯a式96点、諸磯b式597点、浮島・興津式27点であった。このうち諸磯b式が最も多く、次いで黒浜式であった。諸磯c式はなかった。土坑からの出土土器の型式別出土量は竪穴住居の傾向とほぼ同じである。

このことから、土坑の構築時期は黒浜式から諸磯a式、諸磯b式までの複数の時期にわたると考えられる。また、諸磯b式の出土土坑が多いことから、諸磯b式期に構築された土坑が最も多いといえる。これは諸磯b式期の竪穴住居が多い点と同じである。

一方、土坑から諸磯c式は出土しなかった。このため、諸磯c式期になると今回の調査範囲内に土坑を構築すること、さらには諸磯c式土器を土坑内に廃棄することはなかったといえる。

上泉唐ノ堀遺跡では、黒浜式の時期に竪穴住居とともに土坑も構築されはじめ、やがて竪穴住居の構築が最盛期をむかえる諸磯b式の時期に、土坑の構築も最盛期を迎えたといえる。そして、諸磯c式の時期になると、今

回の調査範囲では土坑の構築は途絶える。しかし、諸磯c式土器は諸磯b式期の竪穴住居の覆土から出土しているため、諸磯c式期の竪穴住居及び土坑は、今回の調査範囲以外の別地点に構築された可能性が推測される。

#### 第4節 配石（第129図、PL.24・66）

配石を1基検出した。配石内から出土した土器から、時期は諸磯b式期と判断した。

**位置** A区4-F-8

**形状** 東西に長軸を持つ楕円形の掘り込みを検出。

**規模** 配石分布範囲は東西1.3m、南北1.0m。掘り込みは東西0.8m南北0.5m深さ0.15m。

**遺物** 掘り込みの中から配石構成礫とともに深鉢（諸磯b式）が検出された。配石構成礫には長径30cm程度の大礫礫が含まれていた。

**時期** 諸磯b式期

**備考** 配石構成礫の属性（大きさ、重量、石材など）に関しては不明。

#### 第5節 掘立柱建物・柵列

掘立柱建物が7棟、柵列が1基検出された。検出されたピットのうち、ピットの配置が正方形あるいは長方形の規格的になるものを掘立柱建物、ピットの配置がほぼ直線状で等間隔の配置となるものを柵列とした。

掘立柱建物・柵列は、ピット内の堆積土層から縄文時代に帰属するものと判断した。

掘立柱建物・柵列の構築時期に関しては、土器が出土しなかったため明確な判定は困難である。竪穴住居や土坑、包含層から出土した土器型式は、縄文時代早期の条痕文系、茅山式、前期の黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、諸磯c式、浮島式、興津式、中期の加曾利E式、後期の称名寺式であることから、掘立柱建物・柵列の構築時期もこれらの土器型式の時期と対応し、縄文時代早期から後期のいずれかの時期に構築された可能性が高い。このうち早期と後期の遺構は確認できなかったことからこの

時期の可能性は低い。さらに、窪穴住居や土坑は前期のものほとんどであることから、掘立柱建物・柵列も前期に帰属する可能性が高い。いずれにしても判断基準となる土器の出土がなかったため、ここでは掘立柱建物・柵列の構築時期は、縄文時代前期から後期の間のいずれかの時期で前期の可能性が高いと判断しておきたい。

#### 6号掘立柱建物 (第130図、PL.38)

**位置** A区94-A-16  
**形状** 東西に長軸を持つ長方形と推定される。  
**規模** 東西3.2m、南北1.3mと推定される。  
**柱穴** 6基のビットで構成されると考えられる。ビット1・ビット3に対応するビットは検出されなかった。  
**遺物** 検出されなかった。  
**時期** 堆積土層から縄文時代のものとして調査された。遺物がいないため詳細不明。

#### 10号掘立柱建物 (第130図、PL.38)

**位置** A区3・4-T・A-11・12  
**形状** 南北に長軸を持つ長方形。  
**規模** 南北4.0m、東西2.9m  
**柱穴** 6基のビットで構成される。  
**遺物** 検出されなかった。  
**時期** 堆積土層から縄文時代のものとして調査された。遺物がいないため詳細不明。

#### 13号掘立柱建物 (第131図、PL.38)

**位置** A区4-C・D・E-15・16  
**形状** 東西に長軸を持つ長方形。  
**規模** 長軸7.6m、短軸2.7m  
**柱穴** 8基のビットで構成される。東西4間、南北1間の規格である。1間の間隔は概ね2.4mであるが、西側のビット4とビット5のみ1.6mで他よりも狭くなる。  
**遺物** 検出されなかった。  
**時期** 堆積土層から縄文時代のものとして調査された。遺物がいないため詳細不明。

#### 16号掘立柱建物 (第131図、PL.38)

**位置** A区4-C-5  
**形状** 東西に長軸を持つ長方形。

**規模** 東西3.4m、南北1.6m

**柱穴** 6基のビットで構成される。

**遺物** 検出されなかった。

**時期** 堆積土層から縄文時代のものとして調査された。遺物がいないため詳細不明。

#### 17号掘立柱建物 (第132図、PL.38)

**位置** A区4-E-5  
**形状** 正方形  
**規模** 東西2.4m、南北2.4m  
**柱穴** 3基を検出したのみで、南東コーナーに相当するビットは検出されなかった。  
**遺物** 検出されなかった。  
**時期** 堆積土層から縄文時代のものとして調査された。遺物がいないため詳細不明。

#### 18号掘立柱建物 (第132図、PL.38)

**位置** A区4-C・D-6・7  
**形状** 東西に長軸を持つ長方形。  
**規模** 東西3.0m、南北1.8m  
**柱穴** 3基を検出したのみで、南東コーナーに相当するビットは検出されなかった。  
**遺物** 検出されなかった。  
**時期** 堆積土層から縄文時代のものとして調査された。遺物がいないため詳細不明。

#### 19号掘立柱建物 (第133図、PL.38)

**位置** A区4-E-11・12  
**形状** 南北に長軸を持つ長方形。  
**規模** 南北3.6m、東西2.2m  
**柱穴** 4基を検出。  
**遺物** 検出されなかった。  
**時期** 堆積土層から縄文時代のものとして調査された。遺物がいないため詳細不明。

#### 4号柵列 (第133図、PL.38)

**位置** A区4-S・T-7・8  
**形状** 直線状  
**規模** 東西7.3m  
**柱穴** 4基を検出。

**遺物** 検出されなかった。

**時期** 堆積土層から縄文時代のものとして調査された。遺物がないため詳細不明。

## 第6節 遺物集中部

縄文包含層調査の際に、遺物集中部を1ヶ所検出した。遺物集中部からは、土器が計163点、石器類（剥片系石器・礫石器・石製品・礫を含む）が計307点出土した。

**遺物集中部**（第134・135図、PL.66・67）

**位置** A区4-A～F-6～9。X=45025～45045、Y=-63295～-63325の範囲。この範囲内には竪穴住居の分布はなく、土坑の分布も希薄である。

**規模** 東西約30m、南北20m

**遺物** 土器163点、石器類307点（剥片系石器・石製品・礫石器・礫を含む）が出土した。

土器は型式別に見ると、縄文時代早期の茅山式1点、縄文時代前期の黒浜式56点、諸磯a式50点、諸磯b式40点、諸磯c式1点、浮島・興津式4点で、その他不明11点であった。

遺物集中部の出土土器は前期のものが圧倒的に多く、黒浜式・諸磯a式・諸磯b式を主体とする。

石器は剥片・砕片を主体とするものの、石鐮が8点、打製石斧が9点出土した。また、磨石や凹石、敲石などの礫石器も出土した。

剥片系石器を石器石材別に見ると、数量ではチャートが157点で53.6%を占める。以下、黒色頁岩が107点で36.5%、黒色安山岩が19点で6.5%であった。黒曜石はわずか3点1.0%であった。これ以外の石器石材はすべて1点以下であった。一方、重量では651.8g・12.9%で、重量比は大きく減少している。これはチャートでは石鐮や石匙などの小型石器を主体とし、黒色頁岩では打製石斧などの大型石器の割合が多いことを間接的に示している。

遺跡全体における剥片系石器の石器石材別数量比は、黒色頁岩が55.3%、チャートが11.8%であった。しかし、遺物集中部出土の剥片系石器に限定してみると、チャー

第8表 遺物集中部出土遺物

	土器	剥片系石器	石製品	礫石器	礫	合計
数量	163	293	1	10	3	470
重量(g)	—	5,066.4	66.5	5,172.5	152.7	10,458.0

第9表 遺物集中部出土土器（型式別）

茅山	黒浜	諸磯 a	諸磯 b	諸磯 c	浮島 興津	不明	総計
1	56	50	40	1	4	11	163

第10表 遺物集中部出土石器（器種別）

	数量	重量 (g)
石鐮	8	33.8
削器	5	185.3
楔形石器	2	14.5
加工痕ある剥片	19	459.1
使用痕ある剥片	9	277.3
石核	18	1,084.3
打製石斧	9	1,548.7
磨製石斧	1	14.8
剥片	98	1,272.0
砕片	124	176.6
石製品	1	66.5
凹石	1	550.0
多孔石	3	2,815.0
礫石	1	116.8
磨石	4	1,395.7
敲石	1	295.0
礫片	3	152.7
合計	307	10,458.0

第11表 遺物集中部出土剥片系石器（石器石材別）

	数量	%	重量 (g)	%
チャート	157	53.6%	651.8	12.9%
黒色頁岩	107	36.5%	2,655.1	52.4%
黒色安山岩	19	6.5%	621.6	12.3%
黒曜石	3	1.0%	13.5	0.3%
砂岩	1	0.3%	23.7	0.5%
細粒輝石安山岩	1	0.3%	50.7	1.0%
粗粒輝石安山岩	1	0.3%	1,020.0	20.1%
頁岩	1	0.3%	13.2	0.3%
変玄武岩	1	0.3%	14.8	0.3%
不明	2	0.7%	2.2	0.04%
合計	293	100%	5,066.6	100%



トが53.6%で黒色頁岩を大きく上回っていた。これは、遺物集中部ではチャートを集中的に利用した石器製作が行われたことを示している。

上泉唐ノ堀遺跡では、チャートは石鏃製作の原料に利用される傾向が高いことから、遺物集中部出土のチャート製剥片は石鏃の素材剥片あるいは石鏃製作に伴う調整剥片である可能性が考えられる。このことから、遺物集中部ではチャートを原料とした石鏃製作が行われた可能性が高いといえる。

**時期** 遺物集中部出土の土器型式から、遺物集中部は黒浜式・諸磯a式・諸磯b式に相当する時期に累積して形成されたものと考えられる。石器群もこれらの土器型式期と並行して残されたものと考えられる。

## 第7節 縄文包含層

### 1. 土器 (第136～141図、PL.67～70)

縄文包含層から出土した土器は、早期、前期、中期、後期のものである。このうち、前期が主体を占める。

#### (1) 早期の土器

条痕文系土器が2点確認された。なお、早期の遺構は確認できなかった。

#### (2) 前期の土器

前期の土器は多数確認された。土器型式は黒浜式、諸磯a式、諸磯b式、浮島・興津式である。このうち諸磯b式が最も多い。これは竪穴住居や土坑から出土した土器型式の傾向と一致する。

#### (3) 中期の土器

中期の土器は計5点が確認された。土器型式は加曾利E4式が確認された。中期の竪穴住居は16号住居の1軒のみであった。

#### (4) 後期の土器

後期の土器は計2点が確認された。土器型式は称名寺II式、加曾利B1式が確認された。なお、後期の遺構は確認できなかった。

### 2. 石器 (第12・13表、第142～150図、PL.71～74)

縄文包含層から出土した石器類は計4,394点、総重量は約196kgにも達した。このうち、剥片系石器は計3,506

第12表 縄文包含層出土の石器類

	剥片系石器	石製品	礫石器	礫	総計
数量	3,506	2	95	791	4,394
重量 (g)	56,114.3	378.3	105,004.1	34,096.3	195,593.0

第13表 縄文包含層出土の剥片系石器

	数量	重量 (g)
石鏃	37	47.2
石槍	2	14.6
石器	10	103.4
石鏃	8	74.7
楔形石器	4	64.8
削器	55	2,539.4
石核	96	12,875.5
加工痕ある剥片	176	7,363.4
使用痕ある剥片	73	2,144.4
打製石斧	124	8,933.8
磨製石斧	11	780.7
剥片	2,910	21,172.4
合計	3,506	56,114.3

点、総重量は約56kgであった。礫石器は計95点で、総重量は約105kgで石器類全体のおよそ半分を占めた。

縄文包含層出土の石器については、第142～150図に図示した。また、詳細は縄文時代石器観察表(第70～73表)に記載した。

## 第4章 縄文時代の遺構と遺物

第14表 縄文時代土坑一覧(1)

No	土坑 No	調査区	中ワッド	1グリッド	2グリッド	平面形状	断面形状	長さ (cm)	幅 (cm)	深さ (cm)	底長	溝幅 a	溝幅 b	7間-9時	その他	合計	備考
1	1号土坑	A	93	5	19	楕円形	皿状	120	85	20	1					1	
2	2号土坑	A	3	R+5	2+3	楕円形	皿状	160	100	25						0	
3	3号土坑	A	3	T	3+4	円形	円筒状	100	90	60	2		1			3	
4	4号土坑	A	4	T	2	円形	円筒状	90	90	25	4		13			17	
5	5号土坑	A	4	T+A	3+4	円形	円筒状	110	105	45			3			3	
6	6号土坑	A	4	B	3	円形	覆鉢状	100	95	40						0	
7	7号土坑	A	4	C	4	円形	覆鉢状	95	90	30	1		2	1		4	
8	8号土坑	A	4	E	8	楕円形	覆鉢状	90	60	50						0	
9	9号土坑	A	4	E	7	円形	円筒状	90	80	45						0	
10	11号土坑	A	4	C	3	楕円形	皿状	100	80	20						0	
11	12号土坑	A	4	D	2	楕円形	皿状	165	115	20	2	2	8			12	
12	13号土坑	A	4	C	4	楕円形	覆鉢状	150	120	45	2	2	2		1	7	その他加群料E 4
13	14号土坑	A	4	E	4	楕円形	皿状	200	90	15	4	5	10		1	20	
14	15号土坑	A	4	F	7	円形	円筒状	100	100	65	3					3	
15	16号土坑	A	4	C	1	楕円形	円筒状	135	105	25			8	1		9	
16	17号土坑	A	4	B+C	3	楕円形	皿状	155	120	40		6	24			30	炭化種実分析
17	18号土坑	A	4	B+C	3	円形	円筒状	90	90	80	3		14	1		18	炭化種実分析
18	19号土坑	A	4	E	4	楕円形	皿状	90	60	30	1		2			3	
19	20号土坑	A	4	A+B	16+17	円筒状	120	105	50	1		1			2		
20	21号土坑	A	4	C	1	円形	碗状	150	130	95	7	10	51	8		76	大量の焼土
21	22号土坑	A	94+4	D	20+1	楕円形	皿状	155	120	35						0	石製品出土
22	23号土坑	A	94	C	20	楕円形	覆鉢状	260	160	80	5		3			8	
23	24号土坑	A	94	D	20	楕円形	皿状	210	110	45	6		7		2	15	
24	25号土坑	A	94	A	20	円形	円筒状	70	60	20						0	
25	26号土坑	A	4	H	10	円形	円筒状	80	70	40	1					1	
26	27号土坑	A	4	B	4	楕円形	皿状	125	110	30	2					2	
27	28号土坑	A	4	D	1	円形	皿状	120	110	30	3	1	8			12	
28	29号土坑	A	4	J	16	楕円形	覆鉢状	140	100	30	1		3	1		5	
29	31号土坑	A	3	T	3	円形	碗状	90	90	40						0	
30	32号土坑	A	4	A+B	3	円形	円筒状	100	100	70	8	4	4			16	炭化材種実分析
31	33号土坑	A	4	B	3	円形	円筒状	110	90	45			9			9	
32	34号土坑	A	4	H	14	楕円形	覆鉢状	80	50	60						0	
33	35号土坑	A	4	H	14	円形	覆鉢状	40	35	20						0	
34	36号土坑	A	4	H+I	13+14	円形	円筒状	70	65	35			11			11	
35	37号土坑	A	3	T	3	円形	皿状	90	85	30						0	
36	38号土坑	A	4	B	3	円形	皿状	60	45	20						0	
37	39号土坑	A	4	A	3	楕円形	円筒状	120	90	25	1		2			3	
38	41号土坑	A	4	I	13+14	楕円形	円筒状	150	90	55						0	
39	42号土坑	A	4	A	3	円形	覆鉢状	50	40	20			4			4	
40	43号土坑	A	4	A	3	楕円形	円筒状	55	40	25						0	
41	44号土坑	A	4	A	3	円形	円筒状	150	140	80	11	5	31			47	炭化材種実分析
42	45号土坑	A	4	C	5	不整形	不整形	140	115	50	2		2		1	5	遺構の可能性低
43	46号土坑	A	4	B+C	4	円形	円筒状	150	130	90	12	1	8			21	200号と重複
44	47号土坑	A	3	T	8	楕円形	円筒状	150	120	80	1	1	5			7	炭化材種実分析
45	48号土坑	A	3	T	5	楕円形	円筒状	110	100	100	8	3	9			20	89号より古

第15表 縄文時代土坑一覧(2)

No	土坑 No	調査区	中グリッド	1グリッド	2グリッド	平面形状	断面形状	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	底状	溝幅 a	溝幅 b	7箇-9箇	その他	合計	備考
46	49号土坑	A	3	T	10	楕円形	皿状	90	60	40						0	
47	50号土坑	A	3	T	9	円形	円筒状	70	60	35						0	
48	51号土坑	A	4	A	8	円形	皿状	140	135	40						0	
49	52号土坑	A	4	A	8	円形	円筒状	85	80	30						0	
50	53号土坑	A	4	A	8・9	楕円形	皿状	130	100	50						0	
51	54号土坑	A	3	T	12	楕円形	皿状	85	70	20						0	
52	55号土坑	A	4	B	7	不整形	皿状	220	140	35	1					1	
53	56号土坑	A	3	T	13	楕円形	皿状	160	120	55						0	
54	57号土坑	A	4	B	13	円形	円筒状	210	180	120						36	炭化材層分析
55	58号土坑	A	3	T	14	円形	楕円状	60	50	20				36		4	遺構の可能性低
56	59号土坑	A	3	S・T	14	楕円形	楕円状	50	35	20						0	遺構の可能性低
57	60号土坑	A	3	B	16	円形	円筒状	60	55	55						0	
58	61号土坑	A	3	T	16	円形	円筒状	70	70	20						0	
59	62号土坑	A	3	T	15	不整形	皿状	80	80	20						0	遺構の可能性低
60	63号土坑	A	4	B	15・16	不整形	皿状	230	200	70	2			5		7	樹木遺の可能性
61	64号土坑	A	4	C	17	楕円形	皿状	155	80	20						0	
62	65号土坑	A	4	E	12	円形	円筒状	85	85	70	1			2		3	
63	66号土坑	A	3	S	18	円形	皿状	75	75	30						0	
64	67号土坑	A	3	B	18	楕円形	皿状	90	70	15						0	
65	69号土坑	A	3	S	14	円形	皿状	65	65	20						0	
66	70A号土坑	A	3	S	13	円形	楕円状	65	60	25				2		2	
67	70B号土坑	A	3	S	13	楕円形	皿状	105	80	15						0	
68	71号土坑	A	4	C	17	楕円形	楕円状	90	70	30				1		1	
69	72A号土坑	A	4	B	10	楕円形	円筒状	130	125	60				11		11	
70	72B号土坑	A	4	B	10	楕円形	円筒状	110	110	40						0	遺物はA・B一括
71	73号土坑	A	4	B	10	円形	楕円状	140	120	25	1			5		6	
72	74号土坑	A	3	S	7	円形	皿状	60	60	30						0	
73	75号土坑	A	3	S	7	楕円形	楕円状	80	60	25	1			2		5	8
74	76号土坑	A	3	B・S	7	円形	円筒状	80	75	25						0	
75	77号土坑	A	3	T	6	円形	円筒状	80	70	60						0	
76	78A号土坑	A	4	F	15	円形	円筒状	140	130	60	1			22		23	78B号より新
77	78B号土坑	A	4	F	15	円形	円筒状	90	90	60						0	遺物はA・B一括
78	79号土坑	A	4	A	12	円形	円筒状	60	60	40						0	
79	80号土坑	A	4	A	12	楕円形	皿状	100	80	15						0	
80	81号土坑	A	3	S	7	円形	皿状	75	60	15	1					1	
81	82A号土坑	A	3・4	T・A	5	円形	円筒状	110	100	60				1		1	
82	82B号土坑	A	3・4	T・A	5	円形	円筒状	120	100	60						0	
83	83号土坑	A	4	A	5・6	円形	円筒状	80	70	75						0	
84	84号土坑	A	4	C	16	楕円形	皿状	130	100	25				17		17	
85	85号土坑	A	3	T	5	楕円形	円筒状	100	80	50						0	
86	86号土坑	A	14	A・B	1・2	円形	楕円状	170	160	80						0	
87	87号土坑	A	4	B	10	円形	円筒状	130	110	90				5		5	
88	88号土坑	A	4	A・B	11	円形	円筒状	90	80	40	1			4		5	
89	89号土坑	A	3	T	5	円形	円筒状	90	90	70	3			3		6	炭化層分析
90	90号土坑	A	4	B	12	楕円形	皿状	105	80	50				2		2	

第4章 縄文時代の遺構と遺物

第16表 縄文時代土坑一覧(3)

No	土坑 No	調査区	中グリッド	1グリッド	2グリッド	平面形状	断面形状	長径 (cm)	短径 (cm)	深さ (cm)	風肌	調査 a	調査 b	測高-調査	その他	合計	備考
91	91号土坑	A	4	A+B	12	楕円形	皿状	120	80	30	1					2	
92	92号土坑	A	14	C	4+5	不整形	不整形	80	60	90						0	樹木遺の可能性
93	93号土坑	A	4	D	7	円形	皿状	80	70	30						0	大型障壁設
94	94号土坑	A	3	S+T	5	円形	皿状	115	110	35	1		1			2	
95	95号土坑	A	3	T	5	円形	円筒状	110	110	40	1					1	
96	96号土坑	A	4	A	5	円形	皿状	85	80	20						0	
97	97A号土坑	A	4	A	4+5	楕円形	皿状	110	90	20	1					1	
98	97B号土坑	A	4	A	4+5	楕円形	皿状	80	65	20						0	
99	98号土坑	A	3	S	8	楕円形	皿状	45	35	10			2			2	
100	99号土坑	A	3	S	7+8	円形	皿状	90	80	20						0	
101	100号土坑	A	3	S	7	円形	円筒状	60	55	20						0	
102	101号土坑	A	3	S+T	8	円形	円筒状	60	60	15						0	
103	102号土坑	A	4	A	19	円形	皿状	80	75	30						0	
104	103号土坑	A	4	A	19	円形	皿状	55	50	20						0	
105	104号土坑	A	3+4	T+A	8	円形	円筒状	95	90	25						0	
106	105号土坑	A	4	B+C	6	円形	円筒状	95	95	50	10		1			11	
107	106号土坑	A	4	C	5	円形	楕円状	60	55	30						0	
108	107号土坑	A	4	C	5	円形	円筒状	80	70	20	1		1			2	
109	108号土坑	A	4	C	5	楕円形	楕円状	70	25	20	1					1	
110	109号土坑	A	4	B	5	円形	円筒状	80	80	30			1			1	
111	110号土坑	A	4	B	5	円形	袋状	180	180	85	4	1	35			40	
112	111A号土坑	A	3+4	T+A	4	円形	皿状	80	80	20						0	
113	111B号土坑	A	3	T	4	円形	楕円状	60	60	30						0	
114	112号土坑	A	4	A	11	円形	円筒状	140	115	60	1		9			10	
115	113号土坑	A	4	B	12	円形	皿状	90	90	25			3			3	
116	114号土坑	A	3	T	5	円形	円筒状	35	30	40						0	
117	115号土坑	A	3	S	18	円形	円筒状	90	85	30						0	
118	116号土坑	A	4	C	14	円形	円筒状	60	55	40			1			1	
119	117号土坑	A	4	C	14	円形	袋状	55	50	30						0	
120	118号土坑	A	4	E	14	楕円形	円筒状	120	110	5						0	
121	119号土坑	A	14	F	1	不整形	不整形	90	80	35						0	遺構の可能性低
122	120号土坑	A	4	B+C	15+16	楕円形	楕円状	200	140	60						0	
123	121号土坑	A	4	C	15	円形	円筒状	35	35	40						0	
124	122号土坑	A	4	C	6	円形	円筒状	100	100	50	8					8	
125	123号土坑	A	4	D	15	楕円形	皿状	115	80	15						0	
126	124号土坑	A	4	B	11+12	楕円形	皿状	160	125	45					1	1	
127	125号土坑	A	4	B	11	円形	円筒状	85	80	20			1			1	
128	126号土坑	A	4	B+C	11	円形	円筒状	90	80	15						0	
129	127号土坑	A	4	B	12	円形	皿状	70	60	10						0	
130	128号土坑	A	3	T	9	円形	楕円状	80	80	30						0	
131	129号土坑	A	4	E	3	円形	円筒状	80	75	35						0	
132	130号土坑	A	4	D	3+4	楕円形	円筒状	85	70	60	2		6			8	
133	131号土坑	A	94	D	20	円形	円筒状	120	110	40	5		5			10	132号と重複
134	132号土坑	A	94	D	20	円形	円筒状	140	130	30	8		4			12	
135	133号土坑	B	93	F	14	円形	円筒状	130	130	70			3			3	

第17表 縄文時代土坑一覧(4)

No	土坑 No	調査区	中グリッド	1グリッド	2グリッド	平面形状	断面形状	長さ (cm)	幅 (cm)	高さ (cm)	底状	土質 a	土質 b	層位・関係	その他	合計	備考
136	134号土坑	B	93	N	8	円形	楕円状	30	25	20				1		1	埋蔵(浮島式)
137	135号土坑	B	93	P	14	円形	円筒状	130	130	50							0
138	136号土坑	B	93	O	14	円形	円筒状	100	100	80							0
139	137号土坑	B	93	O	15	円形	円筒状	80	75	30			1			1	
140	138号土坑	B	93	O	14・15	円形	楕円状	75	70	30							0
141	139号土坑	B	93	O	14	円形	円筒状	100	100	70			2				2
142	140号土坑	B	93	P	13・14	円形	円筒状	130	115	65			6			6	
143	141号土坑	B	93	O・P	13	円形	円筒状	110	100	50			1			1	
144	142号土坑	B	93	P	12	円形	楕円状	80	80	30							0
145	143号土坑	B	93	N・O	8	円形	袋状	100	90	40			10				0
146	144号土坑	B	93	P	8	楕円形	袋状	125	105	80			1			1	
147	145号土坑	B	93	O	7	楕円形	円筒状	70	60	25			23			23	
148	146号土坑	B	93	O	7・8	円形	円筒状	100	100	30	1		9			10	
149	147号土坑	B	93	P	7	円形	円筒状	140	130	45			1	3		4	
150	148号土坑	B	93	N	12	楕円形	円筒状	115	95	35							0
151	149号土坑	B	93	O	12	円形	円筒状	100	100	75							0
152	150号土坑	B	93	O	12	楕円形	円筒状	100	80	35							0
153	151号土坑	B	93	O	12・13	円形	円筒状	115	110	45			3			3	
154	152号土坑	B	93	N	13	楕円形	円筒状	90	75	30			1			1	
155	153号土坑	B	93	O	14	円形	円筒状	70	70	25							0
156	154号土坑	B	93	N	13	円形	円筒状	70	70	25							0
157	155号土坑	B	93	N	8	楕円形	皿状	85	70	20							0
158	156号土坑	B	93	O	14	円形	円筒状	120	120	35			1			1	
159	157号土坑	B	93	O	13	不整形	円筒状	120	120	35			2		1	3	
160	158号土坑	B	93	O	13	円形	円筒状	90	90	35							0
161	159号土坑	B	93	N	13	円形	楕円状	70	70	25				4		4	
162	160号土坑	B	93	O	13	円形	円筒状	100	100	40							0
163	161号土坑	B	93	O	14	円形	円筒状	90	90	20							0
164	162号土坑	B	93	O	16	円形	円筒状	120	115	40							0
165	163号土坑	B	93	Q・R	13	楕円形	皿状	140	不明	60	1		13			14	
166	164号土坑	A	4	B・C	3・4	円形	円筒状	120	120	50			1			1	
167	165号土坑	A	4	B	2	不整形	皿状	90	90	15	1		1			2	
168	166号土坑	A	4	A	2	長楕円形	皿状	180	40	10							縄文の可能性低
169	167号土坑	B	93	R	15	不明	袋状	不明	不明	90							0
170	168号土坑	B	93	Q	7	楕円形	円筒状	110	100	65			7			7	
171	169号土坑	B	93	O	7	円形	皿状	60	45	15			1			1	
172	170号土坑	B	93	O	7	円形	円筒状	120	110	80	3		4	15		22	
173	171号土坑	B	93	P	6	円形	袋状	130	115	40			10			11	
174	173号土坑	A	4	B	6	楕円形	円筒状	140	110	55							0
175	174号土坑	A	4	A	5	円形	皿状	60	50	15							0
176	175号土坑	A	4	A	5	円形	皿状	180	140	15	1		1			2	
177	176号土坑	A	4	A	5	円形	楕円状	50	50	25							0
178	177号土坑	A	4	A	5	円形	皿状	70	60	10							0
179	178号土坑	A	4	A	5	円形	楕円状	50	50	20							0
180	179号土坑	A	4	A	4	円形	円筒状	65	40	30							0

## 第4章 縄文時代の遺構と遺物

第18表 縄文時代土坑一覧(5)

No	土坑No	調査区	Xグリッド	Yグリッド	Zグリッド	平面形状	断面形状	長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	層深	埋藏a	埋藏b	深部-埋藏	その他	合計	備考
181	180号土坑	A	4	A	4	円形	円筒状	80	80	40			1			1	
182	181号土坑	B	93	F	8	不整形	楕円状	80	70	40		3	9			12	
183	182号土坑	B	93	F	8	不整形	楕円状	不明	100	70		8	3			11	
184	183号土坑	A	4	C	3	円形	円筒状	110	110	30	2				1	3	
185	184号土坑	B	93	O	9	楕円形	円筒状	70	60	30						0	
186	185号土坑	B	93	H+O	13	円形	円筒状	135	115	30			1			1	
187	186号土坑	B	93	P	9	円形	円筒状	70	70	40						0	
188	187号土坑	A	4	F	5	楕円形	楕円状	160	120	60	7	3				10	
189	188号土坑	A	4	E	5	円形	円筒状	130	120	60	31	1				32	
190	189号土坑	A	4	E	6	円形	皿状	300	300	30						0	
191	190号土坑	A	4	E	8	円形	円筒状	130	120	100	6	3				9	
192	191号土坑	B	93	O	9	円形	袋状	70	70	80	1	1	1			3	
193	192号土坑	A	4	C	6	円形	皿状	80	80	30						0	
194	193号土坑	A	3	T	5	円形	円筒状	100	95	30	6					6	
195	194号土坑	A	4	A+B	6	円形	楕円状	80	70	20						0	
196	195号土坑	A	3	T	4	円形	円筒状	120	110	40	3					3	
197	196号土坑	A	3	T	4	円形	円筒状	110	110	50	2		1			3	
198	197号土坑	B	93	F	9	円形	袋状	120	120	70			31		15	46	
199	198号土坑	B	93	P	9	円形	円筒状	110	100	45	1	1				2	
200	199号土坑	B	93	P	9	円形	袋状	120	120	45						0	
201	200号土坑	A	4	C	4	円形	円筒状	70	不明	50						0	
202	201号土坑	A	4	B	7	円形	皿状	110	110	20	16					16	
203	202号土坑	A	4	B	6	円形	円筒状	120	110	45						0	
204	203号土坑	B	93	O	8	円形	円筒状	120	120	30		1	5			6	
205	204号土坑	B	93	O	8	円形	円筒状	110	100	50			2			2	
206	205号土坑	B	93	Q	8	円形	円筒状	80	80	25		1	1			2	
207	206号土坑	B	93	F	7	楕円形	円筒状	90	80	35		4				4	
208	207号土坑	B	93	P	9	円形	袋状	140	120	65			11		4	15	

合計 230 96 597 21 27 971







1号土坑



1号土坑

- 1にふい黄褐色砂質土(2.3S5) 弾力のある硬粘土。
- 2にふい黄褐色砂質土 やや軟。
- 3暗褐色砂質土(10YR3/3)とふい黄褐色砂質土の境状土 炭の微粒混入。密、硬い。
- 4ロームブロック As-O&IかAs-O&2相当。硬、脆。

2号土坑



2号土坑

- 110YR3/1 As-G混。黒褐色砂質土のブロック。
- 2にふい黄褐色砂質土(10YR3/3) 微砂。密、わずかに粘性を有する。硬土、炭化物少混。
- 3黄褐色砂質土(10YR4/2)と4層の中間色。ロームブロックが混入し密。炭化物やや多混。
- 42層の暗褐色 微砂。やや軟。炭化物の微粒混入。
- 5黄褐色砂質土(10YR3/3) As-O&1, As-O&2相当のローム土との混入。
- 6ロームブロック やや軟。

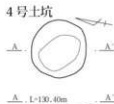
3号土坑



3号土坑

- 1黒褐色砂質土(10YR3/2) 粘性のある暗い部分とふい黄褐色の軟ら部分の境状混入。硬粘土。炭、炭と硬土の微粒少混。
- 21層と同性状 境点のうち暗い部分が主。炭と硬土の微粒やや多。
- 3黒褐色砂質土(10YR3/2) 境点が少ない。最も硬い。早期は硬粘土のロームがブロック状に見られる。
- 4にふい黄褐色砂質土(10YR5/0) 早期の崩壊が崩れ層からの流れ込み。

4号土坑



4号土坑

- 1にふい黄褐色土(10YR5/3) 砂質。粘性あり。微砂。
- 2にふい黄褐色土(10YR5/0) 砂質。粘性やや少混。全体に硬くしめる。炭微粒少混。
- 3As-O&1, As-O&2相当のロームブロック。

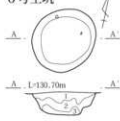
5号土坑



5号土坑

- 1黒色砂質土 細粒。密。
- 2にふい黄褐色砂質土(10YR4/3)と褐色土(10YR4/6)の境状土 やや軟。粘性あり。炭微粒少混。
- 3褐色砂質土(10YR4/3)を主としたにふい黄褐色砂質土(10YR4/3)との混土 細密。硬。炭微粒少混。

6号土坑



6号土坑

- 110YR2/3 オレンジの粒。炭粒が点在する。
- 210YR3/3 黄褐色5%。黄が強くなる。
- 310YR4/4 はとんどが黄。

7号土坑



7号土坑

- 1黒褐色土(10YR2/3)に褐色土(10YR4/6)の土が境状に入る やわらかい土質。軽石粒。オレンジ粒が点在。
- 2黒褐色土(10YR2/3)に褐色土(10YR4/6)の土が境状に入る やわらかい土質。
- 3褐色土(10YR4/6)に褐色土(10YR3/3)の土がブロック状に入る やわらかい土質。

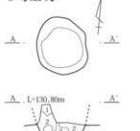
8号土坑



8号土坑

- 1黒褐色土(10YR2/3)を主に黄褐色土(10YR5/3)が少量混入し入り込む やわらかい土質。白色軽石粒。炭粒。オレンジ色の粒が点在。
- 2暗褐色土(10YR3/3)を主に黄褐色土(10YR5/3)が半分混入し入り込む 締まっている土質。白色軽石粒。炭粒。オレンジ色の粒が上層より少しすくない。
- 3暗褐色土(10YR3/3)に黄褐色土(10YR5/3)が主に入り込む 締まっている土質。軽石粒。炭粒。オレンジ色の粒が少し入る。

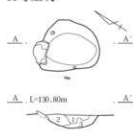
9号土坑



9号土坑

- 1にふい黄褐色砂質土(10YR4/3) やや軟。やや硬。
- 2褐色砂質土(10YR4/6) 粘性あり。密。
- 3黄褐色砂質土(10YR5/0) 密。硬。ブロック状。

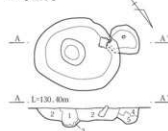
11号土坑



11号土坑

- 1黒褐色砂質土(10YR3/2) ローム微粒を全体に混入。均質でやや軟。
- 2にふい黄褐色砂質土(10YR4/3) 1層が境状混入。
- 32層に黄褐色砂質土小ブロック混入。やや軟。炭の微粒少混。

12号土坑



12号土坑

- 1黒褐色砂質土(10YR3/2)とにふい黄褐色砂質土(10YR4/3)の境状混入 全体に密。炭の微粒少混。
- 2にふい黄褐色砂質土(10YR5/0) 黒褐色砂質土(10YR3/2)と明黄褐色砂質土(10YR6/6)が境状に混入。全体に密。やや硬。
- 3明黄褐色砂質土(10YR6/6) やや硬。
- 4黒褐色砂質土(10YR3/2) 灰白色粒少混。密。5層の境点あり。
- 5オーリーブ褐色砂質土(2.5Y4/2) 密。弾力あり。

13号土坑



13号土坑

- 1黒褐色砂質土(10YR3/1) 細粒。密。
- 2にふい黄褐色砂質土(10YR4/3)を主に淡い黄褐色砂質土との境状混入。細粒。全体に均質。密。炭粒混入。
- 32層にロームブロック混入。
- 4ロームを主に1層との混土。

0 1:60 2m

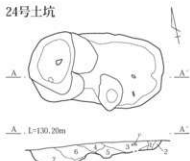
第97図 縄文時代土坑(1)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



第98図 縄文時代土坑(2)

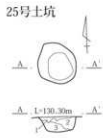
24号土坑



24号土坑

- 1 黒褐色土(00R3/1)に、濃い黄褐色土(00R5/2)が斑点状に入る。砂質土。
- 2 黄褐色土(00R5/8)に、濃い黄褐色土(00R5/1)が斑点状に入る。締まった砂質、炭灰あり。
- 3 1層と同じ。砂質土、炭灰あり。
- 4 灰黄褐色土(00R4/2) 軟らかい。
- 5 黒褐色土(00R3/1)に、濃い黄褐色土(00R5/4)が斑点状に入る。締まった砂質土。As-Ox1またはAs-IPと思われる軽石あり。
- 6 黒褐色土(00R3/1)に、濃い黄褐色土(00R5/4)が斑点状に入る。締まった砂質土。As-Ox1またはAs-IPと思われる軽石あり。他土粒、炭灰あり。
- 7 に、濃い黄褐色土(00R5/8)に灰黄褐色土(00R5/2)がブロック状に入る。灰黄褐色土の中にAs-Ox1またはAs-IPと思われる軽石あり。炭灰あり。締まった硬い砂質土。

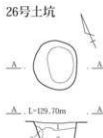
25号土坑



25号土坑

- 1 に、濃い黄褐色土(00R4/2) やや軟質、黒褐色土粒を多く含む。
- 2 黒褐色土(00R4/4) 締まりやや有、密、白色砂を少量含む。
- 3 褐色土(00R4/6) 粘性やや有、白色砂を微量含む。

26号土坑



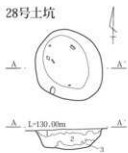
26号土坑

- 1 暗褐色土(00R3/6) ロームブロックが多量に堆積に混在する。
- 2 黒褐色土(00R2/2) ロームブロック少量含む。
- 3 に、濃い黄褐色土(00R5/4) ローム主体の層、非常に締まっている。

27号土坑

27号土坑  
土層目録なし

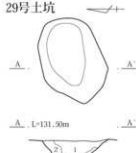
28号土坑



28号土坑

- 1 黒褐色砂質土(00R3/2) に、濃い黄褐色土の少許点、灰白色塵砂粒全体に混入。やや粗。
- 2 黒褐色砂質土(00R3/2) に、濃い黄褐色砂質土の塊状土。黒褐色土が硬いブロック状で全体も密。
- 3 2層に褐色土のブロック状混入。密。

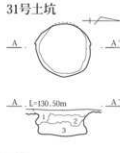
29号土坑



29号土坑

- 1 暗褐色土(00R3/4) 締まりやや有、粘性無。ロームブロックが塊状に混在する。
- 2 黄褐色土(00R5/6) 締まり有、粘性無。ローム主体の層、黒褐色土が若干混じる。

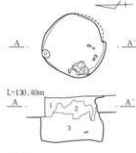
31号土坑



31号土坑

- 1 に、濃い黄褐色砂質土(00R5/2)
- 2 黒褐色砂質土に、濃い黄褐色砂質土の塊状土。As-砂粒全体に混入。密、硬。
- 3 2層にAs-Ox1相当のソフトローム粒混入。密、硬、炭灰やや多い。

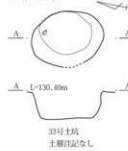
32号土坑



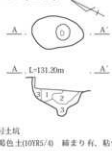
32号土坑

- 1 に、濃い黄褐色砂質土(00R5/4) やや粗。軟。
- 2 に、濃い黄褐色砂質土と褐色砂質土(00R4/6) 濃い黄褐色砂質土の塊状土。密、やや硬。
- 3 黒褐色砂質土(00R3/2)と、濃い黄褐色砂質土(00R4/2)の塊状土。密、硬、炭灰少量混入。

33号土坑

33号土坑  
土層目録なし

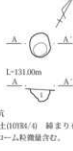
34号土坑



34号土坑

- 1 褐色土(00R5/6) 締まり有、粘性なし。ローム粒微量含む。
- 2 暗褐色土(00R3/3) 締まりやや有、粘性なし。ローム粒微量含む。
- 3 褐色土(00R4/6) 締まりやや有、粘性なし。

35号土坑



35号土坑

- 1 褐色土(00R4/4) 締まり有、粘性なし。ローム粒微量含む。

36号土坑



36号土坑

- 1 褐色土(00R4/4) 硬質ロームを主体とし白色軽石粒を微量含む。
- 2 暗褐色土(00R3/3) 硬質ロームブロックを多く含む。
- 3 に、濃い黄褐色土(00R4/2) やや軟質なローム粒子を主体とする。

0 1:60 2m

第4章 縄文時代の遺構と遺物

37号土坑



37号土坑  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 礫混。  
2 黒いAs-砂粒やロームブロックが混入。礫混。

38号土坑



38号土坑  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 1~3cm大ローム粒混入。密、やや軟。2~3cm大の焼土粒まばらに混入。

39号土坑



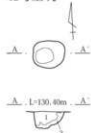
39号土坑  
1 黒褐色砂質土(10YR3/1)とぶい黄褐色砂質土(10YR4/3)の混雑土。全体にAs-砂粒と炭粒混入。密、硬。  
2 ぶい黄褐色砂質土(10YR5/4) As-砂らしい灰白色粒混入。やや軟。

41号土坑



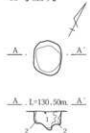
41号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/1) やや硬質。ロームブロックや中多。白色~褐色軽石粒を中々多く含む。  
2 黒褐色土(10YR2/2) ロームブロック多。  
3 黒褐色土(10YR3/0) ローム粒子を少量含む。1, 2層に比べやや軟質。

42号土坑



42号土坑  
1 黒褐色砂質土 As-砂粒、灰白色砂粒、ローム粒混。密、硬。As-Os(相当)のロームを粘固とし、よく攪拌されている。  
2 1層にロームブロック混入。1層よりやや軟。

43号土坑



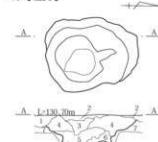
43号土坑  
1 黒褐色砂質土。密、やや軟。弾力あり。As-砂らしい微砂粒混。  
2 黄褐色砂質土。密、やや軟。ロームとは兼称的に変化。

44号土坑



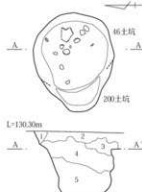
44号土坑  
1 ぶい黄褐色砂質土 礫混、やや軟。  
2 ぶい黒褐色砂質土 As-砂灰白色粒多混。ロームの少ブロック混。密、硬、炭粒少混。  
3 黒褐色砂質土(10YR3/2) As-砂粒全体を含む。中央部混。硬質面混。密、硬、炭粒2層より多。

45号土坑



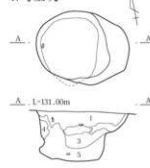
45号土坑  
1 黒褐色土(10YR2/1) As-C混。砂質土。  
2 黒褐色土(10YR2/2) As-C混にロームが少量入ったと思われる。砂質土。As-YPまたはAs-Osらしい軽石混。  
3 黒褐色土(10YR2/2) 砂質土。As-YPまたはAs-Osらしい軽石混。  
4 黒褐色土(10YR3/0) 砂質土。As-YPまたはAs-Osらしい軽石混。  
5 黒褐色土(10YR3/4) 締まりのある硬い土質混。As-YPまたはAs-Osらしい軽石混。  
6 ぶい黄褐色土(10YR5/4) ソフトロームと5層がブロック状に入る。砂質土。  
7 ぶい黄褐色土(10YR5/0) ソフトローム、砂質土。

46・200号土坑



46号土坑  
1 ぶい黄褐色土(10YR4/3) 黒褐色土(10YR2/1)のAs-C混土がブロック状に入る。砂質土。  
2 ぶい黄褐色土(10YR5/4) 砂質土。小さい炭粒混。As-OsまたはAs-YP軽石混。  
3 ぶい黄褐色土(10YR6/4) As-YPまたはAs-Os混土の締まった土が入る。  
4 灰黄褐色土(10YR4/2) As-OsまたはAs-YPと思われる軽石混土に、ぶい黄褐色土(10YR6/4)が混点状に入る。締まった硬い土。炭粒混。  
5 灰褐色土(10YR4/2) As-OsまたはAs-YPと思われる軽石混土に、ぶい黄褐色土(10YR6/4)が少量混土。締まった土質。

47号土坑



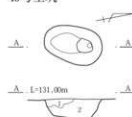
47号土坑  
1 褐色土(10YR4/0) ローム粒を主体とし、やや軟質。  
2 褐色土(10YR4/0) ローム粒を主体とし、白色バミス、褐色スクリヤ、灰化物を微量含む。砂質。  
3 褐色土(10YR4/0) 2層と混入物は同一。やや軟質。  
4 褐色土(10YR3/3) ローム粒を主体とし、褐色硬質ロームブロックを多く含む。  
5 黄褐色土(10YR5/0) 面状土層。軟質なロームを主体とする。

48号土坑



48号土坑  
1 褐色土(10YR3/3) ローム粒を多く、白色バミス微量を含む。  
2 褐色土(10YR3/0) ローム粒、ロームブロックを多く含む。やや軟質。  
3 黒褐色土(10YR2/2) ロームを主体とし、硬質ロームブロックを多く、白色バミス、褐色スクリヤを微量含む。  
4 黄褐色土(10YR5/0) 硬質ロームブロックを主体とし、白色バミスと微量を含む。  
5 黄褐色土(10YR4/0) 軟質ローム粒を多く含む。

49号土坑

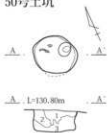


49号土坑  
1 褐色土(10YR4/0) ローム粒子を多く含む。軟質。  
2 黒褐色土(10YR2/3) 硬質ロームブロックを多く、白色バミスを微量含む。

0 1:60 2m

第100図 縄文時代土坑(4)

50号土坑



50号土坑

1 黒褐色土(00R3/3) ローム粒を多く、白色軽石粒をやや多く含む。破瓦。  
2 黒褐色土(00R2/2) 破瓦・ロームブロックを多く含む。  
3 褐色土(00R4/4) 破瓦・ロームブロックと軟質黄色ロームを多く含む。

51号土坑



51号土坑

1 黒褐色土(00R3/4) ロームを主体として、白色軽石粒を多く含む。中・小破瓦。  
2 黒褐色土(00R2/2) ロームを主体として、白色軽石粒をやや多く、褐色スコリアを少量含む。破瓦。  
3 褐色土(00R4/4) 崩落したロームブロックを主体とする層。

52号土坑



52号土坑

1 褐色土(00R4/4) 軟質。白色石粒を数個。褐色スコリアを少量含む。中・小破瓦。  
2 褐色土(00R4/4) 破瓦・ロームブロック。中・小軟質黄色ロームを主体とする層。  
3 褐色土(00R4/4) 破瓦・ロームブロックをやや多く含む。

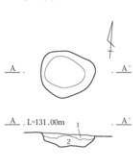
53号土坑



53号土坑

1 褐色土(00R4/4) 破瓦・ロームブロックと軟質ロームを含む。  
2 褐色土(00R4/4) 白色軽石粒をやや多く、褐色スコリアを少量含む。  
3 黄褐色土(00R5/4) 黄色ロームブロックをやや多く含む。

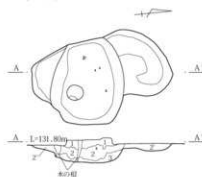
54号土坑



54号土坑

1 褐色土(00R4/4) 黄色ロームを主体とし、中・小破瓦。  
2 褐色土(00R4/4) 1層と似ているがロームブロックを少量含む。粘性やや有。

55号土坑



55号土坑

1 黒褐色土(00R3/3) 締まった砂質。As・Ok1と思われる軽石粒少量混入。  
2 褐色土(00R4/4) 締まった砂質。As・Ok1と思われる軽石粒を主に黒褐色土が混入している。  
2' に近い黄褐色土(00R4/4) 2より若干ろみがある。  
3 黄褐色土(00R5/4) 締まった砂質。As・Ok1と思われる軽石粒を主に黒褐色土が混入している。

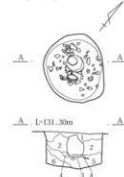
56号土坑



56号土坑

1 褐色土(00R4/4) ローム粒を主体として、白色軽石粒を少量含む。  
2 褐色土(00R3/3) ローム粒を主体として、白色軽石粒をやや多く、褐色スコリアを数個含む。  
3 褐色土(00R3/3) 崩落したロームブロックをやや多く含む。

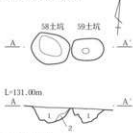
57号土坑



57号土坑

1 褐色土(00R3/3) ローム粒子を主体とし、中・小破瓦。  
2 黒褐色土(00R2/2) ローム粒子を主体とし、破瓦・ロームブロックをやや多く含む。締まり有。  
3 黒褐色土(00R2/2) 焼土粒子。炭化物多い。締まり有。破瓦。  
4 黒褐色土(00R2/2) 炭化物をやや多く含む。  
5 黒褐色土(00R2/2) ローム粒子を主体とし、破瓦・ロームブロックを多く含む。  
6 に近い黄褐色土 崩落した黄色破瓦・ロームブロックを多く含む。

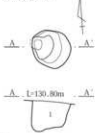
58・59号土坑



58・59号土坑

1 黒褐色砂質土(00R2/2)を主に明黄褐色砂質土(00R6/6)との混成土。全体に破瓦。中・小。  
2 明黄褐色砂質土(00R6/6)ブロック

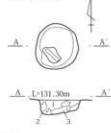
60号土坑



60号土坑

1 に近い黄褐色砂質土(00R4/3) ローム粒を全体に、凝結状態で含む。中・小破瓦。壁際に1~2cm大ブロックあり。

61号土坑



61号土坑

1 明褐色砂質土(00R4/4) 軟質。  
2 黄褐色砂質土(00R5/5) 面。ブロック状。破瓦。As・Ok1が灰白色粒を全体に含む炭質砂土。  
3 黄褐色砂質土(00R5/5) 2層が重複され、軟質。

62号土坑

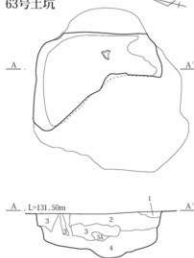


62号土坑

1 黒褐色砂質土(00R3/3) 均質。中・小破。硬。灰白色微砂粒を全体に含む。  
2 黄褐色砂質土(00R5/5) 均質。弾力のある細粒土。面。微砂粒入。As・1P砂粒。

第101図 縄文時代土坑(5)

63号土坑



63号土坑

1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 細粒、やや硬、軽いローム状少量。  
2 褐色砂質土(10YR4/0)と黄褐色砂質土(10YR5/0)の混成土 細粒、やや硬、粘性あり、故土少量。  
3 黄褐色砂質土(10Y5/0)を主に、にぶい黄褐色砂質土(10Y5/0)が黄状に少量、やや硬。  
3 A層と同性質、若干の明暗差あり。  
4 灰黄褐色砂質土(10YR4/2) 90%以上壁から崩落したロームブロック混入。細粒、やや硬、粘性あり。

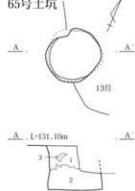
64号土坑



64号土坑

1 にぶい砂黄褐色土に1~3cm大の淡褐色粘性土の塊混入 粘性土はかたいブロック、やや硬。

65号土坑



65号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/2)と黒褐色砂質土(10YR2/2)の混成土 2次堆積層で全体にやや硬。  
2 黒褐色砂質土(10YR2/2) 細粒、密、硬、灰褐色全体に少量、褐色砂質土の2~3cm大の塊混入あり。  
3 黄褐色砂質土(10YR5/0) 1層中のブロック。

66号土坑



66号土坑

1 黒褐色砂質土(10YR3/1)と黄褐色砂質土の混成土 やや硬。  
2 黄褐色砂質土(10YR5/0) As-Ox1相当のロームの2次堆積、やや硬、やや硬。

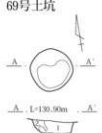
67号土坑



67号土坑

1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 中央部にロームブロック、全体に1cm以下のローム粒多い。細粒、やや硬。  
2 にぶい黄褐色砂質土(10YR4/2) 細粒、やや硬、軽いロームの小ブロック少量。

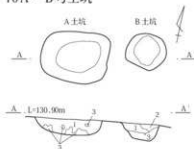
69号土坑



69号土坑

1 にぶい黄褐色土(10YR5/0)と黒褐色土(10YR2/1)の混成土 砂質土、As-Ox1相当くらいあり。  
2 1層が壊れて等により軟らかくなった土

70A・B号土坑



70号土坑

1 にぶい黄褐色土(10YR5/0)と黒褐色土(10YR3/1)の混成土 砂質土、As-Ox1相当あり。  
2 1層が壊れて等により軟らかくなった土  
3 にぶい黄褐色土(10YR5/0)と黒褐色土(10YR3/1)の混成土 砂質土、As-Ox1相当あり。

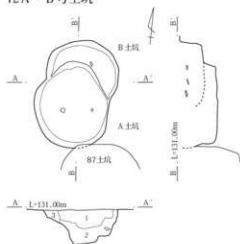
71号土坑



71号土坑

1 黒褐色土(10YR3/3) 黄褐色土(10YR5/0)が平まじり、ローム粒子を含む。やや硬質。  
2 黄褐色土(10YR5/0) 崩落したロームを主体とする。

72A・B号土坑

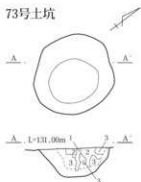


72号土坑

1 黒褐色砂質土を主としにぶい黄褐色砂質土との混成土 全体に均質。中央部ほど硬く密。  
2 褐色砂質土(10YR4/0)に砂黄褐色質土(10YR5/0)混成土。  
3 黒褐色砂質土(10YR2/1) 細粒、弾力あり。下位は塊状のものが強く存在しているように見える。

0 1:60 2m

73号土坑



73号土坑

- 1 黒色砂質土 2層の木の根による腐層、腐粒状で軽く、締まり強。
- 2 褐色砂質土(10YR4/6)と黄色砂質土(10YR5/8)の混土 全体に密、やや硬。
- 3 褐色砂質土(10YR4/6) 全体に密、やや硬。黒褐色砂質土(10YR5/8)の腐粒が混入。

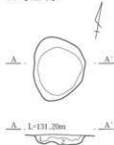
77号土坑



77号土坑

- 1 黒褐色砂質土にふい黄褐色砂質土の腐層土 密、やや硬。灰白色腐砂。炭酸粒やや多量。
- 2 黒褐色砂質土(10YR3/1) 1~2cmのローム粒混入。密、粘性やや強。As-群らし。灰、灰白色腐砂混入。
- 3 黒褐色砂質土と褐色砂質土(10YR4/6)の混土 2層と併せている褐色が多い。As-群らしい腐砂混入。
- 4 褐色砂質土に黒褐色砂質土混入 密、やや硬。As-0k1、炭粒混入。
- 5 明黄褐色砂質土(10YR6/8) 密、やや硬。As-0k1、炭粒混入。

80号土坑



80号土坑

- 1 黄褐色砂質土(10YR5/6) 黒褐色砂質土(10YR3/2)と細粒に腐層されている。やや硬。硬。炭酸粒少。
- 2 1層と併せている明黄褐色砂質土ブロックの混土 密。

74号土坑



74号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/1)とふい黄褐色砂質土(10YR5/6)の混土 硬。

75号土坑



75号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 密、硬。As-群粒混入。硬さが弱く中央部は硬い。
- 2 ロームブロック

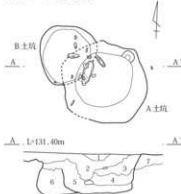
76号土坑



76号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) 密、硬。1cm大ローム粒混入。灰白色腐砂を全体に混入し炭酸粒少。
- 2 にふい黄褐色砂質土(10YR5/6) 密、やや硬。粘性あり、硬物の腐層土。

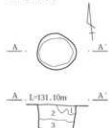
78A・B号土坑



78号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR3/1) 粗又は黒ボク、少量のローム混。
- 2 黒褐色のかたい土を主に、にふい褐色土が30%入る As-0k1、As-群、炭粒混。焼土粒1~2cm大あり。
- 3 黒褐色のかたい土30%に、にふい褐色土が70%入る As-0k1、As-群100%あり。炭粒1mm~5mm混。
- 4 2層の割合が90%ずつ しまった砂質土。
- 5 黒褐色のかたい土50%に褐色土。明褐色土50%混 ロームブロックあり、As-0k1、As-群、炭粒混。
- 6 黒褐色のかたい土を主に、にふい褐色土が30%入る ロームブロックあり、焼土粒炭粒あり。

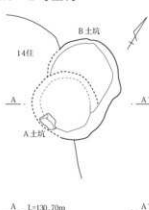
79号土坑



79号土坑

- 1 黒褐色砂質土(10YR2/1) 細粒、やや硬、くすんだ褐色砂質土混入。
- 2 黄褐色砂質土(10YR5/6) 1層がわずかに混入。密、やや硬。
- 3 黄褐色砂質土(10YR5/6) 2層より明、硬。地山の可能性もあり。

82A・B号土坑



82号土坑

- 1 黒褐色土(10YR3/1)を主に褐色土(10YR4/6)が少量混入する 砂質土。
- 2 褐色土(10YR3/3)に褐色土(10YR4/6)が半分混 As-0k1粒、焼土粒少量みられる。締まった砂質土。
- 3 砂質土
- 4 黒褐色土(10YR3/1)と褐色土(10YR4/6)の腐層様 焼土粒、炭粒高く入り混。
- 5 にふい黄褐色土(10YR5/6)を主に明褐色土(10YR3/3)が腐粒に入る。As-0k1、As-群混。砂質土。
- 6 黄褐色土(10YR5/6)を主に明褐色土(10YR3/3)が腐粒に入る 炭粒少混。
- 7 黄褐色土(10YR5/6)と明褐色土(10YR3/3)が腐粒状に混 炭粒、焼土粒混。As-0k1、As-群100%混。

81号土坑



81号土坑

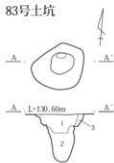
- 1 黒褐色砂質土(10YR2/2) ローム粒少混。
- 2 1層と併せている明黄褐色砂質土の混土 密、やや硬。

第103図 縄文時代土坑(7)

0 1:60 2m

第4章 縄文時代の遺構と遺物

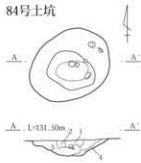
83号土坑



83号土坑

1 黒褐色砂質土(00YR3/1)とぶい砂質黄褐色土(00YR3/4)の複層土  
2 黄褐色砂質土(00YR5/8) 全体に攪拌された砂でやや粗、下に黒褐色砂質土をブロック状に混入  
3 記載なし

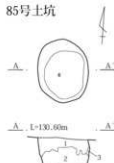
84号土坑



84号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土 細砂、締まり強。  
2 にぶい黄褐色砂質土 ややかたいブロック  
3 黒褐色砂質土を主ににぶい黄褐色砂質土との複層土 やや粗。  
4 1層とロームとの混土 やや粗。

85号土坑



85号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土(00YR4/3)とぶい黄褐色砂質土(00YR4/6)との0.1~3cm大の塊層土 やや粗。  
2 黒褐色砂質土(00YR2/1)を主に、にぶい黄褐色砂質土(00YR4/6)との複層土 黒褐色砂質土はやや粗で、粘性あり。焼土、炭微粒、As-砂粒を全体に含む。  
3 記載なし

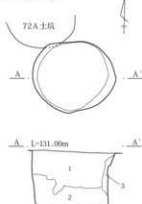
86号土坑



86号土坑

1 黒褐色土(00YR2/2) As-軽石を少量含む。  
2 暗褐色土(00YR3/3) As-軽石を微量、ローム粒子を多く含む。  
3 黒褐色土(00YR2/2) やや砂質、ローム粒子少量含む。  
4 暗褐色土(00YR3/3) 軟質、崩壊したローム粒子を多く含む。  
5 黄褐色土(00YR4/6) ロームブロック、ローム粒子を主体とする。

87号土坑



87号土坑

1 にぶい黄褐色砂質土(00YR4/3)を主に黒褐色砂質土(00YR3/2)との複層全体に厚。硬。2層より軟。  
2 黒褐色砂質土(00YR2/2)とぶい黄褐色砂質土(00YR4/3)の複層土 全体に厚。硬。炭粒全体に混入。底面近くの10cmは黒褐色粘質土(00YR2/1)の1cm粒多し。  
3 にぶい黄褐色砂質土(00YR5/8) 密。硬。硬質の硬底土。

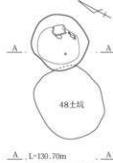
88号土坑



88号土坑

1 黒褐色砂質土(00YR3/1)とぶい黄褐色砂質土(00YR5/6)の混土  
2 にぶい褐色砂質土(00YR5/6) 焼熱で強く赤変。  
3 にぶい褐色砂質土(00YR4/6) やや粗。粘性あり。炭粒混入。

89号土坑



89号土坑

1 黄褐色土(00YR5/8)を主に暗褐色土(00YR3/6)が斑点状混入 砂質土。As-0.1あり。  
2 暗褐色土(00YR3/3)に層の土がブロック状に入る 砂質土。  
3 にぶい黄褐色土(00YR4/3)に層の土がブロック状に入る 砂質土。  
4 黒褐色土(00YR2/1)を主に褐色土(00YR4/6)が斑点状状に入る As-0.1、As-0.10以上あり。硬い砂質土。  
4' 木根の腐層  
5 明黄褐色土(00YR6/8)のロームに層がブロック状に入る 締まった砂質土。

89号土坑

1 黄褐色土(00YR5/8)を主に暗褐色土(00YR3/6)が斑点状混入 砂質土。As-0.1あり。  
2 暗褐色土(00YR3/3)に層の土がブロック状に入る 砂質土。  
3 にぶい黄褐色土(00YR4/3)に層の土がブロック状に入る 砂質土。  
4 黒褐色土(00YR2/1)を主に褐色土(00YR4/6)が斑点状状に入る As-0.1、As-0.10以上あり。硬い砂質土。  
4' 木根の腐層  
5 明黄褐色土(00YR6/8)のロームに層がブロック状に入る 締まった砂質土。

90号土坑



90号土坑

1 暗褐色砂質土(00YR3/6) 暗褐色を主体とし硬質ロームブロックやや多く含む。  
2 暗褐色土(00YR3/3)

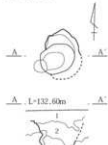
91号土坑



91号土坑

1 にぶい黄褐色土(00YR4/3) ロームを主体とし暗褐色土を多く含む、やや軟質。  
2 暗褐色土(00YR3/6) 硬質ロームブロックをやや多く含む。

92号土坑



92号土坑

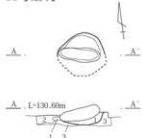
1 にぶい黄褐色砂質土(00YR4/3) ローム濃弱層。2層より明い。  
2 にぶい黄褐色砂質土(00YR3/3~3/2)  
3 黒褐色砂質土(00YR2/2) 3~5cm大ロームブロック少混、やや粗。硬質。As-砂粒下に多い。  
4 3層とAs-0.1ロームの混土  
5 黒褐色粘質土(00YR2/1) 強粘。

0 1:60 2m

第104図 縄文時代土坑(8)



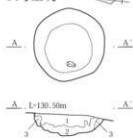
93号土坑



93号土坑

- 1にぶい黄褐色砂質土(010R3/3) 細粒。
- 2灰黄褐色土(010R4/2) ローム層剥離、細粒、微砂混、弾力あり。
- 3黄褐色土(010R7/3) ソフトローム、灰白色微砂混、地巾。

94号土坑



94号土坑

- 1黒褐色土(010R3/1) 硬い土にAs-6k1、As-砂粒10%混、炭粒少量混。
- 21層に褐色土(010R4/0)が環状状に入る。
- 31層に明黄褐色土(010R6/0)が約5cm大のブロック状に入る。

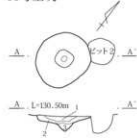
95号土坑



95号土坑

- 1灰黄褐色土(010R4/2) ゴツゴツした土、As-砂粒、炭粒あり。
- 2黄褐色土(010R3/3) As-砂のブロック、硬い土。
- 3黒褐色土(010R3/2) 締まった硬い土、As-砂粒、炭粒、焼土粒10%混土。

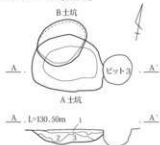
96号土坑



96号土坑

- 1褐色砂質土(010R4/0)を主に、にぶい褐色土(010R5/0)が環状状に入る As-砂粒20%、炭粒あり。
- 2暗褐色土(010R3/3)を主に、にぶい褐色土(010R5/0)が環状状に入る As-砂粒、炭粒、焼土粒30%混、砂質土。
- 3暗褐色土(010R2/3)を主に2層が覆に入る 砂質土、As-砂粒、炭粒、焼土粒あり。

97号土坑



97号土坑

- 1黒褐色土(010R2/3)を主に暗褐色土(010R3/0)がブロック状に入る 砂質土、As-砂粒あり。
- 2褐色土(010R4/0)を主に1層がブロック状に入る 砂質土。
- 3暗褐色土(010R3/4)を主に1層がブロック状に入る 砂質土、焼土粒あり。

98号土坑



98号土坑

- 1黒褐色砂質土(010R3/2)と1~2cm大ローム粒の混土

99号土坑



99号土坑

- 1黒褐色砂質土(010R3/2) ローム粒少量混。
- 2明黄褐色砂質土(010R6/0) 1層細粒で混土。
- 32層と同じ、1層の混土なし。

100号土坑



100号土坑

- 1黒褐色砂質土(010R3/1) ローム粒少量混、堅粒。

101号土坑



101号土坑

- 1黒褐色砂質土(010R3/2)と1~3cm大ローム粒の混土 堅粒、As-砂粒混入。

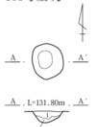
102号土坑



102号土坑

- 1褐色土(010R4/0) ロームを主体とし、硬質ロームブロックを少量含む。
- 2暗褐色土(010R3/3) 硬質ロームブロックを主体とし、As-6k1を少量含む、やや硬質。

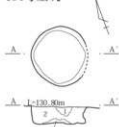
103号土坑



103号土坑

- 1暗褐色土(010R3/3) やや軟質、ローム粒子をやや多く含む。
- 2褐色土(010R4/0) ローム粒子を主体とする。

104号土坑

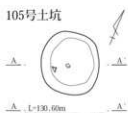


104号土坑

- 1黒褐色砂質土(010R4/0)と褐色土(010R4/0)の混土。2層が層によって軟らかくなった。
- 2黒褐色砂質土(010R4/0)と褐色土(010R4/0)が環状状に混 炭粒混、As-砂粒、As-6k110%混、締まった土質。
- 32層に黄褐色土(010R5/0)のブロックが入る締まった土質。

0 1:60 2m

第4章 縄文時代の遺構と遺物



- 105号土坑
- 1 黒褐色土(00R3/1)を主に、にぶい黄褐色土(00R4/2)が塊に入る かない砂質土。炭粒、As-砂粒、As-0k1粒土。
  - 2 褐色土(00R4/0)を主に 黒褐色土(00R3/2)が塊に入る かない砂質土。炭粒、As-0k1粒、As-砂粒混土。
  - 3 層よりさらに黒褐色土 砂質、炭粒あり。
  - 4 褐色土(00R4/0)を主に 黒褐色土(00R3/0)が塊に入る 締まった砂質土。
  - 5 褐色土(00R3/0) 奇むらかい砂質土。



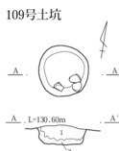
- 106号土坑
- 1 黒褐色土(00R3/2)を主に 褐色土(00R4/0)が塊に入る 締まった砂質土。As-砂粒、As-0k1粒混土。



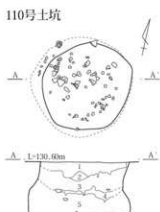
- 107号土坑
- 1 黒褐色土(00R3/2)を主に 褐色土(00R4/0)が塊に入る 締まった砂質土。As-砂粒、As-0k1粒混土。
  - 2 黄褐色土(00R5/0)を主に 褐色土(00R4/0)が塊に入る、かない砂質土。



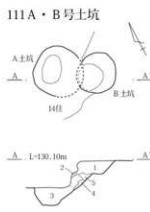
- 108号土坑
- 1 黒褐色土(00R3/2)を主に 褐色土(00R4/0)が塊に入る 締まった砂質土。As-砂粒、As-0k1粒混土。



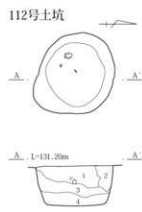
- 109号土坑
- 1 暗褐色土(00R3/2)を主に 黒褐色土(00R2/2)がブロック状に入る 砂質土。
  - 2 灰黄褐色砂質土(00R4/2) 炭粒、As-0k1粒、As-砂粒あり。



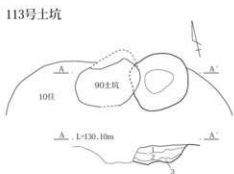
- 110号土坑
- 1 灰黄褐色土(00R4/2)を主に 黒褐色土(00R3/0)が塊点状に入る かない砂質土。As-砂粒、As-0k1粒混土。
  - 2 黄褐色土(00R5/0) 3層を主とした土に、As-砂やAs-0k1層のロームがブロック状に入る。
  - 3 褐色土(00R4/0)を主に 暗褐色土(00R3/0)が塊点状に入る As-0k1粒、As-砂粒、炭粒混土。
  - 4 灰黄褐色土(00R4/2)を主に3層が塊点状に入る 炭粒混土。
  - 5 黒色土(00R2/1)に4層が塊点状に入る 砂質土、炭粒混。



- 111号土坑
- 1 暗褐色土(00R3/0)を主に 褐色土(00R4/0)が塊点状に入る 砂質土、As-0k1混あり。
  - 2 黄褐色土(00R5/0) かない砂質土、As-0k1ブロック。
  - 3 黒褐色土(00R3/1)を主に、にぶい黄褐色土(00R4/2)が塊点状に入る As-砂粒、As-0k1粒、炭粒混あり。
  - 4 明黄褐色土(00R6/0) As-砂粒。
  - 5 褐色土(00R4/0) 砂質土。



- 112号土坑
- 1 黒褐色土(00R3/2) 硬質ロームブロック少量、白色軽石混、褐色スコア少量含む。
  - 2 褐色土(00R4/0) 崩壊したロームブロックを主体とし、As-砂粒量に含む。
  - 3 暗褐色土(00R3/2) 硬質ロームブロックを主体とし、As-0k1を微量に含む。
  - 4 暗褐色土(00R3/0) 崩壊したローム粒子を主体とする。



- 113号土坑
- 1 褐色土(00R4/0) やや軟質、白色軽石を微量に含む。
  - 2 暗褐色土(00R3/0) 硬質ロームブロックをやや多く含む。
  - 3 褐色土(00R4/0) 崩壊土を主体とする。



114号土坑  
土層記載なし



115号土坑  
土層記載なし

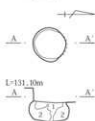


- 116号土坑
- 1 2層上層の掘削部分、明るくやや軟。
  - 2 黒褐色砂質土(00R2/2)にぶい黄褐色砂質土(00R4/2)の1~3cm大塊混土 下位ほど堅固。

0 1:60 2m

第106図 縄文時代土坑 (10)

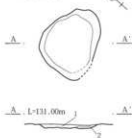
117号土坑



117号土坑

1 ぶい 黄褐色砂質土 (0094/3)  
2 褐色砂質土 (0094/4) とぶい 黄褐色砂質土 (0094/3) の混成土 厚織、壁際にローム粒あり。

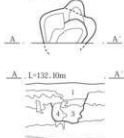
118号土坑



118号土坑

1 黒褐色砂質土 (0093/1) 厚織、ローム微粒、灰白色等の砂粒を混入し状に混入。  
2 As-4k1相当のロームブロックと1層の混成土

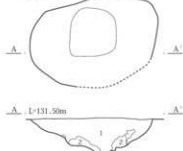
119号土坑



119号土坑

1 黒褐色砂質土 (0093/2) とぶい 黄褐色砂質土の混成土 やや密、弾力あり  
2 褐色砂質土 (0094/1-3/1) 弾力のある細粒土。  
3 淡黒褐色砂質土 (0092/2) ソフトローム状を全体に含む、厚織。  
4 3層と黒褐色砂質土 (0093/1) ブロックの混成土 3層よりさらに厚織、As-4p5しい混成土混入。

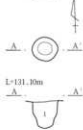
120号土坑



120号土坑

1 黒褐色砂質土 (0093/1) 難密な細粒土、弾力あり、土倉に、ぶい 黄褐色砂質土 (0094/3) の混成土あり。  
2 褐色砂質土 (0094/3) 粘りあり、やや厚織。

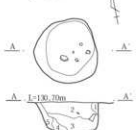
121号土坑



121号土坑

1 褐色砂質土 (0094/4) とぶい 黄褐色砂質土 (0094/3) の混成土 厚織、中央部砂粒も粗く壁際は地山との区別が明確。

122号土坑



122号土坑

1 明黄褐色土 (0096/3) かない土質、As-4k1が多く混入。  
2 灰黄褐色土 (0094/2) と褐色土 (0094/4) との混成土 かない土質、As-4k1あり。  
3 黒褐色土 (0093/1) を主に褐色土 (0094/4) との混成土 かない土質、As-4k1あり。  
4 褐色土 (0094/4) を主に黒褐色土 (0093/1) との混成土 かない土質。  
5 黄褐色土 (0095/4) を主に褐色土 (0094/4) との混成土 As-4k1あり。

123号土坑



123号土坑

1 褐色砂質土 細粒、密。  
2 黄褐色砂質土 細粒、密、全体が腐り気と粘性を有する。

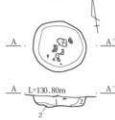
124号土坑



124号土坑

1 黄褐色砂質土 細粒、密、硬、1m大の成粒少し混、黒褐色砂質土の混成土あり、21層と同質、厚織が少ない。  
3 黒褐色砂質土 褐色砂質土混成

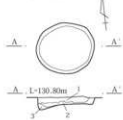
125号土坑



125号土坑

1 黄褐色砂質土と黒褐色砂質土の混成土、中央部ほど黒く固く黄褐色砂質土主体。  
2 黄褐色砂質土 密、硬。

126号土坑



126号土坑

1 黒褐色砂質土 細粒、密、硬、黄褐色砂質土の混成土あり。  
2 1層と2層の混成土  
3 黄褐色砂質土 ソフトロームと同質。

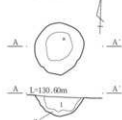
127号土坑



127号土坑

1 黒褐色砂質土 細粒、密、硬、黄褐色砂質土の混成土あり。

128号土坑



128号土坑

1 黒褐色砂質土 (0093/1) 細密。  
2 1層と黄褐色砂質土の混成土 1層とは漸移的に変化。

0 1:60 2m

第107図 縄文時代土坑 (11)

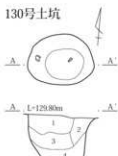
第4章 縄文時代の遺構と遺物

129号土坑



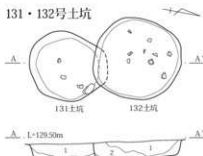
- 129号土坑  
1 暗褐色土(00YR4/0) 褐色土(00YR4/0)を境状に含む  
As-Osを含む白色粒子を少量、黄色軽石を極少量含む。  
2 褐色土(00YR4/0)主体で暗褐色土(00YR3/0)混 白色粒子を極少量含む。  
3 褐色土(00YR4/0) 褐色土(00YR3/0)を境状に含む。

130号土坑



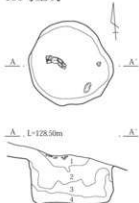
- 130号土坑  
1 129号土坑の層に類似  
2 129号土坑の層に類似  
3 褐色土(00YR4/0) 白色粒子を極少量含む。  
4 褐色土(00YR4/0) 3層より暗褐色を帯び、やや細まり狭い。

131・132号土坑



- 131号土坑  
1 褐色土(00YR4/0) 褐色土(00YR4/0)を境状に含む、白色粒子を少量、黄色軽石、焼土粒、炭化物粒を極少量含む。  
2 褐色土(00YR4/0-4)混 褐色土(00YR4/0)を境状に含むが、白色粒子、焼土粒、炭化物粒はほとんど認められず、黄色軽石も認められない。  
3 暗褐色土(00YR3/0) 褐色土(00YR4/0)を境状に含む、白色粒子、焼土粒、炭化物粒を極少量含む。  
4 褐色土(00YR4/0) 1～3層が固く締まるの比へやや細い締まり。
- 132号土坑  
1 131号土坑の3層に類似  
2 褐色土(00YR4/0) 褐色土(00YR4/0)混じり、黄色軽石、白色粒子とも極少量含む。  
3 131号土坑の4層に類似

133号土坑



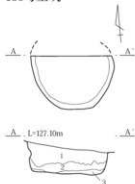
- 133号土坑  
1 褐色砂質土 弾力のある細粒土、ローム層林層に相当し軟。  
2 黒褐色砂質土と褐色砂質土の境混土、厚縁。  
3 褐色砂質土 密、厚縁、黒褐色砂質土が混入し層よりも狭い境混。  
4 にぶい褐色砂質土 粘性あり、暗色帯に類似、地山の可能性もあり。

134号土坑



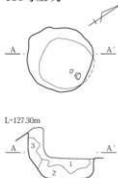
- 134号土坑  
1 褐色土(00YR4/0) ローム主体、暗褐色土まじり、白い細かい軽石少しあり。

135号土坑



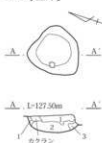
- 135号土坑  
1 黒褐色砂質土とにぶい黄褐色砂質土との境混土 厚縁、中央部が深く硬弱りに明るくなる。  
2 にぶい黄褐色砂質土(00YR4/3) 弾力のある細粒土、ローム層林層に相当。  
3 2層同様の境混土 にぶい黄褐色砂質土が主となり全体に明るい。2層とは明瞭な区で区分。

136号土坑



- 136号土坑  
1 褐色砂質土 淡い黒褐色砂質土が厚縁、厚縁。  
2 にぶい褐色砂質土 1層と同質でAs-砂粒多量、1層よりも軟だが厚縁。  
3 記載なし

137号土坑



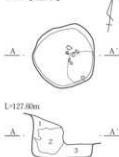
- 137号土坑  
1 暗褐色砂質土 弾力のある細粒、粘性があり密。  
2 にぶい黄褐色砂質土 1層と同質、明瞭で分けた。  
3 ソフトロームのブロック

138号土坑



- 138号土坑  
1 にぶい黄褐色砂質土 均質、密、弾力のある細粒土、黒褐色砂質土の境混あり。  
2 1層と同質 1層よりやや厚縁。

139号土坑

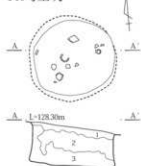


- 139号土坑  
1 にぶい黄褐色砂質土 ローム層林層の2次増殖、弾力のある細粒土。  
2 黒褐色砂質土と暗褐色砂質土の境混土 厚縁。  
3 2層と同質の境混土 2層より明るく粘性あり。



第108図 縄文時代土坑 (12)

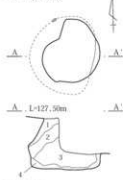
140号土坑



140号土坑

1 におい黄褐色砂質土 ローム層群の2次堆積。弾力のある粘状土。腐り多い。  
2 黄褐色砂質土と黒褐色砂質土の混成土。堅硬。15cm1層と同じ。  
3 におい褐色砂質土 2層同様の混成土だが硬さは不明。2層よりは軟い。9号坑。同化物目立つ。

144号土坑



144号土坑

1 褐色土009E3/6-4/6 ローム暗褐色土混じり。白い細かい軽石。As-1P5らしい軽石あり。ロームブロックあり。  
2 褐色土009E4/4-3/6 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。ロームブロック少しあり。  
3 暗褐色土009E3/3-3/6 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。細かな炭片。焼土粒あり。やや軟質。  
4 褐色土009E4/6 ローム土主体暗褐色土混じり。ロームブロックを含む。地山下面のAs-1P6らしき軽石少しあり。

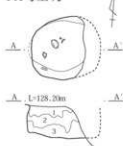
148号土坑



148号土坑

1 黒褐色砂質土 におい黄褐色砂質土の混成あり。灰。灰白色砂粒混入。  
2 1層と同質 炭粉とAs-1P7か黄白色粒混入。  
3 におい黄褐色砂質土 地山に近い黄褐色砂質土。灰白色向の混入で区別。  
4 におい黄褐色砂質土 かないブロック。

141号土坑



141号土坑

1 におい黄褐色砂質土 139号土坑層に同じ。  
2 139号土坑層に同じ 壁際と中央部で明確な差あり。  
3 139号土坑層に同じ

145号土坑



145号土坑

1 暗褐色土009E3/6 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石少しあり。炭片少しあり。  
2 褐色土009E4/6 ローム暗褐色土混じり。ロームブロックを含む。横からの落ち込みと思われる。  
3 暗褐色土009E3/4-4/6 暗褐色土ローム混じり。1層よりローム分が多い。炭片少しあり。やや軟質。

149号土坑



149号土坑

1 黒褐色砂質土 黄、やや明緑。暗褐色砂質土と砂質黄褐色土との混成。土色ほど黒褐色砂質土が多く、下位層間は黄褐色になる。

142号土坑



142号土坑

1 黒褐色砂質土と褐色砂質土の混成土。弾力のある粘状土。堅硬。  
2 におい黄褐色砂質土 弾力のある粘状土。堅硬。1層の埋埋までの薬研層。

146号土坑



146号土坑

1 褐色土009E4/4-4/6 ローム暗褐色土混じり。白い軽石。As-1P5らしき軽石少しあり。  
2 暗褐色土009E3/3-3/6 暗褐色土ローム混じり。ロームブロック少し混じり。白い細かい軽石あり。細かな炭片。焼土粒少しあり。  
3 暗褐色土009E4/6 ローム暗褐色土混じり。1層より暗褐色土が多い。暗褐色土のロームを少し含む。白い軽石少しあり。

150号土坑



150号土坑

1 におい黄褐色砂質土 強い粘性。灰白や黄褐色の微細砂粒。均質で地山との区別難しい。  
2 黄褐色砂質土のブロック

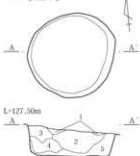
143号土坑



143号土坑

1 暗褐色土009E3/6 ローム混じり。ロームは混成に見えぬ。炭片あり。白い細かい軽石あり。  
2 暗褐色土009E3/4-4/6 やや明緑くローム。As-1P5らしい軽石あり。  
3 暗褐色土0.53X3/6 暗褐色土のような粘質なローム混じり。焼土粒。焼土ブロック目立つて含む。

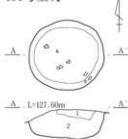
147号土坑



147号土坑

1 暗褐色土009E3/4-4/6 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石少しあり。  
2 暗褐色土ローム混じり。ロームブロック混成に入る。白い黄褐色の軽石あり。  
3 褐色土009E4/6 ローム分を多く含む。暗褐色土混じり。ソフトロームの様な土。  
4 暗褐色土009E3/4-4/6 2層よりややローム分多く。炭灰でない。ロームと暗褐色土が混じっている。  
5 褐色土009E4/6 ローム暗褐色土混じり。小さなロームブロック少しあり。下位は暗褐色土のロームのように少し粘質。

151号土坑



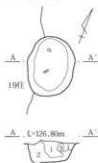
151号土坑

1 黒褐色砂質土  
2 暗褐色砂質土 ローム薬研土混入。As-1P7を全体に混入し。炭粒少し混入。やや明緑。



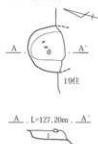
第109図 縄文時代土坑 (13)

152号土坑



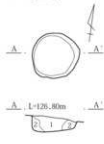
- 152号土坑  
1 2層の陥没部分  
2 淡黒色砂質土と褐色砂質土の混土  
西ほど黒く漸移的に変化。壁縁。  
3 黄褐色砂質土のブロック

153号土坑



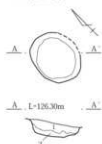
- 153号土坑  
1 黄褐色砂質土と淡黒色砂質土の混土  
土 灰白色砂粒を全体に含む。壁縁。

154号土坑



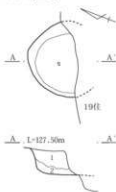
- 154号土坑  
1 黄褐色砂質土と褐色砂質土の混土  
壁縁。  
2 におい黄褐色砂質土 南、やや硬、弾  
力のある細粒土でローム層縁からの流  
入。

155号土坑



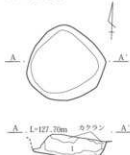
- 155号土坑  
1 褐色土0.08(4/4～3/0) 暗褐  
色土ローム混じり。輪郭のびつき  
りしないロームブロックあり。白  
い細かい礫石あり。  
2 褐色土0.08(4/4～4/0) ローム  
暗褐色土混じり。ローム主体、  
ロームブロックあり。

156号土坑



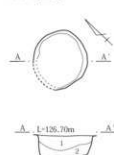
- 156号土坑  
1 暗褐色砂質土と淡黒色砂質土の混土  
土 灰白色砂粒を全体に含む。壁縁。  
2 黄褐色砂質土 やや堅縮。地山のローム  
との区別は難しい方硬さとわずかな色  
の差で分けた。

157号土坑



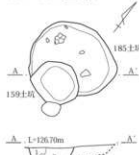
- 157号土坑  
1 黄褐色砂質土と褐色砂質土の混土  
壁縁。  
2 におい黄褐色砂質土 南、粘りあり。

158号土坑



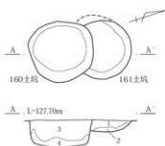
- 158号土坑  
1 黄褐色砂質土 弾力のある細粒土。2層  
に灰白色微砂粒入。  
2 黄褐色砂質土 均質。南、わずかに流土  
と泥が混入。

159・185号土坑



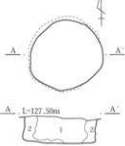
- 159・185号土坑  
1 黄褐色ローム 壁の一部陥没による  
ブロックや、灰白色クサリ混入。  
2 黄褐色砂質土 均質。南、1層が露  
露り状に混入。

160・161号土坑



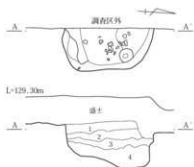
- 160・161号土坑  
1 におい黄褐色砂質土 壁縁。  
2 黄褐色砂質土 壁縁。  
3 におい黄褐色砂質土 Aa・Bf・積土。灰  
が全体に混入。壁に長〜短の黄褐色砂質  
土の1〜3cm大ブロックが中〜下位に多。  
4 黄褐色砂質土 粘りあり。地山の区別  
難しい。

162号土坑



- 162号土坑  
1 黄褐色砂質土(Bf)(2/2) 均質。南、  
弾力のある細粒土。底面近くまで一気  
に増設。  
2 黄褐色砂質土〜黄褐色砂質土 1層  
から壁になつて混入が明確。均質。  
南。Aa・Bfらしい灰白色微砂多量。

163号土坑

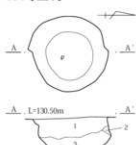


- 163号土坑  
1 黄褐色砂質土 細粒。造成前の耕作土。  
2 Aa・Bf混入黄褐色砂質土とローム層縁の混土  
3 黄褐色砂質土 南、やや硬、弾力のある細粒土。  
4 におい黄褐色砂質土 壁縁。Aa・Bf〜Aa(Bf)相当  
のロームが壁・ブロックで混入。

0 1:60 2m

第110図 縄文時代土坑 (14)

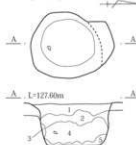
## 164号土坑



## 164号土坑

1 黄褐色土(00R5/0) やや暗色味あり、  
 深く締まる。As-群粒と白色粒子を少量  
 含む。  
 2 黄褐色土(00R5/0) やや白色味帯び  
 ぬ。締りでやや締まり弱。  
 3 褐色土(00R4/0)に黄褐色土(00R5/0)  
 を混在に含む やや締まり弱。

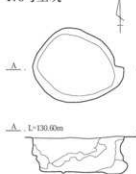
## 168号土坑



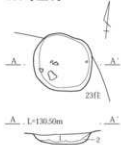
## 168号土坑

1 褐色土(00R4/4-3/0) 暗褐色土  
 ローム混じり、白い細かい軽石あり。  
 ロームブロック少しあり。  
 2 暗褐色土(00R3/0) 暗褐色土ローム  
 混じり、白い細かい軽石1層より多  
 い。細かい炭片少しあり、ロームブロッ  
 ク少しあり。  
 3 褐色土(00R4/4-4/0) ローム主  
 体。暗褐色土少し混じる。白い細かい  
 軽石少しあり。  
 4 暗褐色土(00R3/0) 暗褐色土ローム  
 粘じり、ロームブロック少しあり。  
 細かい炭片あり、白い細かい軽石層  
 より目立つ。  
 5 暗褐色土(00R3/4-4/0) 暗褐色  
 土ローム混じり、ロームブロック少し  
 あり、やや粘り土。

## 173号土坑

173号土坑  
土層記号なし

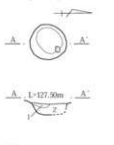
## 165号土坑



## 165号土坑

1 暗褐色土(00R3/0)に褐色土(00R4/0)を  
 混在に含む 白色粒子を少量、灰白色軽石  
 粒を極少量、炭化物を粘状に極少量含む。  
 2 褐色土(00R4/0) による黄褐色土  
 (00R5/0)混じり、やや粘性あり。

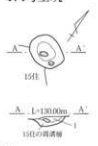
## 169号土坑



## 169号土坑

1 暗褐色土(00R3/4-4/0) 暗褐色  
 土ローム混じり、白い細かい軽石あり。  
 2 暗褐色土(00R3/0) 暗褐色土ローム  
 混じり、ロームブロック少しあり、  
 白い細かい軽石あり。細かい炭片、無  
 土粒少しあり。

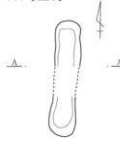
## 174号土坑



## 174号土坑

1 暗褐色砂質土(00R3/0) 細粒。As-群  
 混入。泥、泥。

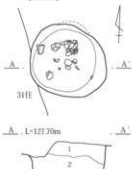
## 166号土坑



## 166号土坑

1 黄褐色土(00R5/0) やや締まり強。  
 白色粒子を均一に、黒白色粒子を極少量  
 含む。

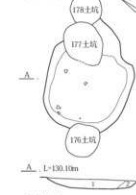
## 170号土坑



## 170号土坑

1 褐色土(00R4/0) 暗褐色土ローム混  
 じり、白い細かい軽石あり。As-群少し  
 粘りあり。  
 2 暗褐色土(00R3/0) 暗褐色土ローム  
 粘じり、ロームブロック少しあり、白  
 い細かい軽石あり。細かい炭片あり。  
 3 暗褐色土(00R3/0) 暗褐色土ローム  
 粘少し混じる。白い細かい軽石あり、炭  
 片少しあり。2層よりやや粘。As-0k1を  
 含む。  
 4 暗褐色土(00R3/4-4/0) 暗褐色土  
 ローム粘じり、ロームは中粘質。

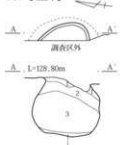
## 175号土坑



## 175号土坑

1 黄褐色砂質土(00R5/0) 泥、黒褐色  
 砂質土の混在あり。  
 2 黄褐色砂質土(00R5/0) 黒褐色砂  
 質土の混在少ない。

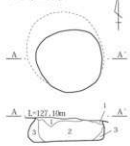
## 167号土坑



## 167号土坑

1 暗褐色土(00R3/4-4/0) 暗褐色土  
 ローム混じり、白い細かい軽石少しあり。  
 20日アサ土に比べ締まり直。  
 2 暗褐色土(00R3/0) 暗褐色土ローム  
 混じり、1層より暗褐色土分が多く、白  
 い細かい軽石も多。  
 3 暗褐色土(00R4/4-3/0) 暗褐色土  
 ローム混じり、2層よりさらに多い、白  
 い細かい軽石あり。細かい炭片あり。  
 4 暗褐色土(00R3/4-4/0) 暗褐色土  
 ローム混じり、地山のローム混じりで中  
 粘質土。

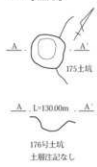
## 171号土坑



## 171号土坑

1 暗褐色土(00R3/4-4/0) 暗褐色  
 土ローム混じり、白い細かい軽石  
 あり。細かい炭片少しあり。  
 2 暗褐色土(00R3/0) 暗褐色土  
 ローム混じり、1層に比べローム分  
 少ない、白い細かい軽石あり。細か  
 い炭片あり。泥土粒少しあり。  
 3 暗褐色土(00R3/4-3/0) 暗褐  
 色土ローム混じり、やや粘質ローム。

## 176号土坑

176号土坑  
土層記号なし

第111図 縄文時代土坑 (15)

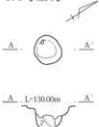
第4章 縄文時代の遺構と遺物

177・178号土坑



177・178号土坑  
1 褐色砂質土(10YR4/6)と近い黄褐色砂質土(10YR5/6)の硬底土 細粒、均質。

179号土坑



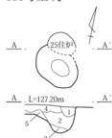
179号土坑  
1 褐色砂質土(10YR4/6)と近い黄褐色砂質土(10YR5/6)の硬底土 細粒、均質。  
2 1層にAs-PP混入

180号土坑



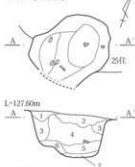
180号土坑  
1 褐色砂質土(10YR4/6) 弾力のある細粒土、均質、滑。  
2 褐色砂質土(10YR4/6)と黄褐色砂質土(10YR5/6)の硬底土 As-PP混入、均質、滑、底面近くに炭化物や多い。

181号土坑



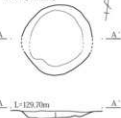
181号土坑  
1 暗褐色土(10YR3/4) 暗褐色土ローム混じり、白く細かい軽石あり、焼土粒少しあり、細かな炭片が目立って含まれる。  
2 暗褐色土(10YR3/4-4/0) 暗褐色土ローム粒混じり、白く細かい軽石層より少ない、細かな炭片わずかにあり。  
3 暗褐色土(10YR3/4-4/0) 暗褐色土ローム混じり、2層に比べロームが暗褐色部の粘土質なもの。  
4 暗褐色土(10YR3/0) 暗褐色土ローム混じり、ロームブロック少しあり、白く細かい軽石あり、細かな炭片層より少ない。  
5 褐色土(10YR4/6) ローム暗褐色土混じり、ローム主体、白く細かい軽石少しあり。

182号土坑



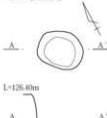
182号土坑  
1 暗褐色土(10YR3/0) 暗褐色土ローム粒混じり、白く細かい軽石あり、細かな炭片、焼土粒少しあり。  
2 暗褐色土(10YR3/0) 暗褐色土ローム粒混じり、1層よりややローム分が多い、白く細かい軽石あり、細かな炭片、焼土粒少しあり。  
3 褐色土(10YR4/3-3/0) 暗褐色土ローム混じり、白く細かい軽石少しあり、ソフトロームに近い。  
4 暗褐色土(10YR3/4-4/0) 暗褐色土ローム混じり、白く細かい軽石あり、炭片少しあり、フードロームのように固く締まる。  
5 褐色土(10YR4/4-4/0) ローム暗褐色土混じり、白く軽石ほとんど無し、炭片少しあり。  
6 黄褐色土(10YR5/6-6/0) 黄褐色土ローム(As-PP)らしき軽石あり、締まり地、地山はAs-PPなどの上澄らしたのろみブロックと思われる。  
7 褐色土(10YR4/0) やや粘質、褐色ローム主体、暗褐色土少し混じる。

183号土坑



183号土坑  
1 褐色砂質土 黄褐色砂質土(10YR4/3)の硬底あり、As-PP混入、均質。

184号土坑



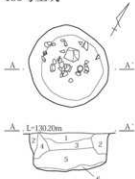
184号土坑  
1 暗褐色土(10YR3/4-4/0) 暗褐色土ローム粒混じり、白く細かい軽石あり、細かな炭片少しあり。  
2 褐色土(10YR4/3-3/0) 暗褐色土ローム混じり、1層よりローム分多くやや明るい、ロームはやや粘土質、白く細かい軽石は1層より少ない。

187号土坑



187号土坑  
1 暗褐色土(10YR3/0) 褐色(10YR4/6)～黄褐色(10YR5/6)の間の土が横状に認められる。白色粘土を均一に含む、炭化物を粒状に極少量含む。  
2 黄褐色土(10YR5/6)と褐色土(10YR4/6)の混底土 白色粘土を少量含む。  
3 暗褐色土(10YR3/0)と褐色土(10YR4/6)～黄褐色土(10YR5/6)の間の土の混底土 1層に類似し、やや暗褐色土の割合が多い。  
4 黄褐色土(10YR5/6)主体で褐色土(10YR4/6)混底土の割合が極少量含む。  
5 黄褐色土(10YR5/6) 黄褐色土(10YR4/6)が少量混じる。白色粘土を極少量含む、4層より黄色地帯びるが地山よりやや暗褐色あり。  
6 褐色土(10YR4/0) 締まりやや滑、白色粘土を極少量含む。

188号土坑



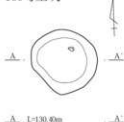
188号土坑  
1 暗褐色土(10YR3/0) 褐色土(10YR4/6)が全体的に横状に認められる。白色粘土As-PPを含む、炭化物を粒状に極少量含む。  
2 黄褐色土(10YR5/6) ローム(As-PP)含む、地山に類似するが褐色土(10YR4/6)混じり、硬質土少。  
3 褐色土(10YR4/4) 褐色土(10YR4/6)が横状に認められる。やや締まり多く、白色～黄白色粘土ほとんど含まず、炭化物極少量含む。  
4 黄褐色土(10YR5/6)と褐色土(10YR4/6)の混底土 2層に類似するがより黄色地帯びる。  
5 暗褐色土(10YR3/0) 褐色土(10YR4/6)が横状に認められる。白色粘土、炭化物共に極少量含む、締まりやや滑い。  
6 褐色土(10YR4/0) 主体で暗褐色土(10YR3/0)混じり



第112図 縄文時代土坑 (16)



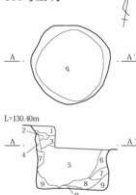
189号土坑



189号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/0) 暗色土(10YR4/0)が炭状に認められる。白色～黄白色粒を含む。固く締まる。
- 2 暗色土(10YR4/0) 黄褐色土(10YR5/0)が炭状に認められる。白色粒子を極少量含む。締まりや中弱。
- 3 2層に類似 黄褐色土が主体で暗色土が混じる。

190号土坑



190号土坑

- 1 暗色土(10YR4/0)と黄褐色土(10YR5/0)の混土 細粒。
- 2 1層に類似するが黄褐色土が主体で1層より黄色味帯びる。
- 3 黄褐色土(10YR5/0) 黄褐色土を特に前面にブロック状に含む。
- 4 2層に類似するが3層が入るため分層
- 5 黄褐色土(10YR5/0) 暗色土(10YR4/0)が炭状に認められる。白色～黄白色粒子を均一に多く含む。As-PP粒。炭化物粒を極少量含む。固く締まる。
- 6 5層に類似するが暗色土がより多く炭状に認められ。黄色味帯びている。
- 7 暗色土(10YR4/0)主体で黄褐色土(10YR5/0)混土 締まりや中弱。白色粒子を極少量含む。
- 8 5層に類似するが暗色土(10YR4/0)ブロックをやや多く含む。
- 9 黄褐色土(10YR5/0)主体で暗褐色土(10YR3/0)混土 締まり強。

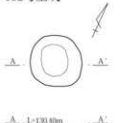
191号土坑



191号土坑

- 1 暗色土(10YR4/0) 暗褐色土(10YR5/0)混じり。白い細かな礫石あり。細かな炭片少しあり。
- 2 暗色土(10YR4/4-4/0) 暗褐色土(10YR5/0)混じり。1層よりローム分多く明色。白い細かな礫石あり。
- 3 暗褐色土(10YR3/4-4/0) 暗褐色土(10YR4/0)混じり。白い細かな礫石あり。細かな炭片あり。
- 4 暗色土(10YR4/0) ローム主体。暗褐色土少し混じり。ローム分は地山のAs-PPが主と認められる。

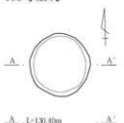
192号土坑



192号土坑

- 1 黄褐色土(10YR5/0) 締まり強い。
- 2 暗色土(10YR4/0) 黄褐色土(10YR5/0)が炭状に認められる。白色粒子を均一に黄白色粒子を少量含む。固く締まる。
- 3 黄褐色土(10YR5/0)主体で暗色土(10YR4/0)混土 2層より白色粒子少なく。黄白色粒子も少ない。

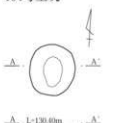
193号土坑



193号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/0) 黄褐色土(10YR5/0)が炭状に認められる。白色～黄白色粒子を均一に多く含む。固く締まる。
- 2 暗色土(10YR4/0) ロームブロック。
- 3 1層に類似 含有物は1層より少ない。
- 4 黄褐色土(10YR5/0) 白色～黄白色粒子を含む。固く締まる。
- 5 炭粒なし。

194号土坑



194号土坑

- 1 暗色土(10YR4/0) 黄褐色土(10YR5/0)混じり。やや粘性があり固く締まる。白色粒子を極少量含む。
- 2 暗色土(10YR4/0) やや粘性がありやや固く締まる。地山に類似するが白色粒子含まず地山ほど固く締まらない。

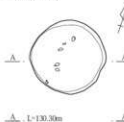
195号土坑



195号土坑

- 1 暗褐色土(10YR3/0)～暗色土(10YR4/0)の混土 白色粒子を極少量含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/0) 暗色土(10YR4/0)を炭状に含む。白色～黄白色粒子を少量含む。炭化物を粒状に極少量含む。
- 3 暗色土(10YR4/0) 暗褐色土(10YR3/0)混じり。炭屑混土。
- 4 黄褐色土(10YR5/0) 暗色土(10YR4/0)を炭状に含む。白色～黄白色粒子を含む。炭化物を粒状に極少量含む。固く締まる。
- 5 黄褐色土(10YR5/0) 暗色土(10YR4/0)が炭状に認められる。白色～黄白色粒子を極少量含む。
- 6 暗褐色土(10YR3/0)と黄褐色土(10YR5/0)の混土 白色粒子はほとんど認められない。やや締まり強い。
- 7 黄褐色土(10YR5/0) 暗褐色土(10YR3/0)混じりでやや締まり強い。

196号土坑



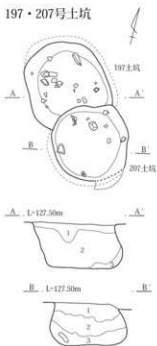
196号土坑

- 1 黄褐色土(10YR5/0) 暗褐色土(10YR3/0)混じり。白色粒子を少量含む。固く締まる。
- 2 暗色土(10YR4/0) 締まり強い。
- 3 暗褐色土(10YR3/0) 暗色土(10YR4/0)が炭状に認められる。白色粒子を含む。炭化物。焼土が炭状に極少量認められない。
- 4 暗色土(10YR4/0) 暗色土(10YR4/0)が炭状に認められる。白色粒子を少量含む。固く締まる。
- 5 4層に類似するが、より暗色味帯びる。As-PP粒を含む。固く締まる。
- 6 4層に類似 暗色土(10YR4/0)を多く含む。より黄色味帯びる。下位は凝結性の暗色土(10YR4/0)主体となる。白色粒子を極少量含む。固く締まる。

第113図 縄文時代土坑 (17)

0 1:60 2m

197・207号土坑



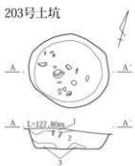
197号土坑

1 褐色土(019R/4-4)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。As-Yからしき軽石あり。細かな炭片あり。  
2 褐色土(019R/4-3)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。細かな炭片あり。  
3 暗褐色土(019R/4-4)層 ローム主体。暗山褐色帯のロームを主とする。

207号土坑

1 褐色土(019R/6)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石少しあり。  
2 褐色土(019R/4-4)層 暗褐色土ローム混じり。1層よりローム分少ない。白い細かい軽石少しあり。1層よりやや細った土。  
3 褐色土(019R/4)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石少しあり。細かな炭片あり。2層よりやや細い土。落った土。

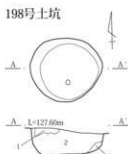
203号土坑



203号土坑

1 褐色土(019R/4-4)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。  
2 褐色土(019R/4-3)層 暗褐色土ローム混じり。1層より暗褐色土が多い。白い細かい軽石あり。細かな炭片少しあり。  
3 褐色土(019R/6-5)層 ローム主体。暗褐色土少し混じる。ロームは暗山のAs-Gaを多く含む。

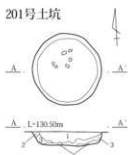
198号土坑



198号土坑

1 褐色土(019R/4)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。細かな炭片あり。  
2 褐色土(019R/4-3)層 暗褐色土ローム混じり。1層より暗褐色土分が多い。白い細かい軽石あり。細かな炭片少しあり。  
3 褐色土(019R/4-4)層 暗褐色土ローム混じり。ローム主体。白い細かい軽石わずかにあり。

201号土坑



201号土坑

1 暗褐色土(019R/4)層 黄褐色土(019S/6)が炭状に認められる。白色～黄白色粒子を多く含む。炭化物を粒状に均一少量含む。  
2 暗褐色土(019S/6)層 ローム地山に類似。白色～黄白色粒子を含む。固く締まる。  
3 暗褐色土(019R/4)層 1層と4層の層解的な層。黄褐色土(019S/6)が炭状に認められるが、1層より黄褐色土を多く含む。  
4 黄褐色土(019S/6)層 ローム地山に類似。暗褐色土(019R/4)混じり。白色～黄白色粒子を含む。

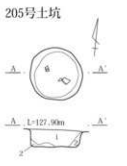
204号土坑



204号土坑

1 褐色土(019R/4-3)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。細かな炭片あり。  
2 褐色土(019R/4-4)層 暗褐色土ローム混じり。1層よりローム分多い。白い細かい軽石あり。  
3 褐色土(019R/4)層 暗褐色土ローム混じり。1層2層より白い細かい軽石少ない。ロームブロック少しあり。

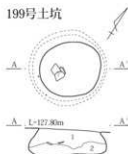
205号土坑



205号土坑

1 褐色土(019R/4-3)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。細かな炭片少しあり。  
2 褐色土(019R/4)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石少しあり。

199号土坑



199号土坑

1 褐色土(019R/4-4)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。As-Yからしき軽石あり。締まり良。  
2 褐色土(019R/4-3)層 暗褐色土ローム混じり。1層より暗褐色土分が多い。白い細かい軽石あり。

202号土坑



202号土坑

1 黄褐色土(019S/4)層 白色～黄白色粒子を少量含む。ローム地山に類似。  
2 暗褐色土(019R/4)層 黄褐色土(019S/6)が炭状に認められる。白色～黄白色粒子を少量含む。  
3 2層より黄褐色土を炭状により多く含んでいるので、炭色塊あり。  
4 褐色土(019R/4)層 黄褐色土(019S/6)が炭状に認められる。白色～黄白色粒子を少量含む。炭化物を粒状に極少量含む。中ほどより西に認められる。  
5 2層に類似。炭化物を粒状に極少量含む。中ほどより西に認められる。  
6 暗褐色土(019S/6)層 ローム主体。暗褐色土(019R/4)混じり。白色～黄白色粒子を極少量含む。炭化物を粒状に極少量西側に含む。

206号土坑



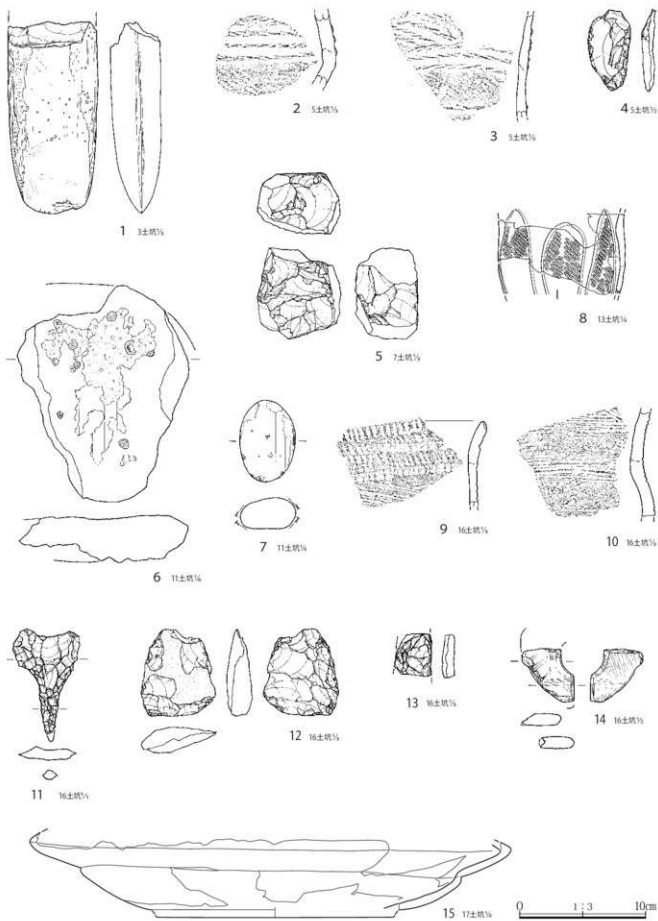
206号土坑

1 暗褐色土(019R/4)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石あり。As-Yからしき軽石あり。細かな炭片少しあり。  
2 褐色土(019R/4)層 暗褐色土ローム混じり。白い細かい軽石少しあり。やや粘り。



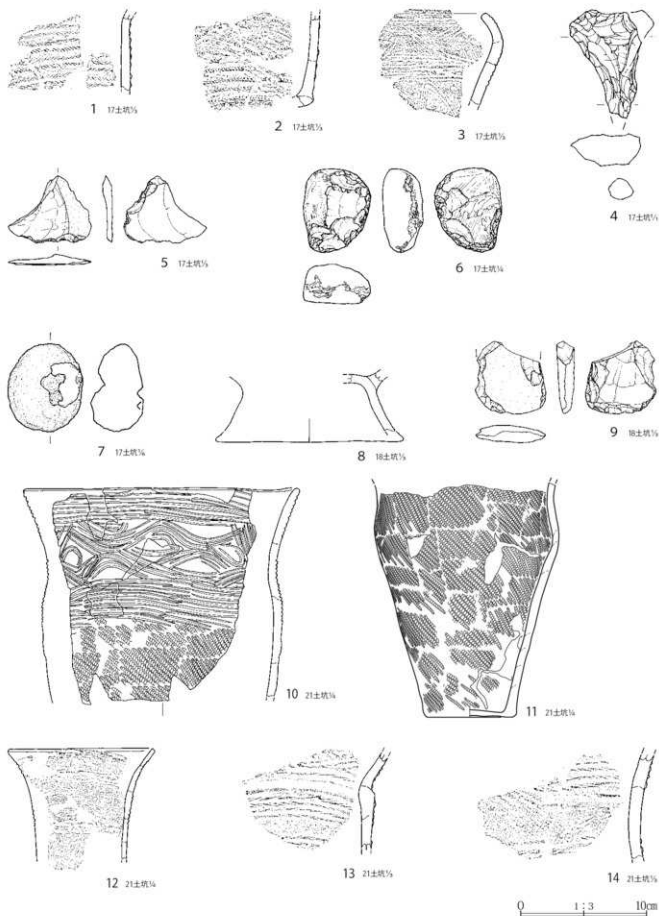
第114図 縄文時代土坑(18)

土坑

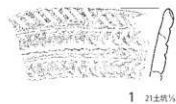


第115圖 繩文時代土坑出土遺物（1）

第4章 縄文時代の遺構と遺物



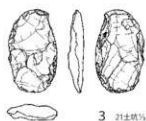
第116図 縄文時代土坑出土遺物（2）



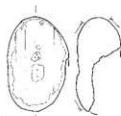
1 21土坑%



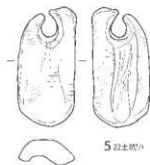
2 21土坑%



3 21土坑%



4 21土坑%



5 22土坑%



6 22土坑%



7 26土坑%



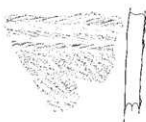
8 26土坑%



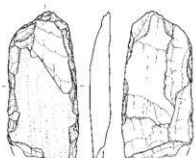
9 26土坑%



10 39土坑%



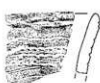
11 41土坑%



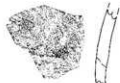
12 41土坑%



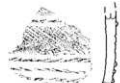
13 44土坑%



14 44土坑%



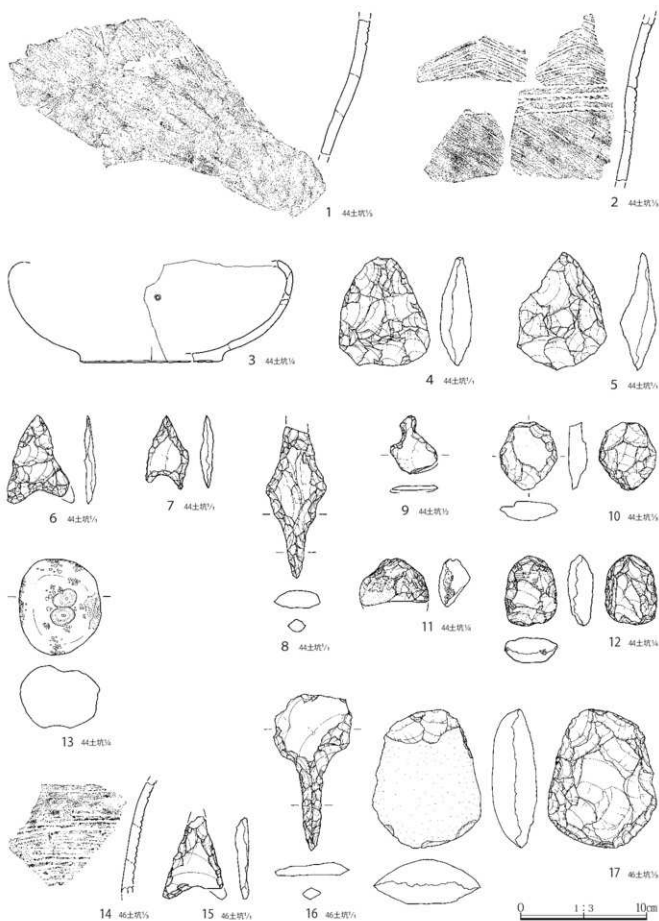
15 44土坑%



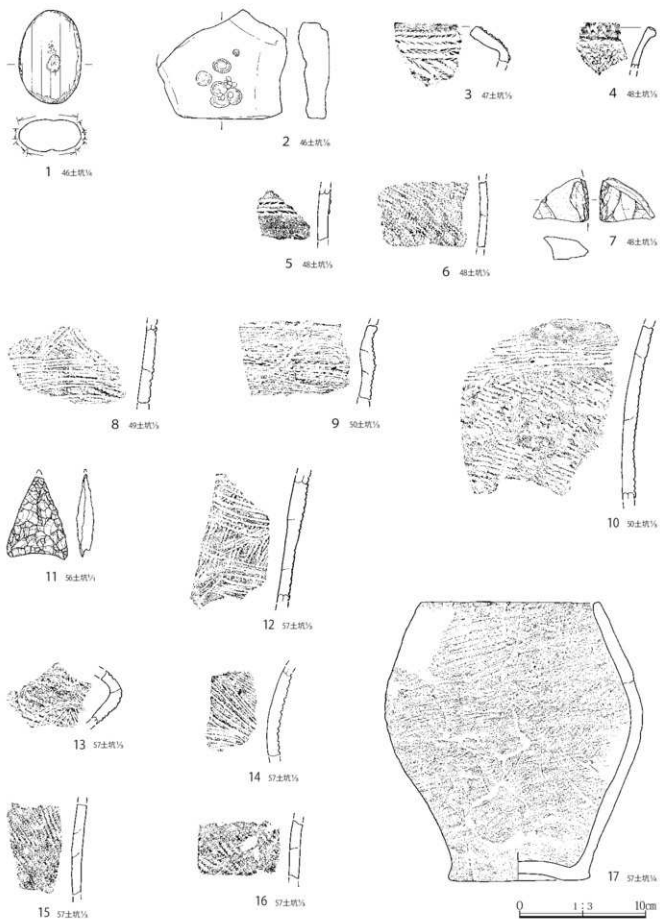
16 44土坑%

0 1:3 10cm

第117图 繩文時代土坑出土遺物(3)

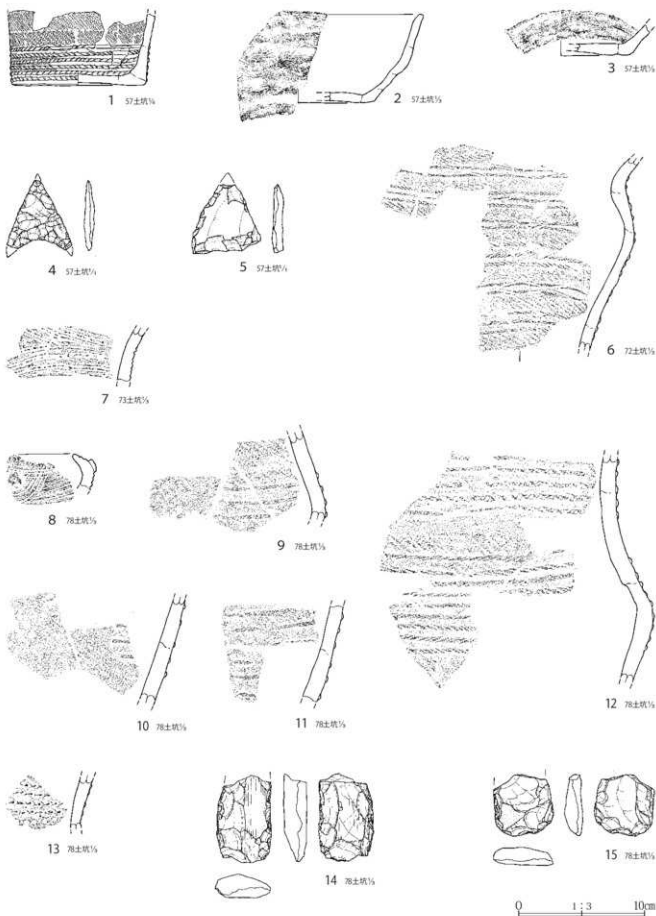


第118図 縄文時代土坑出土遺物(4)



第119圖 繩文時代土坑出土遺物（5）

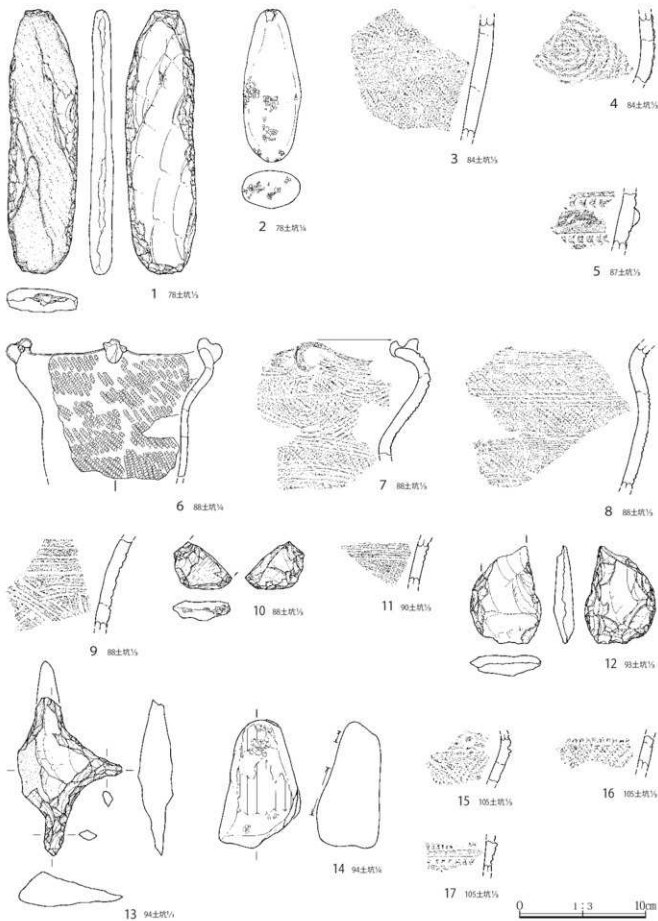
第4章 縄文時代の遺構と遺物



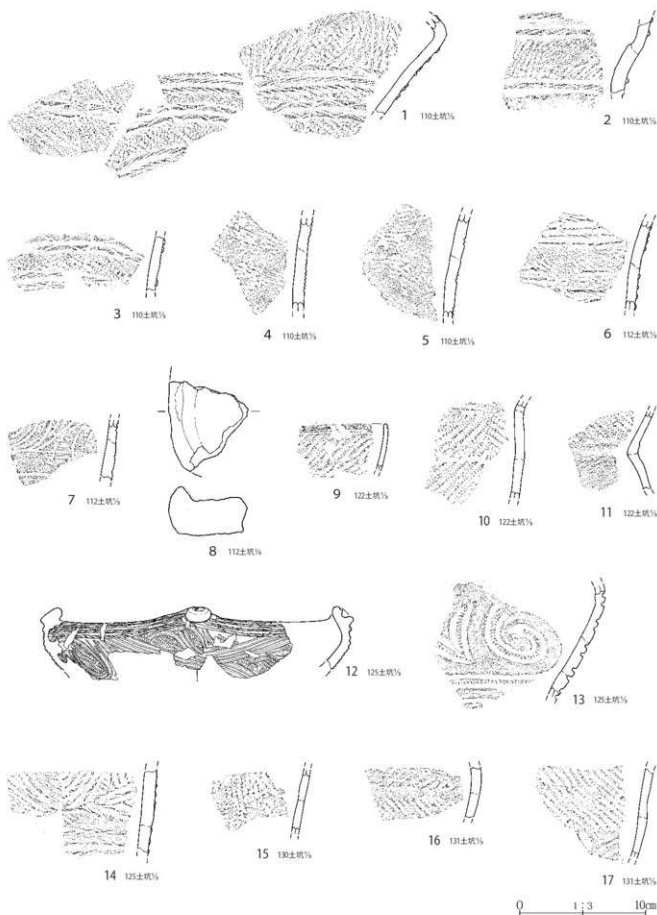
第120図 縄文時代土坑出土遺物(6)



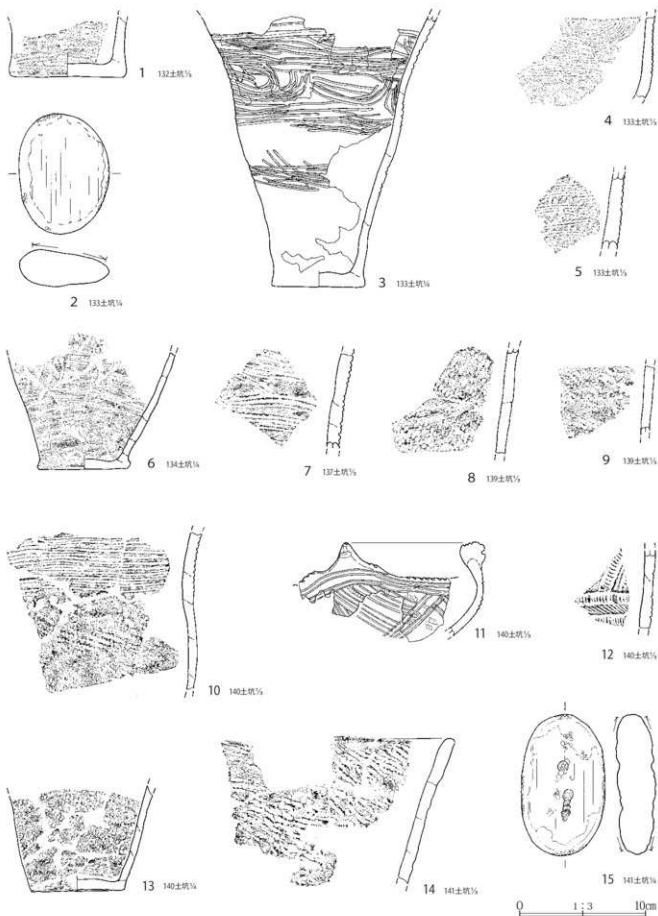
土坑



第121圖 繩文時代土坑出土遺物（7）

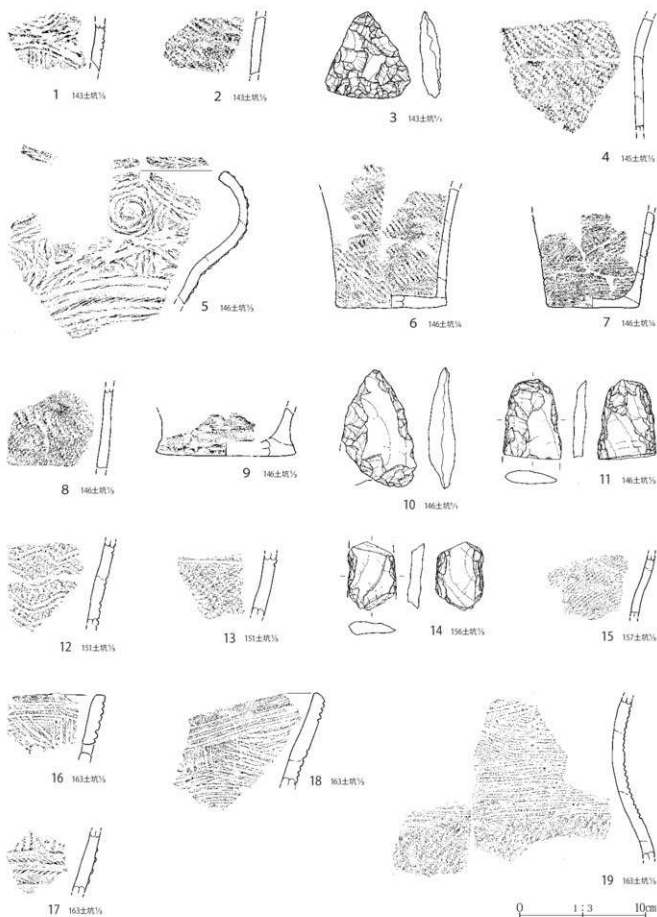


第122図 縄文時代土坑出土遺物（8）

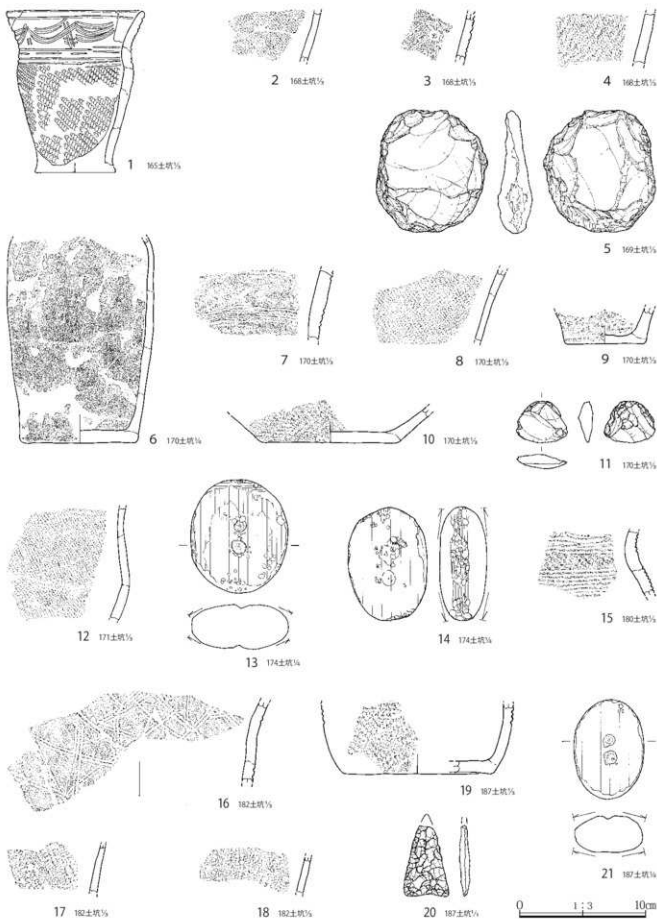


第123图 繩文時代土坑出土遺物(9)

第4章 縄文時代の遺構と遺物

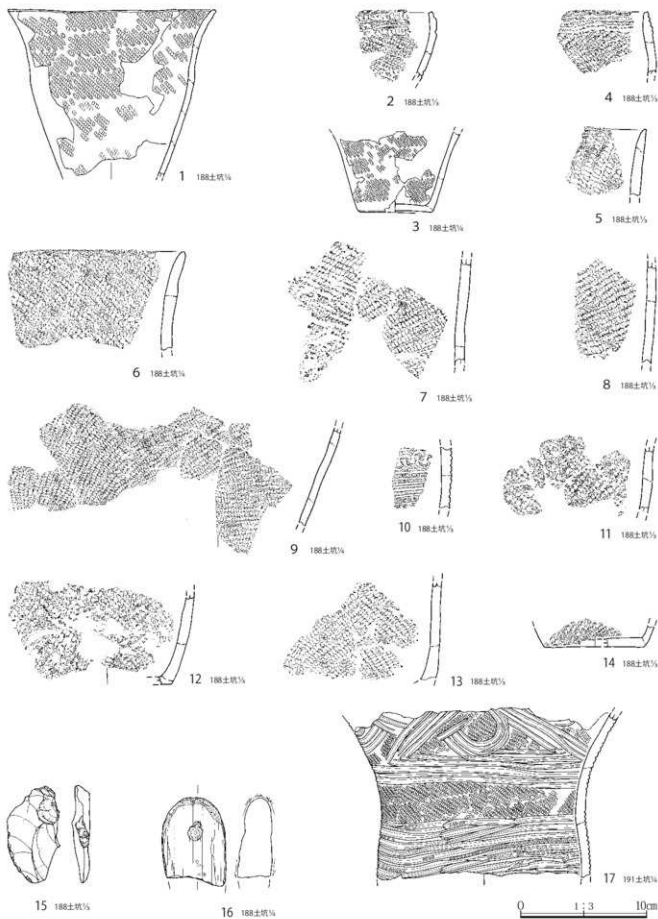


第124図 縄文時代土坑出土遺物 (10)



第125图 繩文時代土坑出土遺物(11)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



第126図 縄文時代土坑出土遺物(12)



1 195土坑%



2 195土坑%



3 195土坑%



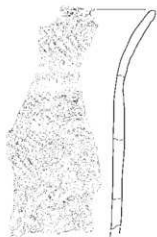
4 195土坑%



5 195土坑%



6 196土坑%



7 197土坑%



8 197土坑%



10 197土坑%



9 197土坑%



11 197土坑%



12 197土坑%



13 197土坑%



14 198土坑%

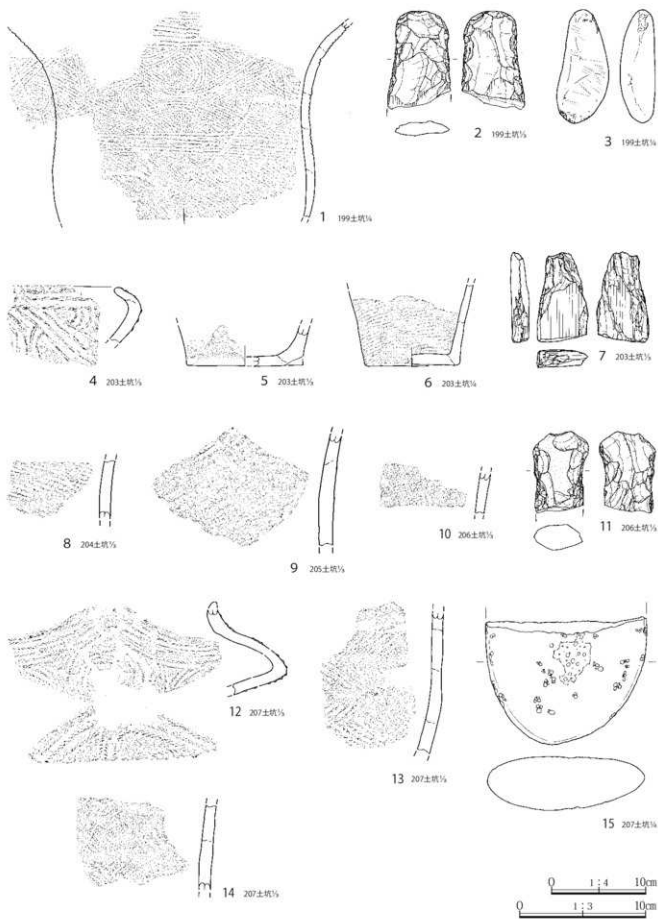


15 198土坑%



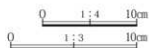
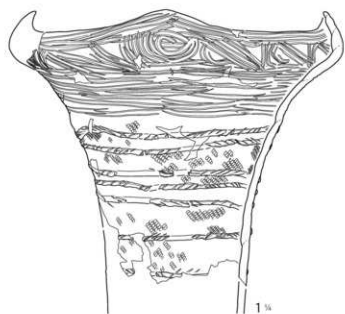
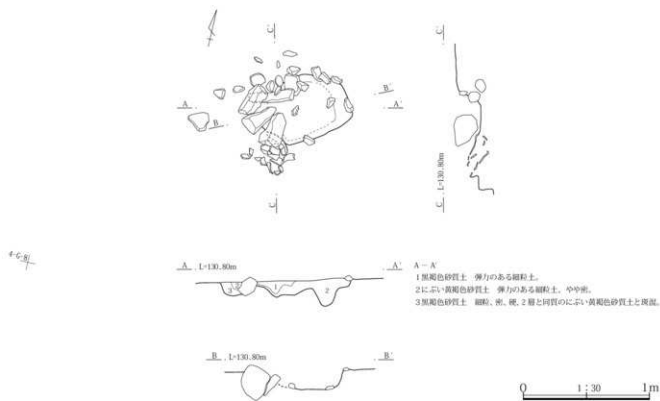
第127图 繩文時代土坑出土遺物 (13)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



第128図 縄文時代土坑出土遺物 (14)





第129図 1号配石

6号掘立柱建物

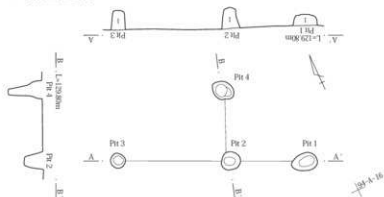


Fig. 4-16  
1 黒褐色土(0192/2) しまり、粘性やや有、ロームブロック少量含む。

10号掘立柱建物

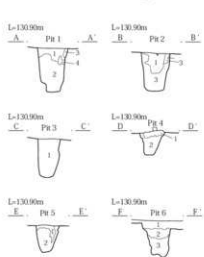
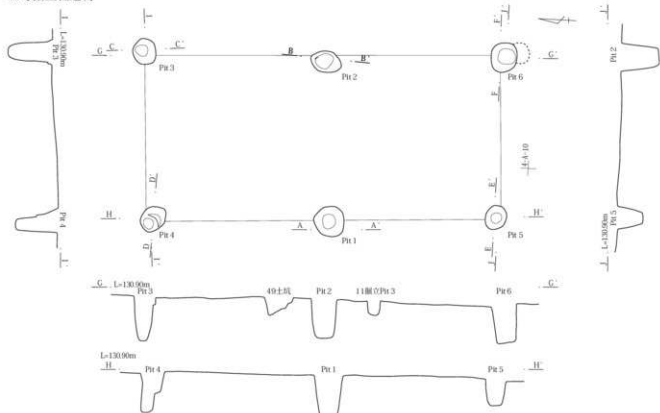


Fig. 1  
1 黒褐色砂質土(0192/2)とAs-0k1相当ローム状の粘土 やや硬結。  
2 1層と同性状 1層よりやや暗、粘性あり。  
3 1層中のロームブロック  
4 2層中の木の根の痕跡

Fig. 2  
1 近い褐色土(0194/3)に黒褐色土(0193/3)の土が塊状に入る。As-1P、As-0k1の礫石散在。炭粉少量散在。しまった砂土。  
2 1層より近い褐色土(0194/3)が多めで、やわらかい土質。  
3 近い褐色土(0194/3)と黒褐色土(0193/3)の散在。As-0k1やAs-1Pの礫が大きめだが少量。1層よりやわらかい土質。

Fig. 3  
1 黒褐色土(0193/2)に褐色土(0194/4)が塊状に入る。かたい土質。As-0k1、As-1P散在土。

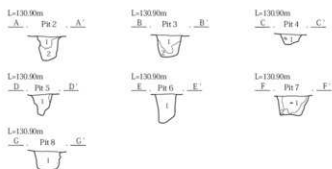
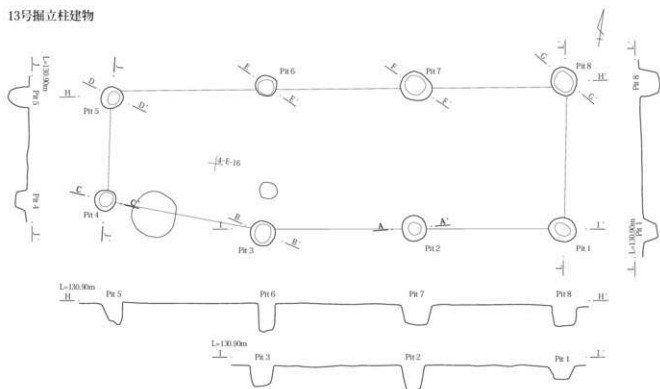
Fig. 4  
1 近い黄褐色土(0194/3) 赤、黄、黒褐色土(1092/2)の塊点あり。  
2 黒褐色砂質土(0193/2) 赤、黄、褐色土(1094/4)の塊点あり。

Fig. 5  
1 近い黄褐色土(0194/3) 赤、やや暗、黒褐色砂質土(0192/2)の小塊点あり。  
2 黒褐色砂質土(0193/2) 赤、黄、褐色土(0194/4)の塊点あり。

Fig. 6  
1 黒褐色土(0193/2)に褐色土(0194/4)が塊に入る。礫石あり。しまった砂質土。  
2 1層と同層 1層より黒褐色土の割合が多い。As-0k1、As-1P散在。しまった砂質土。  
3 黒褐色砂質土(0193/2)に、近い黄褐色土が塊に入る。礫石は少量。

第130図 6号・10号掘立柱建物

13号掘立柱建物



Pit 2

- 1 にごい黄褐色砂質土と淡い黒褐色砂質土との混成
- 2 黄褐色砂質土

Pit 3

- 1 淡黒褐色砂質土 細粒、密、As-野か灰白色微砂全体を混入。
- 2 Pit 2、2層と同質

Pit 4

- 1 Pit 3、1層と同質

Pit 5

- 1 Pit 2、2層と同質 細粒、密。

Pit 6

- 1 にごい黄褐色砂質土 As-野か灰白色微砂混入。

Pit 7

- 1 Pit 3、1層と同質

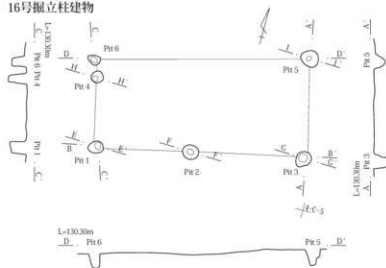
Pit 8

- 2 Pit 6、3層と同質

Pit 8

- 1 Pit 2、1層と同質

16号掘立柱建物



Pit 1

- 1 暗褐色土(10YR3/0) 暗色土(10YR4/0)混じり、白色～黄白色粒を少量含む。しまりや平肌。
- 2 黄褐色土(10YR5/0) 暗褐色土少量混じり。白色～黄白色粒を少量含む。

Pit 2

- 1 黄褐色土(10YR5/0)と暗褐色土(10YR3/0)の混土 白色～黄白色粒を少量含む。

Pit 3

- 1 Pit 1の2層と同質

Pit 4

- 1 暗色土(10YR4/0) ややしまり肌。

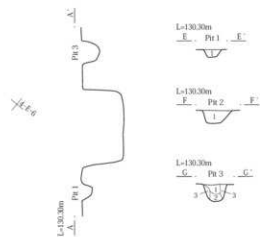
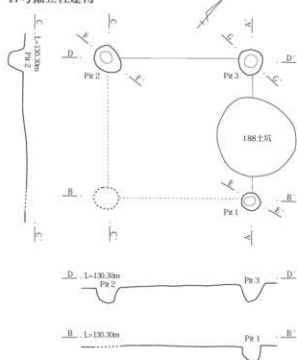
Pit 5

- 1 Pit 1の2層と同質

0 1:60 2m

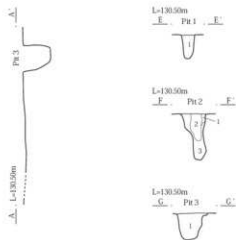
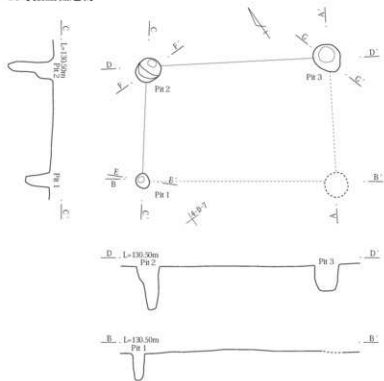
第131図 13号・16号掘立柱建物

17号掘立柱建物



- Fig. 1  
1 黄褐色土(10YR5/6)と暗褐色土(10YR3/6)の混土  
白色粒子を少量含む。  
Fig. 2  
1 褐色土(10YR4/6) 黄褐色土(10YR5/6)を黄状に  
含む。白色軽石を上部に含む。固くしまる。  
Fig. 3  
1 Fig.1の1層と同質  
2 褐色～黄褐色土(10YR4/6-5/6) 均質で、しま  
りや中質。  
3 黄褐色土(10YR5/6) しまりや中質。

18号掘立柱建物



- Fig. 1  
1 暗褐色土(10YR3/3) 褐色土(10YR4/6)を黄状に含む。  
白色粒子を極少量含む。  
Fig. 2  
1 黄褐色土(10YR5/6) しまりや中質。硬面漆土か。  
2 黄褐色土(10YR2/3) 褐色土(10YR4/6)を黄状に含む。  
白色～黄白色粒を均一に少量含む。  
3 褐色土(10YR4/6)土体で黄褐色土(10YR2/3)混じり。白  
色粒子極少量含む。固くしまる。  
Fig. 3  
1 褐色土(10YR4/6) 黄褐色土(10YR5/6)を黄状に含む。  
白色～黄白色粒を均一に少量含む。固くしまる。

0 1:60 2m

第132図 17号・18号掘立柱建物

## 19号掘立柱建物

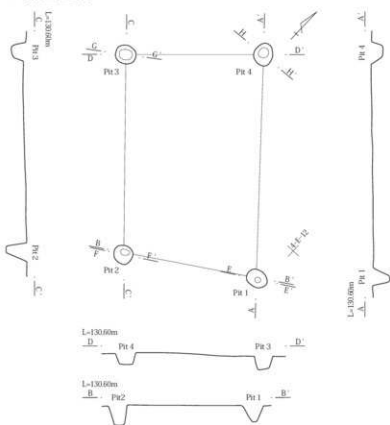


Fig. 1

1 褐色土(00R4/4) 固くしまるが遺構断面よりしまりが均一でなく、やや暗色味帯む。白色粒子を少量含む。  
2 褐色土(00R4/4) 1層に類似してやや暗色味あり、固くしまる。

Fig. 2

1 暗褐色土(00R3/4) やや固くしまる。白色粒子と黄白～黄色粒子を少量。焼土粒と炭化物粒を極少量含む。  
2 褐色土(00R4/4) 固くしまる。白色粒子と黄白～黄色粒子を少量。焼土粒と炭化物粒を極少量含む。

Fig. 3

1 褐色土(00R4/4)と暗褐色土(00R3/3)の混土。固くしまる。白色粒子と黄白粒子を少量。焼土粒と炭化物粒を極少量含む。  
2 褐色土(00R4/4)主体で暗褐色土(00R3/3)混土。やや固くしまる。

Fig. 4

1 褐色土(00R4/4) 固くしまる。白色粒子と黄色粒子を少量。焼土粒と炭化物粒を極少量含む。



## 4号櫓列

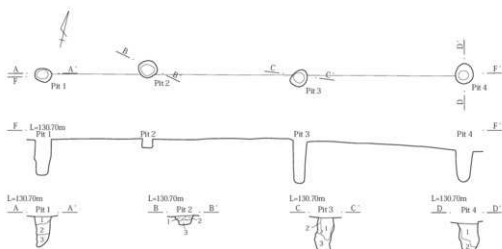


Fig. 1

1 黒褐色砂質土(00R3/1)と濃い黄褐色砂質土(00R5/4)の微粉層伴土  
2 黒褐色砂質土(00R3/1)と濃い黄褐色砂質土(00R5/4)の黄混土。赤。  
3 濃い黄褐色砂質土(00R4/3) 粘性あり、赤。

Fig. 2

1 フットロームブロック

2 1層と黒褐色砂質土(00R3/1)の混土

3 2層と同質。ロームが多い。

Fig. 3

1 黒褐色砂質土(00R3/1)と濃い黄褐色砂質土(00R5/4)の黄混土。壁線。灰白色微砂と炭粒全体に混入。

2 1層中に濃い黄褐色砂質土が多量ブロック状の埋土  
3 濃い黄褐色砂質土(00R4/3) 粘性強。

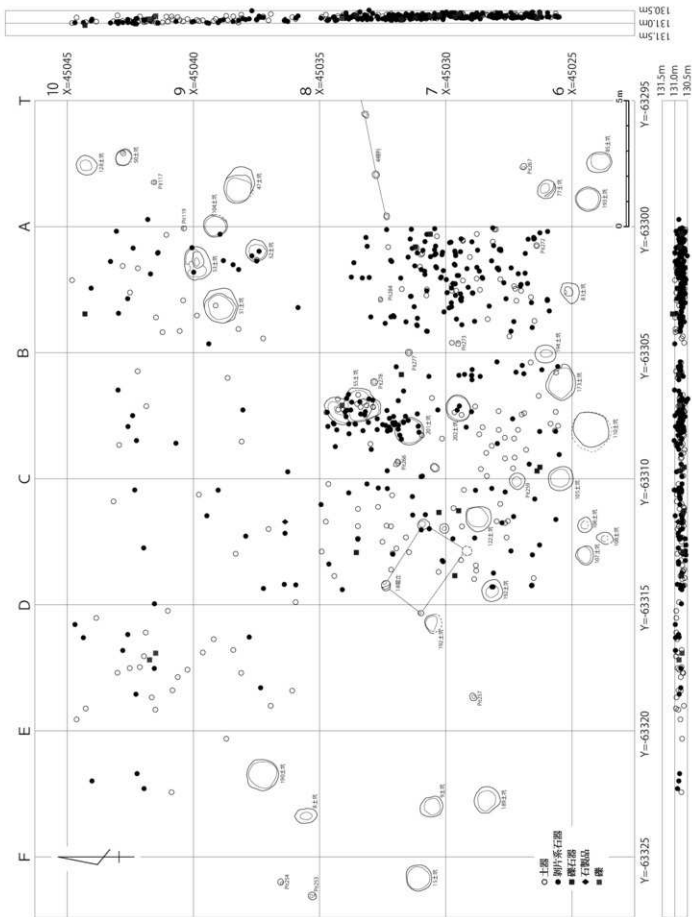
Fig. 4

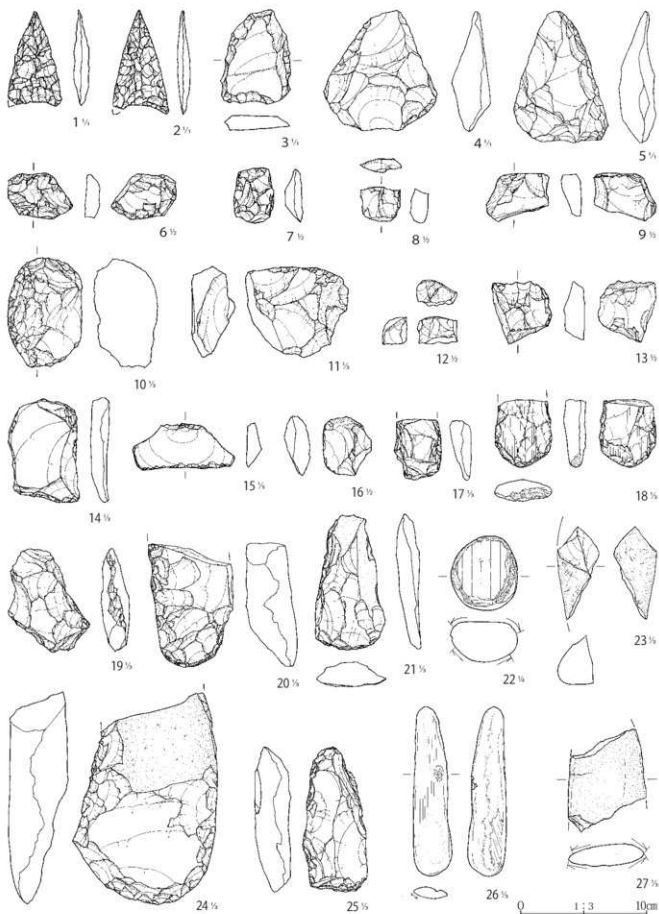
1 黒褐色砂質土(00R3/2) 壁線。ローム混入。

2 褐色砂質土(00R4/4)と黒褐色砂質土(00R3/2)の混土。やや赤。

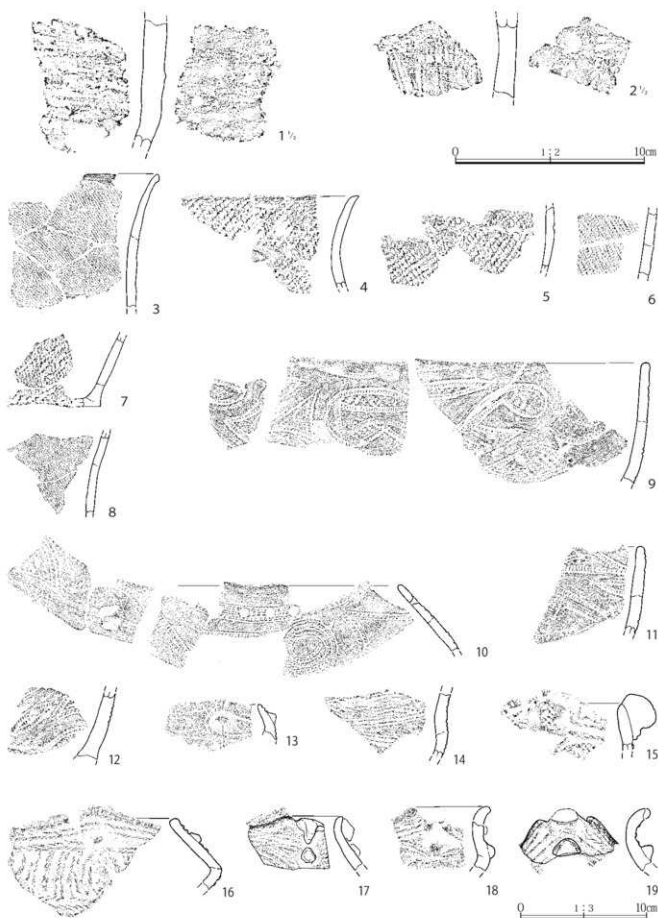
0 1:60 2m

第133図 19号掘立柱建物・4号櫓列



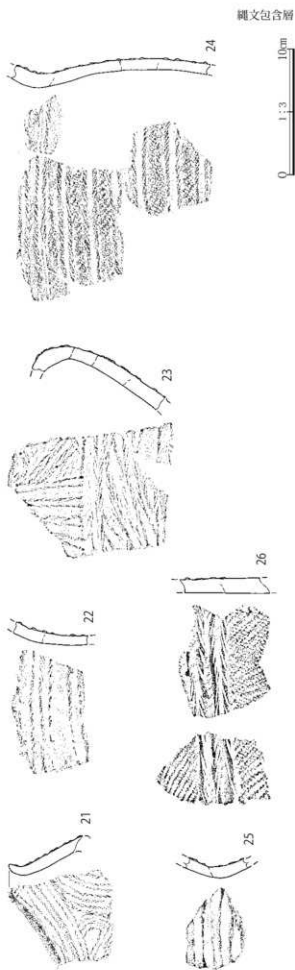
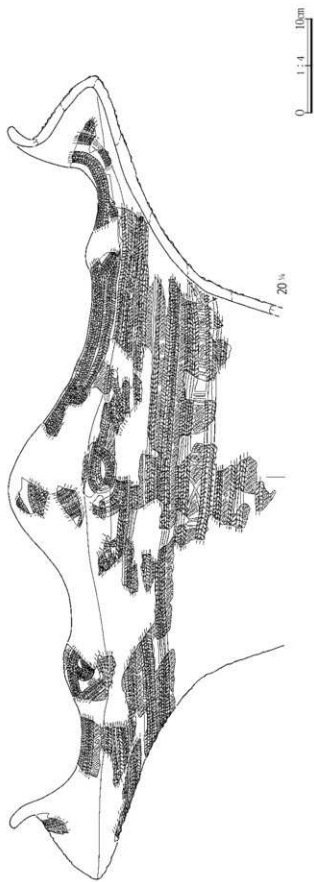


第135図 遺物集中部出土石器

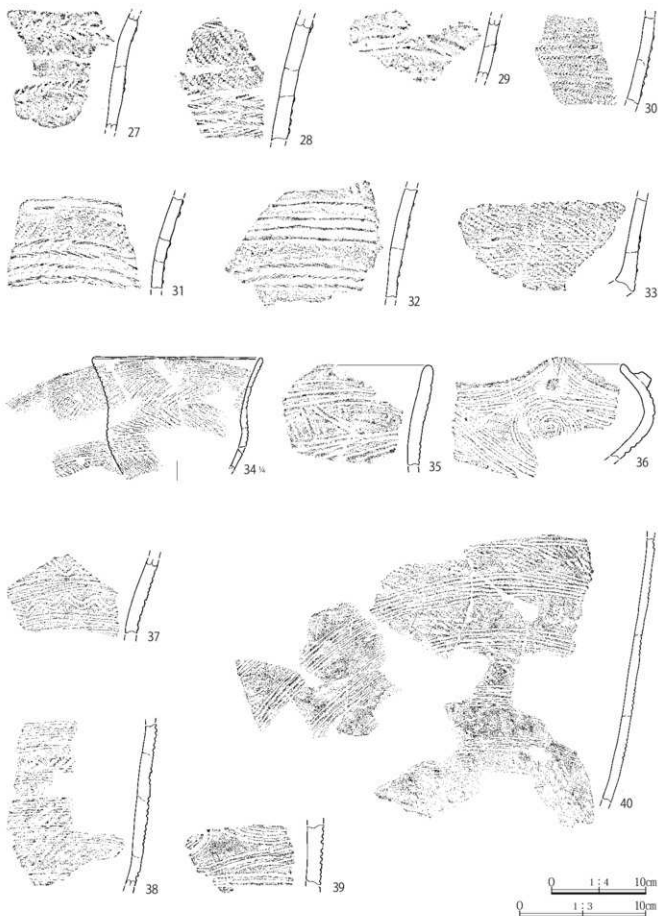


第136図 縄文時代包合類出土遺物（1）

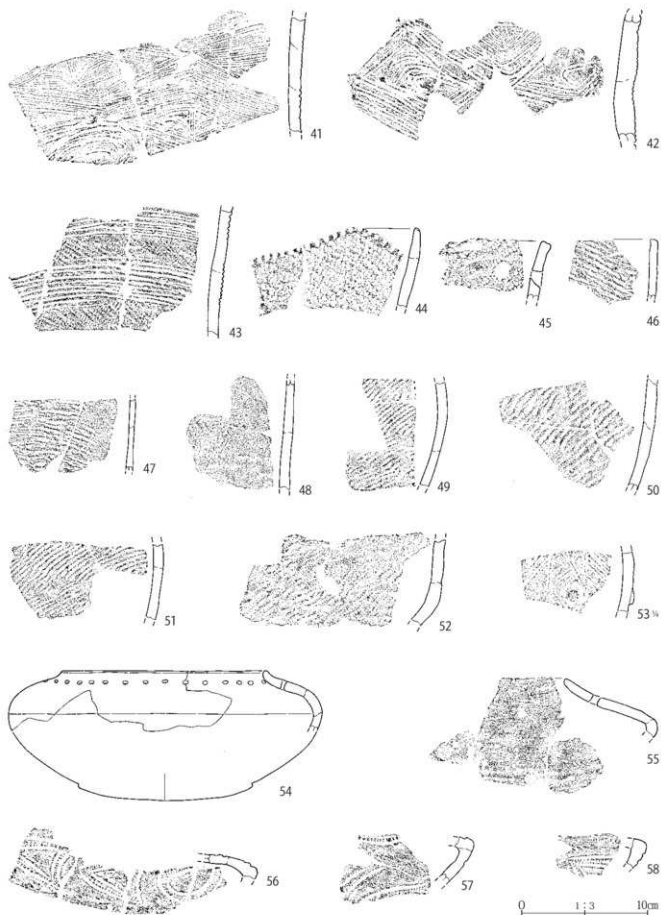




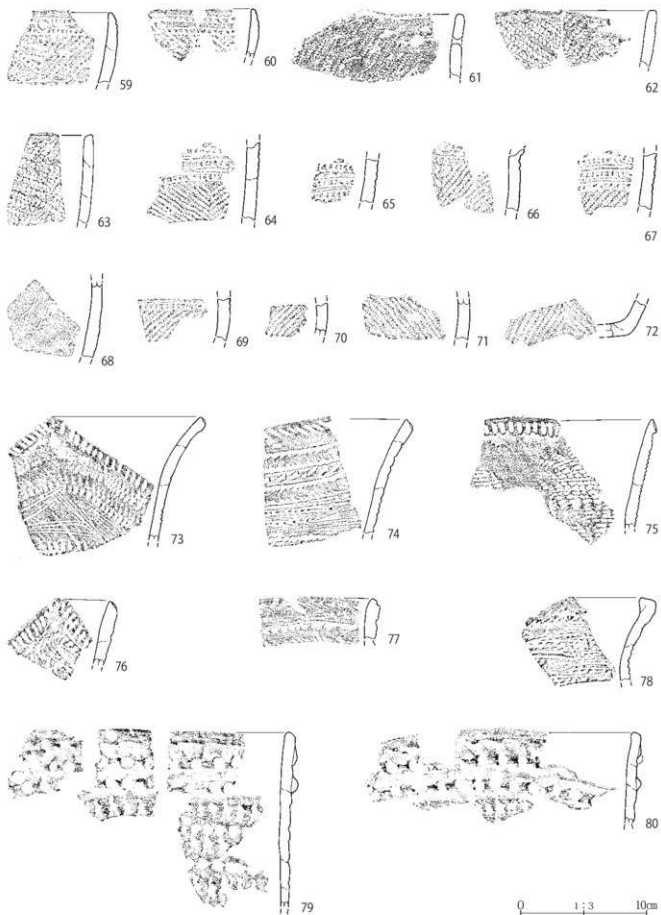
第137圖 網文時代包含層出土遺物（2）



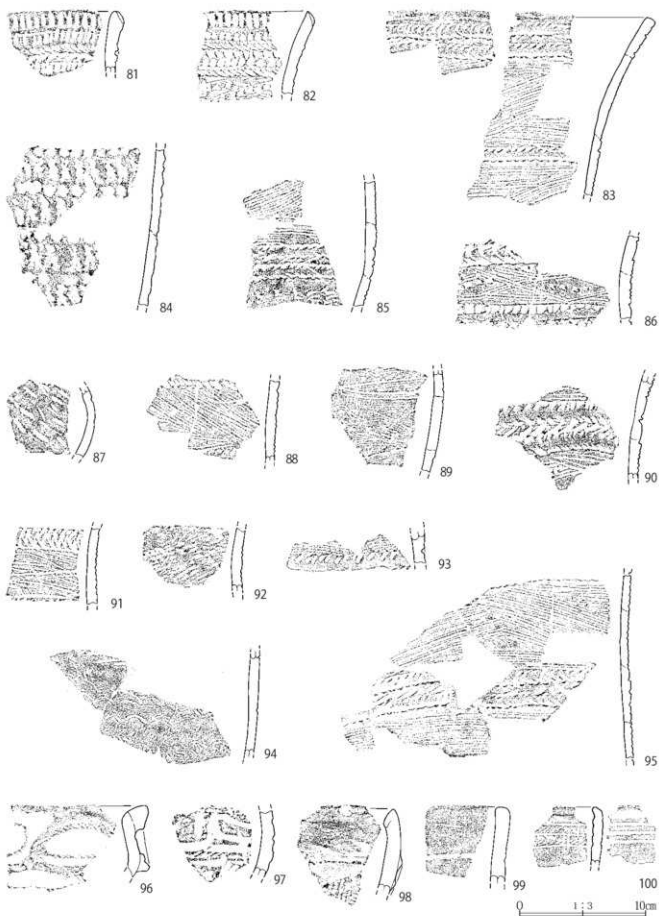
第138図 縄文時代包含刷出土遺物(3)



第139図 縄文時代包含層出土遺物（4）

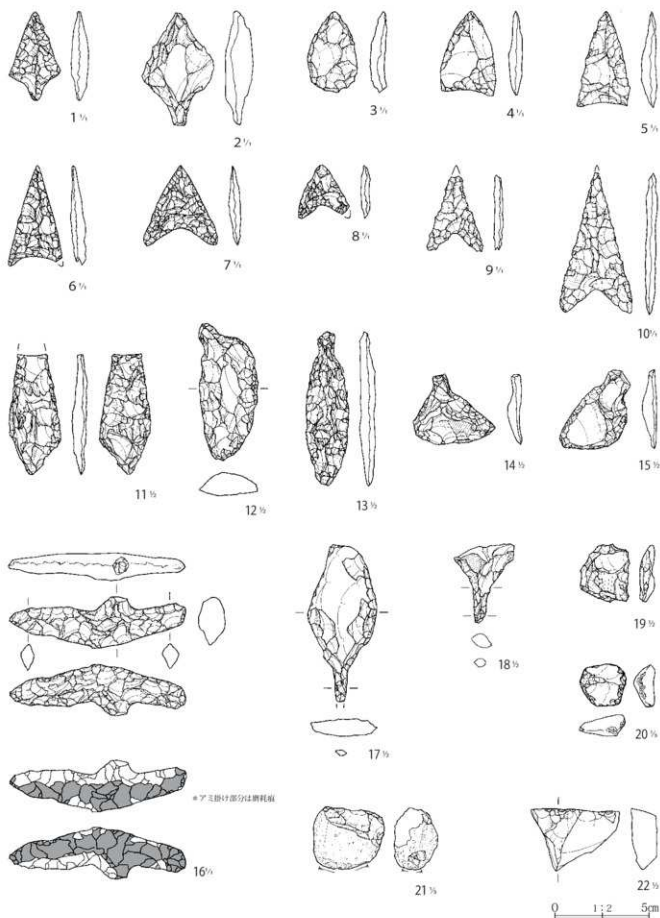


第140図 縄文時代包含類出土遺物 (5)

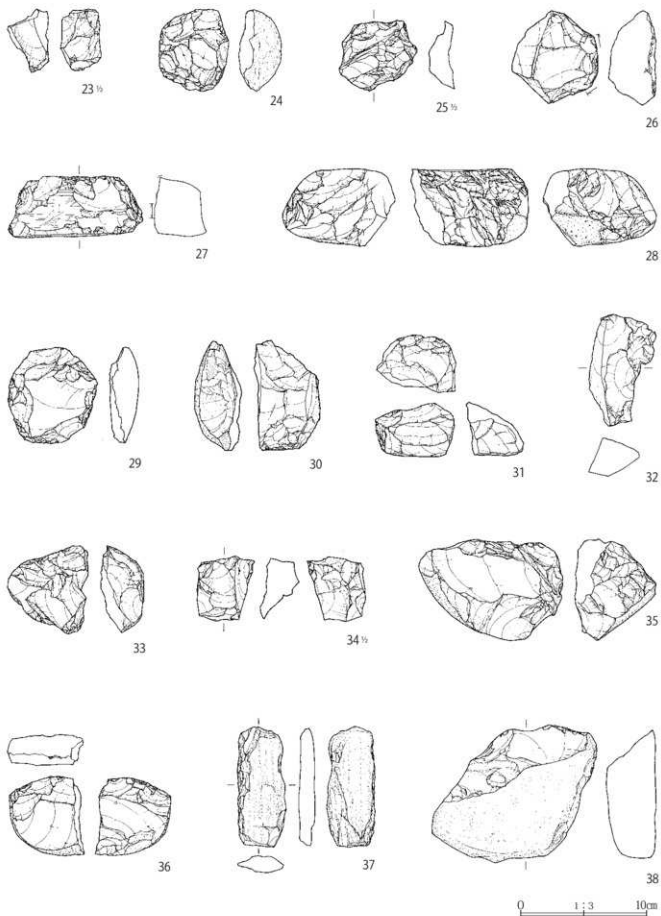


第141圖 繩文時代包含層出土遺物(6)

第4章 縄文時代の遺構と遺物



第142図 縄文時代包含層出土遺物（7）

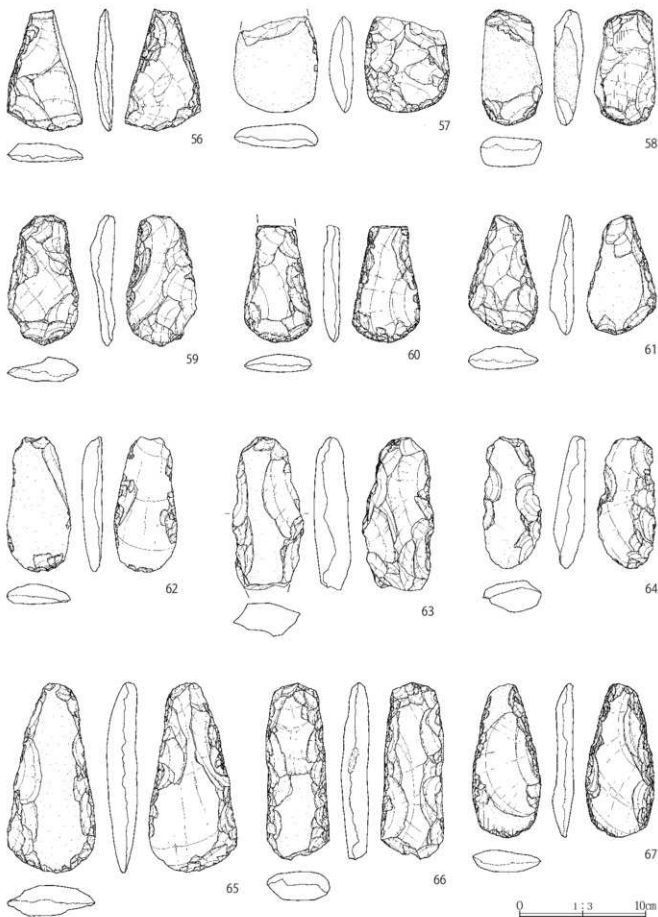


第143図 縄文時代包含層出土遺物（8）

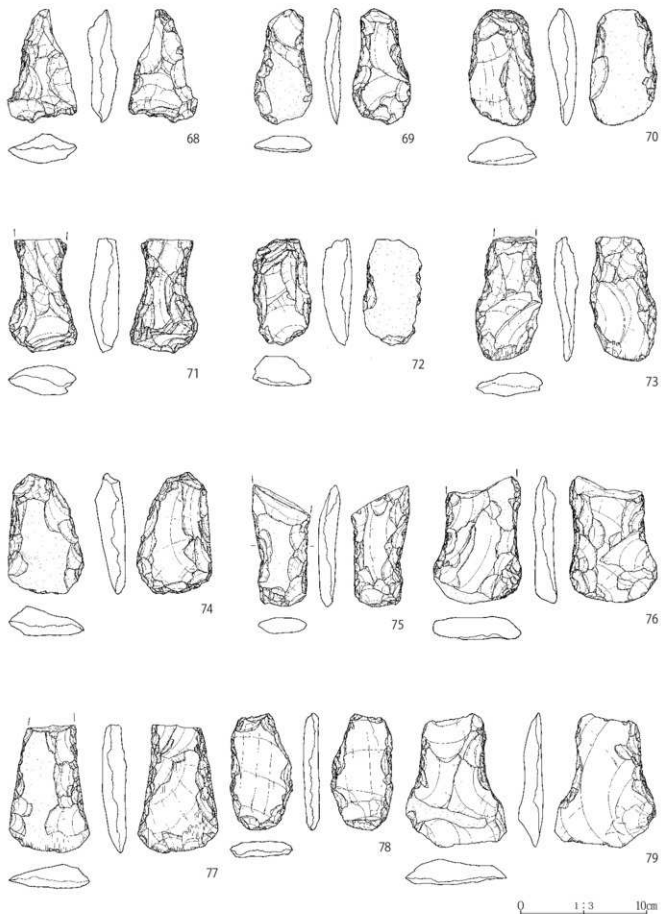


第144図 縄文時代包含層出土遺物(9)

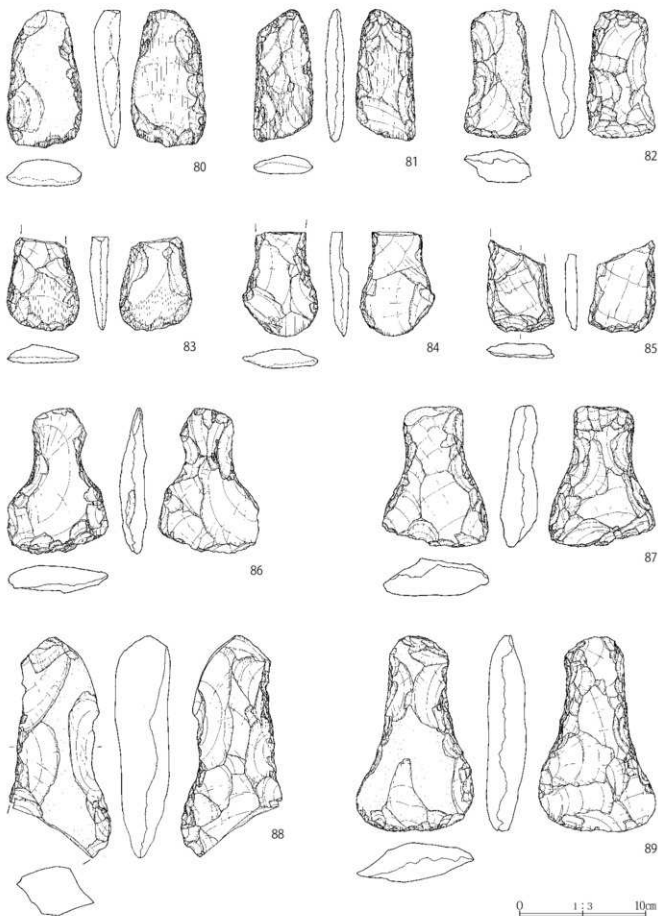




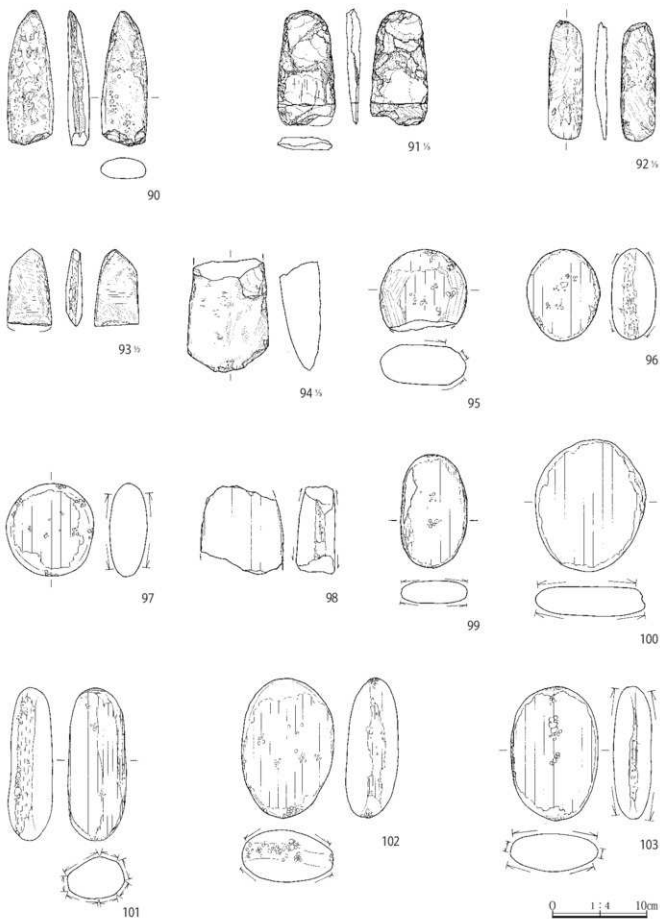
第145図 縄文時代包含層出土遺物 (10)



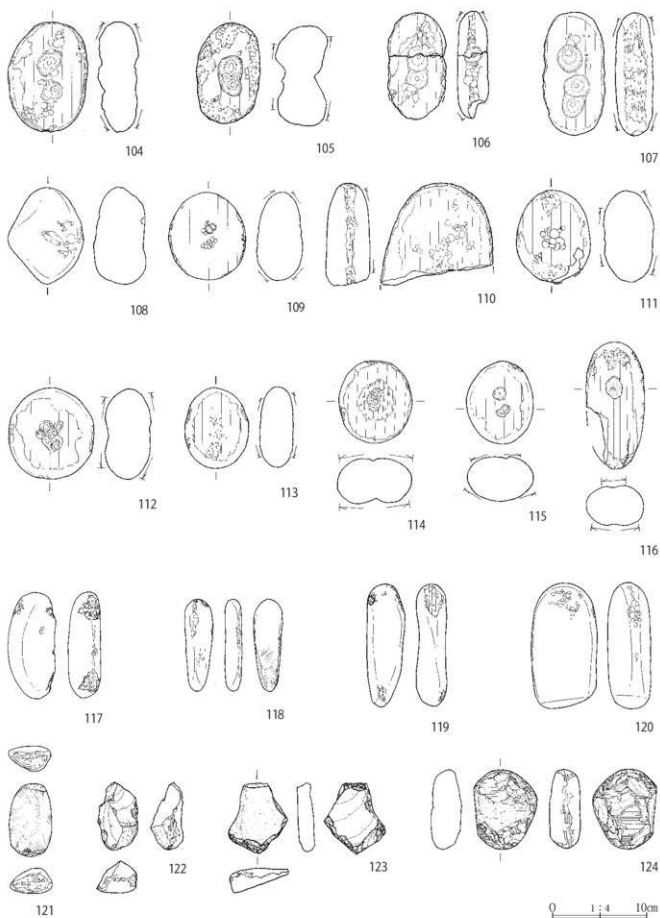
第146図 縄文時代包含層出土遺物 (11)



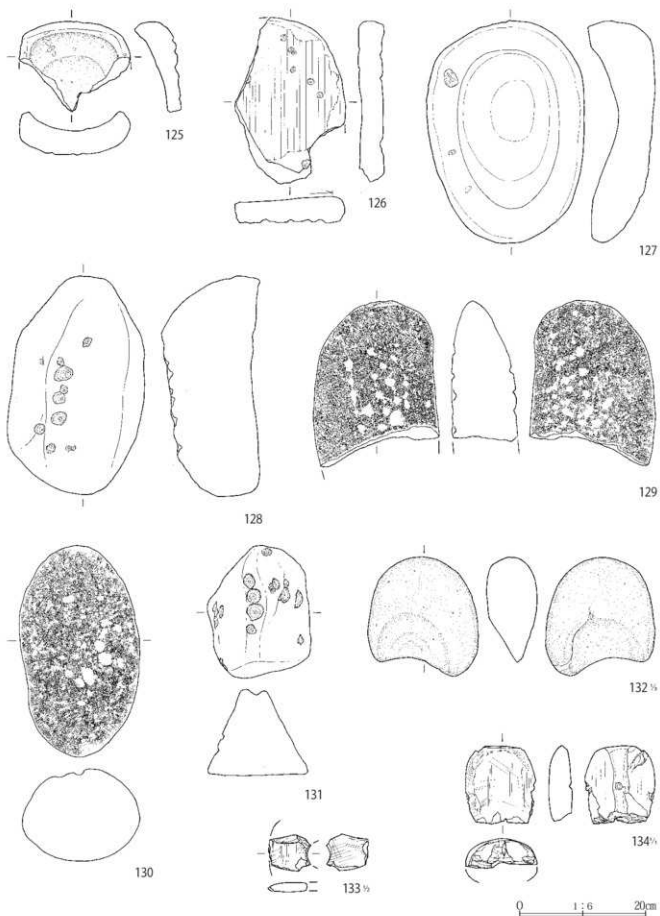
第147圖 繩文時代包含層出土遺物 (12)



第148図 縄文時代包合層出土遺物 (13)



第149図 縄文時代包含層出土遺物 (14)



第150図 縄文時代包含層出土遺物 (15)